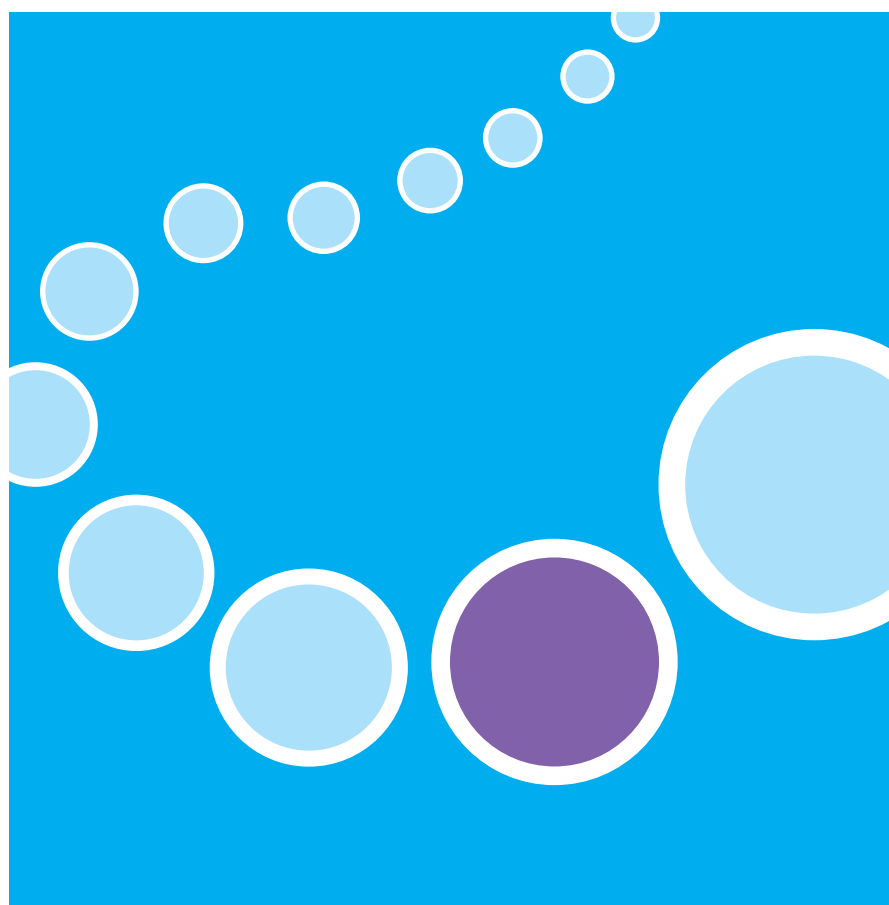


2021年（令和3年）実施

第12回「学習意識調査」報告書

—— 藤沢市立中学校3年生・56年間の比較研究 ——



2022.3

藤沢市教育文化センター

はじめに

本調査は藤沢市立中学校3年生を対象に、生徒の持つ学習意欲に係る様々な要因、時代による変遷について調査・分析した内容をまとめた報告書となります。調査を開始した1965年（昭和40年）から実に55年以上となります。藤沢の教育を支える方々が、生徒の学習の在り方を考えるための資料となるべく、調査に携わった先人の思いを現代に受け継ぎ、続けられている藤沢の教育を考える上で貴重な資料と言えます。もちろん、その当時の生徒の実体や社会情勢を鑑みて、調査項目にも変化が見られました。調査開始時は、「学習適応調査」として、国語・数学の学力診断検査と併せて行われており、生徒の学力と学習に対する態度、習慣、身体的条件、環境等がどのような関係性を持つものかについて、調査されていました。その後、1990年（平成2年）第6回調査からは、学力に限らずより広い視野から生徒の学習に関する意識を調査する「学習意識調査」へと変わり、現在に至ります。中学校の協力のもと、継続的に実施されてきた本調査は開始から数えて今回が12回目となりました。

今回の調査で特に注目した点の一つとして「学校の中で一番大切にしたいと思うもの」が挙げられます。前回の調査では「『友達づきあい』は1995年からわずかながら減少傾向にあったものの、大きく減少し、一方で近年上昇傾向にあった『勉強』の割合が大きく増加した」と報告されています。この要因の一つとして情報通機器、特にSNSの急速な普及が要因の一つとして挙げられたことから、新たに「SNSの利用」を新設項目として設け、利用時間や目的、学習意欲や集中度等とのクロス集計などの調査結果を分析しました。

本来2020年（令和2年）に予定されていた本調査は、新型コロナウイルス感染症拡大における休校措置、分散登校という未曾有の事態に、1年先延ばしを余儀なくされました。調査結果においてもその影響を受けたと考察されるものも多く含まれます。また、GIGAスクール構想における学校教育とICTとのかかわりに関しても、今後追究していく必要があると考えています。

最後に、今回の研究に協力してくださった19校の3000人を超える藤沢市立中学校3年生と教職員の皆様をはじめ、研究を支えてくださった多くの方々、そしてともに研究を進めてきた部員の皆様に感謝申し上げます。歴史深く、他に類を見ない本調査のデータを未来を支える子どもたちへの授業の工夫、改善等へ役立てていただけることを願っています。

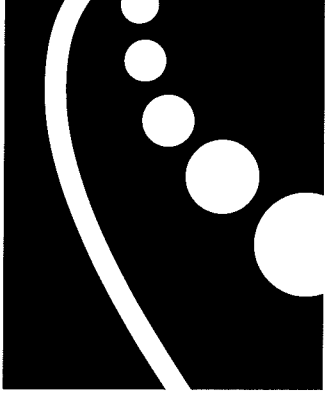
2022年3月

藤沢市教育文化センター長
作道 実

目次

はじめに

第1章 調査の概要	1	第4章 新設項目	63
1. 調査の主旨	2	項目1	
2. 調査項目について	2	1. 「SNS の利用時間」と「用途」	64
3. 予備調査について	2	2. 「SNS の利用」とのクロス集計	68
4. 調査の対象	5	項目2	
5. 調査の方法	5	1. 「内省志向」と「謙遜」	77
6. 調査の実施期間	5	2. 「内省志向」「謙遜」と勉強との関連	78
7. 集計の方法	5		
第2章 56年間の時系列比較	7	第5章 調査全体のまとめ	83
1. 帰宅後の勉強時間	8	1. 56年間の学習意識の変化	84
2. 学校の勉強の理解度	9	2. 帰宅後の勉強時間の増加と二極化	85
3. 学校の勉強についていく自信	10	3. 相談相手として「家族」の増加	86
4. 勉強の意欲	11	4. 勉強の意欲の背景	86
5. 勉強への集中度	12	5. 友達づきあいの「友達」とは	87
6. 勉強以外の自由時間に対する願望	13	6. SNSの利用状況について	88
7. 学校以外での習い事	14	7. 授業への高い期待	88
第3章 2021年度 中3生徒の学習意識	15	8. 自主的に学習に取り組む生徒の増加	89
1. 帰宅後の勉強時間	16	9. 男子と女子	89
2. 学校の勉強の理解度	21	10. 今後の調査についての課題	90
3. 学校の勉強についていく自信	23		
4. 勉強の意欲	24	資料	91
5. 勉強への集中度	28	1. 質問紙	92
6. 勉強以外の自由時間に対する願望	29	2. 2021年学習意識調査結果一覧	100
7. 勉強に関する悩み事の相談相手	30	3. 56年間の主な出来事	110
8. 勉強以外の悩み事の相談相手	33	4. 教育課題調査研究部会の取り組み	114
9. 学校の中で一番大切に思うもの	36		
10. 学校以外での習い事	39		
11. 期待する授業	42		
12. 学習意欲	51		
13. 勉強という言葉から 思い浮かべるイメージ	58		
		おわりに	



第1章

調査の概要

1. 調査の主旨

当センターでは、1965（昭和40）年以降、5年毎に繰り返し、ほぼ同一内容の質問紙を用いて市内の中学校3年生の学習意識を調査してきた。長期間にわたって継続してきたねらいは、その時々における生徒の学習意識だけでなく、時代の趨勢を読み取り、これからの教育の方向を見定める上での重要な基礎資料を得るとともに、その成果を学校の教育計画立案推進のための基礎的資料として広く提示していくことにある。

2020（令和2）年実施予定の「第12回学習意識調査」は、調査開始から数えて55年目にあたる。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、やむを得ず調査の実施を1年先に延ばすこととなったが、今回の調査では、生徒の学習意識がこの56年間でどのように変化してきたのかを長期的な視野に立って把握するとともに、新設項目を付け加えることで、前回、2015（平成27）年実施の「第11回学習意識調査」で課題となった、SNSの普及が生徒の学習意識にもたらす影響や、性別による回答傾向の違いについても示唆を得たいと考えた。

2. 調査項目について

調査項目については、2019（令和元）年度1年間をかけて検討を行い、表「調査の基本構成」に示したように、時系列比較という観点から、原則として中学校3年生を対象に過去一貫して使用してきた「継続調査項目」を踏襲することにした。

ただし、「継続調査項目」や前回までの「追加項目」の中には、質問や選択肢の構成の仕方の一部に中学校3年生の現状にそぐわないものや生徒の意識を捕捉するのに必ずしも適切ではなくなっているものもある。そこで、今回の調査にあたっては、一部の項目で質問や選択肢の構成を修正した。また、これまで質問紙の冒頭で尋ねてきた性別については、性の多様性に配慮し、選択肢に「その他」を加えることにした。なお、前回の調査で使用した「新設項目」（学習方略）については、調査結果より学習意欲との関連など一定の成果が得られたが、5年間での変化はそれほどないと考えられるため、今回の調査では使用しないことにした。

一方、今回「新設項目」として加えたのは、「SNSの利用」と「性別による回答傾向の背景」を調べるための2項目である。

前回の「第11回学習意識調査」では、「学校の中で一番

大切に思うもの」について「勉強」と答えた生徒が大幅に増え、それに呼応するように「友達つきあい」と答えた生徒が大幅に減少した。その要因の一つとして示唆されたのが、SNSの急速な普及にともない、友達と学校の外でもオンラインで常につながっている可能性である。こうしたSNSの影響は、「勉強の集中度」に関しても考えられることであり、今後注目していく必要があると、報告書¹⁾には述べられている。そこで、今回の調査では「新設項目」として、「SNSの利用時間」と「用途」を尋ねる項目を新たに付け加えることで、生徒のSNSの利用状況と学習意識との関連についても調べることにした。

また、これまでの調査では、結果を性別で見えていくと、「学校の勉強の理解度」「学校の勉強についていく自信」などの項目で、男子は女子よりも「理解している」「自信がある」と回答する割合が高いという結果が繰り返し得られている。こうした性別による回答傾向の違いがなぜ生じているかについては、女子のほうが、謙遜して低めに回答していることや、日頃から自分を振り返る内省志向が高いことなどの可能性が考えられた。そこで、今回の調査では、性別による回答傾向の背景を探るために「謙遜」と「内省志向」について尋ねる項目も新たに付け加えることにした。

3. 予備調査について

本調査実施にあたっては、先に触れたように、2019（令和元）年度1年間の検討を行う中で、以下に示す2回の予備調査を実施した。

(1) 第1回予備調査

①調査の主旨

「新設項目」を加えるにあたり、「SNSの利用」に関する質問作成の手がかりを得ることと、「性別による回答傾向の背景」を調べるために作成した質問の表現にわかりにくいものがないかを確認するため、予備調査を実施することにした。また、今回の予備調査では、中学校3年生の現状に則して修正した質問や選択肢が適切であるかも確かめることにした。

②調査の対象

藤沢市立中学校1年生 2校×2クラス 計4クラス138名（男子67名、女子70名、未記入1名）

③調査の方法

藤沢市教育文化センター作成の予備調査用紙（質問紙法による）を使用。それぞれの学校で担任が調

表「調査の基本構成」

	調査する要因	調査項目の内容	項目番号	備考
継続調査項目	帰宅後の学習実態	帰宅後の勉強時間	(1)	9回調査より改訂：10回調査より質問・回答方法を変更：11回調査より選択肢を一部追加
	学習の理解度	学校の勉強の理解度	(2)	9回調査より3件法から4件法に変更
	学習への自信	学校の勉強についていく自信	(3)	9回調査より3件法から4件法に変更
	学習の意欲	勉強の意欲	(4)	
	学習への集中度	勉強への集中度	(5)	9回調査より3件法から4件法に変更
	自由への願望	勉強以外の自由時間に対する願望	(6)	9回調査より選択肢を一部修正
	学校外活動の実態	学校外活動の種類	(10)	7回調査より改訂：9回調査より選択肢を追加：今回選択肢の一部を修正・追加
前回までの追加項目	相談相手の実態	勉強に関する悩み事の相談相手	(7)	7回調査より改訂：9回調査より選択肢を一部修正
		勉強以外の悩み事の相談相手	(8)	
	学校の意義	学校の中で一番大切に思うもの	(9)	7回調査より追加
	勉強観	授業に期待する事柄	(11)	8回調査より追加：9回調査より回答方法変更、選択肢の一部を修正・追加：10回調査より自由記述を削除：11回調査より現状に合わなくなった質問を一部削除：今回質問の一部を変更
	学習の意欲（理由）	項目(4)の選択肢を選んだ理由	(4)	9回調査より追加：10回調査より自由記述から選択肢に変更
	勉強のイメージ	勉強という言葉から思い浮かべたイメージ	(15)	9回調査より追加：10回調査より項目(4)の補足から独立した項目に変更
	学習の意欲	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自主的学習態度、達成志向、責任感、従順性、自己評価、自主的学習態度、失敗回避傾向、反学習価値観²⁾ ・ 内発的意欲³⁾ 	(12)	10回調査より項目(4)の妥当性を確保するために追加：11回調査より他項目との重複を避けるために質問を一部削除：今回質問の一部を修正
今回の新設項目	SNSの利用	SNSの利用時間と用途	(13)	今回よりSNSの普及が学習意識に及ぼす影響を調べるために追加
	性別による回答傾向の背景	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内省志向⁴⁾ ・ 謙遜⁵⁾ 	(14)	今回より性別による回答傾向の違いが何に起因するのかを調べるために追加

査用紙を配布し、実施、回収した。

④調査の実施日

2019年10月10日（木）～22日（火）

⑤調査の内容（概要）

- a. 帰宅後の勉強時間
- b. 学校外活動の種類：中学校3年生の現状に則して
選択肢3「通信添削」を「通信教育」に変更
- c. 勉強の意欲
- d. 学校の中で一番大切に思うもの
- e. 携帯電話やスマートフォン、パソコン、タブレットなどの利用時間：平日・土曜日・日曜日ごとに自由記述
- f. 上記の用途：よく使う順に5つ自由記述
- g. 謙遜、内省志向
- h. 授業に期待する事柄：新指導要領を考慮して、質問E「生徒の意見を受け入れてくれる授業」を「グループの人の意見を聞き、話し合うことで、自分の考えを深められる授業」に変更

⑥調査の結果

携帯電話やスマートフォン、パソコン、タブレットなどの利用時間と用途に関する自由記述の内容は多岐にわたったが、「SNSの利用」に関する質問と選択肢を作成する上で十分な手がかりが得られた。

また、「謙遜」と「内省志向」を尋ねた質問の結果からは、女子が控え目に回答する傾向が見られるなど、「性別による回答傾向の背景」を探る質問として適切であることが確かめられた。さらに、現状に則して修正した質問や選択肢については、特に問題なく生徒が回答できていたことから、本調査で使用することとした。

一方、「学校外活動の種類」の選択肢「その他」の自由記述には、3件と数は少ないものの「英語・英会話」という回答が見られたことから、選択肢の「学習塾」に英会話が含まれている可能性や、新指導要領の影響、高校・大学入試との関連など、英会話への関心が高まっていることが議論となり、選択肢に「英会話」を加えることとした。

(2) 第2回予備調査

①調査の主旨

第1回予備調査の結果を踏まえて作成した「SNSの利用」についての新設項目と、「学校外活動の種類」の選択肢に「英会話」を加え、一部質問で追加修正を行った本調査用紙の原案を作成。答えにくい質問

の有無や性別の回答の仕方等確かめるために2回目の予備調査を行った。

②調査の対象

藤沢市立中学校1年生 2校×2クラス 計4クラス126名（男子70名、女子52名、その他1名、回答しない3名）

③調査の方法

藤沢市教育文化センター作成の予備調査用紙（質問紙法による）を使用。それぞれの学校で担任が調査用紙を配布し、実施、回収した。

④調査の実施日

2020年1月14日（火）～22日（水）

⑤調査の内容

おおむね本調査用紙に準じる。なお、追加修正は、これまでの「学習の意欲」を尋ねる質問Dの「しめきりまでに、宿題をすませる」で、中学校3年生の現状にそぐわないことから「宿題」を「課題」に変更した1か所。また、性別を「男子・女子・その他」の3択で尋ねる調査用紙と、「回答しない」を加えた4択で尋ねる調査用紙の2つを用意した。

⑥調査の結果

新設項目や選択肢・質問の一部を変更したことについては、特に問題なく回答できることを確かめることができた。性別については、「回答しない」を加えた4択では、わずかではあるが不適切な回答を誘導することがわかったため、「男子・女子・その他」の3択で尋ねる調査用紙を採用することとした。

(3) 2回の予備調査を踏まえて

本調査に向けては、調査の実施が1年先に延びたことから、2020（令和2）年度に、予備調査結果と調査用紙を再度吟味し、「新設項目」内の質問の順序（「A. 謙遜、B. 内省志向」→「A. 内省志向、B. 謙遜」）や語順（「携帯電話やスマートフォン」→「スマートフォンや携帯電話」）を入れかえるなど微調整を行い、調査の万全を期した。

なお、授業に期待する事柄を尋ねる質問E「グループの人の意見を聞き、話し合うことで、自分の考えを深められる授業」については、「自分の考えを深められる」というポジティブな内容が含まれていることから、他の質問に比べ、生徒の回答を期待する方向へ誘導してしまう可能性が危惧されたため、本調査では「グループで考えたり話し合ったりする授業」に改めることにした。

4. 調査の対象

藤沢市立中学校3年生全員（全19校、3,461名）

5. 調査の方法

- ①調査用紙は藤沢市教育文化センター作成の学習意識調査用紙(質問紙法による)を使用(p.94～101参照)。
- ②全市内中学校に調査の主旨を説明し、各学校に実施を依頼。調査を担当する教員向けには「調査実施の手引き」を作成・配布した。
- ③調査用紙の配布・実施後の回収は、藤沢市教育文化センターの担当者が行った。

6. 調査の実施期間

2021（令和3）年5月10日（月）～6月18日（金）

7. 集計の方法

(1) 集計に用いたデータについて

在籍者3,461名中、調査の結果得られた3,208名分のデータのうち、性別未記入の17名分のデータは除外し、残った3,191名分のデータ（男子1,594名、女子1,539名、その他58名）について集計・分析を行った。なお、時系列比較で用いた各年度のデータは次のとおりである。

1965年	2,424名	(藤沢市立中学校3年生全員)
1970年	2,140名	(")
1975年	2,885名	(")
1980年	4,059名	(")
1985年	5,358名	(")
1990年	855名	(全19校、各校1クラス)
1995年	1,843名	(全19校中9校、各校全クラス)
2000年	3,170名	(藤沢市立中学校3年生全員)
2005年	2,816名	(")
2010年	3,067名	(")
2015年	3,290名	(")
2021年	3,191名	(")

(2) 集計の方法について

①時系列比較

単純集計結果を百分率(%)で表し、1965(昭和40)年以降のデータと比較した。

②追加項目・新設項目の集計

単純集計結果を百分率(%)で表し、性別については前回までの調査結果との比較のため、「その他」を除いて男女別に百分率(%)で表した。前回の調査までの追加項目については過去のデータと比較した。

③クロス集計

単純集計の結果、必要と判断された項目間でクロス集計を行った。

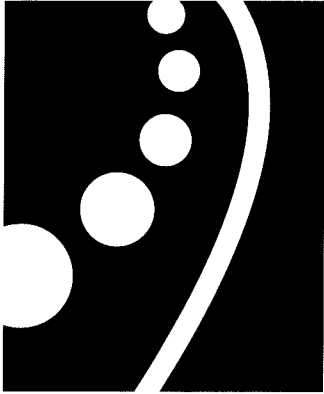
※なお、百分率の数値は小数第2位を四捨五入しているため、合計は必ずしも100%にはなっていない。また、集計には無回答項目も含めた。

④グラフの見方

今回、性別の記入について、「男」「女」「その他」とした。その中で、「その他」としたものは58名であった。集計に当たっては、「その他」も他と同じようにグラフ化したが、人数が少ないので、他と同じように見ると誤解が生ずることもあるので、注意いただきたい。

【引用・参考文献】

- 1)藤沢市教育文化センター(2016) 2015年(平成27年)実施 第1回「学習意識調査」報告書 藤沢市立中学校3年生の学習意識 32, 42, 84.
- 2)下山剛・林幸範・他(1983) 学習意欲の構造に関する研究(2)ー学習意欲の類型化の検討 東京学芸大学紀要1部門 34, 139-152. による学芸大式学習意欲検査(簡易版)をもとに質問項目を作成
- 3)杉村健(1985) 小学生の学習心理 教育出版 および杉村健(1987) 3章 自発性と学習意欲のとらえ方 伊藤隆二・坂野登(編) 講座入門子ども心理学1ー子どもの自発性と学習意欲 日本文化科学社 42-65. による学習意欲尺度をもとに質問項目を作成.
- 4)佐藤有耕・落合良行(1995) 大学生の自己嫌悪感に関連する内省の特徴 筑波大学心理学研究, 17, 61-66. で作成された内省尺度のうち、「自己を振り返る機会の程度」下位尺度をもとに質問項目を作成.
- 5)Chen, S. X., Bond, M. H., Chan, B., Tang, D., & Buchtel, E. E. (2009) Behavioral Manifestations of Modesty, Journal of Cross-Cultural Psychology, 40, 603-626. で作成された謙遜行動尺度をもとに質問項目を作成.
- 6)山崎瑞紀(2018) 日本版謙遜行動尺度の作成及び信頼性・妥当性の検討 日本社会心理学会第59回大会 発表論文集, S14-05 をもとに質問項目を作成.

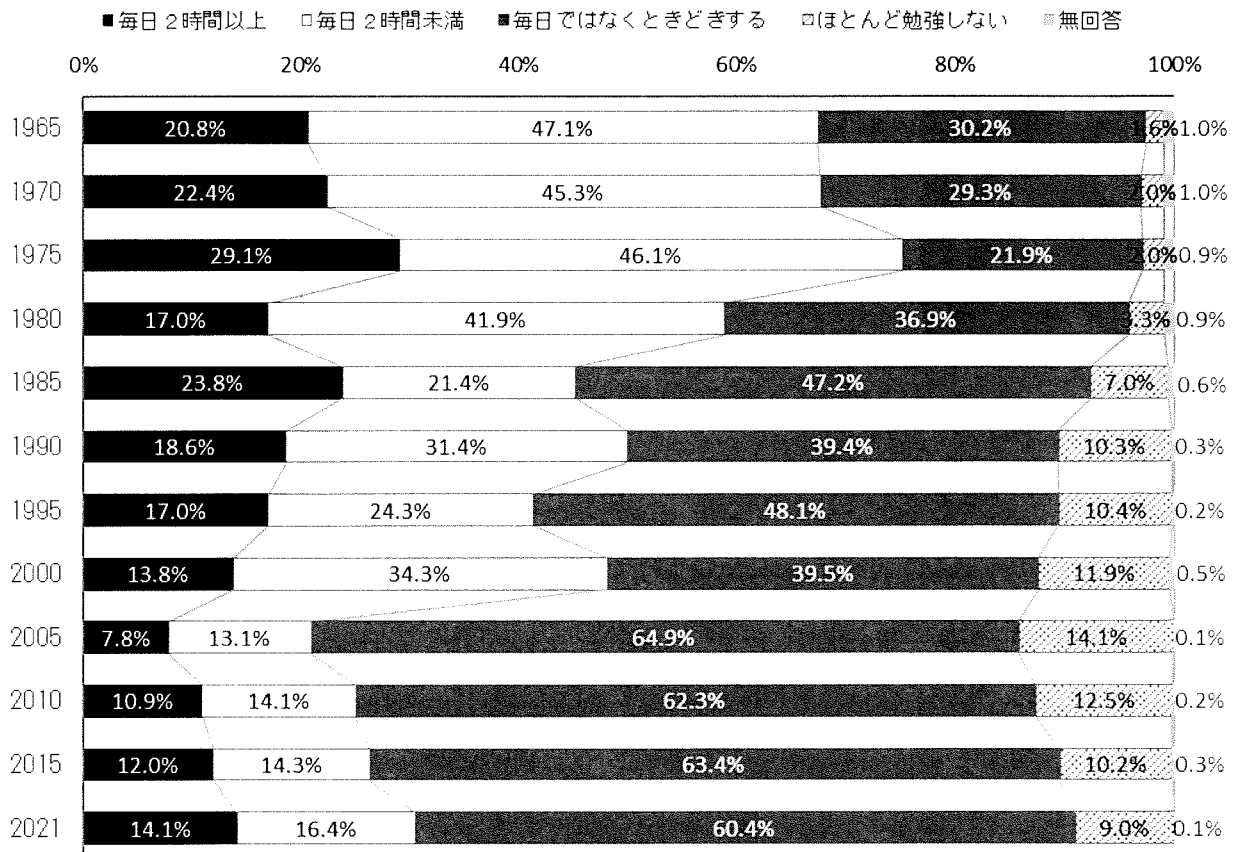


第2章

56年間の時系列比較

1. 帰宅後の勉強時間

項目1：学校から帰って、一日何時間くらい勉強していますか（学習塾・家庭教師なども含む）



※2000年までは「一日なん時間くらい勉強していますか」と聞いていたが、2005年から、「毎日する」「するときもしないときもある（毎日ではなくときどきする）」「ほとんどしない」を選択させ、「するときもしないときもある」と答えた生徒に、「1週間に（ ）日、（ ）時間くらい」と、日数と時間に関する設問に分けた。さらに2010年調査からは、時間について、選択肢（「2時間以上」、「1～2時間」、「1時間未満」）で尋ねている。

比較結果：

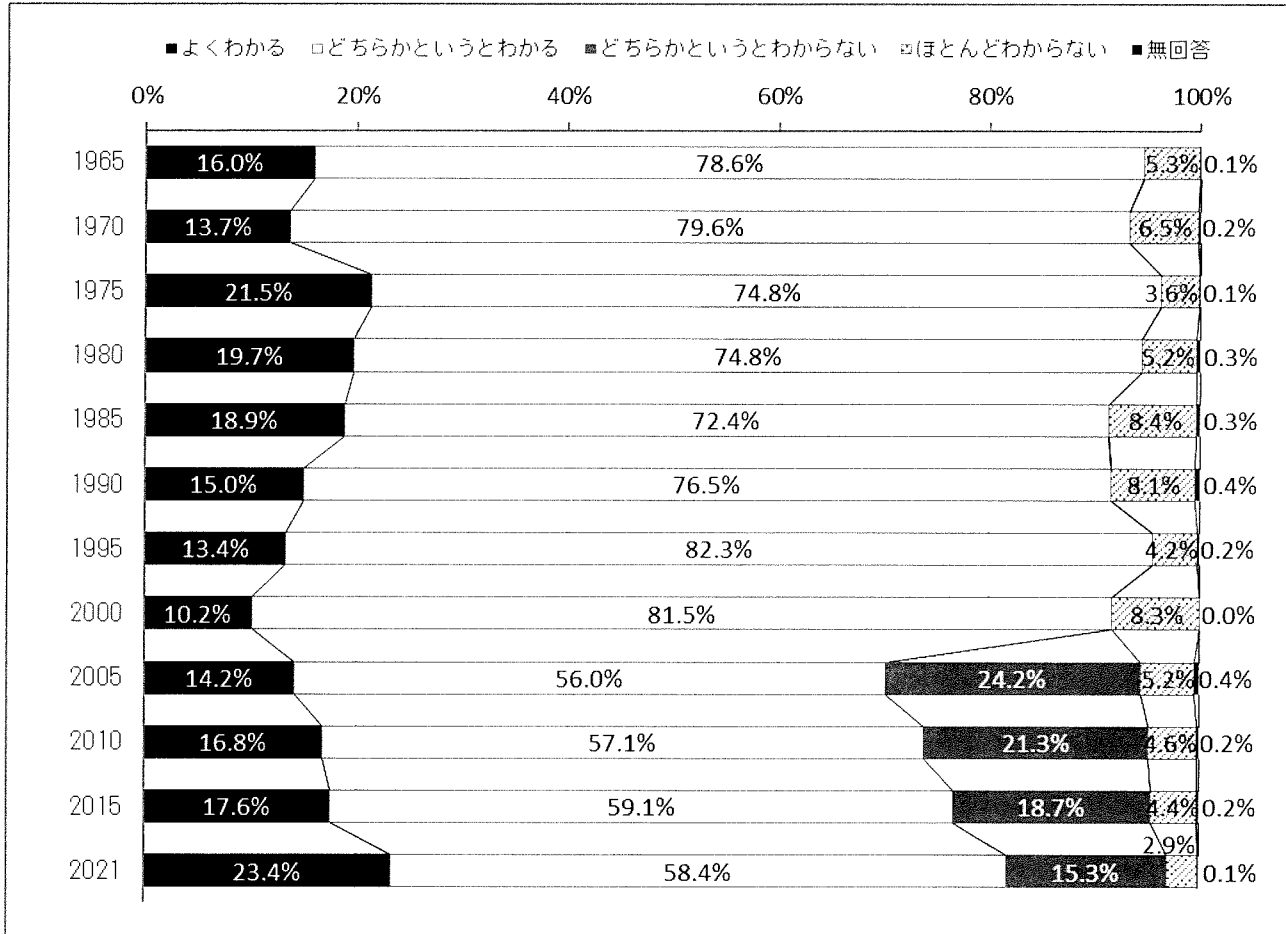
- ① 「平日、学校から帰ってどのくらい勉強するか」について、「毎日2時間以上」と答えた生徒の割合が過去最低を記録した2005年の7.8%から回復し2021年は14.1%となった。「ほとんど勉強しない」の割合が9.0%となり、1990年代の水準にまで戻ってきている。
- ② 「毎日勉強する（毎日2時間以上＋毎日2時間未満）」と答えた生徒の割合をみると、1965年から増加し、1975年には75.2%（29.1%＋46.1%）でピークを迎えるが、その後、減少傾向に転じ、2005年には、20.9%（7.8%＋13.1%）と最低になる。その後増加し、今回30.5%（14.1%＋16.4%）とほぼ3人にひとりになった。

考察：

「帰宅後の勉強時間」は、子どもたちのライフスタイルを表している。「毎日勉強する」習慣を持っている生徒は、1975年には4分の3だったが、2005年まで5人にひとりまで減少し、その後増加傾向を示している。学習塾に通う生徒は、1980年の調査で5割を超え、1990年には7割に達する（p.14）。帰宅後の勉強は「自身で復習や予習をするもの」から「勉強は塾ですもの」へ変わり、ゆとり教育の中で家庭学習（宿題）も減少していったことやテレビゲームに夢中になるなど学校の勉強以外のことに興味をもつ生徒が登場したことで、「勉強時間そのものが減っていったこと」の理由として推測される。

2. 学校の勉強の理解度

項目2：学校での勉強がよくわかりますか？ どれか一つに○をつけてください。



※2000年までは、よくわかる、わかるときもわからないときもある、ほとんどわからない の3件法、2005年から4件法 である。

比較結果：

- ① 勉強が「よくわかる」と答えた生徒の割合が、1975年の21.5%から減少傾向にあったが、過去最低であった2000年の10.2%から5年ごとに増加し、2021年には前年に比べ5.8ポイント増加し23.4%となった。
- ② 2005年の調査から取り入れられた「どちらかというわかる」の割合は56.0%から増加し、2021年は58.4%となり、「わかる（よくわかる＋どちらかというわかる）」は8割(23.4%＋58.4%)を超える。
- ③ 「どちらかというわからない」と答えた生徒の割合は、2005年の24.2%から減少し、2021年は15.3%となった。
- ④ 「ほとんどわからない」と答えた生徒の割合は、2000年の8.3%から減少傾向を示し、今回、過去最低の2.9%となった。

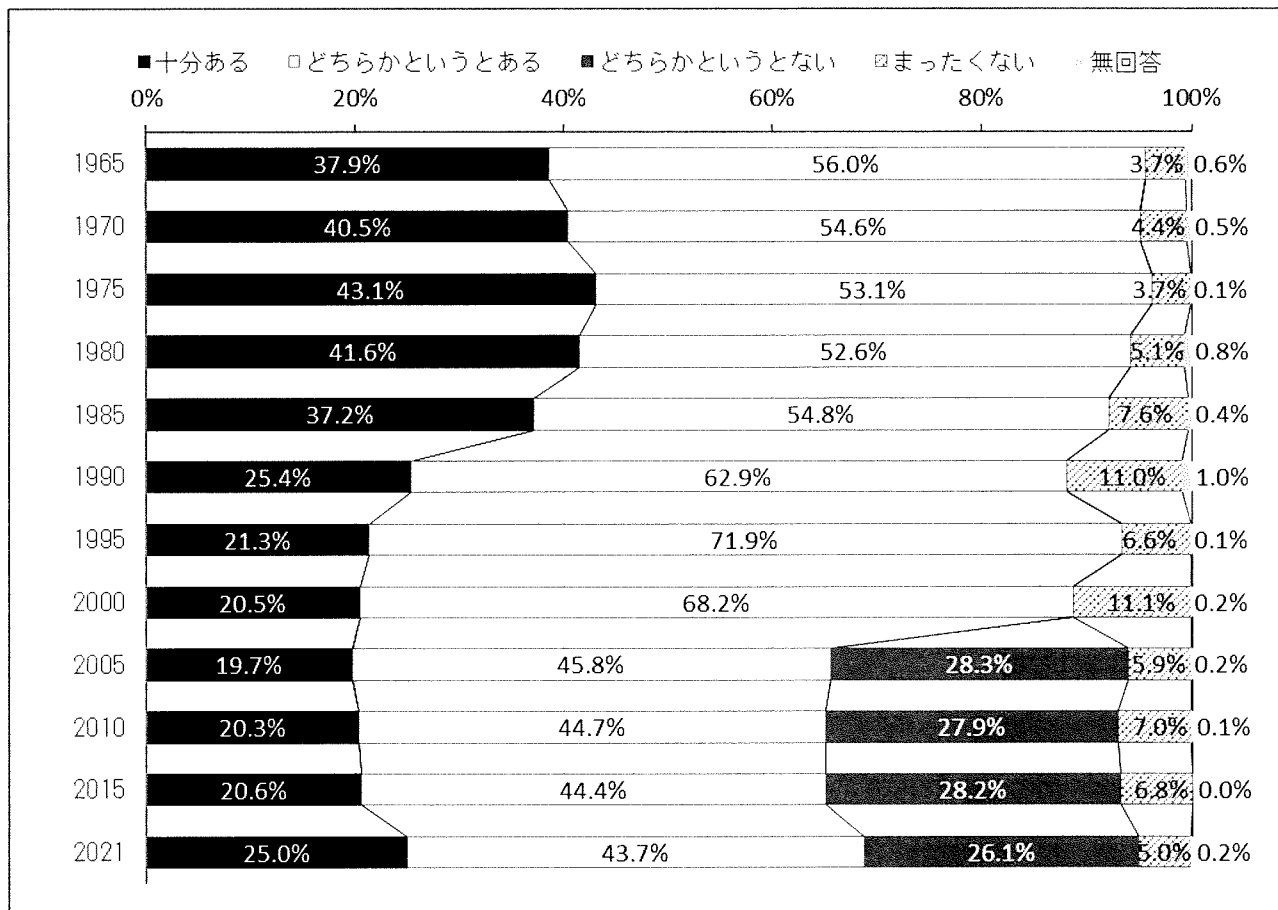
考察：

「勉強がよくわかる」と答えた生徒は、1975年にピークをむかえ、減少傾向を示す。2000年には過去最低の10.2%を示したが、それ以降、増加傾向を示し、今回23.4%と、1975年を超え、過去最高を示している。また「ほとんどわからない」と答えた生徒の割合も約3%とこれまででもっとも低い数値となっている。

2021年の学習指導要領の改訂実施にむけて、生徒の興味・関心や主体的な学びを大切に授業づくりが行われ、また市教委による個別の学習支援事業や各学校での放課後・夏季休業中の勉強会実施などさまざまな取り組みが行われていることも、生徒の「勉強への理解」につながっているのかもしれない。

3. 学校の勉強についていく自信

項目3：学校の勉強についていく自信がありますか？ どれか一つに○をつけてください。



*2000年までは、選択肢は、十分ある、あるとも、ないとも、いえない、まったくくない の3件法である。

比較結果：

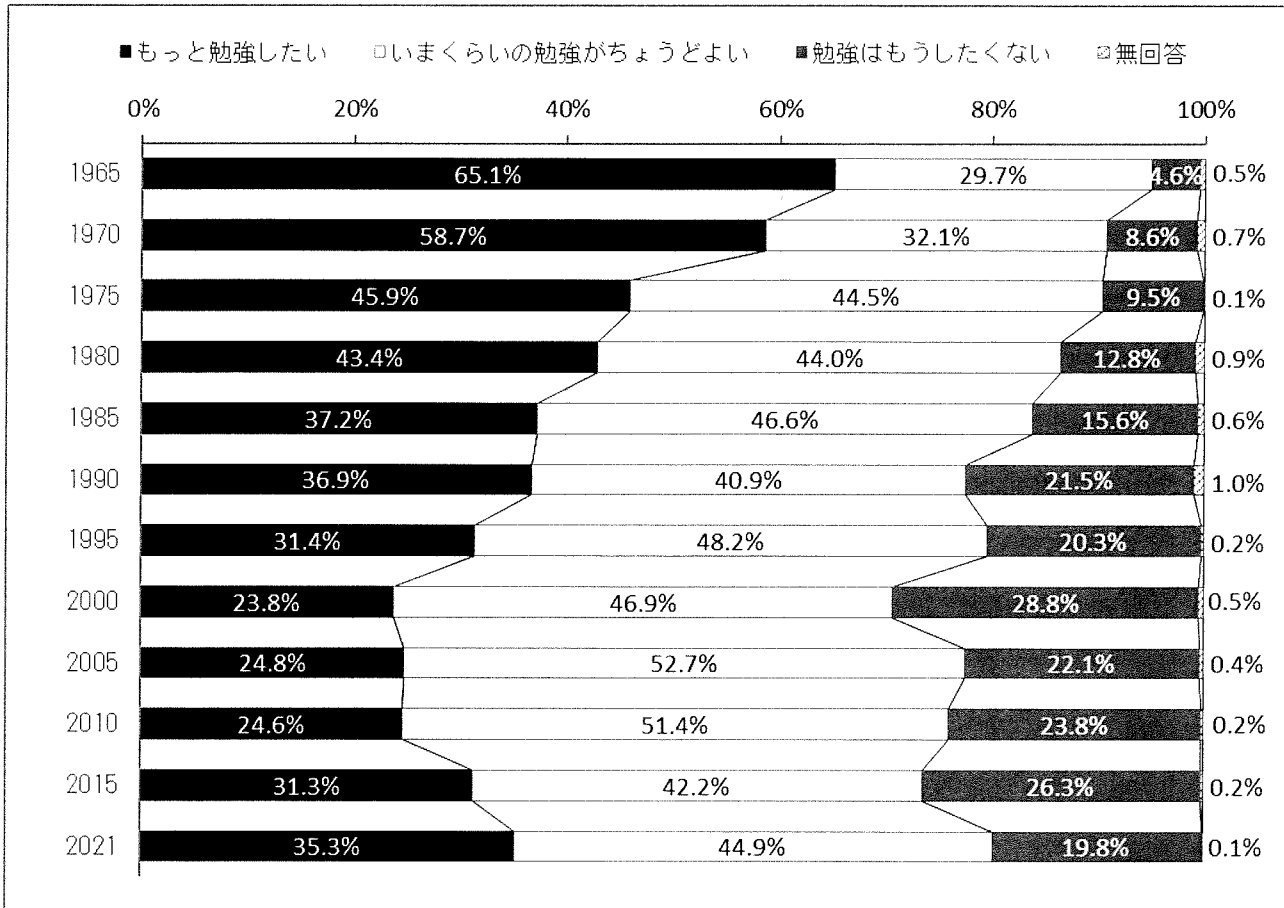
- ① 全体的な傾向を見ると、1975年の43.1%の生徒が「(自信が)十分ある」と答えたのをピークに減少してきた。その後1995年から2015年まで、ほぼ20%前後で変わらなかったが、今回、25%に増加し、1990年とほぼ同じ割合を示した。
- ② 今回、前回と比べて、「自信がある(十分ある+どちらかというところ)」が、65.0%から68.7%(25.0%+43.7%)と3.7ポイント増加し、わずかだが増加した。
- ③ 「自信がない(「どちらかというところない」+「まったくくない」)」は、2005年からほぼ横ばいだったが、今回35.0%→31.1%と約4ポイント減少した。

考察：

自信が「十分ある」と答えた生徒の割合は、今回4.4%増加した。次回の調査結果をみないと、増加に転じたと断言するのはいいのかわからないが、「まったくくない」もわずかだが減少しており、自信をとりもどしつつあるようにも見える。さまざまな教育改革の取り組みの中で、「自信」と関係するものとして、1980年代からの「高校入試改革」と2004年に始まった「観点別評価の導入」を考えた。特色ある学校の設置、少子化による競争倍率の低下もあり、選択肢は多様化している。また相対評価から観点別評価へと、生徒に手渡す「評定」もその意味が大きく変わってきた。それらが生徒の「自信」にかかわっている可能性もある。

4. 勉強の意欲

項目4：もっと、たくさん勉強したいと思いませんか？ どれか一つに○をつけてください。



比較結果：

- ① 「もっと勉強したい」と答えた生徒の割合は、1965年 65.1%だったが、その後、過去最低を示した 2000年(23.8%)にかけて急激に減少する。その後、2010年までほぼ横ばいで推移していたが、その後、増加傾向を示し、今回 4.0ポイント増加した(31.3%→35.3%)。
- ② 「勉強はもうしたくない」と答えた生徒は、1965年(4.6%)から 2000年(28.8%)まで増加し、その後 20%を超える水準で推移したが、今回 19.8%と 6.5ポイント減少し、35年ぶりに 20%以下になった。
- ③ 「いまくらいの勉強がちょうどよい」と答えた生徒は前回 2015年よりも 2.7ポイント(42.2%→44.9%)とわずかだが増加している。

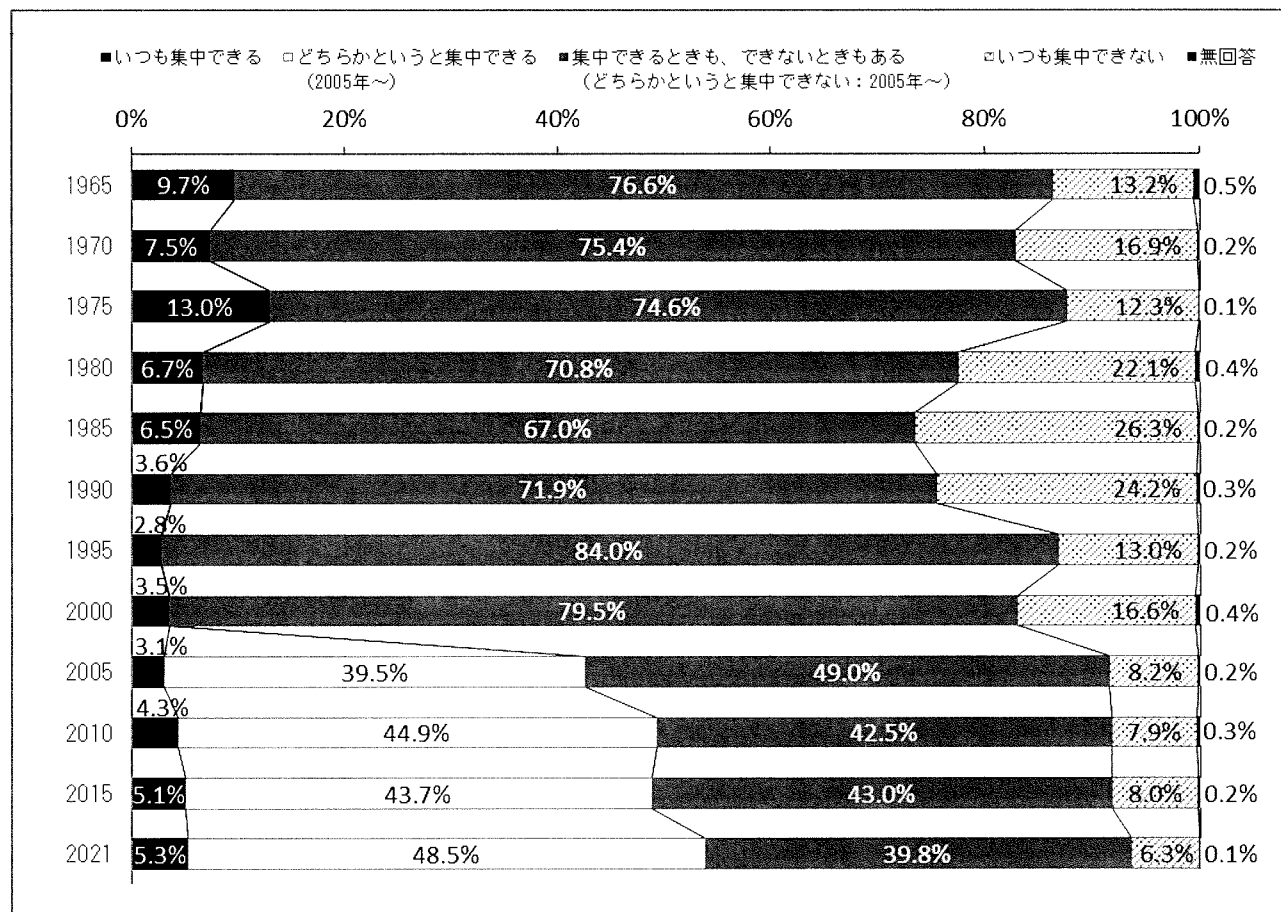
考察：

1965年の調査開始以降減少し続けていた「もっと勉

強したい」と答えた生徒の割合が、2010年より増加傾向に転じた。この項目の結果は、1990年代後半、校内暴力、落ちこぼれ、不登校などの社会背景の中で、大きな関心を集めてきた。今回、前回に続いて、「もっと勉強したい」が増加し、「もう勉強したくない」が減少したことは、教育関係者にとって喜ばしいことかもしれない。その要因として考えられることとして、コロナ禍で、学校の休校、マスク着用、グループでの話し合い禁止など制限された「学校の勉強」を経験したことで、勉強について、改めてその意味を考える機会になったことが考えられる。また新学習指導要領で、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善をすすめることが明記され取り組まれていることもあげられる。生徒自身の「勉強したい」という思いこそが、その原動力である。勉強へと向かう意欲が生徒の内から生まれるような授業を教師は考え続けたい。

5. 勉強への集中度

項目5：勉強になかなか集中できないことがありますか？ どれか一つに○をつけてください。



※2000年までは、選択肢は「いつも集中できる」「集中できるときもできないときもある」「いつも集中できない」の3択であった。

比較結果：

- 勉強に「いつも集中できる」と答えた生徒の割合は、1975年の13.0%以降、10%未満と少ない傾向が続いてきた。今回、前回とほぼ同じ傾向を示しているが、1995年から、回を重ねるごとに、ほんのわずかだが、増加している。
- 今回、勉強に「いつも集中できる」と答えた生徒の割合は5.3%と前回とほぼ変わらないが、「どちらかという集中できる」は4.8ポイント増加(43.7%→48.5%)した。また「いつも集中できない」は、1.7ポイント(8.0%→6.3%)とほんのわずかだが減少し、1965年以降、最低の割合を示した。
- 「いつも集中できない」を選んだ生徒の割合は、1980年から1990年の間、4人にひとりだった。

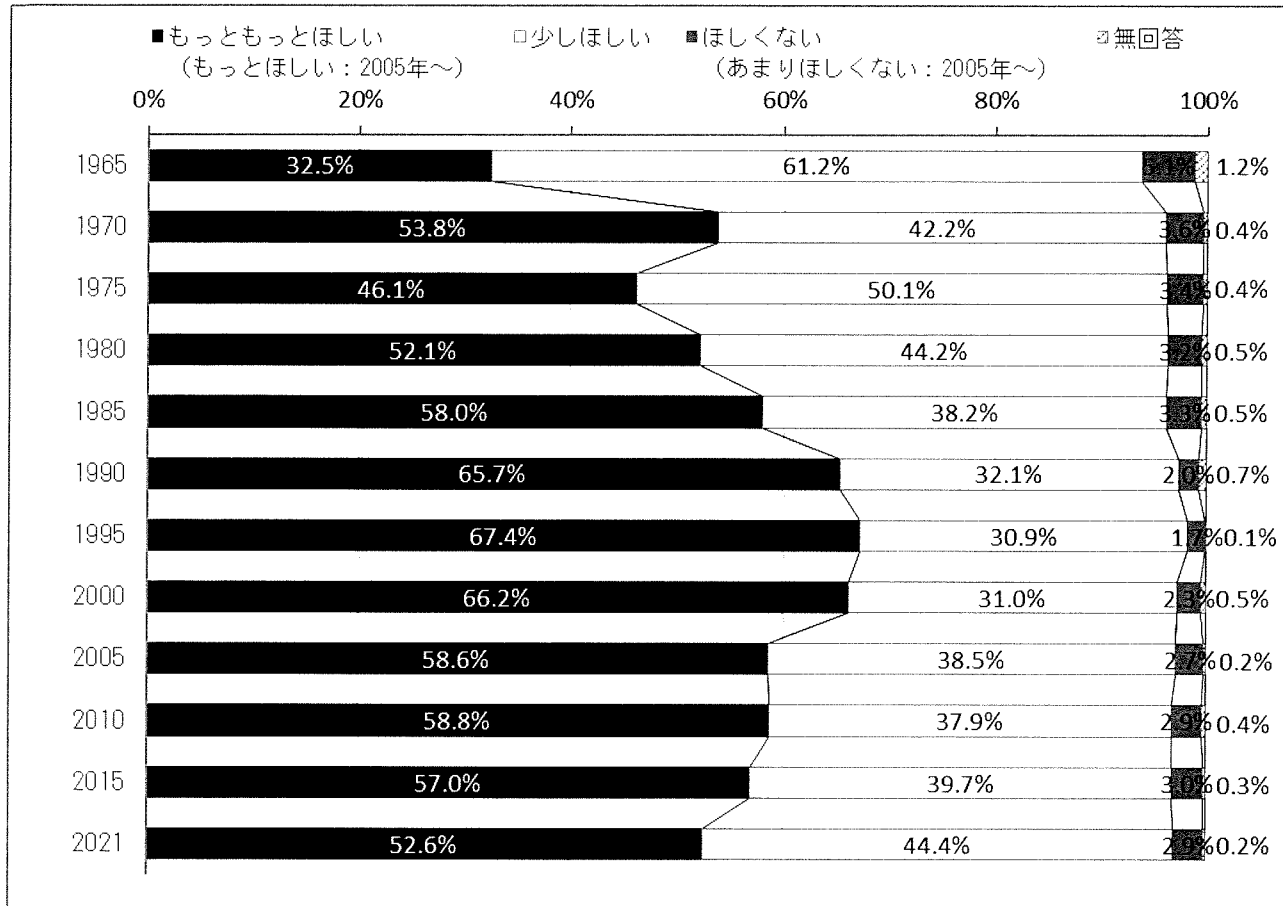
考察：

「いつも集中できる」と答えた生徒の割合は、1975年の13.0%をのぞくと、1965年より1割を超えないで推移してきた。また「いつも集中できない」と答えた生徒の割合が、1980-1990年にかけてほぼ24%と多い。ちょうど、校内暴力、不登校などが注目された時期でもあり、集中できない環境であったとも考えられる。

今回、「集中できる(いつも集中できる+どちらかという集中できる)」が2005年以降はじめて半数を超えた(53.8%)が、掲示物の工夫などユニバーサルデザインを意識した校内での学習環境づくりが進んでいることがその要因として考えられる。またコロナ禍で、小さな声で話すなど授業の進め方も変わり、教室が「静かに」なっていることも影響しているのかもしれない。

6. 勉強以外の自由時間に対する願望

項目6：勉強以外の自由時間がほしいと思いますか？ どれか一つに○をつけてください。



※2000年まで、選択肢は「もっとほしい、少しほしい、ほしくない」で、2005年からは、「もっとほしい、少しほしい、あまりほしくない」の3件法である。

比較結果：

- 勉強以外の自由時間が「ほしい(もっとほしい+少しほしい)」と答えた生徒の割合は、50年間常に高く、9割を超えている。1990年から2000年まで、「もっとほしい」と答えた生徒の割合が65%を超える時期があったが、2005年から今回にかけては58~52%程度にゆるやかに減少している。
- 勉強以外の自由時間を「ほしくない」と答えた生徒の割合は、今回もわずか(2.9%)である。
- 勉強以外の自由時間が「もっとほしい」と答えた生徒の割合と、「少しほしい」と答えた生徒の割合を比べると、1965年1:2だったが、その後1990年には2:1になり、また「少しほしい」と答えた生徒の割合が増え、5:4になっている。

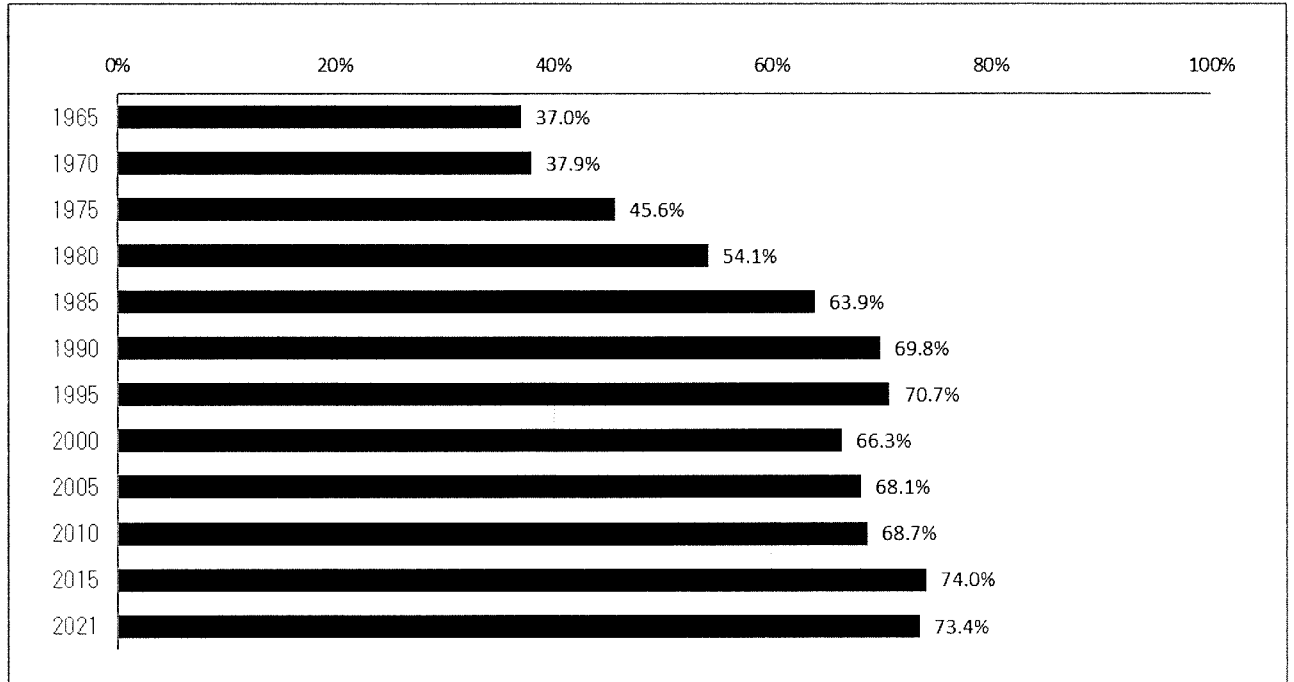
考察：

自由への願望は、生徒が学校生活や家庭生活で窮屈さを感じていることの現れともとらえることができる。「もっとほしい」という強い願望は、1965年32.5%だったが、1995年67.4%をピークに減少している。

1975年から1995年の「もっとほしい」と答えた生徒の増加は顕著で、学校の息苦しさを示しているのかもしれない。1980年代の校内暴力、不登校などさまざまな問題がその要因となっていたとも考えられる。今回、前回に比べて「もっとほしい」と答えた生徒の割合が4.4ポイント(57.0%→52.6%)と減少した一方で、「少しほしい」と答えた生徒が4.7ポイント(39.7%→44.4%)増えた。コロナ禍で部活動や学習面の時間が減り、自由に過ごせる時間が多かったのかもしれない。

7. 学校以外での習い事(学習塾のみを比較)

項目10：学校以外で、習っているものに、○をつけてください。



比較結果：

- ① 「学習塾」に通っている生徒の割合は、前回に比べてほぼ変わらず、4人に3人の割合(73.4%)である。
- ② 「学習塾」に通う生徒は、1965年にはほぼ4割(37.0%)だったが、1970年代、80年代と大幅に伸び、1995年には、70.7%になる。その後、2000年に一度減少するが、わずかに増加傾向を示し、前回の2015年には74.0%と過去最高を記録した。
- ③ 今回は、前回に比べ、ほぼ同じ(74.0%→73.4%)だった。

考察：

「学習塾」に通う生徒は、1965年以降、1995年まで、急速に増加し、その後2010年まで60%台後半を推移してきた。今回、「学習塾」が、前回とほぼ同じ割合で高止まりした。そのことについて、コロナ禍で、塾を開くことができなかつたり、保護者の収入の減少等で学習塾をやめる生徒がでて、「学習塾」に通う生徒の割合が減るのではないかと考えていたが、その影響は少なかったと推測される。

「学校以外での習い事」として、「スポーツ関係」に通う生徒が増加している(p.42)。「学習塾」と複数の機関に通う生徒も想定され、今後の調査結果に注目したい。



第3章

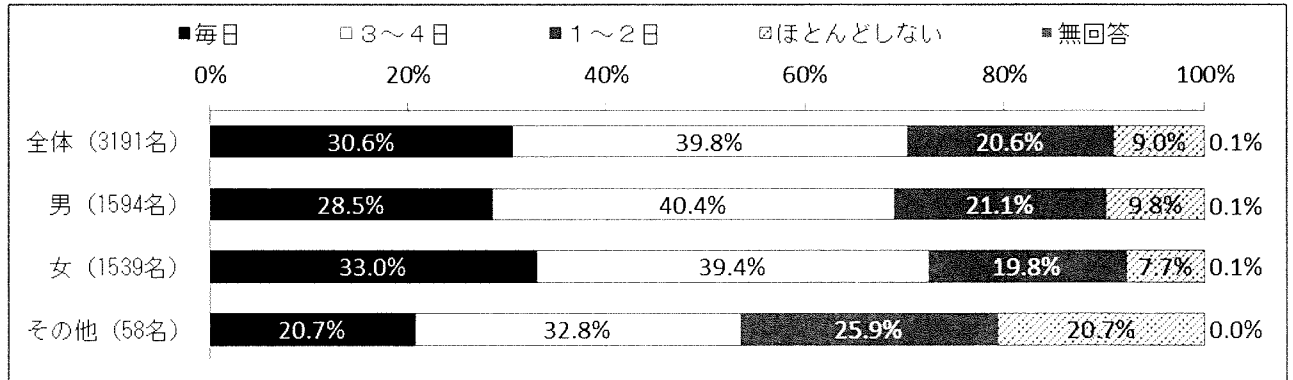
2021年度 中3生徒の学習意識

1. 帰宅後の勉強時間

(1) 2021年の調査結果及び考察

項目1：家庭での学習について質問します。どれか一つに○をつけてください。(塾・家庭教師なども含みます)

A. 学校から帰って、月曜日から金曜日の間に何日くらい勉強していますか？



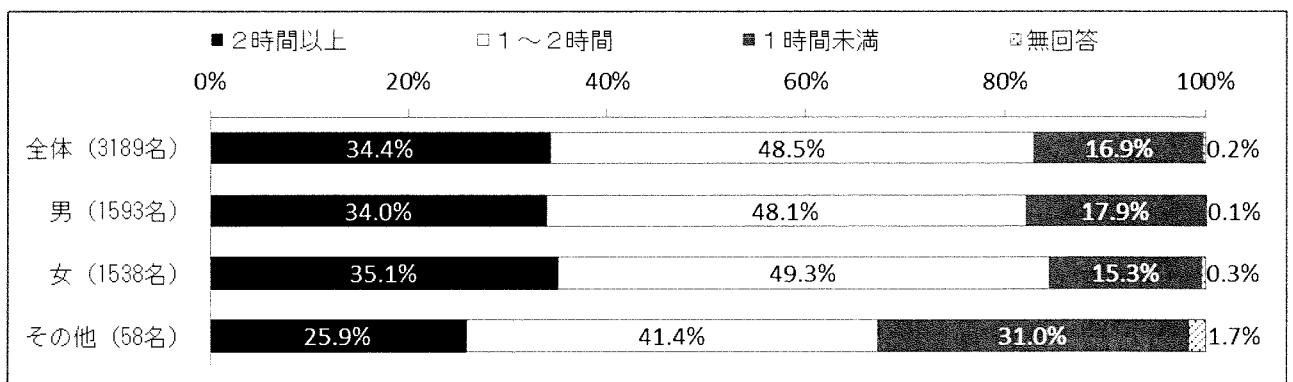
調査結果：

- ① 学校から帰宅後、毎日勉強する習慣のある生徒はほぼ3割(30.6%)であり、毎日勉強する習慣を持っていない生徒はほぼ7割を占め、「ほとんどしない」生徒は、ほぼ10人に1人(9.0%)の割合である。
- ② 5つの選択肢の内、「3~4日」がほぼ4割(39.8%)を占め、男女ともほぼ同数である。
- ③ 男女別にみると、「毎日」と答えた生徒が女子の方が多く(28.5% < 33.0%)、「ほとんど勉強しない」は男子の方がわずかに多い(9.8% > 7.7%)。

考察：

平日、毎日勉強する習慣のある生徒はほぼ3人にひとりである。男女別に見ると、女子の方が勉強日数が多い点は前回の調査と同様だが、3日以上勉強を行う生徒の割合が67.3%→70.4%とやや上昇した。その要因として、コロナ禍で、部活動や外出の機会が減り、家にいる時間が増え、自宅での学習習慣が定着したことが考えられる。なお、その他の「2日以下」がほぼ半数(46.6%)と気になるが、58名であることから、過大に注目しすぎないようにしたい。

B. 学校から帰って勉強する日には、一日どのくらい勉強していますか？



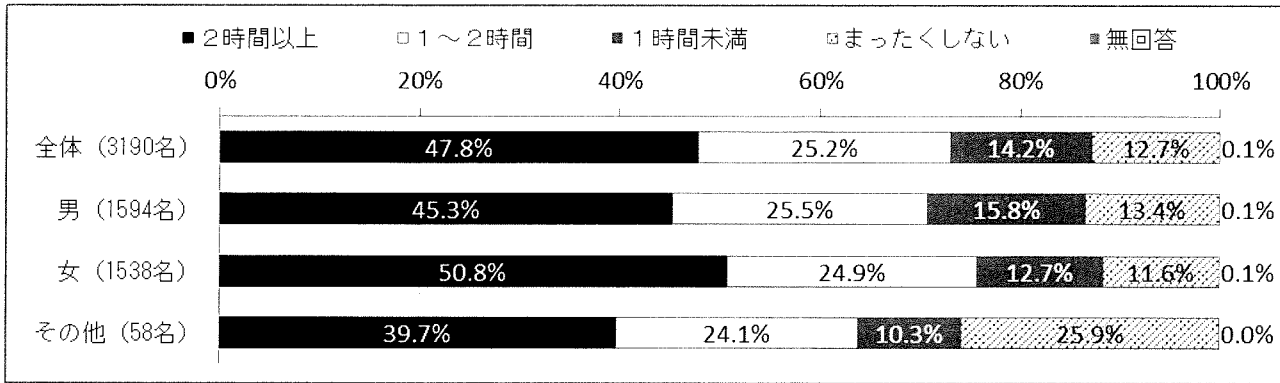
調査結果：

- ① 学校から帰宅後の勉強時間については、「1~2時間」と答えた生徒の割合はほぼ半数(48.5%)と最も高く、次いで「2時間以上」が34.4%である。
- ② 男女別にみると、学校から帰って勉強する1日の時間に差はほとんどみられない。

考察：

男女でほぼ同じ傾向を示している。「2時間以上」では前回男子の方が多かった(35.0% > 32.6%)が、ほぼ同じ(34.0% ≒ 35.1%)だった。勉強日数は前回に比べ増えたが、勉強時間の長さは前回とほぼ同じである。1日の勉強時間も限られている。

C. 土曜日には、どのくらい勉強していますか？



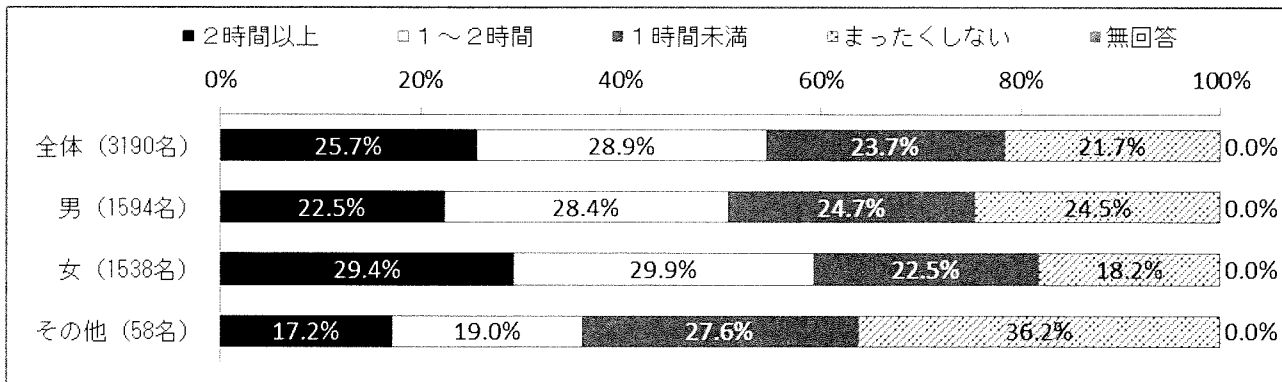
調査結果：

- ① 土曜日に「2時間以上」勉強していると答えた生徒の割合は5割弱(47.8%)で、一方、「1時間未満(1時間未満(14.2%) + まったくしない(12.7%))」は26.9%でほぼ4人にひとりである。
- ② 男女差は、「2時間以上」は女子が5.5ポイント多く(45.3% < 50.8%)、半数を示している。「まったくしない」生徒はわずかに男子が多い(13.4% > 11.6%)。

考察：

前回の調査と比べ、「2時間以上」は、全体(39.5% → 47.8%)、男子(39.9% → 45.3%)、女子(39.1% → 50.8%)といずれも増え、特に女子は11.7ポイント増加した。平日より土曜日の方が「ほとんどしない」が減少し、勉強時間が増える傾向がある。また「まったくしない」も、全体(17.1% → 12.7%)、男子(20.8% → 13.4%)、女子(13.3% → 11.6%)といずれも減少し、特に男子は7.4ポイント減と大きい。部活動が制限されるなどコロナ禍の影響が考えられるが、休校期間等の学力に不安を感じて、学習に取り組む生徒が増え、結果的に家庭での勉強時間が増えたのかもしれない。

D. 日曜日には、どのくらい勉強していますか？



調査結果：

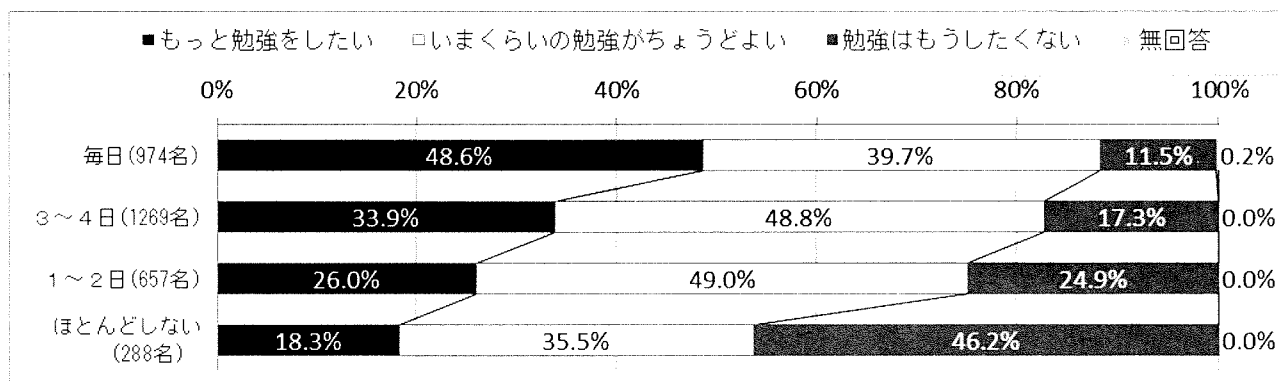
- ① 日曜日に「2時間以上」勉強していると答えた生徒の割合は4人にひとり(25.7%)、で、男女差をみると、女子のほうが6.9ポイント(22.5% < 29.4%)多い。
- ② 「まったくしない」と答えた生徒の割合は、男子の方が女子より6.3ポイント(24.5% > 18.2%)と多く、「その他」を選んだ生徒は、「まったくしない」が3人にひとり(36.2%)を超える。

考察：

日曜日「まったくしない」と答えた生徒の割合は5人にひとりで、土曜日より多い。同じ休日でも過ごし方が違うことが想定される。前回の調査に比べ、「2時間以上」と答えた生徒の割合が9.5ポイント(16.2% → 25.7%)と増加し、コロナ禍で学習塾が閉塾していた影響で勉強時間が減少するかと想定したが、実際にはその逆だった。何か違う要因を考える必要があるようだ。

(2) 「1. 平日 帰宅後の勉強時間」と「4. 勉強の意欲」とのクロス集計

「1A. 学校から帰って、月曜日から金曜日の間に何日くらい勉強していますか?」と「4. もっと、たくさん勉強したいと思いますか?」



集計結果：

- ① 平日に勉強を「毎日する」と答えた生徒のほぼ半数(48.6%)が「もっと勉強したい」と回答している。
- ② 勉強日数が減るほど「もっと勉強したい」と答えた生徒の割合は減少し、「ほとんどしない」と答えた生徒の割合は、5人にひとり(18.3%)になる。
- ③ 平日「ほとんどしない」と答えた生徒のほぼ半数(46.2%)が「もう勉強したくない」と回答している。

考察：

勉強する日数が多いほど「もっと勉強をしたい」と答えた生徒の割合が多く、勉強する日数が少ないほど「勉強はしたくない」と答える生徒の割合が増えている。「勉強への意欲」が高い生徒ほど日数が多いことを示している。

平日に「毎日」勉強すると答えた生徒の半数が「もっと勉強したい」と答え、前回に比べて8.8ポイント(39.8%→48.6%)増加している。その要因として、家庭学習(宿題)が以前より多く出されていることが考えられる。学習指導要領改訂により、事前の調べ学習や、レポート作成など授業の予習や復習に関する宿題が増えている可能性があり、そのことがもっと勉強したいという意欲に関係しているのかもしれない。

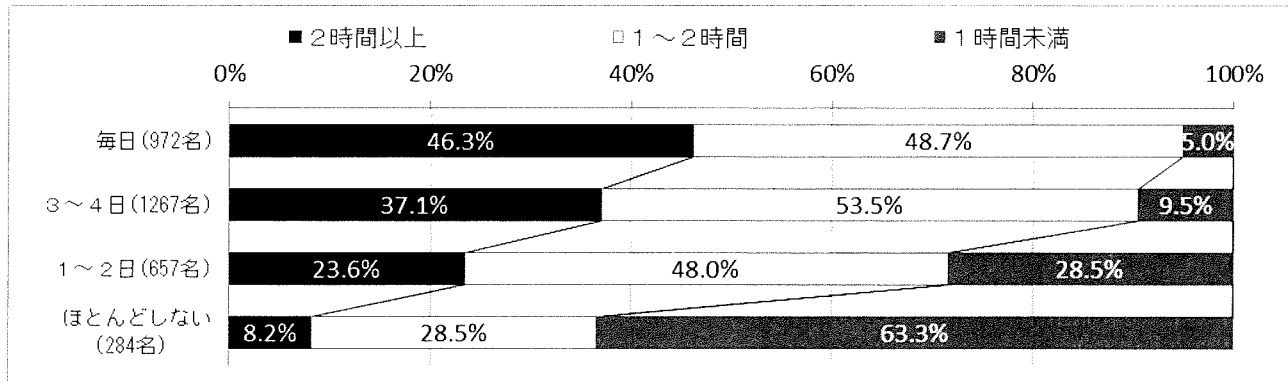
また「もうしたくない」と答えた生徒は縦軸のすべての項目で減少し、数字だけを単純に読めば、意欲が高まったと言える。しかし、「ほとんど勉強をしない」と答えた生徒の半数弱(46.2%)が「もうし

たくない」と答えている。では宿題はどこでしているのだろうか。学校で、休み時間にしている可能性が考えられる。

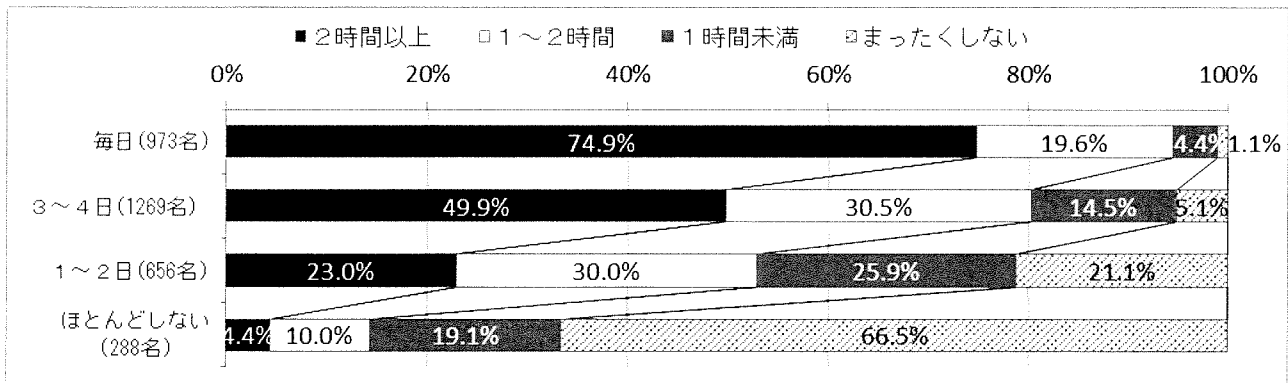
さらに、今は勉強を「ほとんどしていない」生徒の中に、本当は「もっと勉強したい」と思っている生徒が約2割いることにも注目したい。勉強したいと思っているのに、なぜ勉強の時間がとれないのだろうか。「勉強の仕方がわからないのか」、「時間がないのか」、「サポートしてくれる人がいれば、あるいは塾に通っていただければ違うのか」また「ほかにしなければならないことがあって、時間の確保がむずかしいのだろうか」、その理由は、今回の調査からはわからないが、一人ひとりの生徒に合った「学び方」が求められる中で、生徒の「もっと勉強したい」という気持ちにこたえる手立てが必要といえる。

(3) 「1A. 平日勉強する日数」と「1B. 勉強時間」のクロス集計

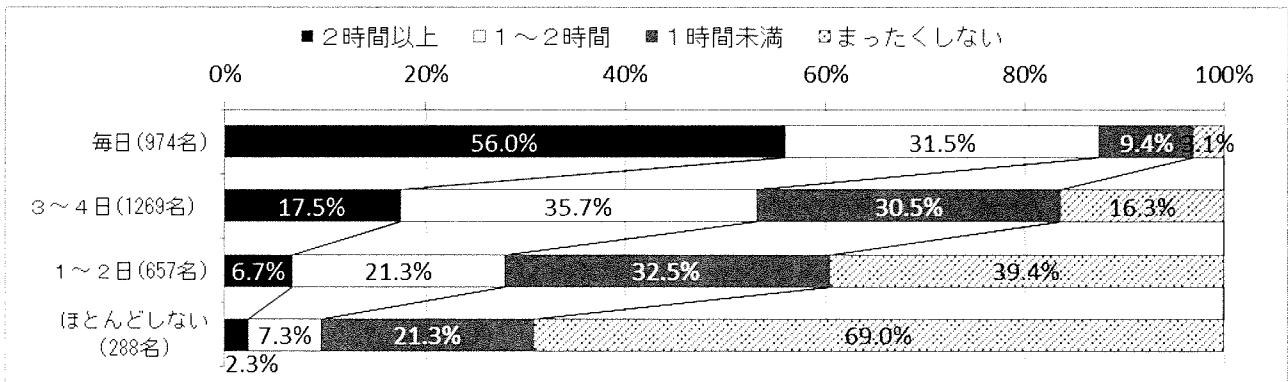
① 1B. 学校から帰って勉強する日には、一日どのくらい勉強していますか？



② 1C. 土曜日にはどのくらい勉強していますか？



③ 1D. 日曜日にはどのくらい勉強していますか？



集計結果：

- ① 平日「毎日」勉強する生徒の内、「2時間以上」勉強すると答えた生徒の割合は、「平日」は46.3%でほぼ半数、「土曜日」は74.9%と4人に3人、「休日」は56.0%と、土休日に2時間以上勉強する生徒の割合は多い。
- ② 平日、勉強する日数が少ないほど、勉強時間は短くなる傾向がある。
- ③ 「ほとんど勉強しない」と答えた生徒の内、「まったくしない」を選んだ生徒の割合は、すべての曜日で6割を超える。

考察：

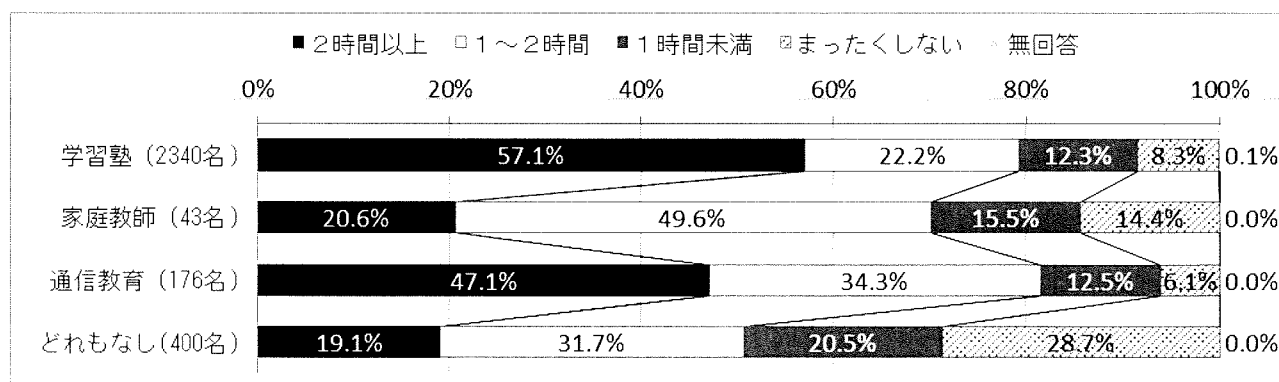
「毎日勉強する」生徒の一日の勉強時間は長く、「ほとんど勉強しない」生徒は短いという傾向は、2010年の調査からほぼ同様である。また「平日の勉強日数が多い生徒ほど土曜日や日曜日に1時間以上勉強する生徒の比率が高く、少ない生徒ほど低い」傾向も前回と変わらない。

平日毎日勉強する習慣を持っている生徒は土日も勉強している一方で、「ほとんどしない」生徒はすべての曜日で6割を超える生徒が「まったくしない」と答えており、二極化が見られる。

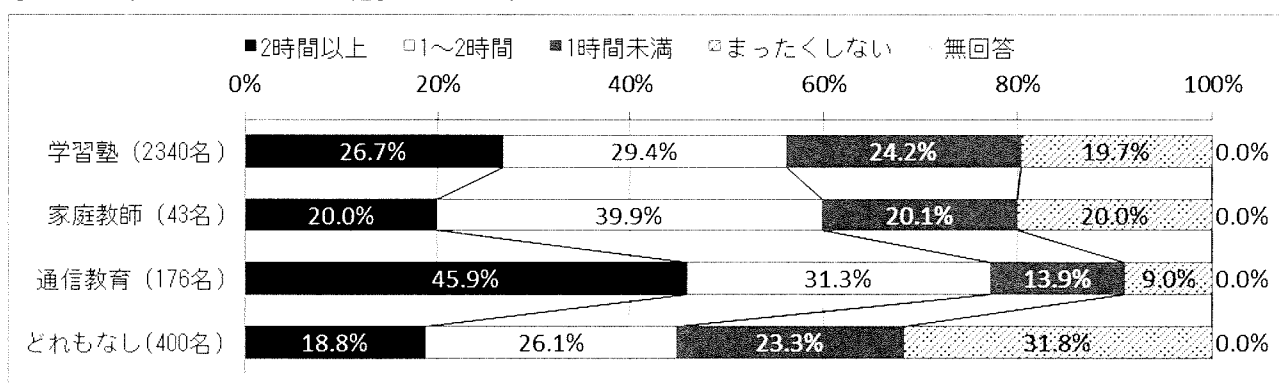
(4) 「10. 学校外での習い事（学習塾・家庭教師・通信教育）」と「1B. 勉強時間」とのクロス集計

① 10. 土曜日にはどのくらい勉強していますか？

※「どれもなし」は、「学習塾」、「家庭教師」、「通信教育」のいずれも選択していない生徒である。



② 1D. 日曜日にはどのくらい勉強していますか？



集計結果：

① 「学習塾」に通っていると答えた生徒の6割近く（57.1%）が、土曜日に「2時間以上」勉強している。日曜日に「2時間以上」勉強していると答えた生徒の割合は大幅に減り（26.7%）、4人にひとり（24.2%）が「1時間未満」、5人にひとり（19.7%）が「まったくしない」と答えている。

② 「通信教育」は「土曜日」「日曜日」ともに、「2時間以上」勉強すると答えた生徒の割合がそれぞれ47.1%、45.9%とほぼ半数を占める。

考察：

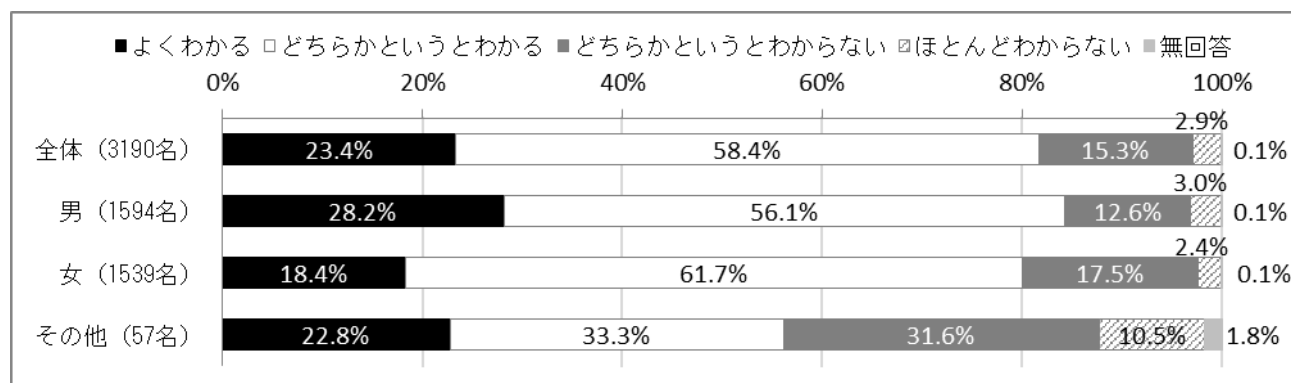
「学習塾」に通っている生徒に注目すると、土曜日に「2時間以上」と答えた生徒は6割近くに達し、日曜日の勉強時間は短い傾向がある。また前回と比べると「2時間以上」が9.2ポイント

（47.9%→57.1%）、「通信教育」は20.1ポイント（27.0%→47.1%）と大幅に増加した。コロナ禍で、人との接触を避けるため「通信教育」への関心が高まったのだろうか。しかし、「学習塾」もオンライン、通信教育を取り入れ開塾したところもあり、「学習塾」から「通信教育」へと単純に移動したとは言い切れない。

2. 学校の勉強の理解度

(1) 2021年の調査結果及び考察

項目2：学校での勉強がよくわかりますか？ どれか一つに○をつけてください。



調査結果：

- ① 学校での勉強が「よくわかる」(23.4%)と「どちらかというわかる」(58.4%)を合わせると81.8%に達し、約8割強が、学校での勉強がわかると答えている。
- ② 男女別で見ると「よくわかる」の割合は男子が女子に比べて9.8ポイント(28.2%>18.4%)高く、「どちらかというわからない」と「わからない」と答えた生徒は男子15.6%、女子19.9%と、女子の方が4.3ポイント高く、5人にひとりである。

考察：

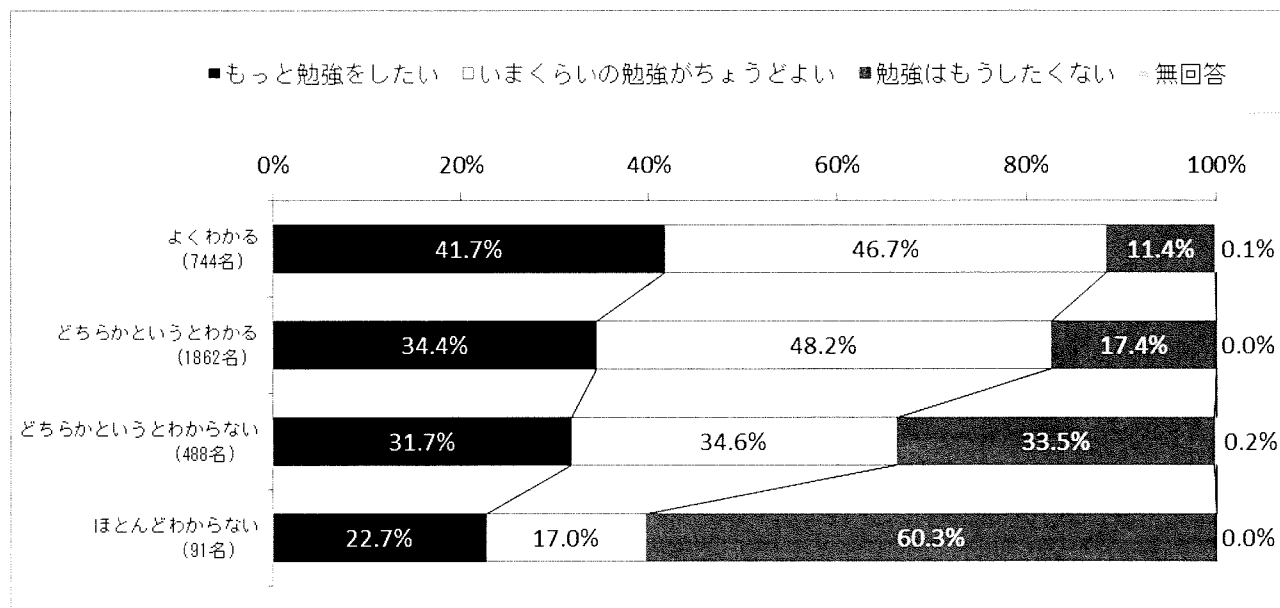
前回の調査に比べ、「よくわかる」は、5.8ポイント増加した(17.6%→23.4%)。また「わからない(どちらかというわからない+ほとんどわからない)」は4.8ポイント減少した(23.1%→18.2%)。

学習指導要領の改訂による授業内容や指導方法の変化、また家庭学習の時間の変化がどう「学習の理解度」に影響しているのか興味深い。

性別について、「その他」と答えた生徒では、「わかる(よくわかる+どちらかというよくわかる)」を選んだ生徒の割合が、あわせて56.1%、「わからない(どちらかというわからない+ほとんどわからない)」で42.1%であり、「全体」「男子」「女子」と比べて、好ましくない反応が大きくなっている。人数が57名と少ないので、過大に扱わないよう注意が必要だが、4割近い生徒が「わからない」と回答していることに注目しておきたい。

(2) 「2. 勉強の理解度」と「4. 勉強の意欲」とのクロス集計

「2. 学校での勉強がよくわかりますか?」と「4. もっと、たくさん勉強したいと思いますか?」



集計結果：

- ① 勉強が「よくわかる」と答えた生徒のほぼ4割 (41.7%) が「もっと勉強したい」と答えている。
- ② 「勉強の理解度」が下がるほど、「もっと勉強したい」と答えた生徒の割合は減少し、「もうしたくない」と答えた生徒の割合は、6割 (60.3%) になる。
- ③ 勉強が「よくわかる」と答えた生徒のうち、1割 (11.4%) が「勉強はもうしたくない」と答えている。

考察：

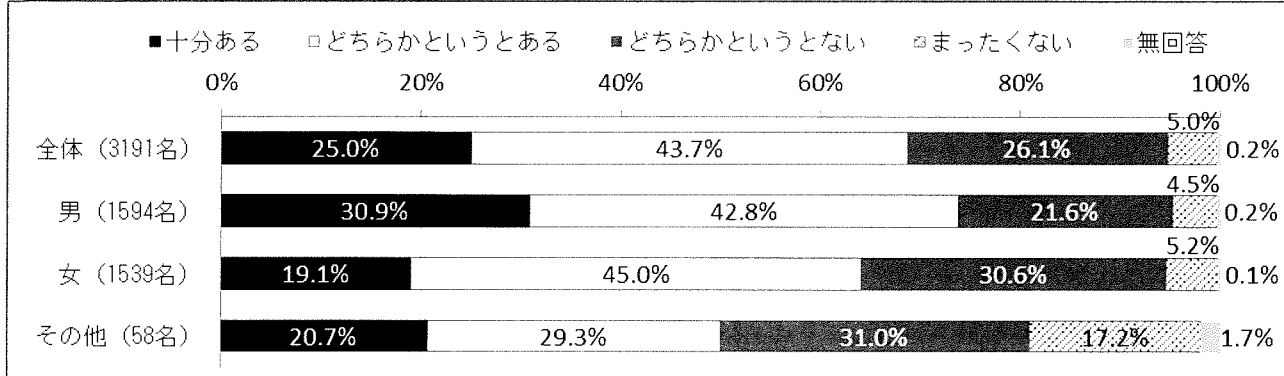
「勉強の理解度」が高いほど、「もっと勉強したい」と答えた生徒の割合は多い。

しかし、「よくわかる」と答えた生徒のうち、1割が「もうしたくない」と答え、「どちらかというわからない」と答えた生徒では3割、「ほとんどわからない」と答えた生徒では6割が「もうしたくない」と答えている。「どちらかというわからない」と答えた生徒の割合は、「どちらかというわかる」と答えた生徒の数値より、大きく伸びる。このことは、「わからない」場面を経験することが、意欲が下がる要因になることを示唆している。別の視点に立てば、勉強がわかるから、勉強したいと思う生徒が多いことも示していると考えられる。

3. 学校の勉強についていく自信

(1) 2021年の調査結果及び考察

項目3：学校の勉強についていく自信がありますか？ どれか一つに○をつけてください。



調査結果：

- ① 自信が「十分ある(25.0%)」と「どちらかというところ(43.7%)」を合計すると約7割(68.7%)の生徒が「自信がある」と答えている。
- ② 「自信がない(どちらかというところない+まったくない)」と答えた生徒の割合は31.1%(26.1%+5.0%)である。
- ③ 男女別に見ると、「十分ある」と答えた生徒の割合は、男子の方が11.8ポイント高い(30.9%>19.1%)。一方「どちらかというところない」と答えた生徒は、女子の方が30.6%と3人にひとりとなり、男子(21.6%)より9ポイント高い。

考察：

自信があると答えた生徒の割合は約7割弱、自信がないと答えた生徒の割合は約3割強で、ほぼ3人にひとり自信がないと答えている。

前回の調査に比べて、男女とも「十分ある」が男子(27.6%→30.9%)、女子(13.0%→19.1%)と増加し、特に女子は6.1ポイント増えている。

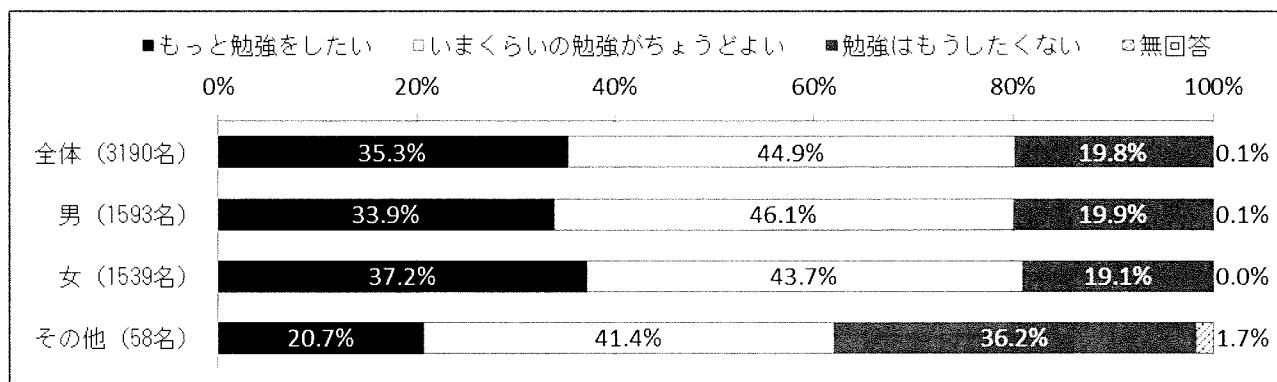
その要因として、項目1の「勉強時間の増加」、項目2の「理解度の増加」が「自信」につながったと考えられる。また学習指導要領の改訂により、知識量を問われるのではなく、「どう活用するのか」など答えが多様になったことや「何がわかったのか」など振り返りの時間が確保されるようになったことから、「できた」「わかった」と感じ、自信につながったと推測される。

この項目は、項目2の「学校での勉強がよくわかりますか？」の設問と同じように男女の違いが表れている。これまでの調査では、思春期の女子に謙遜傾向が見られるのではないかと推測されてきたが、今回、新設項目(p.77)を設けたので、お読みいただきたい。

4. 勉強の意欲

(1) 2021年の調査結果及び考察

項目4：もっと、たくさん勉強したいと思いますか？ どれか一つに○をつけてください。



調査結果：

- ① 「いまくらいの勉強がちょうどよい」と答えた生徒の割合は 44.9%で最も高く、次いで「もっと勉強をしたい」と答えた生徒が 35.3%で、「勉強はもうしたくない」と答えた生徒はほぼ 5 人にひとり (19.8%) である。
- ② 「勉強はもうしたくない」と答えた生徒の割合に、男女差はみられない。
- ③ 「もっと勉強をしたい」と答えた生徒の割合は、女子の方が男子より 3.3 ポイント高い(33.9%<37.2%)。
- ④ 性別について「その他」と答えた生徒では、「もうしたくない」を選んだ生徒の割合が 36.2%で、「男子」(19.9%)、「女子」(19.1%) に比べて、約 17 ポイント高い。

考察：

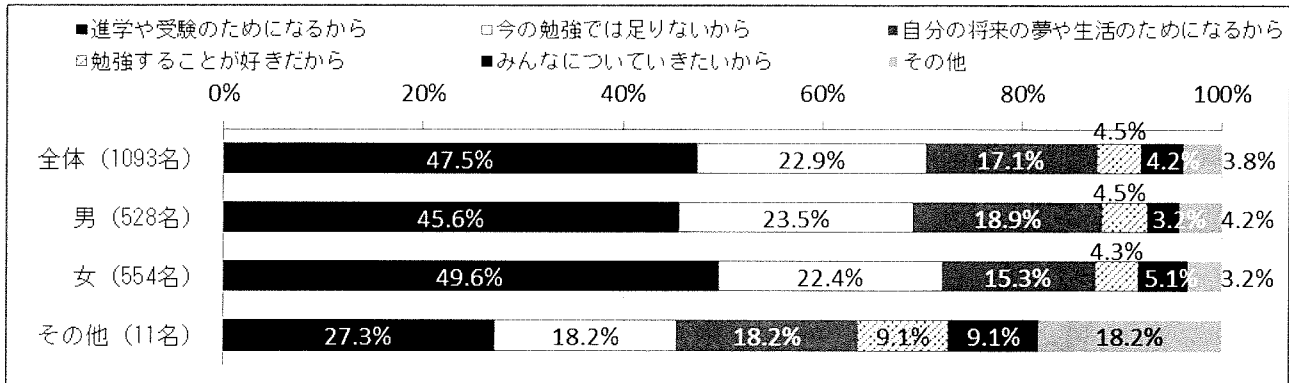
前回の調査に比べて、「もっとしたい」と答えた生徒の割合が全体で 4 ポイント増 (31.3%→35.3%)、男子 2.9 ポイント増 (31.0%→33.9%)、女子 5.6 ポイント増 (31.6%→37.2%) とすべて増加し、特に女子では増加幅が大きい。項目 1 の勉強時間の増加、項目 2 の理解が十分できているとした女子生徒の割合が増加したことが影響したのではないかと推定される。

一方、「もうしたくない」と答えた生徒は、前回より 6.5 ポイント減少 (26.3%→19.8%) したが、5 人にひとりの生徒がいることに留意し、一人ひとりの生徒が興味・関心をもって取り組める授業の工夫が求められている。

「いまくらいの勉強がちょうどよい」とした生徒は 2.7 ポイント (42.2%→44.9%) と増えている。「学校での勉強」について、「自分のペースで無理なく勉強すればいい」など、生徒の価値観が変わりつつあることが推定される。

4A. (1. もっと勉強をしたい と答えたみなさんへ)

どうしてこのように答えましたか、もっともあてはまる理由一つに○をつけてください。



調査結果：

① 「もっと勉強をしたい」と答えた生徒が、そう考えた理由として選んだ項目の割合が多いのは、

- 1位「進学や受験のためになるから」 47.5%
 - 2位「今の勉強では足りないから」 22.9%
 - 3位「自分の将来の夢や生活のためになるから」 17.1%
 - 4位「勉強することが好きだから」 4.5%
 - 5位「みんなについていきたいから」 4.2%
 - 6位「その他」 3.8%
- の順である。

② 「進学や受験のためになるから」で半数弱(47.5%)、上位3つで87.5%となり、ほぼ9割になる。

③ 男女差は全体として、あまり大きくないが、「進学や受験のためになるから」を選んだ生徒の割合が女子の方が4.0ポイント高く(45.6%<49.6%)、「自分の将来の夢や生活のためになる」を選んだ生徒の割合は男子の方が3.6ポイント高い(18.9%>15.3%)。

④ 「その他」に記述した42名の内容をみると、「学ぶことの意味」について肯定的にとらえた記述が19例あった。具体的には、「新しいことを知るのが楽しいから」「わかることが楽しくて自分のレベルをあげたい」「疑問に思うことを知りたいから」などである。

また、「生活するためには勉強は必要だと思うから」「自分が行きたい高校に行くには、今の学力じゃいけないから」など現実を意識したものが12例、その他「親に怒られない成績をとりたい」「勉強でほめてもらうとうれしいから」など褒められたいという気持ちについての記述(4例)、「勝ちたい」「人に抜かされたくない」など勉強することを競争ととらえ優位にたちたいという記述(4例)や「頭がいいともてそうだから」などもてたいという記述も3例あった。

考察：

「もっと勉強したい」と答えた生徒のほぼ半数がその理由に「進学や受験のためになるから」を選んでいる。前々回、前回、今回で比較すると全体(49.1%→56.0%→47.5%)、男子(51.0%→56.1%→45.6%)、女子(47.3%→55.9%→49.6%)といずれも前回より減少し、前々回の水準にもどった。男子の前回とのポイントが女子に比べて大きく減少している(10.5ポイント(56.1%→45.6%)>6.3ポイント(55.9%→49.6%))。女子の方が実利的に進学や受験を意識しているのかもしれない。

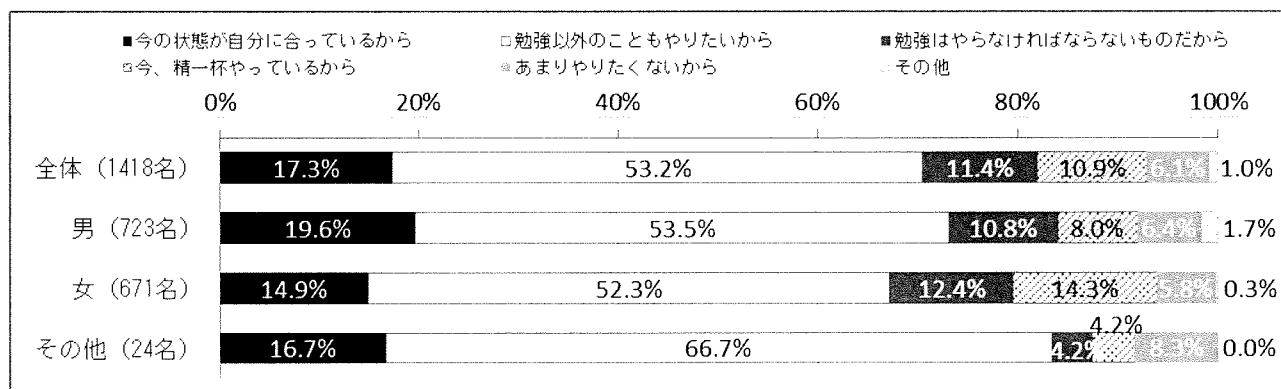
勉強する理由について、「今の勉強では足りないから」(18.3%→22.9%)「自分の将来の夢や生活のためになるから」(14.0%→17.1%)が増加し、「勉強することが好きだから」はほぼ同じ(3.6%→4.5%)だった。

今回、「その他」に書かれた自由記述の内容42名分をみると、前回に比べ、「学ぶことの意味」について、自分の気持ちとは別に、「やらなければならないもの」としてとらえるのではなく、「新しいことを知りたい」「ただ高校受験をめざすためだけでなく、これからの将来についての希望」など、肯定的な記述が増加した。この調査は、記述内容の検討を意図するものではないので、細かな分析は行わないが、内容の変化が読み取れる。

コロナ禍で、学校が休校になり登校できなかったり、また学校が再開しても、さまざまな不自由な状況を経験する中で、勉強することの意味を考えたり、自分の将来の夢や生活を思い描いたり、目の前の進学や受験だけでなく、勉強の本質や将来のことを見据えている生徒が増えてきたのではないだろうか。

4B. (2. いまくらいの勉強がちょうどよい と答えたみなさんへ)

どうしてこのように答えましたか、もっともあてはまる理由一つに○をつけてください。



調査結果：

① 「いまくらいの勉強がちょうどよい」と答えた生徒が、そう考えた理由として選んだ項目の割合が多いのは、

- 1位「勉強以外のこともやりたいから (53.2%)」
 - 2位「今の状態が自分に合っているから (17.3%)」
 - 3位「勉強はやらなければならないものだから (11.4%)」
 - 4位「今、精一杯やっているから (10.9%)」
 - 5位「あまりやりたくないから (6.1%)」
 - 6位「その他 (1.0%)」
- の順である。

② 「勉強以外のことをやりたいから」を選んだ生徒の割合に男女の差(53.5%≒52.3%)はみられないが、「今の状態が自分に合っているから」を選んだ生徒の割合は、男子が女子に比べて4.7ポイント(19.6%>14.9%)高く、「今、精一杯やっているから」を選んだ生徒の割合は、女子が男子に比べて6.3ポイント高い(8.0%<14.3%)。

③ 「その他」自由記述(19名分)をみると、「勉強だけでなく、いろんなことに挑戦したい」「他にやりたいことがあるから」など勉強以外のことを優先したいといった記述(5例)、「これ以上多くすると部活と勉強の両立ができない」「スポーツ選手に成りたいから、勉強は少しでいい」といった「勉強」とのバランスを意識した内容も4例あった。また「楽しい、これくらいが」など、自分のライフスタイルの中での位置を考えた記述もみられた。

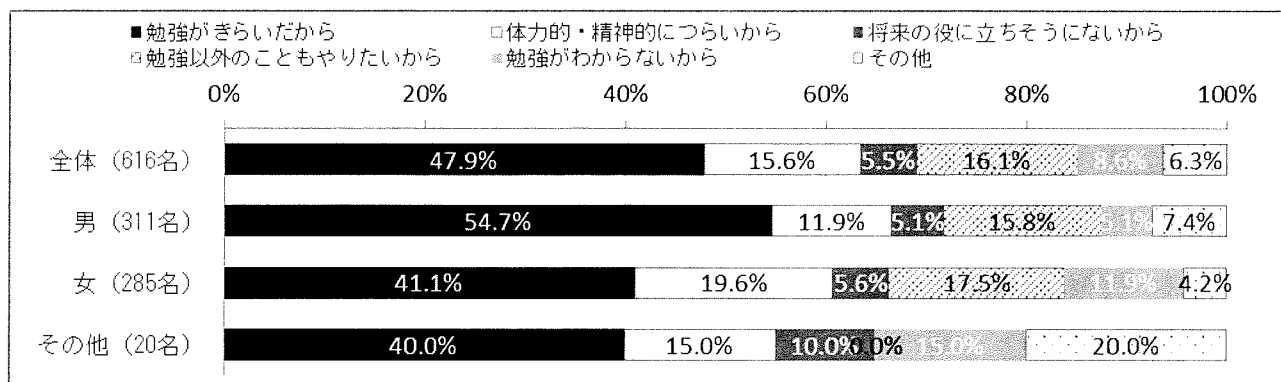
考察：

勉強を「やらなければならないものだから」と受け止めている生徒がほぼ10人にひとりいるものの、ほぼ半数の生徒が「勉強以外のこともやりたいから」と答え、前回の調査に比べ、2.7ポイント増加(50.5%→53.2%)している。この結果から、勉強以外の習い事や趣味などと「勉強」とのバランスを意識していることがわかる。自由記述にもみられるように、オリンピックが通信制高校に在籍し、その活躍がマスコミで報道されることも、「学校で学ぶことを最優先すべき」といった今までの風潮から、「勉強以外」に生活の中心をおきたいとする「個人の選択」を大切にしたい考え方を許容する方向へと影響しているのかも知れない。

また女子は、男子に比べ、「今、精一杯やっているから」と答えた割合が6.3ポイント多く、このことは、「学校の勉強で、わたしは精一杯もうやっている」と考える生徒が、自身の今の学校生活にある程度満足しているとも考えられる。

4C. (3. 勉強はもうしたくない と答えたみなさんへ)

どうしてこのように答えましたか、もっともあてはまる理由一つに○をつけてください。



調査結果：

① 「勉強はもうしたくない」と答えた生徒が、そう考えた理由として選んだ項目の割合が多いのは、

- 1位「勉強がきらいだから」 47.9%
 - 2位「勉強以外のこともやりたいから」 16.1%
 - 3位「体力的・精神的につらいから」 15.6%
 - 4位「勉強がわからないから」 8.6%
 - 5位「その他」 6.3%
 - 6位「将来の役に立ちそうにないから」 5.5%
- の順である。

② 勉強をもうしたくないと答えた生徒のうち、「勉強がきらいだから」と答える生徒が男子は半数以上(54.7%)である。

③ 男女差をみると、男子は「勉強がきらいだから」が女子と比べて13.6ポイント高い(54.7%>41.1%)。

女子は、男子と比べて「体力的・精神的につらいから」は7.7ポイント(11.9%<19.6%)高く、「勉強がわからないから」も6.8ポイント(5.1%<11.9%)高い。

④ 「その他」を選んだ生徒の自由記述(42名分)をみると、「めんどくさい(7)」「むずかしい(5)」「つまらない(2)」「意味がない(1)」といった勉強についての否定的な感覚が15名、また、「強制的にさせられている勉強が面白い・楽しいと感じない」「やらなければいけないという強制から自分のこれからは束縛され不自由さを感じるから」といった「させられる勉強への息苦しき」を記述する生徒もいた。また「努力しても点数につながらないから」「追いつけないから」と思っているが、よい成績に結びつかないので疲れたとの意見や「つまらない」「大人はやっていないことを子どもだけに新しいことをどんどん求めてきているから」との記述もあった。

一方、「スポーツに今は専念しているから」「プロに

なるから勉強の時間がない」「将来の夢のことにすべてを捧げたいから」など他のことをやりたいとしたものが7名いた。

考察：

前回の調査に比べ「勉強がきらいだから」(50.1%→47.9%)、「将来の役に立ちそうにないから」(7.4%→5.5%)を選んだ生徒の割合は、わずかだが減少した。授業の工夫、また生徒との関係など学校の工夫の成果かもしれない。

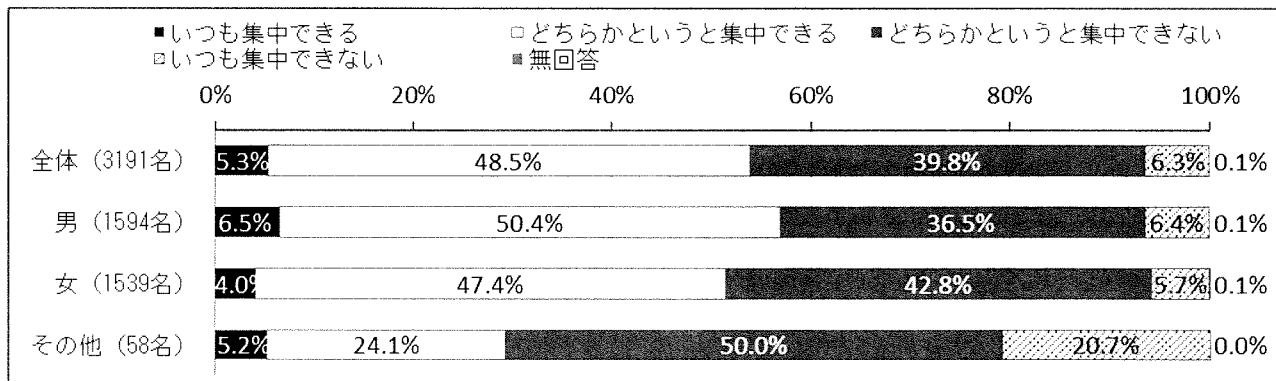
しかし、前回の調査と比べ、少し減少したものの、依然として「勉強はもうしたくない」と答えた生徒(今回の調査対象全体の19.8%(632名/3190名)(p.24))の、半数弱はその理由を「勉強がきらいだから」(47.9%)と答えている。つまり、全体の約9.5%(302人/3190人)の生徒は、「勉強がきらいだから」、「もう勉強はしたくない」と考えているということになる。この1割近い生徒への対策を検討する必要がある。特に、「勉強がきらいだから」を選んだ生徒の割合は、男子が女子より大変多く(13.6ポイント)、前回と比較すると、女子が4.5ポイント(45.6%→41.1%)減ったが、男子はほぼ同じだった(53.8%→54.7%)。特に「男子」と「その他」への働きかけが求められる。

また今回、「体力的・精神的につらいから」を選んだ生徒の割合が3.8ポイント増加(11.8%→15.6%)し、特に女子の割合が男子より7.7ポイント高く、前回の調査と比べても7.5ポイント(12.1%→19.6%)増加した。コロナ禍で運動の機会が減り、体力が落ちているのかもしれない。また女子は、「項目15 勉強のイメージ」で「受験のための準備」を8割(79.1%)の生徒が選んでいることから女子の方が、受験のプレッシャーを強く感じているのかもしれない(p.58)。

5. 勉強への集中度

(1) 2021年の調査結果及び考察

項目5：勉強になかなか集中できないことがありますか？ どれか一つに○をつけてください。



調査結果：

- ① 「勉強になかなか集中できないことがあるか」を聞いたところ、「集中できる(いつも集中できる(5.3%)+どちらかという集中できる(48.5%))と答えた生徒の割合は53.8%、「集中できない(いつも集中できない(6.3%)+どちらかという集中できない(39.8%))」が46.1%と、わずかに「集中できる」が多く、「いつも集中できる」と答えた生徒の割合は5.3%だった。
- ② 両極端について、男女別にみると、「いつも集中できる」と答えた生徒の割合(6.5%>4.0%)と「いつも集中できない」と答えた割合(6.4%≒5.7%)はそれほど大きな差はない。
- ③ 性別を「その他」とした生徒は、「いつも集中できない(20.7%)」と「どちらかという集中できない(50.0%)」合わせると7割を超える。

考察：

今回、「集中できる」と答えた生徒の割合は53.8%、「集中できない」と答えた生徒の割合は46.1%と、「集中できる」が7.7ポイント多い。前回は「集中できる(48.8%=5.1%+43.7%)」、「集中できない(51.0%=43.0%+8.0%)」とほぼ半々だったため、わずかだが、「集中できる」と答えた生徒が増えたといえる。

「いつも集中できる」と答えた生徒の割合は前回とほぼ同じ(5.1%→5.3%)だったが、「いつも集中できない」と答えた生徒の割合は、女子はほぼ同じ(5.8%→5.7%)だったのに対し、男子は3.6ポイント(10.0%→6.4%)減少した。このことは、男子の方が「集中できない」生徒が減少したことを示している。

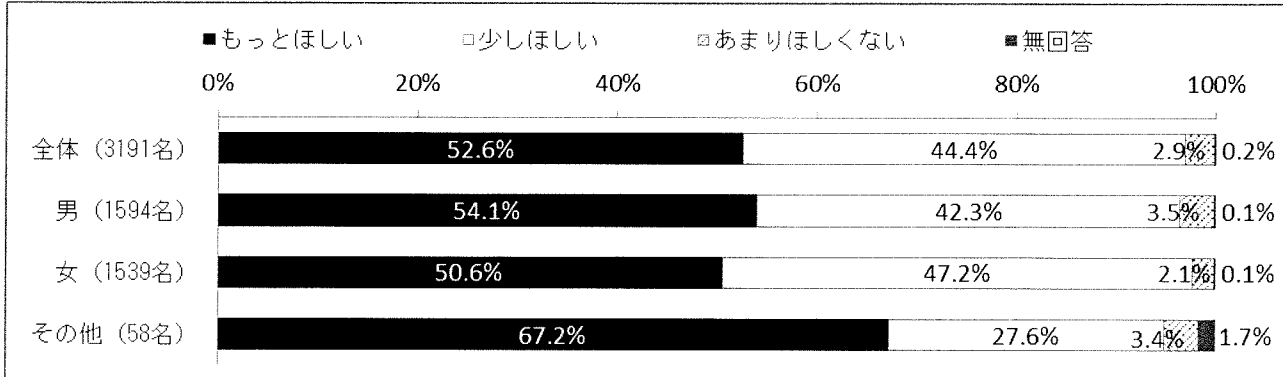
黒板の前に多くの掲示物を貼らないこと、本時のねらいを板書しておくなど、ユニバーサルデザインを意識した教室の環境整備が進められてきたことも影響しているかもしれない。

しかし、「集中できない」と答えた生徒が、ほぼ半数(46%)いることを忘れてはならない。生徒の周りには、勉強以外に興味をそそるものがあることが考えられる。SNSに関する新設項目についての結果(p.63)も参照いただきたい。

6. 勉強以外の自由時間に対する願望

(1) 2021年の調査結果及び考察

項目6：勉強以外の自由時間がほしいと思いますか？ どれか一つに○をつけてください。



調査結果：

- ① 「勉強以外の自由時間がほしいか」聞いたところ、「もっとほしい」と答えた生徒の割合が半数（52.6%）を占め、「少しほしい（44.4%）」と合わせると97%を占める。「ほしくない（2.9%）」はごく少数である。
- ② 「もっとほしい」と答えた生徒の割合を、男女で比べると、男子は女子より3.5ポイント（54.1%＞50.6%）多い。
- ③ 性別を「その他」を選んだ生徒は、「もっとほしい」と答えた生徒の割合が7割（67.2%）と多い。

考察：

前回に比べ、「もっとほしい」と答えた生徒の割合は4.4ポイント減少（57.0%→52.6%）し、男女別も男子が3.9ポイント（58.0%→54.1%）、女子も5.2ポイント（55.8%→50.6%）と、ともに減少した。特に女子の減少幅が大きかった（3.9ポイント＜5.2ポイント）。

ほとんどの生徒が「勉強以外の自由な時間がほしい」と答えているが、今回「もっとほしい」と答えた生徒の割合が減り、「自由への願望」が少し減少したといえる。

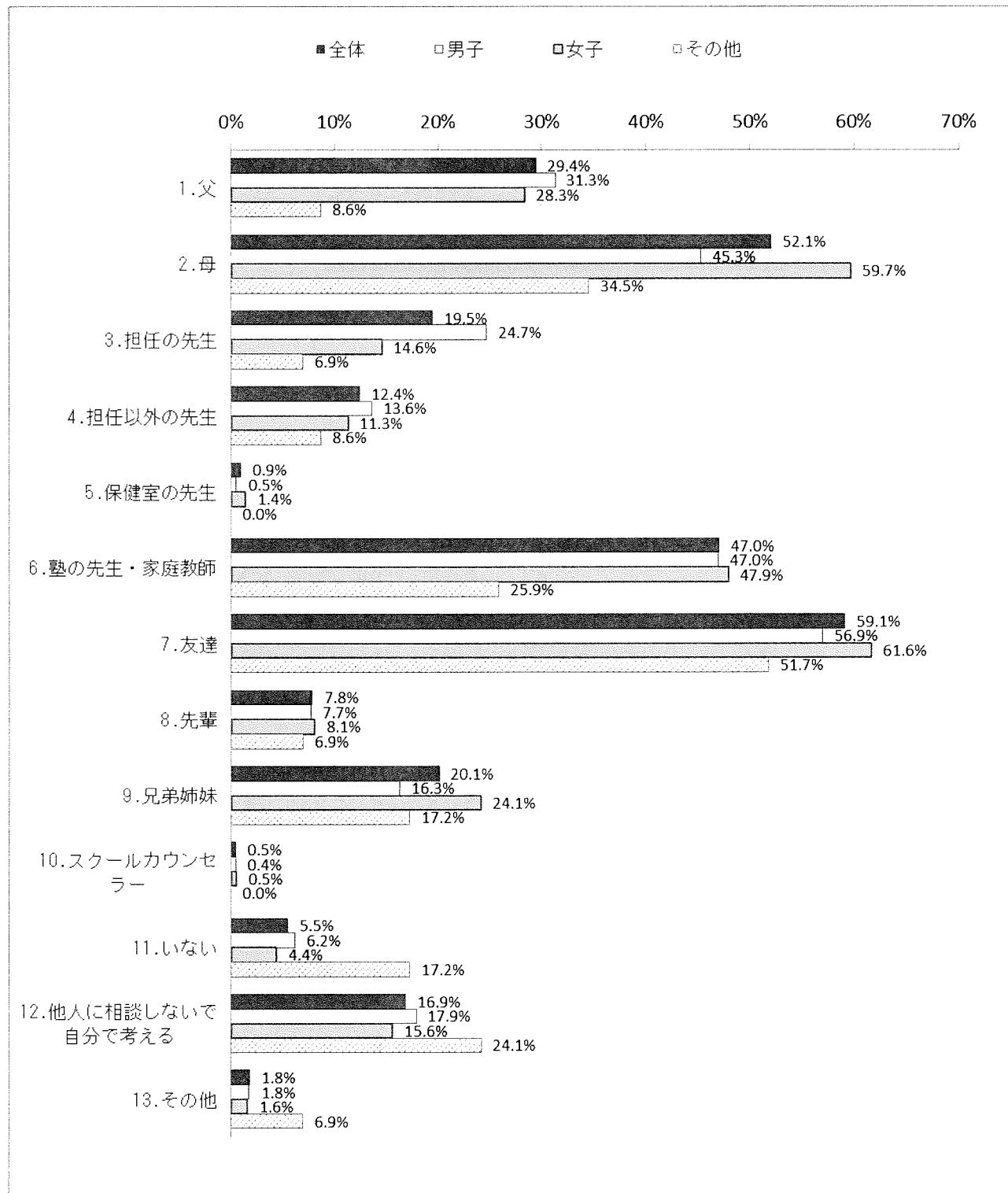
コロナ禍で、授業時数や部活動の機会が減り、自分で自由に考えて過ごすことが今までより増え、ゆとりをもって時間を過ごせていたことが影響しているのかもしれない。

また、「自由時間がほしい」と答えた生徒について、その理由は何だろうか。今回の調査では、その内容まで聞いていないのでわからないが、やりたいことがあるとすればどんなことなのか、あるいはただ漠然と思っているだけなのか、気になるところである。

7. 勉強に関する悩み事の相談相手

(1) 2021年の調査結果及び考察

項目7：あなたが勉強に関する悩み事を相談する相手に○をつけてください。 ○はいくつつけてもかまいません。



調査結果：

① 「勉強に関する悩み事の相談相手」について、選択した生徒の割合は、

- 1位「7. 友達」 59.1%
- 2位「2. 母」 52.1%
- 3位「4. 塾の先生・家庭教師」 47.0%
- 4位「1. 父」 29.4%
- 5位「9. 兄弟姉妹」 20.1%
- 6位「3. 担任の先生」 19.5%
- 7位「12. 他人に相談しないで自分で考える」
16.9%
- 8位「4. 担任以外の先生」 12.4%
- 9位「8. 先輩」 7.8%
- 10位「11. いない」 5.5%
- 11位「13. その他」 1.8%
- 12位「5. 保健室の先生」 0.9%
- 13位「10. スクールカウンセラー」 0.5%

の順である。

② 男女差についてみると、女子が男子より多いものは、「2. 母」が14.4ポイント(45.3%<59.7%)、「9 兄弟姉妹」が7.8ポイント(16.3%<24.1%)、「7. 友達」が4.7ポイント(56.9%<61.6%)。また男子が女子より多いものは、「3. 担任の先生」が10.1ポイント(24.7%>14.6%)、「1. 父」が3.0ポイント(31.3%>28.3%)、「4. 担任以外の先生」が2.3ポイント(13.6%>11.3%)、「12. 他人に相談しないで自分で考える」が2.3ポイント(17.9%>15.6%)であった。男女の割合にほとんど差がないのは、「6. 塾の先生・家庭教師(47.0%≒47.9%)」、「8. 先輩(7.7%≒8.1%)」、「5. 保健室の先生(0.5%≒1.4%)」、「10. スクールカウンセラー(0.4%≒0.5%)」だった。

③ 「12. 相談しないで自分で考える」と答えた男子の生徒の割合は17.9%、「11. いない」は6.2%で、どちらも女子より若干多い。

④ 性別で「その他」と答えた生徒は、全体と比べて「2. 母(全体52.1%>その他34.5%)」、「1. 父(全体29.4%>その他8.6%)」、「3. 担任の先生(全体19.5%>その他6.9%)」と低く、「12. 他人に相談しないで自分で考える(全体16.9%<その他24.1%)」、「11. いない(全体5.5%<その他17.2%)」が高い。

⑤ 相談相手の選択肢で「13. その他」を選んだ生徒の自由記述65名分の内容をみると、「先輩」「彼女」など(10名)、「ネットで調べる(ネットの友達も含む)」など道具を使って調べる(10名)、「祖父」「祖母」「いと

こ」など親戚(9名)、「サッカーなどのコーチ」など学校外の指導者(9名)、「家族」(3名)、「信頼できるひと」(3名)、その他「悩み事がない」(8名)、「相談しない」(5名)、「自分」(2名)などであった。

考察：

勉強に関する悩み事の相談相手として、「友達」が6割、ついで「母」、「塾の先生・家庭教師」の順で、ほぼ半数がそれに近い生徒が選んでいる。前回に比べて、「父」が6.5ポイント(22.9%→29.4%)、「母」が4.5ポイント(47.6%→52.1%)、「兄弟姉妹」が3.6ポイント増加(16.5%→20.1%)し、「塾の先生・家庭教師」が2.7ポイント減少(49.7%→47.0%)した。その理由として、コロナ禍における休校や分散登校、「学習塾」の休講、またテレワークなどで「家族」と家庭で過ごす時間が多かったためではないかと推測される。

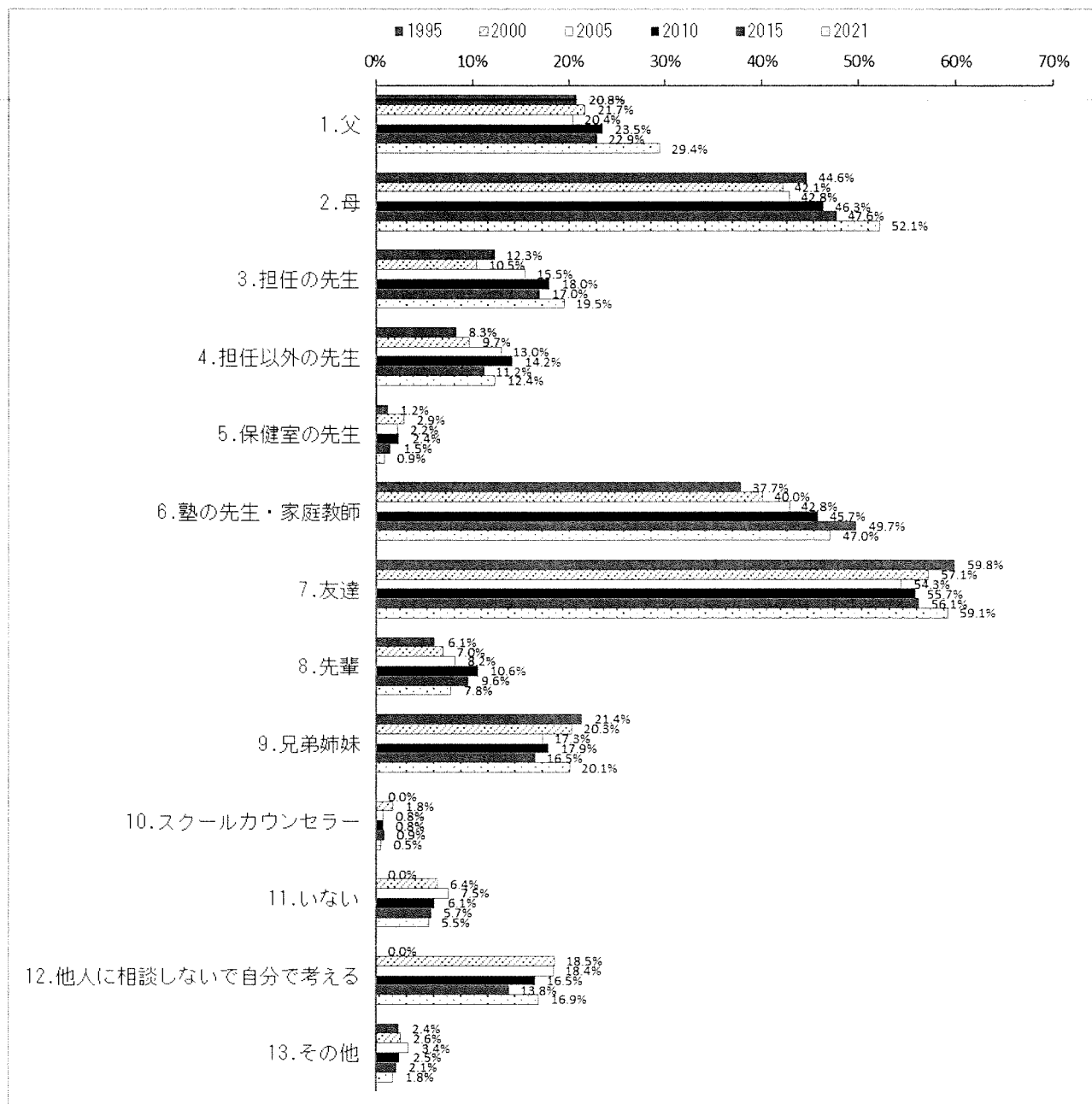
男女を比較すると、「塾の先生・家庭教師」はほとんど同じだが、女子は「母」「兄弟姉妹」など「家族」に、男子は家族より、「学校の先生」に相談する傾向がみられる。

前回に比べて、「父」や「母」の割合がさらに増えたが、家庭環境等で「相談できない」生徒への何かしらの配慮が必要であることが改めて鮮明になった。また「保健室の先生」「スクールカウンセラー」については、今回も極めて低い数値となっているが、生徒が「勉強に関する悩み事」の相談相手と認知していない可能性も考えられる。

自由記述では、「先輩」など学校関係の友人、「祖父母」、「いとこ」などの親戚、「コーチ」、「習い事の先生」など学校外での習い事で知っている大人を答えた生徒が多くみられた。友達とは別に「身近な大人」に相談していることが推測される。一方「ネットで調べる」などインターネットを使って情報を集めている生徒もいることから、相談相手は顔見知りでなくても、ネット上の会えない(または会わない)ひとを選ぶ生徒がいることが考えられる。

性別を「その他」と答えた生徒については、「(相談相手が)いない」が17.2%、「自分で考える」が4人にひとり(24.1%)と他に比べて多いことが気になる。何か配慮が必要なのかもしれない。

(2) 1995年からの時系列比較及び考察



比較結果：

- ① 勉強に関する悩み事の相談相手として、「7. 友達」、「4. 塾の先生・家庭教師」、「2. 母」の上位3項目は、1995年から変わらないが、1995年から増加してきた「4. 塾の先生・家庭教師」が前回と比べ2.7ポイント減少(49.7%→47.0%)し、「1. 父 (29.4%)」、「2. 母 (52.1%)」が過去最高になった。
- ② 「5. 保健室の先生」はわずかだが減少傾向が続いており「10. スクールカウンセラー」は少ないままである。

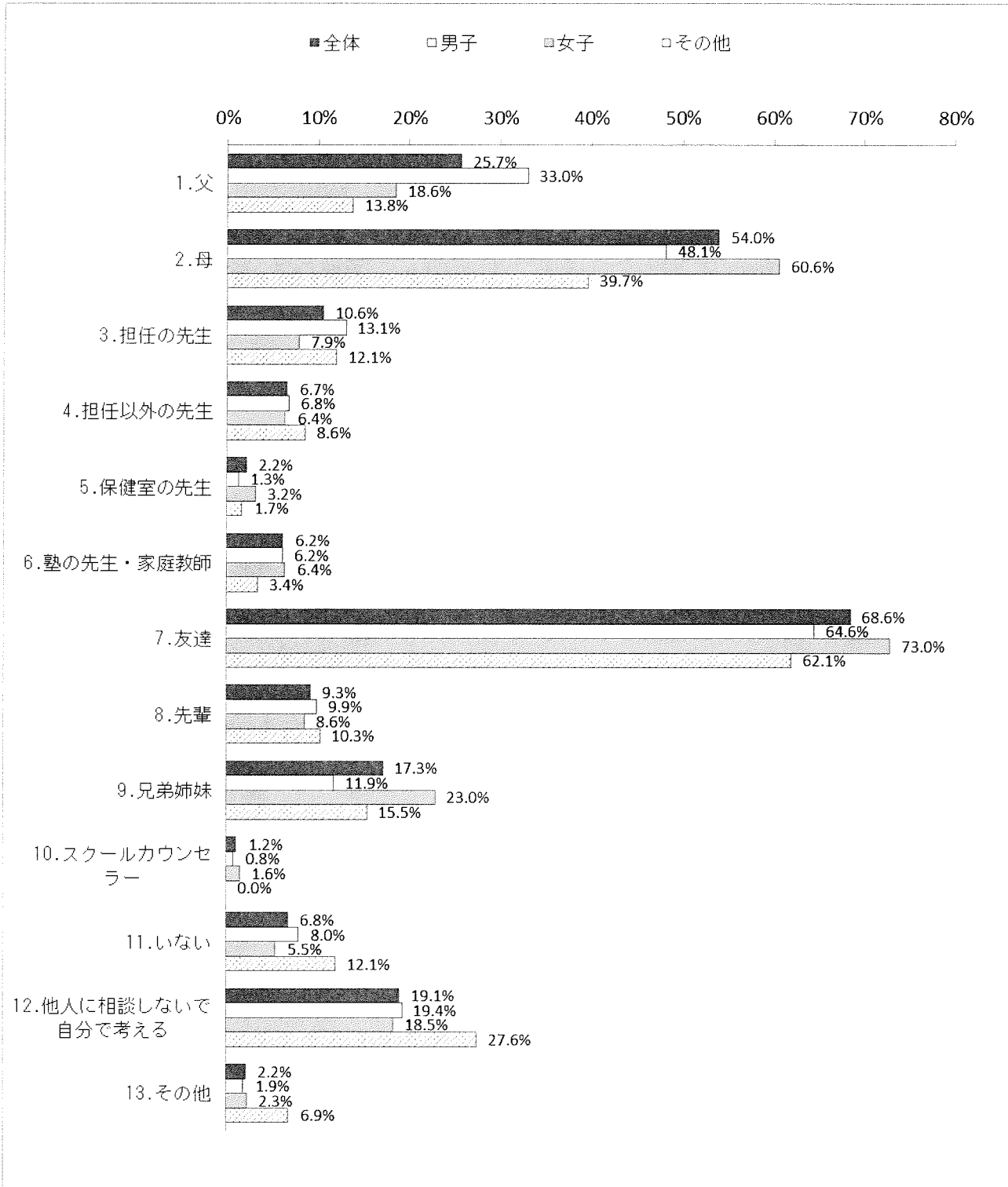
考察：

「友達」の割合が1995年より一番多く、今回も6割を示し、前回と比べ「父」、「母」、「兄弟姉妹」と家族を選んだ生徒が増えた。その一方、1995年の調査開始から増加し続けてきた「塾の先生・家庭教師」がはじめて減少した。コロナ禍で、リモートワークなど保護者が家庭にいたことが多く話す機会がもてたこと、学習塾では、対面で会う機会が減ったために直接相談できる機会が減ったことなどが要因として考えられる。

8. 勉強以外の悩み事の相談相手

(1) 2021年の調査結果及び考察

項目8：あなたが勉強以外の悩み事を相談する相手に○をつけてください。 ○はいくつつけてもかまいません。



調査結果：

① 「勉強以外の悩み事の相談相手」について、生徒が選択した割合は、

- 1位「7. 友達」 68.6%
- 2位「2. 母」 54.0%
- 3位「1. 父」 25.7%
- 4位「12. 他人に相談しないで自分で考える」 19.1%
- 5位「9. 兄弟姉妹」 17.3%
- 6位「3. 担任の先生」 10.6%
- 7位「8. 先輩」 9.3% 8位「11. いない」 6.8%
- 9位「4. 担任以外の先生」 6.7%
- 10位「6. 塾の先生・家庭教師」 6.2%
- 11位「5. 保健室の先生」 2.2% 「13. その他」 2.2%
- 13位「10. スクールカウンセラー」 1.2% の順である。

② 男女別に選択した生徒の割合は、男子は「7. 友達 (64.6%)」、「2. 母 (48.1%)」、「1. 父 (33.0%)」、「12. 他人に相談しないで自分で考える (19.4%)」、「3. 担任の先生 (13.1%)」の順に多く、女子は「7. 友達 (73.0%)」、「2. 母 (60.6%)」、「9. 兄弟姉妹 (23.0%)」、「1. 父 (18.6%)」、「12. 他の人に相談しないで自分で考える (18.5%)」の順である。

③ 男女の割合を比較すると、女子の割合が男子の割合より多い順に、「2. 母」が12.5ポイント(48.1%<60.6%)、「9. 兄弟姉妹」が11.1ポイント(11.9%<23.0%)、「7. 友達」が8.4ポイント(64.6%<73.0%)で、男子の割合が女子の割合より多い順に、「1. 父」が14.4ポイント(33.0%>18.6%)、「3. 担任の先生」が5.2ポイント(13.1%>7.9%)である。

④ 男女が選んだ割合が変わらなかったのは、「12. 他人に相談しないで自分でできる (19.4%≒18.5%)」、「4. 担任以外の先生 (6.8%≒6.4%)」、「6. 塾の先生・家庭教師 (6.2%≒6.4%)」、「10. スクールカウンセラー (0.8%≒1.6%)」、「5. 保健室の先生 (1.3%≒3.2%)」だった。

⑤ 性別を「その他」とした生徒は、全体と比べて「2. 母」14.3ポイント(54.0%>39.7%)、「1. 父」11.9ポイント(25.7%>13.8%)、「7. 友達」6.5ポイント(68.6%>62.1%)と答えた割合がそれぞれ低い。

⑥ 相談相手の選択肢で「13. その他」を選んだ生徒の自由記述 82人分の内容をみると、「おばあちゃん」など親戚(15名)、「後輩」「彼女」など(11名)、「ネット」「LINE」(含む「ネットの友達」3名)など(9名)、「サッカーのコーチ」など(13名)、「信頼できるひと」(8名)、「相談できると思える相手がいない(2名)」、「ない(2名)」「自分(2名)」などである。

考察：

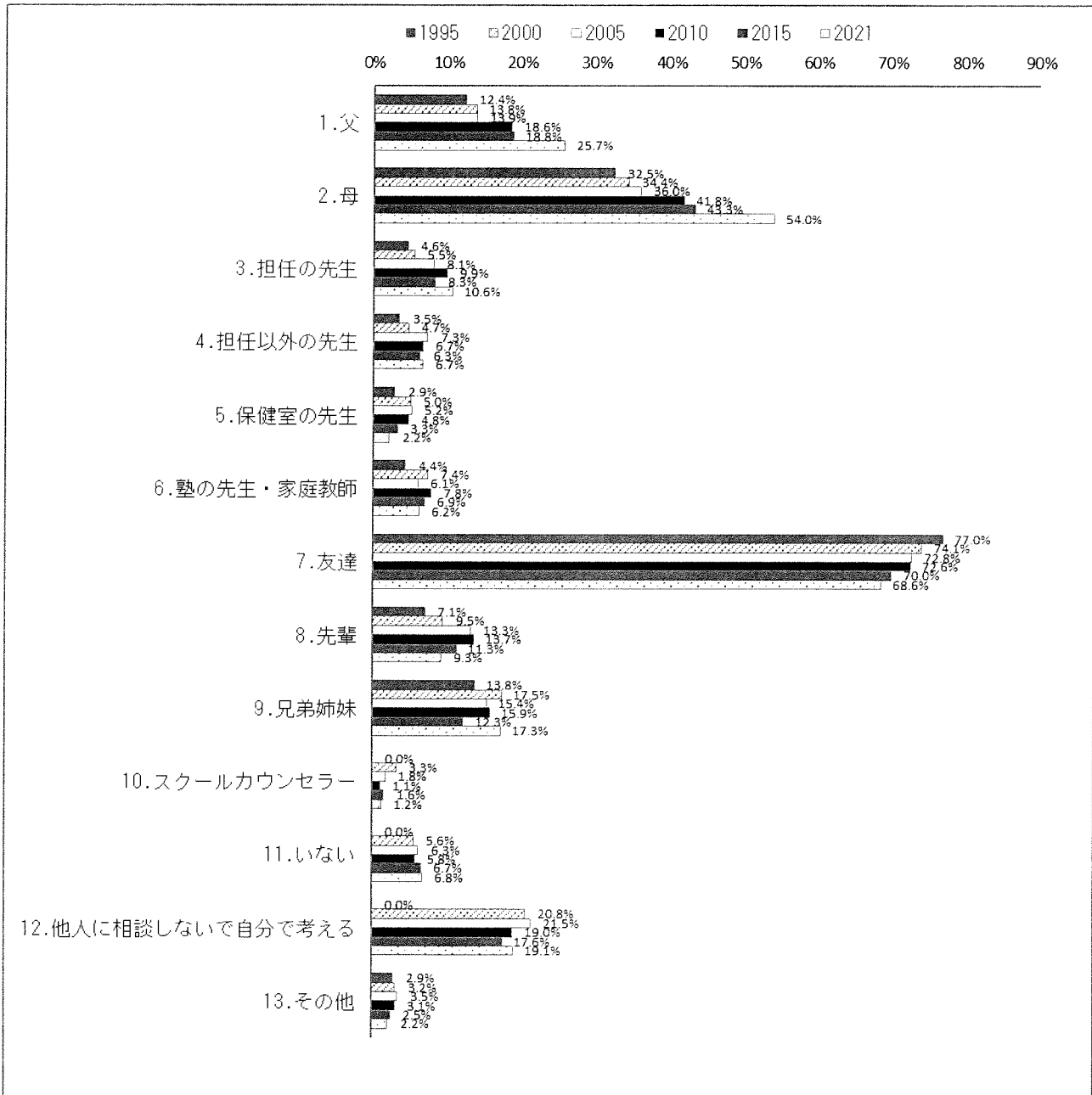
「勉強以外の悩み事の相談相手」として「友達」を選んだ女子の生徒の割合は前回より8.6ポイント(81.6%→73.0%)と減少したが、依然として7割の生徒が「友達(68.6%)」を選んでいる。「勉強に関する悩み事の相談相手」で多かった「塾の先生」は6.2%と少なく、前回に比べて、「父」は6.9ポイント(18.8%→25.7%)、「母」は10.7ポイント(43.3%→54.0%)と大きく増加した。また「父」と「母」を比べると、「母」を選んだ生徒の割合が圧倒的に多く(25.7%<54.0%)、「母」の方が相談しやすい相手といえる。また前回の調査では同性の保護者への相談が多い傾向がみられる(前回の報告書 p.39)としているが、今回も同じ傾向がみられた。「父」(33.0%>18.6%)と「母」(48.1%<60.6%)を比べると、同性の保護者への相談が多く、男子は「父」、女子は「母」への相談の割合が増えたことから、同性の保護者に相談しやすいことが今回も示された。

今回「父」が大きく増加したのは、これまで何度も述べてきたが、コロナ禍でテレワークなど仕事の関係で家庭にいる保護者が多かったために、共に過ごし相談する機会が多かったことが要因として考えられる。

また、相談相手が「いない」と回答した生徒は、数値としては小さい(6.8%)が、相談相手もなく、抱え込んでいる生徒がいることに配慮が求められる。

自由記述の内容をみると、「勉強以外の悩みの相談相手」として、「親戚」が多く、その中でも「おばあちゃん」が6名を占める。数が少ないので、想像の範囲を超えないが、「おばあちゃん」の役割が感じられるところである。また「勉強に関する悩み事の相談相手」と同じように「ネットの友達」や「インターネット上のサイト名」も登場する。身近であっても、顔の見えない存在の方が相談しやすい場合があるのかもしれない。

(2) 1995年からの時系列比較及び考察



比較結果：

- ① 勉強以外の悩み事の相談相手について、生徒が選ん上位3つは「7. 友達」、「2. 母」、「1. 父」で、この調査をはじめた1995年から変わらない。
- ② 1995年に77%と約8割を占めていた「7. 友達」は、年々減少し、「1. 父」、「2. 母」は、過去20年間一貫して増加傾向にある。特に、今回、前回と比べて「2. 母」10.7ポイント(43.3%→54.0%)、「1. 父」6.9ポイント(18.8%→25.7%)、「9. 兄弟姉妹」も5.0ポイント(12.3%→17.3%)増加した。
- ③ 「3. 担任の先生」(8.3%→10.6%)は若干増加した。

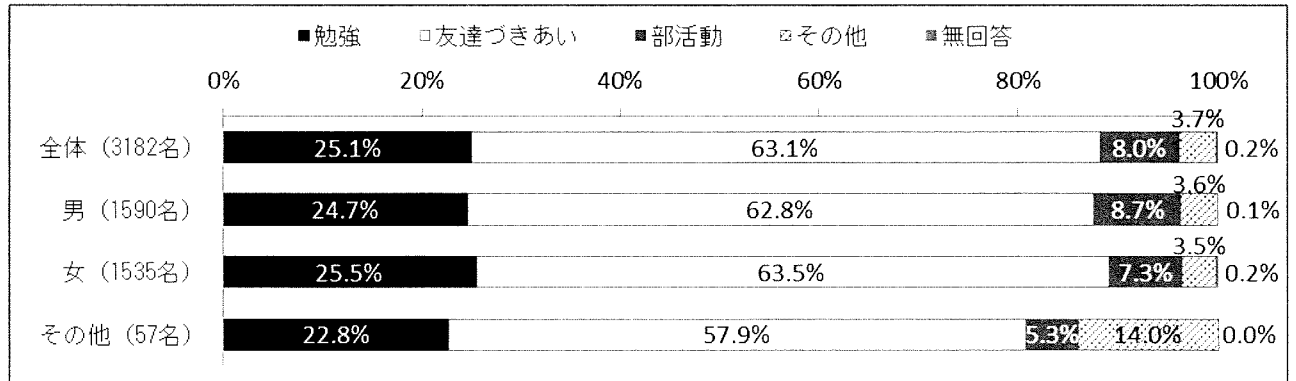
考察：

勉強以外の悩み事の相談相手として、「友達」が減少し、「父」と「母」が増える傾向がみられる。自分の悩み事を保護者に知られたくないという意識が以前より小さくなっていることも考えられる。また「友達」との関係が、個別間だけでなく、集団の中で複雑になり、面倒なものになり、相談することを躊躇する生徒がいる可能性も考えられる。一方「担任の先生」は、わずかだが増加傾向がみられる。担任の先生と話しやすい関係の生徒が増えてきているのかもしれない。

9. 学校の中で一番大切に思うもの

(1) 2021年の調査結果及び考察

項目9：学校の中で、一番大切に思うものは次のうちのどれですか？ どれか一つに○をつけてください。



調査結果：

- ① 「友達づきあい」が63.1%と6割を超え、続いて「勉強」が4人にひとり(25.1%)、「部活動」が8.0%、ついで「その他」3.7%である。
- ② 男女差はほとんどみられない。
- ③ 「その他」の自由記述は2名と少なかった。

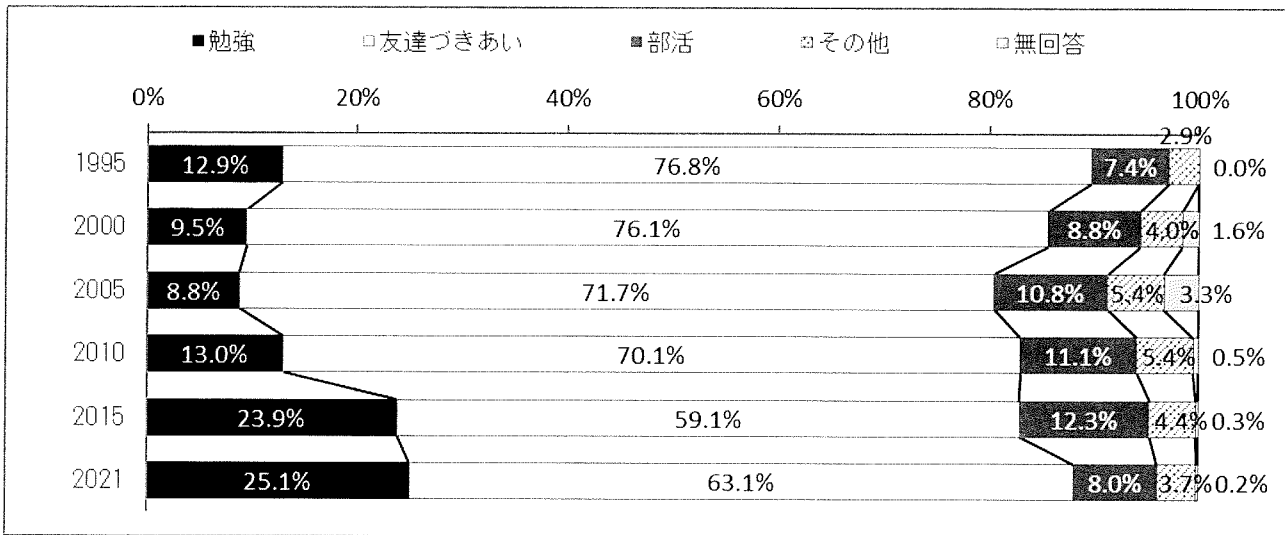
考察：

今回も「友達づきあい」を、6割を超える生徒が選んでいる。前回調査と比べ、「勉強」が1.2ポイント増(23.9%→25.1%)、「友達」が4.0ポイント増(59.1%→63.1%)、一方「部活動」は4.3ポイント減(12.3%→8.0%)だった。

部活動の減少は、コロナ禍の中で、対外試合の実施が制限されたこと、また教師の働き方改革の中で部活の練習時間が大きく削減されたことも影響したかもしれない。また、「項目10 学校以外での習い事」で「スポーツ」が増えたことから、学校以外で放課後スポーツを行う生徒が増えていることもうかがえる。

「友達づきあい」が、一番多いことは、前回の報告書(p.41)で指摘しているように「項目7.勉強に関する悩み事の相談相手」、「項目8.勉強以外の悩み事の相談相手」のどちらでも、1位が「友達」であることから、学校の中で一番大切に思うのが「友達づきあい」であると回答する生徒が6割いることもうなづける。「学校は勉強するところだ」といっても、一日をともに過ごす「友達が一番大切」と答えた生徒は、居心地のよい関係が築け、かけがえのない友人関係がもてているのか、それとも友達との関係が損なわれないよう気遣うことに注意しているのか、今現在の友達関係がどうなのか、本調査からはわからないが、学校での友達関係が大きな意味を持っていることは確かなようだ。

(2) 1995年からの時系列比較及び考察



比較結果：

- ① 「学校の中で一番大切に思うもの」として、「友達づきあい」、「勉強」、「部活」の順は、この調査を開始した1995年より変わらない。
- ② 「友達づきあい」は1995年には4分の3(76.8%)だったが、その後、わずかながら減少傾向を示し、今回63.1%と4ポイント(59.1%→63.1%)増加した。
- ③ 「勉強」は、1995年(12.9%)から2005年(8.8%)まで減少傾向にあったが、2010年(13.0%)より増加傾向に転じ、前回(23.9%)、さらに今回と増加した。
- ④ 「部活」は1995年の7.4%から、増加傾向がみられたが、今回、4.3ポイント(12.3%→8.0%)減少した。

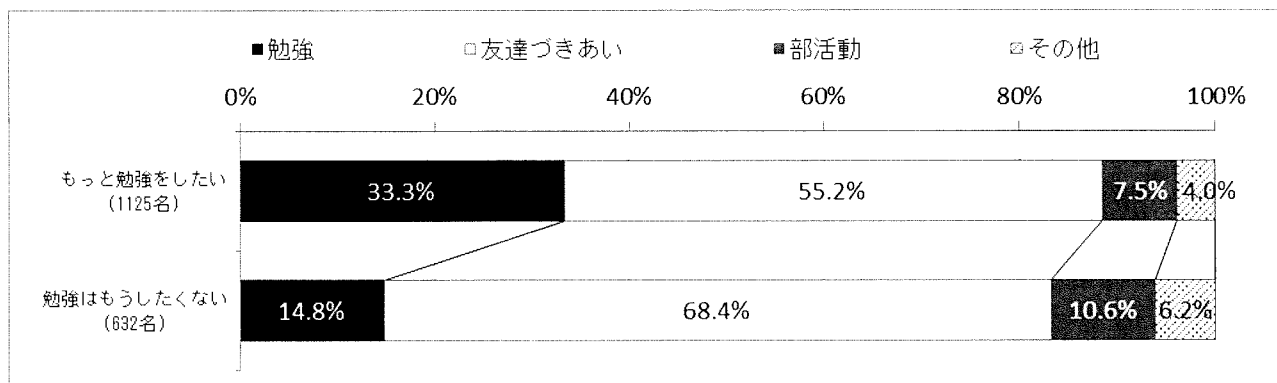
考察：

「学校になぜ通うのか。学校は勉強するところだ」が一番、わかりやすい言い方かもしれない。しかし、生徒が一番大切に思っていることは「友達づきあい」であり、この傾向は1995年から変わっていない。前回10ポイント減少した「友達づきあい」は4ポイント回復し、「勉強」が1.2ポイント微増、「部活」が4.3ポイント減少した。2010年と2015年を比べると、「勉強」が増えた分、「友達づきあい」が減り、今回は「部活動」が減った分、「友達づきあい」が増えたようにもみえる。

コロナ禍で「部活」がさまざまな制約を受け、機会が減ったこと、また登校しても、自由に友達と話すことも難しい中で、「友達づきあい」について意識も変わってきているのかもしれない。

(3) 「9. 大切に思うもの」と「4. 勉強の意欲」のクロス集計

「9. 学校の中で、一番大切に思うものは？」 と「4. もっと勉強したいか」



調査結果：

- ① 「勉強の意欲」と「学校の中で、一番大切に思うもの」のクロス集計をしたところ、「もっと勉強したい」と答えた生徒が選んだのは、「友達づきあい (55.2%)」、「勉強 (33.3%)」、「部活動 (7.5%)」の順である。
- ② また「勉強はもうしたくない」と答えた生徒は、「友達づきあい (68.4%)」、「勉強 (14.8%)」、「部活動 (10.6%)」を選んでいる。

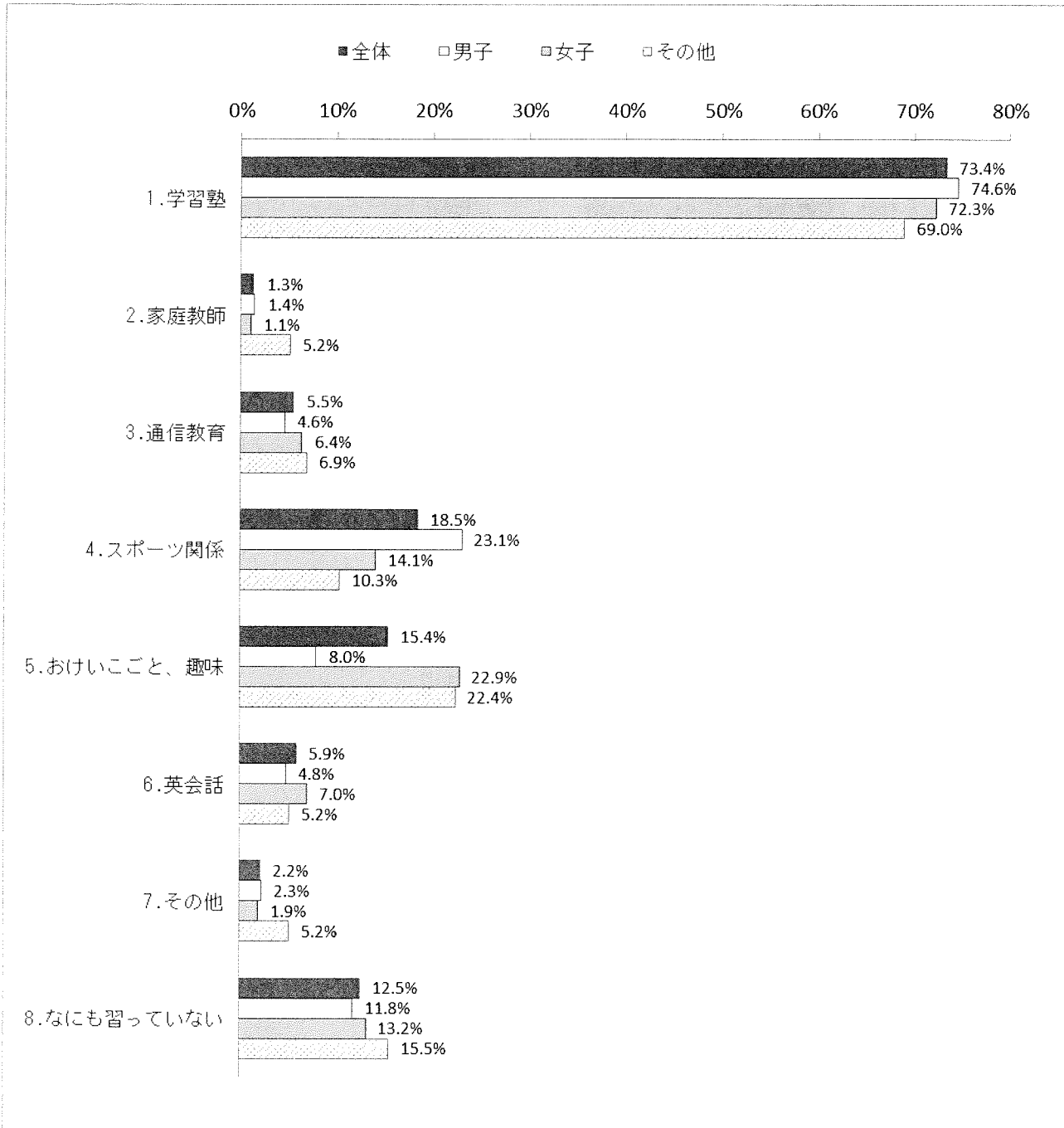
考察：

「学校の中で一番大切に思うもの」として、「勉強」を選んだ生徒の割合に注目すると、「もっと勉強したい」と答えた生徒のほうが「勉強」を選ぶ傾向が強く、「もう勉強はしたくない」と答えた生徒の2倍 (33.3% > 14.8%) を超える。「友達づきあい」を選んだ生徒の割合は、「もう勉強はしたくない」と答えた生徒の割合が13.2ポイント多い (55.2% < 68.4%)。前回と比べて、「もう勉強はしたくない」と答えた生徒のうち、一番大切なものとして「友達づきあい」を挙げた生徒が68.4%と、前回の60.3%を8.1ポイント超えた。このことは、素直に数字をみれば、「もう勉強をしたくない」と思う生徒が、友達づきあいを大切にする傾向が強くなったといえるだろう。しかし、「部活動」が5.3ポイント減少 (15.9% → 10.6%) しており、コロナ禍で「部活動」を選ぶ生徒が減った分、「勉強よりは、友達づきあいと考えた」生徒が「友達づきあい」を選んだのかもしれない。次回の調査結果に注目したい。

10. 学校以外での習い事

(1) 2021年の調査結果及び考察

項目10：学校以外で、習っているものに、○をつけてください。○はいくつつけてもかまいません。(複数回答可)



※選択肢「3 通信添削」は、今回（2021年度）より、「3 通信教育」とし、前回自由記述で多かった英会話を選択肢として追加した。

調査結果：

① 「学校以外の習い事」について、生徒が選択した割合は、

- 1位 「1. 学習塾」 73.4%
- 2位 「4. スポーツ関係」 18.5%
- 3位 「5. おけいごと、趣味」 15.4%
- 4位 「8. なにも習っていない」 12.5%
- 5位 「6. 英会話」 5.9%
- 6位 「3. 通信教育」 5.5%
- 7位 「7. その他」 2.2%
- 8位 「2. 家庭教師」 1.3% の順である。

② 男女差についてみると、ほぼ差がないのは「2. 家庭教師」(1.4%≒1.1%)、「3. 通信教育」(4.6%<6.4%)で、男子が多いのは「4. スポーツ関係」9.0ポイント(23.1%>14.1%)、「1. 学習塾」2.3ポイント(74.6%>72.3%)であり、女子が圧倒的に多いのは「5. おけいごと・趣味」14.9ポイント(8.0%<22.9%)、わずかに多いのは「6. 英会話」2.2ポイント(4.8%<7.0%)である。

⑤ 「学校以外の習い事」の選択肢で「7. その他」を選んだ生徒の自由記述、124名分の内容を見ると、「英語・英会話等(17)」「ピアノ・エレクトーン等の楽器(10)」「チアダンス・フラダンス等のダンス(5)」「ボーイスカウト(5)」と続き、「料理」、「ナレーション」、「福祉活動」などであった。

考察：

「なにも習っていない」が12.5%であることから、ほぼ9割近い生徒(87.5%)が、なんらかの「学校以外の習い事」に通っているといえる。圧倒的に多いのが「学習塾」で4人に3人が通っている。特に男子は「スポーツ関係」、女子は「おけいごと・趣味」の習い事をしている生徒が多い。前回と比べて、「スポーツ関係」が7.6ポイント増加(13.9%→18.5%)したが、「学習塾(74.0%≒73.4%)」はほぼ同じだった。

コロナ禍の中で、部活動の時間の減少もあり、身体を動かす「スポーツ関係」へのニーズが高まったと考えられる。

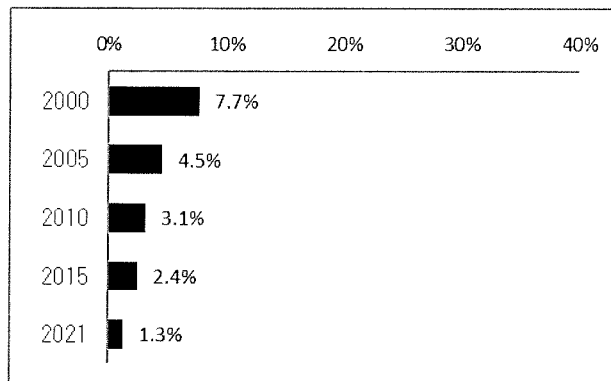
「なにも習っていない」は、「部活」に夢中になっている生徒、また学習塾に通わずに自身で勉強に取り組んでいる生徒の存在も含まれるが、通いたくても通えない生徒も含まれている可能性もある。

また、複数通っている生徒がある程度存在することが予想される。「学習塾に通いながら、通信教育もしている」、「塾に通うと部活の時間がとれないから、通信教育をしている」「部活に入らないで、スポーツクラブに入る」など、自身の考え方、価値観で選んでいる可能性がある。子どもたちが学ぶ場は、「学校」だけではない。

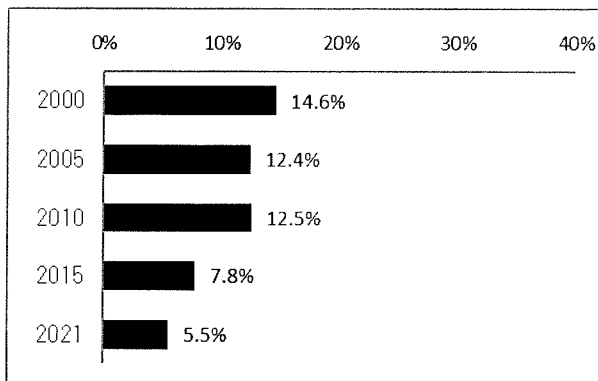
なお、今回の調査から、小学校での外国語活動が導入されたことで、英語に関心をもつ保護者も増えたのではないかと考え、選択肢に英会話をいれた。しかし、自由記述に、「英語」「英会話」と書く生徒が17名いた。単なる見落としかもしれないが、「英会話」と「英語」を別のものと生徒はみていることが推測される。

(3) 1990年・2000年からの時系列比較及び考察

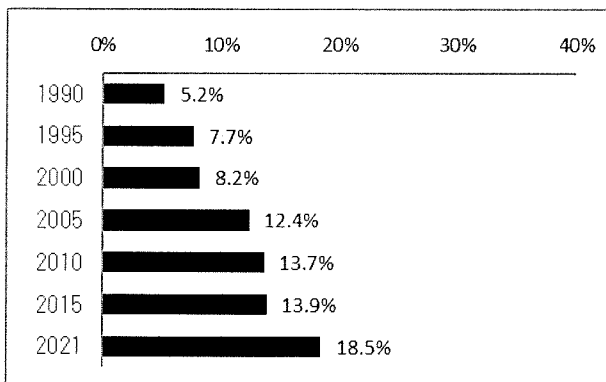
2. 家庭教師



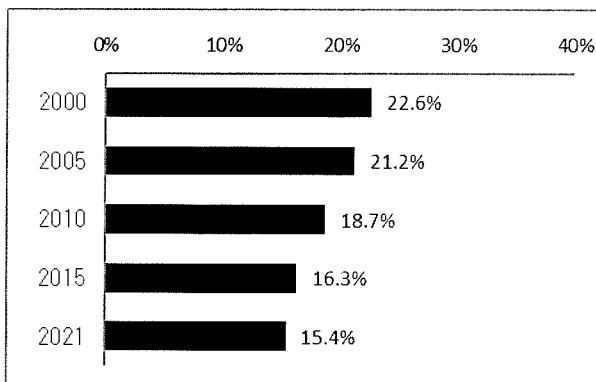
3. 通信教育



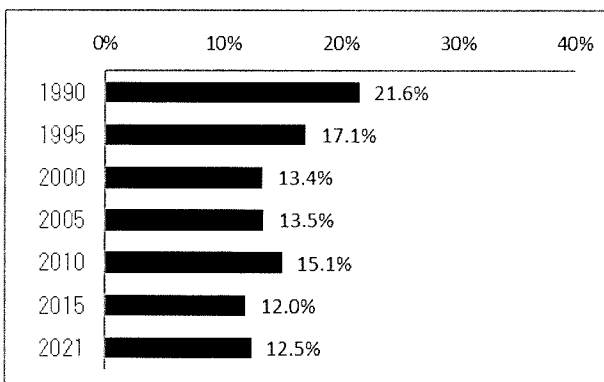
4. スポーツ関係



5. おけいごと・趣味



8. なにも習っていない



③ 2000年と今回を比較すると、「2. 家庭教師」が6.4ポイント(7.7%→1.3%)、「3. 通信教育」9.1ポイント(14.6%→5.5%)とそれぞれ減少している。

考察：

学校以外で習い事を「なにも習っていない」と答えた生徒の割合は1990年には約20%だったが、年々減少し、今回12.5%になった。また「スポーツ関係」は増加傾向だが、ほかの習い事は減少している。その要因として、「習字」「そろばん」「ピアノ」などのおけいご事から、サッカーチームや体操クラブなど体を動かすスポーツ関係の習い事に通わせたいと考える保護者の意識の変化が考えられる。また「家庭教師」と「通信教育」が減ってきているが、その要因として、「学習塾」が個別対応やオンライン授業を取り入れるなど、家庭教師や通信教育の役割も担うようになったためと考えられる。

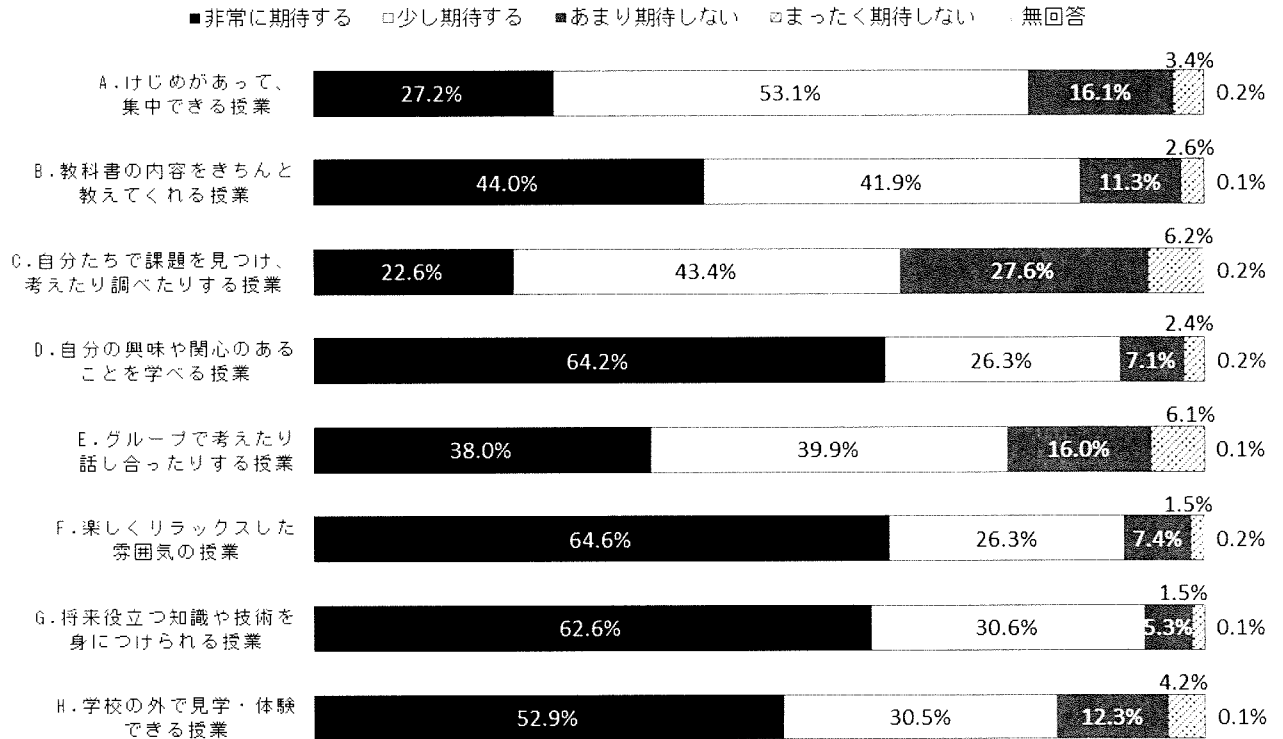
比較結果：

- ① 「学校以外の習い事」について、「8. なにも習っていない」は1990年5人にひとり(21.6%)だったが、2010年に微増したものの、減少傾向にある。
- ② 「4. スポーツ関係」は増加傾向だが、それ以外は減少を続けている。

11. 期待する授業

(1) 2021年の調査結果及び考察

項目11：学校で、次のような授業をどのくらい期待していますか？ それぞれの文について、どれか一つに○をつけてください。



※「E. グループで考えたり話し合ったりする授業」は、今回、初出の選択肢である。

調査結果：

「期待する（非常に期待する＋少し期待する）」生徒の割合が多いものから並べると、

- 1位「G. 将来役立つ知識や技術を身につけられる授業」93.2%
- 2位「F. 楽しくリラックスした雰囲気の授業」90.9%
- 3位「D. 自分の興味や関心のあることを学べる授業」90.5%
- 4位「B. 教科書の内容をきちんと教えてくれる授業」85.9%
- 5位「H. 学校の外で見学・体験できる授業」83.4%
- 6位「A. けじめがあって、集中できる授業」80.3%
- 7位「E. グループで考えたり話し合ったりする授業」77.9%
- 8位「C. 自分たちで課題を見つけ、考えたり調べたりする授業」66.0%

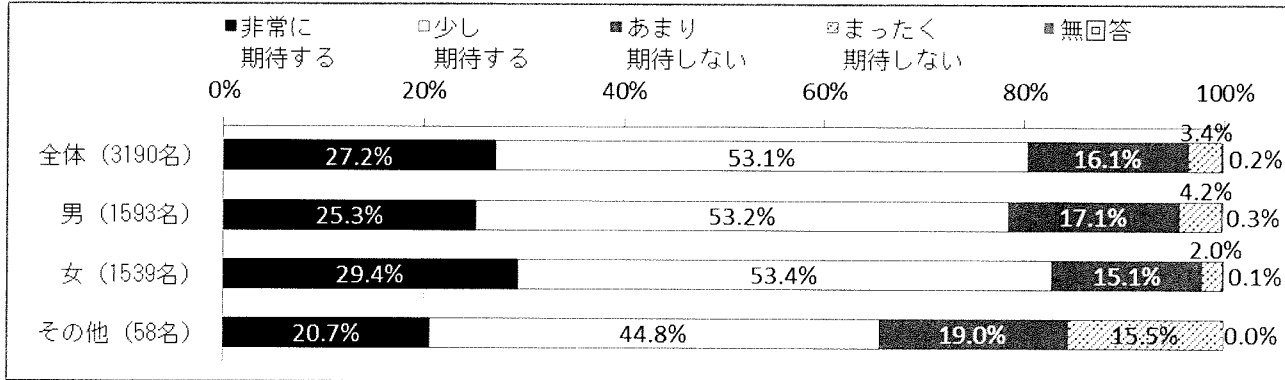
考察：

8つの「授業」に「期待する」と答えた生徒の割合の平均は8割強(83.5%)で、一番割合が低かった項目(「自分たちで課題を見つけ、考えたり調べたりする授業」)も66%である。あらゆるタイプの学校の授業に高い期待を寄せているといえる。

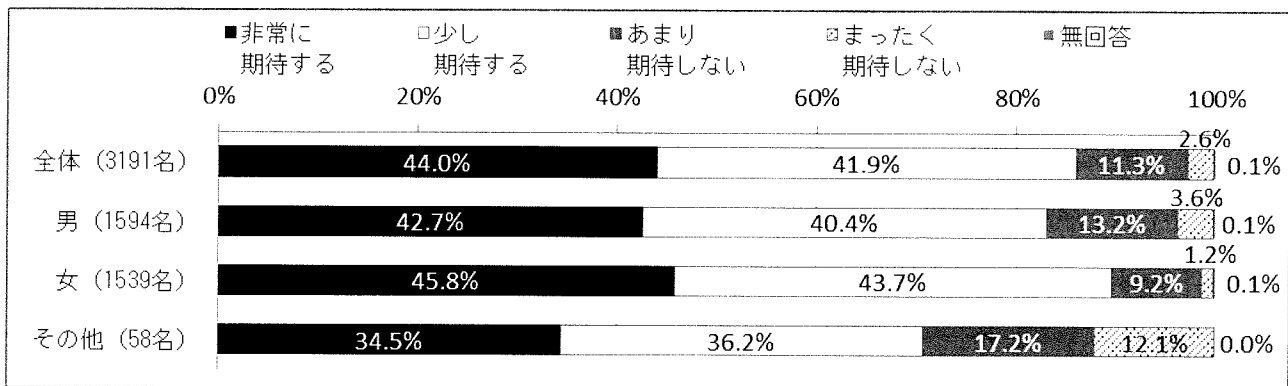
特に、「楽しくリラックスした雰囲気」で、自分が興味や関心があること、また将来役立つ知識や技術を身につけられる授業への期待が大きいがわかる。「自分たちで課題を見つけ、考えたり調べたりする授業」は、前回同様に「期待する」と答えた生徒は少ない傾向があるが、藤沢市では2020年9月よりタブレットが一人一台貸与され、授業の中でのインターネットを使った調べる活動が今までに比べて簡便になる等、学習環境が大きく変わる中で、次回、どう変化するのか注目したい。

(2) 男女の比較及び考察

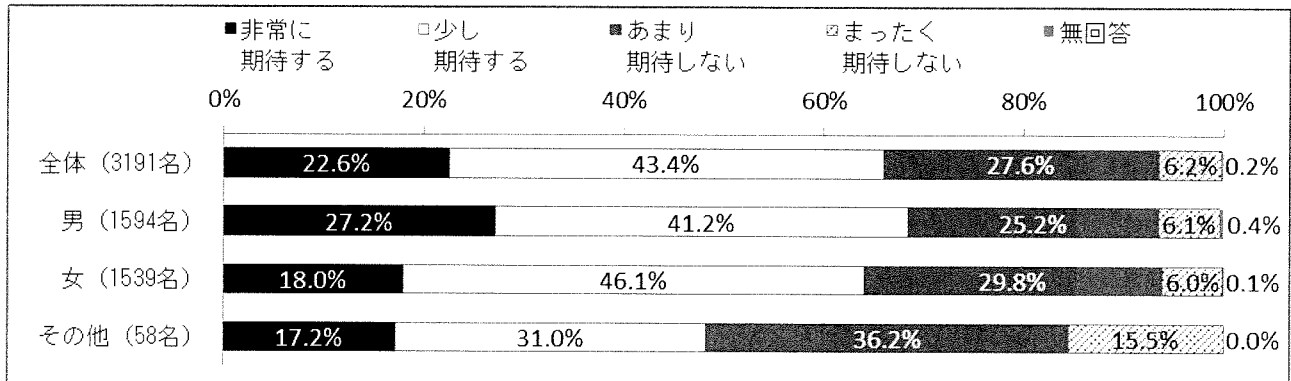
① 11A. けじめがあって、集中できる授業



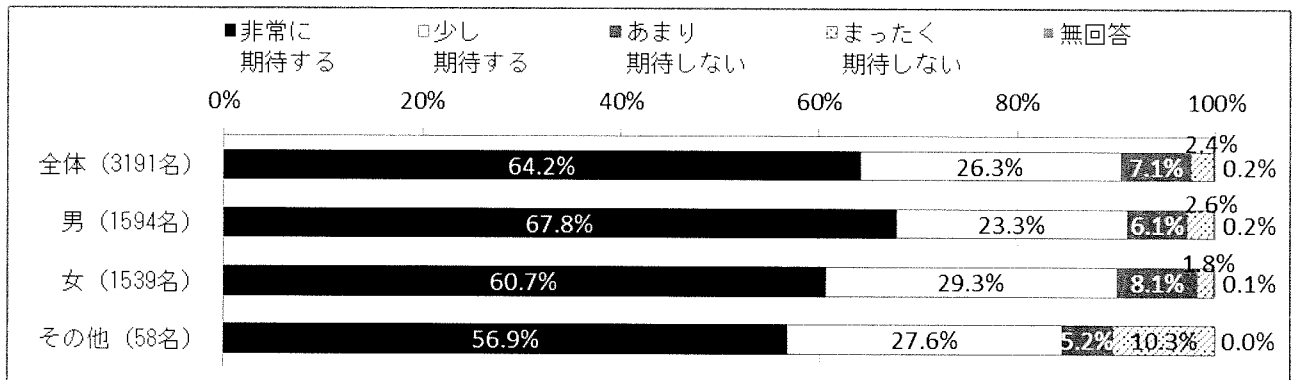
② 11B. 教科書の内容をきちんと教えてくれる授業



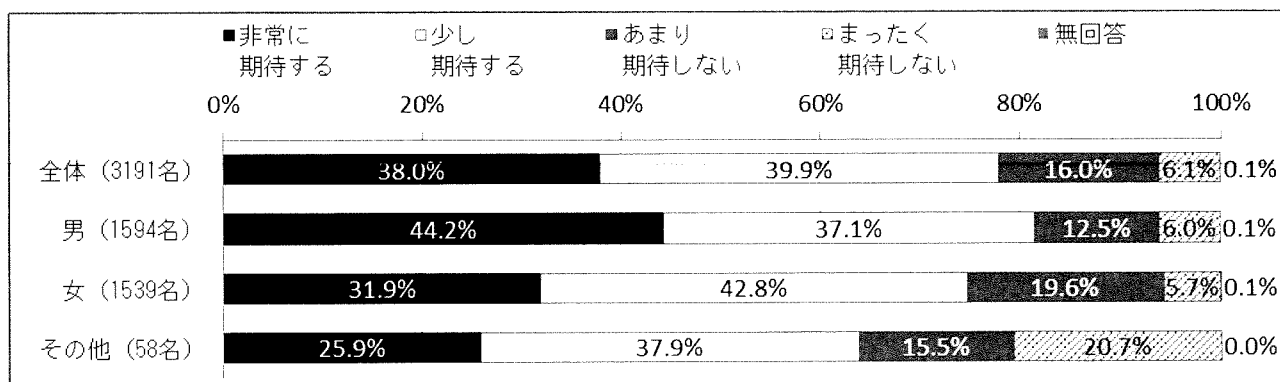
③ 11C. 自分たちで課題を見つけ、考えたり調べたりする授業



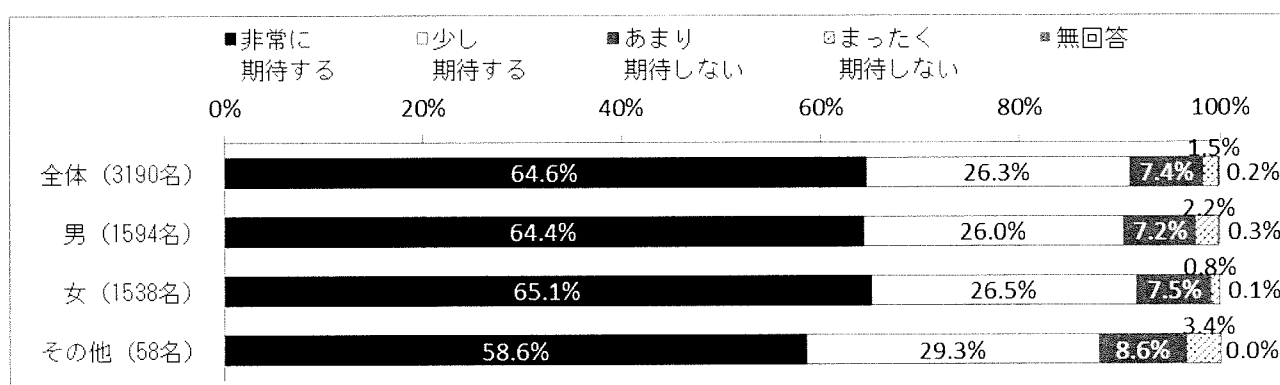
④ 11D. 自分の興味や関心のあることを学べる授業



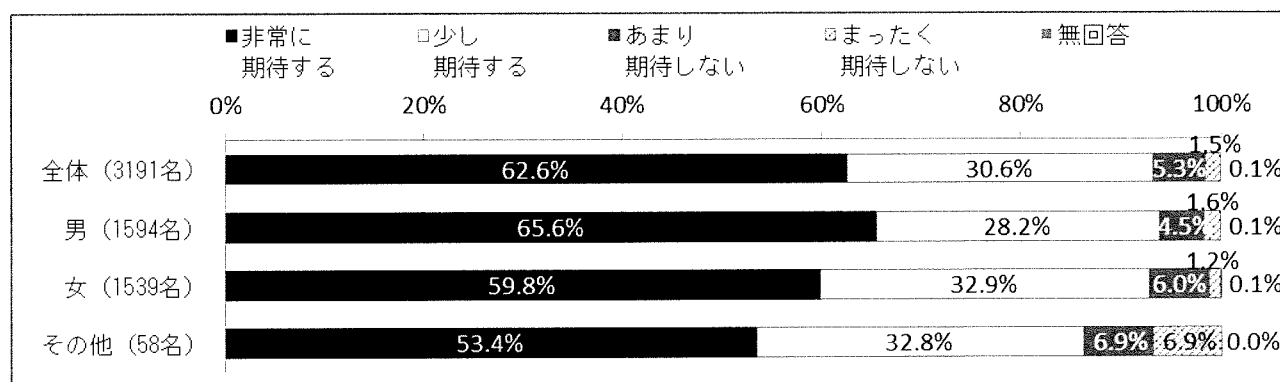
⑤ 11E. グループで考えたり話し合ったりする授業



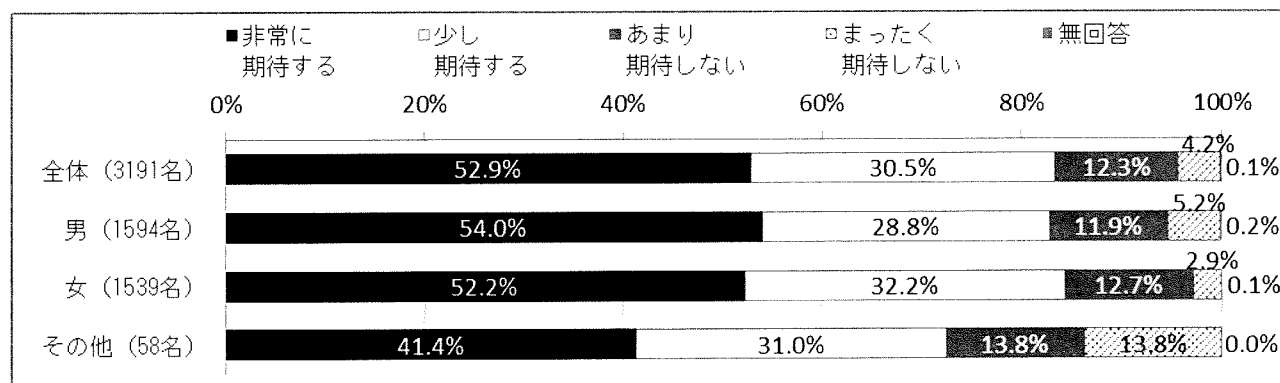
⑥ 11F. 楽しくリラックスした雰囲気での授業



⑦ 11G. 将来役立つ知識や技術を身につけられる授業



⑧ 11H. 学校の外で見学・体験できる授業



調査結果：

① 男女差について

「非常に期待する」と「期待しない（あまり期待しない+まったく期待しない）」と答えた生徒の割合を比べると、男子の期待が女子の期待に比べて、相対的に強い授業が以下の4つ、

「E. グループで考えたり話し合ったりする授業」

「非常に期待する」…

12.3ポイント男子が多い（44.2%＞31.9%）

「期待しない」………

6.8ポイント女子が多い（18.5%＜25.3%）

「C. 自分たちで課題を見つけ、考えたり調べたりする授業」

「非常に期待する」…

9.2ポイント男子が多い（27.2%＞18.0%）

「期待しない」………

4.5ポイント女子が多い（31.3%＜35.8%）

「D. 自分の興味や関心のあることを学べる授業」

「非常に期待する」…

7.1ポイント男子が多い（67.8%＞60.7%）

「期待しない」……… ほぼ同じ（8.7%≒9.9%）

「G. 将来役立つ知識や技術を身につけられる授業」

「非常に期待する」

… 5.8ポイント男子が多い（65.6%＞59.8%）

「期待しない」……… ほぼ同じ（6.1%≒7.2%）

女子の期待が男子の期待に比べて、相対的に強い授業が以下の2つ、

「A. けじめがあって、集中できる授業」

「非常に期待する」…

4.1ポイント女子が多い（25.3%＜29.4%）

「期待しない」………

4.2ポイント男子が多い（21.3%＞17.1%）

「B. 教科書の内容をきちんと教えてくれる授業」

「非常に期待する」…

3.1ポイント女子が多い（42.7%＜45.8%）

「期待しない」………

6.4ポイント男子が多い（16.8%＞10.4%）

である。

② 男女の期待に差がみられない授業

「F. 楽しくリラックスした雰囲気の授業」

全ての選択肢で差がない

「H. 学校の外で見学・体験できる授業」

「非常に期待する」…男子 54.0%≒女子 52.2%

「少し期待する」… 男子 28.8%＜女子 32.2%

「あまり期待しない」…男子 11.9%≒女子 12.7%

「期待しない」… 男子 5.2%＞女子 2.9%

考察：

男女でほとんど差が見られないのは、「楽しくリラックスした雰囲気の授業」と「学校の外で見学・体験できる授業」である。「楽しくリラックスした雰囲気」が支持されることは、自明のこととして理解できる。また職場体験、また遠足など校外行事に代表される「学校外での活動」は、さまざまなひとやものとの出会いのなかで、いろいろなことを学べる機会として、生徒にとって期待が高いことがわかる。2002年の「総合的な学習の時間」の導入によ、問題解決的な、地域の学習など多様な活動が取り込まれてきたことも影響していると考えられる。

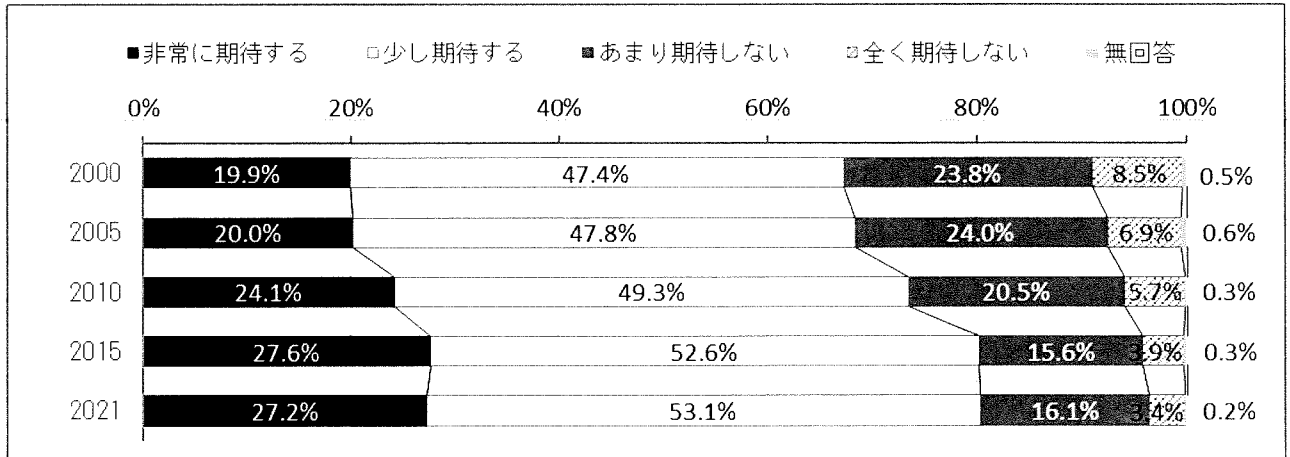
男子は、女子に比べて「グループで考えたり話し合ったりすること」や「自分たちで課題を見つけ、考えたり調べたりすること」、そして、「自分の興味や関心のあることを学べること」、「将来役立つ知識や技術を身につけられること」へ期待をよせる生徒が多い。特に、期待する生徒の割合が低い「グループで考えたり、話し合ったりする授業」、「自分たちで課題を見つけ、考えたり調べたりする授業」について、「非常に期待する」と答えた生徒が、それぞれ12.3ポイント、9.2ポイント女子より高いことは注目されることだろう。理由として、一人より仲間と議論したり、調べたりすることが好きな生徒が女子より多いこと、また将来のことに実利的な関心を持つ生徒が多いことが考えられる。

女子は、「けじめがあって、集中できること」「教科書の内容をきちんと教えてくれること」を期待する生徒が多い。「非常に期待する」と答えた生徒の割合が、男子と比べ3～4ポイント高く、「期待しない」と答えた生徒の割合も男子より、4～6ポイント低いことが特徴ともいえるかもしれない。教師が主導権をもち、教えてくれる授業への期待が高いのかもしれない。

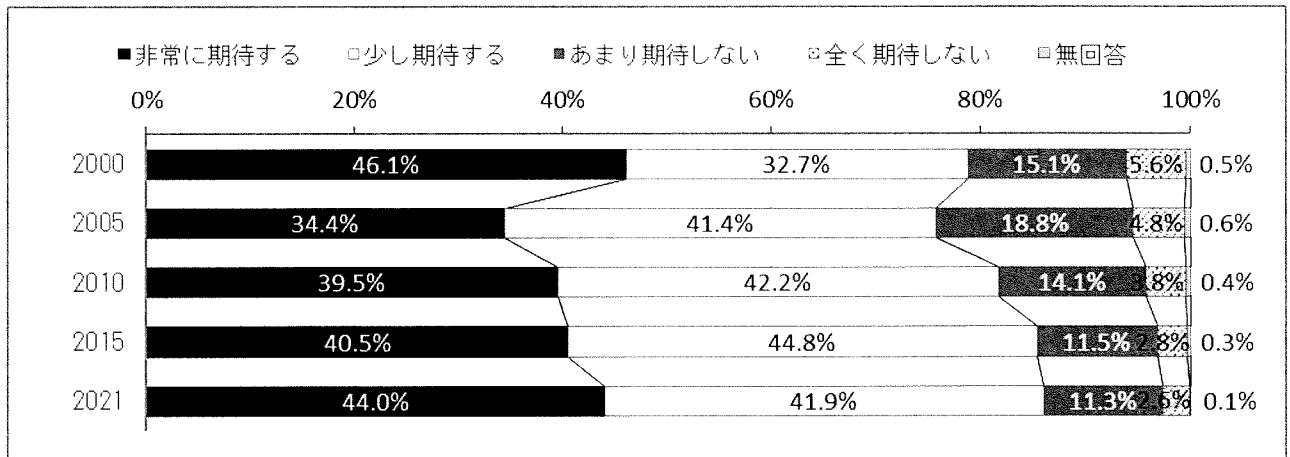
いずれにせよ、すべての授業で「まったく期待しない」と答えた生徒の割合は、男女別にみても極めて低く、生徒が「期待をもって授業」に参加していることがわかる。

(3) 2000年からの時系列比較と考察

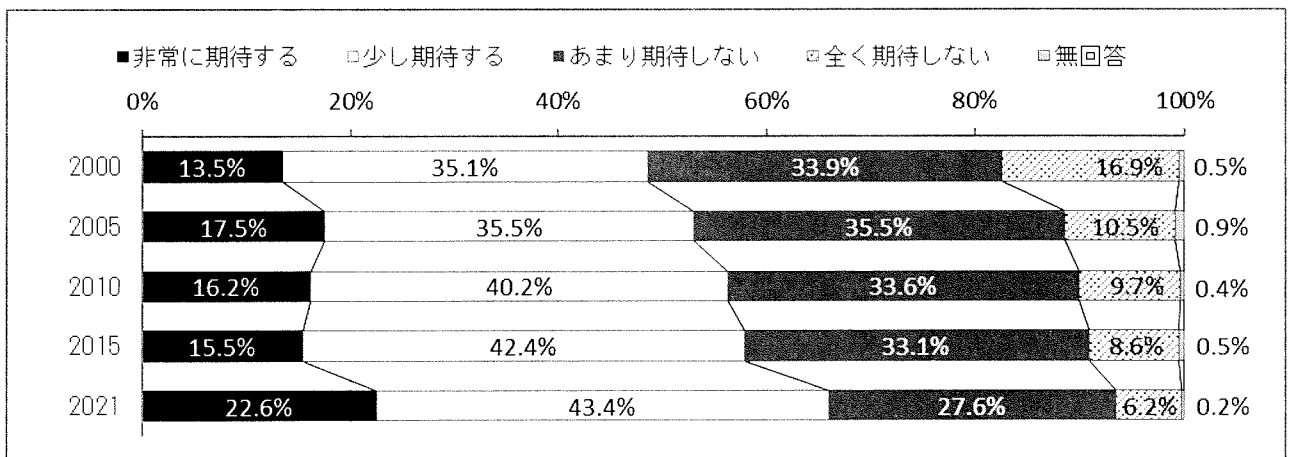
① 11A. けじめがあって、集中できる授業



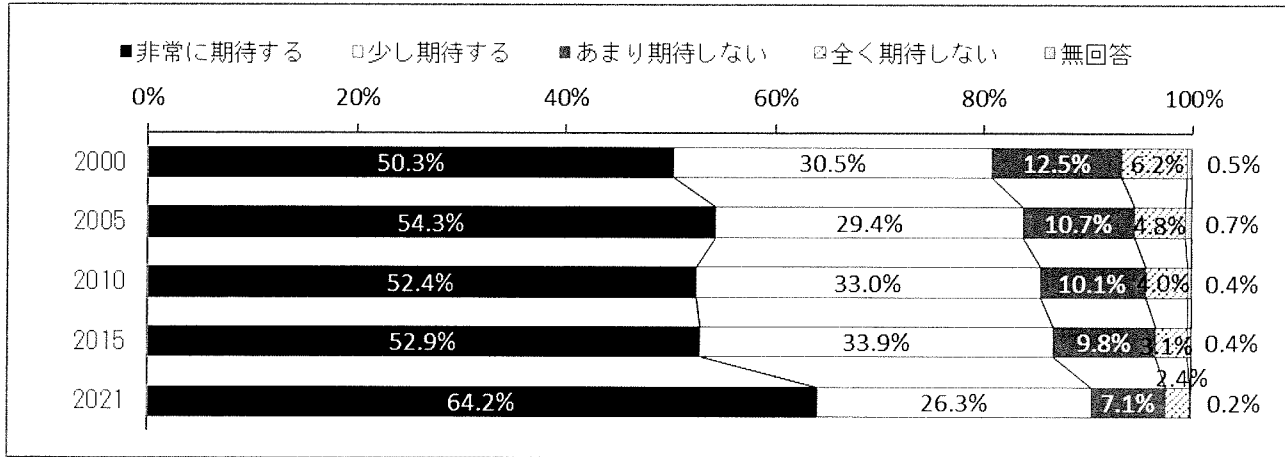
② 11B. 教科書の内容をきちんと教えてくれる授業



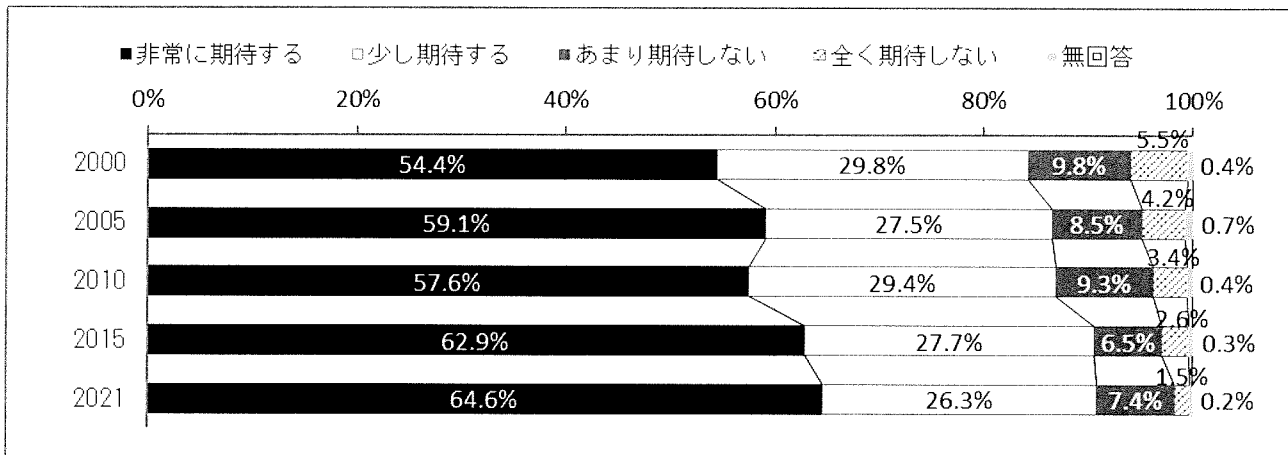
③ 11C. 自分たちで課題を見つけ、考えたり調べたりする授業



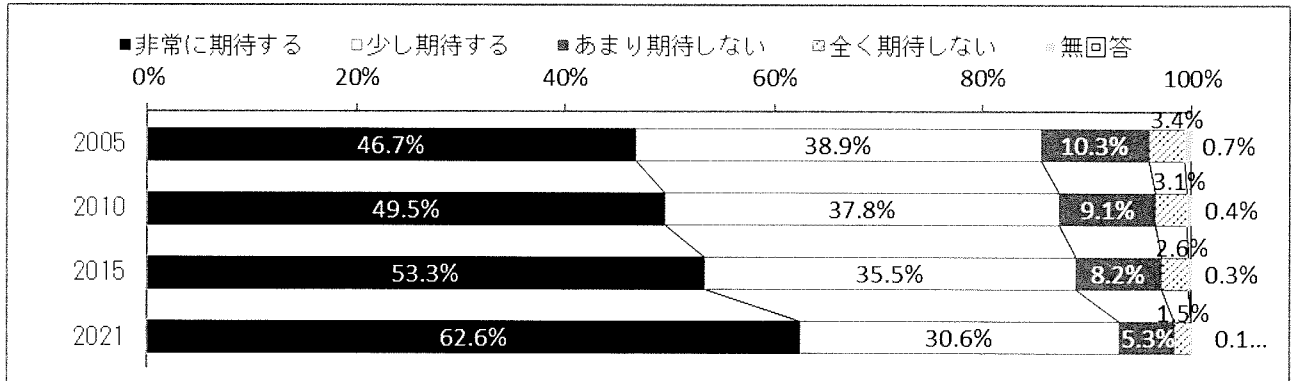
④ 11D. 自分の興味や関心のあることを学べる授業



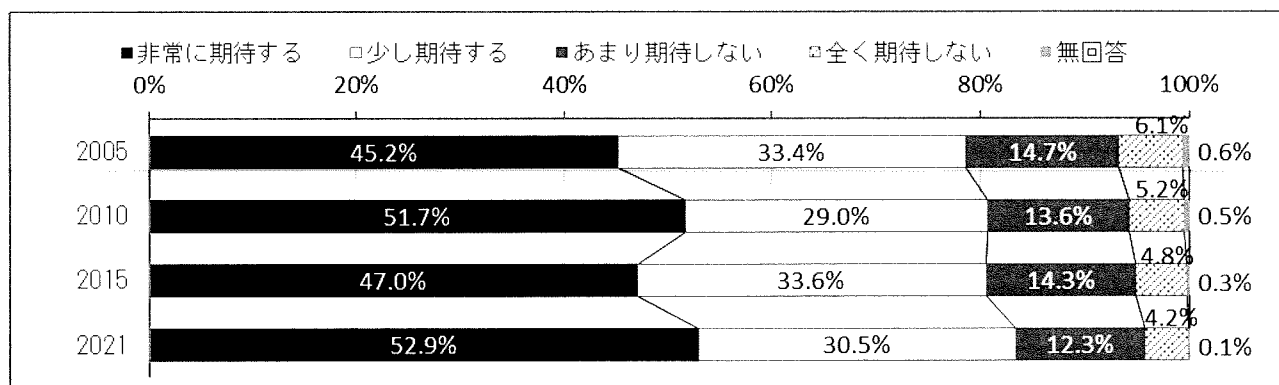
⑤ 11F. 楽しくリラックスした雰囲気での授業



⑥ 11G. 将来役立つ知識や技術を身につけられる授業 (2005年より)



⑦ 11H. 学校の外で見学・体験できる授業 (2005年より)



比較結果：

① 今回から選択肢に加えた「E. グループで考えたり話し合ったりする授業」をのぞいた7つの授業について、調査をはじめた2000年からの変化の様子を比較した。

「A. けじめがあって、集中できる授業」と「B. 教科書の内容をきちんと教えてくれる授業」「F. 楽しくリラックスした雰囲気の授業」に、「期待する(非常に期待する+少し期待する)」と答えた生徒の割合は、前回とほぼ同じだったが、それ以外では、増加した。

② 「期待する」と答えた生徒が9割を超えた、「G. 将来役立つ知識や技術を身につけられる授業(93.2%=62.6%+30.6%)」、「F. 楽しくリラックスした雰囲気の授業(90.9%=64.6%+26.3%)」、「D. 自分の興味や関心のあることを学べる授業(90.5%=64.2%+26.3%)」のうち、「F. 楽しくリラックスした雰囲気の授業」が調査の回数を重ねる毎に緩やかに増加しているのに対し、前回と比べて、「非常に期待する」と答えた生徒が、「G. 将来役立つ知識や技術を身につけられる授業」は9.3ポイント(53.3%→62.6%)、「D. 自分の興味や関心のあることを学べる授業」は11.3ポイント(52.9%→64.2%)と大きく増加した。

③ 「C. 自分たちで課題を見つけ、考えたり調べたりする授業」は「期待する」とした生徒が2000年の48.6%(13.5%+35.1%)とほぼ半数から、今回66.0%(22.6%+43.4%)と増加してきたが、特に「期待する」と答えた生徒が前回に比べて8.1ポイント(57.9%→66.0%)、「非

常に期待する」も7.1ポイント(15.5%→22.6%)増加した。また「非常に期待する」と答えた生徒の割合も、前回に比べて、「D. 自分の興味や関心のあることを学べる授業」が11.3ポイント(52.9%→64.2%)、「G. 将来役立つ知識や技術を身につけられる授業」が9.3ポイント(53.3%→62.6%)と大きく伸びた。

④ 2000年からの「非常に期待する」と答えた生徒の割合の変化の様子をみると、2000年、2005年、2010年と、数値の「増減の向き」が変わるものがある。

一度減り、また増えたものは、

「B. 教科書の内容をきちんと教えてくれる授業」(46.1%→34.4%→39.5%)である。

一度増え、また減ったものは、以下の3つである。

「C. 自分たちで課題を見つけ、考えたり調べたりする授業」(13.5%→17.5%→16.2%→(2015年)15.5%)

「D. 自分の興味や関心のあることを学べる授業」(50.3%→54.3%→52.4%)

「F. 楽しくリラックスした雰囲気の授業」(54.4%→59.1%→57.6%)

⑤ 「H. 学校の外で見学・体験できる授業」は、「期待する」と答えた生徒の割合はわずかに増加しているが、「非常に期待する」は、50%前後で揺れている。

考察：

「期待する(非常に期待する+少し期待する)」と答えた生徒の割合は、調査開始以降、ほとんどの「授業」で増加し、「期待しない(あまり期待しない+まったく期待しない)」と答えた生徒は、すべての「授業」で減少してきた。特に、「将来役立つ知識や技術を身につけられる授業」「楽しくリラックスした雰囲気の授業」「自分の興味や関心のあることを学べる授業」は、9割を超える生徒が「期待する」と答えている。また前回と比べて、「将来役立つ知識や技術を身につけられる授業」と「自分の興味や関心のあることを学べる授業」は、「非常に期待する」と答えた生徒が、それぞれ10ポイント程度増加し、生徒の関心が高まったことが想定される。

特に、「自分たちで課題を見つけ、考えたり調べたりする授業」に「期待する」と答えた生徒の割合が他の授業と比べて少ないものの、「期待する」と答えた生徒が2000年2人にひとり(48.6%)だったのが、今回66.0%と増えてきている。もちろん、「期待しない(あまり期待しない+まったく期待しない)」と答えた生徒もほぼ3割(33.8%)いるが、「自分たちで課題を見つけ、考えたり調べたりする」といった問題解決的な学習がある程度定着し、何をどうすればよいのか見通しをもって取り組むことができるようになったことで、関心を集めるようになってきたといえるのではないだろうか。

また、数字に単純に従えば、前回に比べて「自分たちで課題を見つけ、考えたり調べたりする授業」、「自分の興味や関心のあることを学べる授業」、「将来役立つ知識や技術を身につけられる授業」に期待すると答えた生徒の割合が「今回、増えた」といえる。ただ、一人ひとりの生徒は、それぞれの項目のことばから、どんな授業をイメージしているのだろうか。それまでの経験から答えている可能性が高く、イメージにはかなり幅があることが想定される。またコロナ禍で、さまざまな制限がかかり、グループで話し合ったり、調べたり、また互いに発表するなどの活動、また学校外での活動などが「ない」ので、「期待する生徒が増えた」という考え方もできる。また「将来役立つ知識や技術を身につけられる授業」に

ついて、「非常に期待する」と答えた生徒が、9.3ポイント増加したのも、コロナ禍で、「授業で学ぶこと」「学校というところに通うこと」など、いままで日常にあったことの意味を問い直したのかもしれない。いずれにせよ、この増加傾向は今回だけの特異な傾向なのか、そうでないのか、次回の調査結果に期待したい。

2000年からの変化に注目したい。「非常に期待する」と答えた生徒の割合の変化をみると、2000年から2010年の「変化の向き」が変わるものがある。一度減りまた増えるのが「教科書の内容をきちんと教えてくれる授業」、増減を繰り返しているのが「自分たちで課題を見つけ、考えたり調べたりする授業」と「自分の興味や関心のあることを学べる授業」、そして、「楽しくリラックスした雰囲気の授業」である。この動きは、何を意味するのだろうか。「学習指導要領」に示される様々な改革が影響しているのかもしれない(*1)。「教科書をきちんと教えてくれる」が、2005年に減るのは、指導要領の改訂で、教科書も薄くなり、生徒に「教科書の内容をきちんと学ぶこと」をそれまでより教師が強調しないというメッセージとなっていたのではないかと、また「自分たちで課題を見つけ、調べたり話しあったりすること」「自分の興味や関心のあることを学べること」が増えるのは、「総合的な学習の時間」に代表されるように、教科横断型の授業、また地域の問題解決型の授業などに取り組む中で、2005年の時点では、生徒への意識づけがある程度行われていたが、実際に取り組む中で、その内容に生徒が満足できずに離れていったのかもしれない。

わたしたちは、生徒の「学習意識」を問うているが、実は、その時の、またそれまでに、生徒がどのような「授業の経験をしているのか」(*2)、や「教師が生徒にどうかかわっているのか」を問うているのかもしれない。

*1 1992年隔週でスタートした学校週五日制は、2002年から完全実施され、また学習指導要領の改訂によって、学習内容の精選、授業時数の削減(年間1050時間→980時間)が行われ(いわゆる「ゆとり教育」といわれる教育改革の本格実施)、「総合的な学習の時間」の新設、「絶対評価」の導入などが行われた。その一方で2002年、「緊急アピール 学びのすすめ～確かな学力向上のための具体的方策～」がだされ、生徒たちの学力低下が社会で話題になっていた。そのような中で2007年「全国学力、学習状況調査」がはじまり、翌々年の2009年には、移行措置の追加として「総合的な学習の時間」の削減、2011年の翌年の学習指導要領改訂では、授業時間が10%増加し、学習内容も増加した。

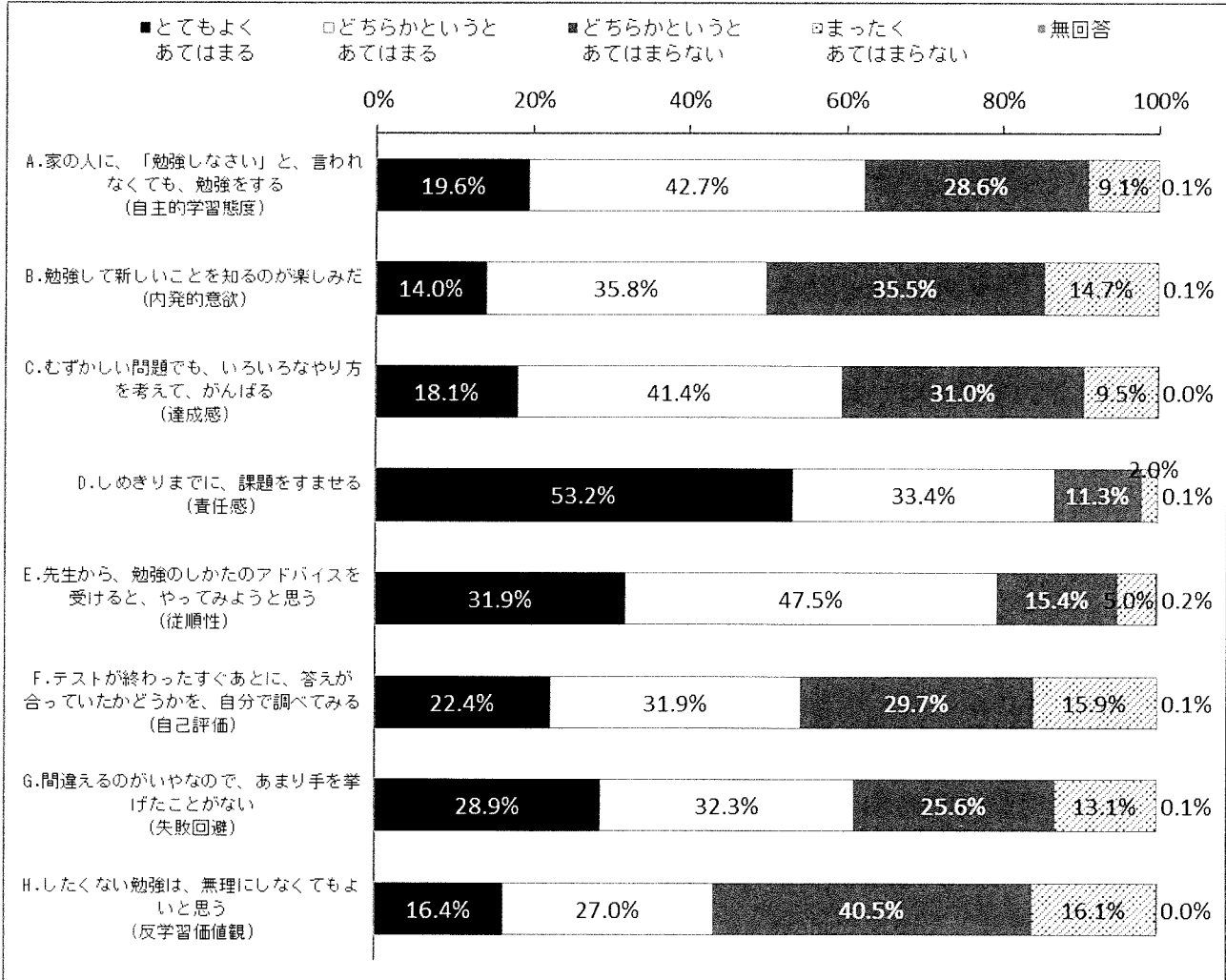
また1980年代から高校退学者の増加が問題視され、神奈川県の高校入試選抜制度は何度も改革された。1996年ア・テスト結果を入試選抜資料から除外(移行措置)、2000年学区外枠8%→25%に、2004年前期・後期2段階選抜の実施、2005年学区が全廃された。進路指導がどう行われたのかも、「学校での勉強」についての生徒の意識に大きな影響をあたえていると考えることができる。

*2 たとえば、「ゆとり教育」の学習指導要領で学んだ経験年数について、2000年実施した第9回調査の中3生は、ゆとり前の世代であり、2005年の中3生は小学校6年生から「ゆとり教育」、2010年の中3生は小1年から中1年まで「ゆとり教育」、中2.3年の2年間は「一部ゆとり教育」、今回の2021年の中3生は、小1年より9年間「脱ゆとり教育」世代である。

12. 学習意欲

(1) 2021年調査結果及び考察

項目12：次のそれぞれの文について、自分の気持ちに最も合うもの一つに○をつけてください。



学習意欲の促進傾向

- A. 自主的学習態度 家の人に、「勉強しなさい」と、言われなくても、勉強をする
- B. 内発的意欲 勉強して新しいことを知るのが楽しみだ
- C. 達成感 むずかしい問題でも、いろいろなやり方を考えて、がんばる
- D. 責任感 しめきりまでに、課題をすませる
- E. 従順性 先生から、勉強のしかたのアドバイスを受けると、やってみようと思う
- F. 自己評価 テストが終わったすぐあとに、答えが合っていたかどうかを、自分で調べてみる

学習意欲の抑制傾向

- G. 失敗回避 間違えるのがいやなので、あまり手を挙げたことがない
- H. 反学習価値観 したくない勉強は、無理にしなくてもよいと思う

調査結果:

① 「学習意欲」の8つの側面を示した項目(縦軸)について、「あてはまる(とてもよくあてはまる+どちらかというにあてはまる)」と答えた生徒の割合の多いのは、以下の順である。

1位「D. しめきりまでに、課題をすませる(責任感)」

86.6%

2位「E. 先生から、勉強のしかたのアドバイスを受ける
と、やってみようと思う(従順性)」 79.4%

3位「A. 家の人に「勉強しなさい」と言われなくても、
勉強する(自主的学習態度)」 62.3%

4位「G. 間違えるのがいやなので、あまり手を挙げた
ことがない(失敗回避)」 61.2%

5位「C. むずかしい問題でも、いろいろなやり方を考
えて、がんばる(達成感)」 59.5%

6位「F. テストが終わったすぐあとに、答えが合っ
たかどうかを、自分で調べてみる(自己評価)」 54.3%

7位「B. 勉強して新しいことを知るのが楽しみだ(内
発的意欲)」 49.8%

8位「H. したくない勉強は、無理にしなくてもよい
と思う(反学習価値観)」 43.4%

② 「D. しめきりまでに、課題をすませる(責任感)」
について、「とてもよくあてはまる」と半数(53.2%)の生徒
がと答え、「まったくあてはまらない」と答えた生徒はわ
ずか(2.0%)である。

③ 「E. 先生から、勉強のしかたのアドバイスを受ける
とやってみようと思う」に8割近い(79.4%)の生徒が「あ
てはまる」と答え、「まったくあてはならない」はわずか
5.0%である。また「A. 家の人に勉強しなさいと言われ
なくても勉強する」について、ほぼ6割(62.3%)の生徒
が「あてはまる」と答え、「まったくあてはならない」と
答えた生徒は1割(9.1%)である。

④ 「B. 勉強して新しいことを知るのが楽しみだ(内
発的意欲)」について、「とてもよくあてはまる」と答えた
生徒は14.0%で、2人にひとり(49.8%)が「あてはまる」
と答えている。「まったくあてはまらない」と答えた生徒
の割合は、14.7%だった。

⑤ 抑制傾向を示す項目の「G. 間違えるのがいやな
ので、あまり手を挙げたことがない」、「H. したくない
勉強は無理にしなくてもよいと思う」について、「あては
まる」と答えた生徒は、それぞれ6割(61.2%)、4割
(43.4%)である。特に、「G. 失敗回避」については、
28.9%が「とてもよくあてはまる」と答えている。

考察:

「しめきりまでに、課題をすませる」生徒が8割をこ
え、「家の人に勉強しなさいと言われなくても、勉強する」
生徒もほぼ6割いることから、自発的に、意識して取り
組もうといる生徒の姿が想像される。「生徒は、自分から
進んで勉強しない」と語られてきたが、変化してきてい
るのかもしれない。「勉強して、新しいことを知るのが楽
しみだ(内発的意欲)」では半数、「むずかしい問題でも、
いろいろな方法を考えて、がんばる(達成感)」では6割
の生徒が「よくあてはまる」と答えており、知的好奇心
をもって、粘り強く取り組もうといる生徒の存在がある。
2020年より学習指導要領改訂によって、学習に主体的に
取り組むことが、今まで以上に求められ、さまざまな授
業づくりが行われている。そのことが生徒の「学習意欲」
にどう影響するのか、取り組みにどう影響するか、次回
の調査結果に注目したい。

また失敗を回避しようと「間違えるのがいやな
ので、あまり手を挙げたことがない」に「あてはまる」と
答えた生徒が6割いるものの、「先生から、勉強のしかたの
アドバイスを受ける」とやってみようと思う」に8割の
生徒が「あてはまる」と答えていることから、「失敗しない
ためには手は挙げないが、先生のアドバイスがあれば、
やってみようと思っている」生徒の存在が窺われる。

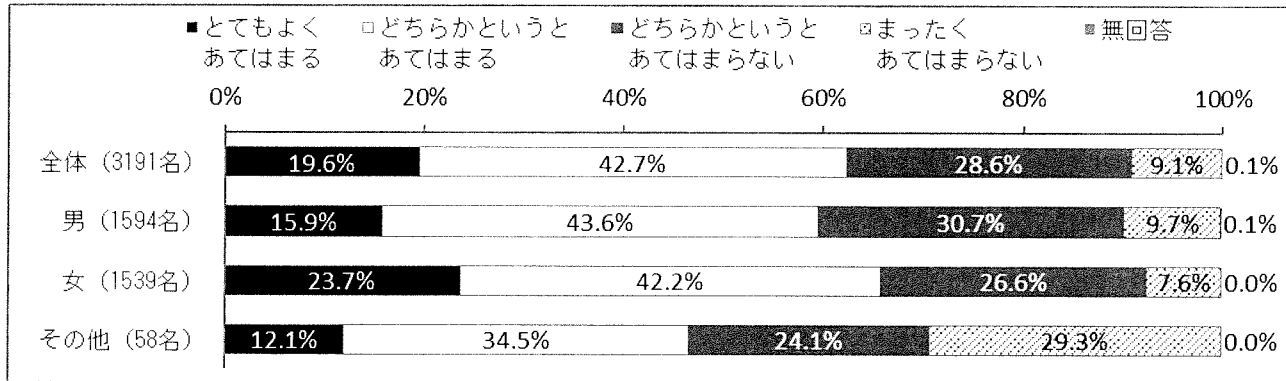
「しめきりまでに、課題をすませる(責任感)」につ
いて「とてもよくあてはまる」と答えた生徒がはじめて半
数を超えた。その理由はなんだろうか。2002年より、観
点別評価(*1)が導入され、「ワークシートやレポートなど」
が評価物として重視されるようになってきた。もちろん、
いままでも評価物として取り扱われてきたが、課題をし
めきりまでに提出することに一層、注意が向けられるよ
うになってきているのかもしれない。

*1 評価については、2010(H.22)年以降「絶対評価」
と示されていないので、ここでは「観点別の学習状況の
評価」を「観点別評価」と記載した。

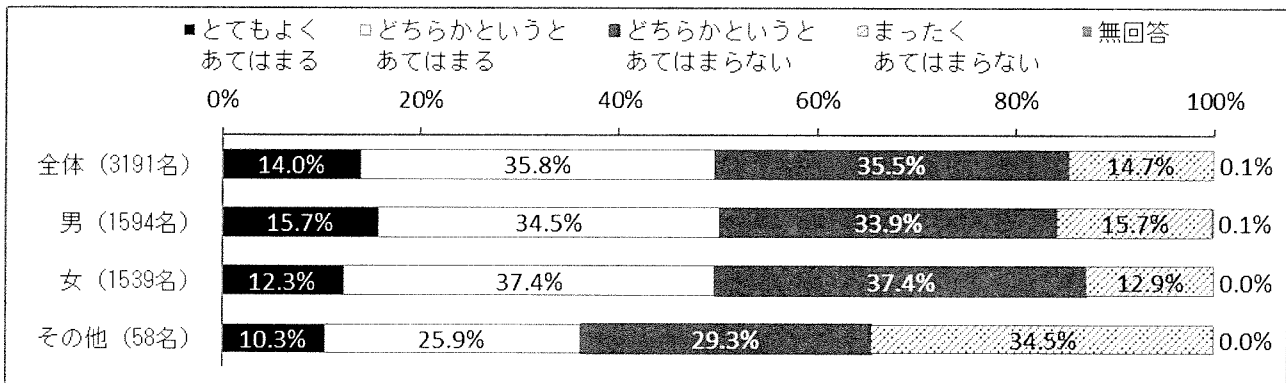
(2) 男女の比較と考察

【 学習意欲の促進傾向の6項目 】

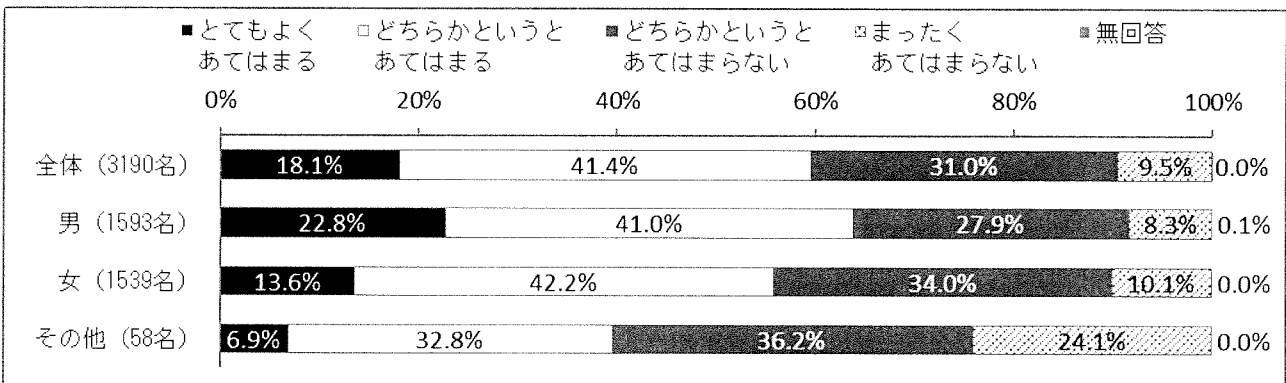
① 12A. 家の人に「勉強しなさい」と、言われなくても、勉強をする (自主的学習態度)



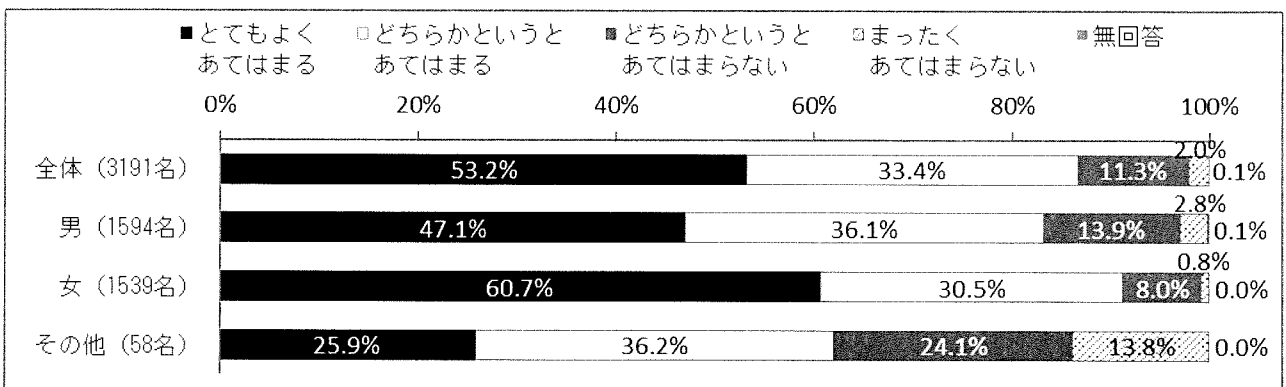
② 12B. 勉強して新しいことを知るのが楽しみだ (内発的意欲)



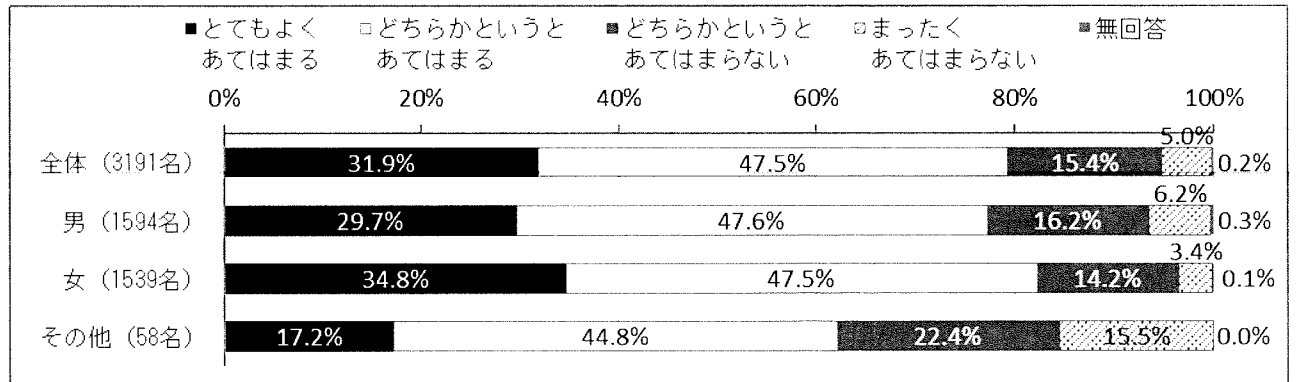
③ 12C. むずかしい問題でも、いろいろなやり方を考えて、がんばる (達成感)



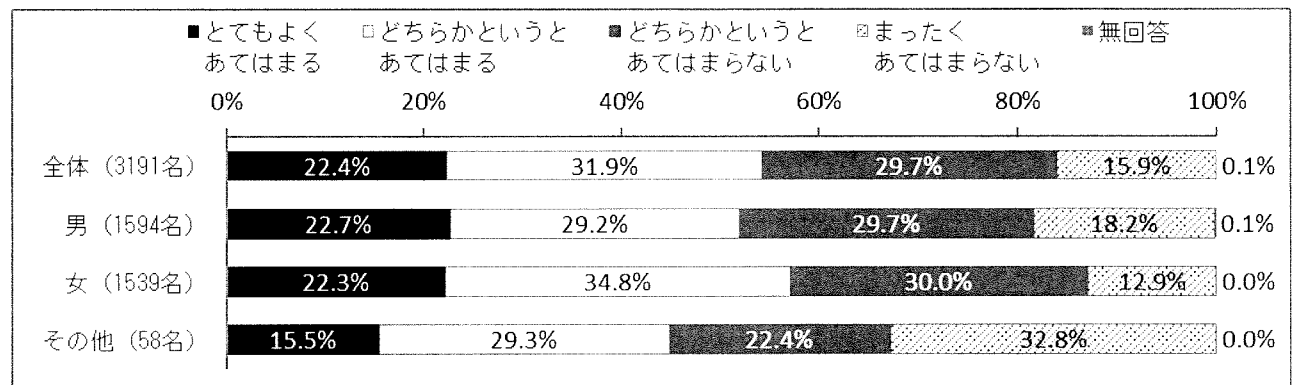
④ 12D. しめきりまでに、課題をすませる (責任感)



⑤ 12E. 先生から、勉強のしかたのアドバイスを受けると、やってみようと思う (従順性)

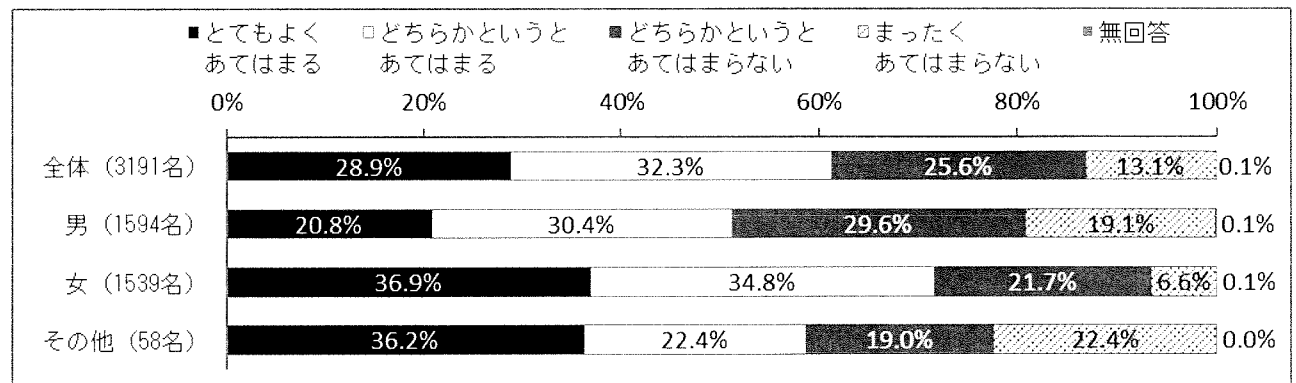


⑥ 12F. テストが終わったすぐあとに、答えが合っていたかどうかを、自分で調べてみる (自己評価)

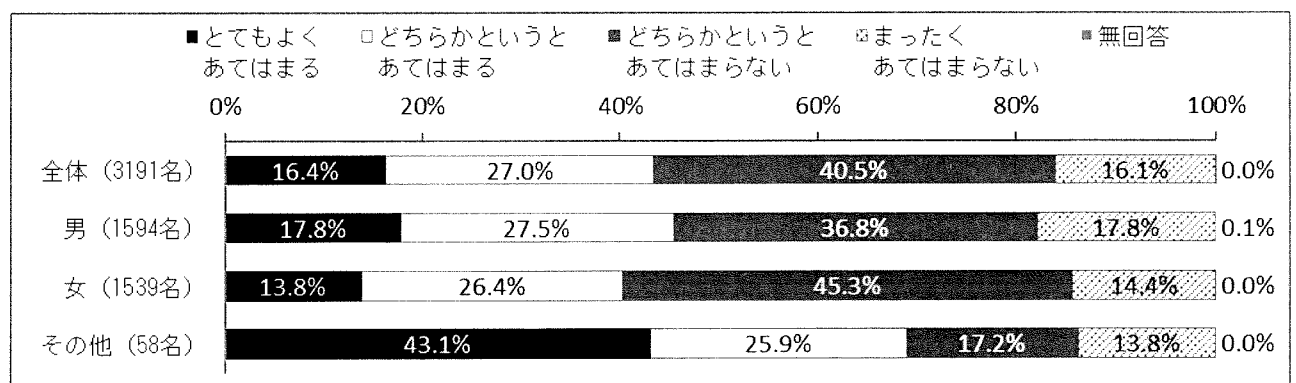


【 学習意欲の抑制傾向の2項目 】

⑦ 12G. 間違えるのがいやなので、あまり手を挙げたことがない (失敗回避)



⑧ 12H. したくない勉強は、無理にしくなくてもよいと思う (反学習価値観)



調査結果：

① 男女差について

「学習意欲」の8つの側面を示した項目（縦軸）について、「とてもよくあてはまる」と「あてはまらない（あまりあてはまらない+まったくあてはまらない）」と答えた生徒の割合を比べると、「とてもよくあてはまる」と答えた男子の割合が、女子に比べて相対的に多い項目が3つ

「C. むずかしい問題でも、いろいろなやり方を考えて、がんばる（達成感）」

「とてもよくあてはまる」…

9.2ポイント男子が多い（22.8%>13.6%）

「あてはまらない」………

7.9ポイント女子が多い（36.2%<44.1%）

「H. したくない勉強は、無理にしなくてもよいと思う（反学習価値観）」

「とてもよくあてはまる」…

4.0ポイント男子が多い（17.8%>13.8%）

「あてはまらない」………

5.1ポイント女子が多い（54.6%<59.7%）

「B. 勉強して新しいことを知るのが楽しみだ（内発的意欲）」

「とてもよくあてはまる」…

3.4ポイント男子が多い（15.7%>12.3%）

「あてはまらない」………ほぼ同じ（49.6%≒50.3%）

② 「とてもよくあてはまる」と答えた女子の割合が、男子に比べて相対的に多い項目が4つ

「G. 間違えるのがいやなので、あまり手を挙げたことがない（失敗回避）」

「とてもよくあてはまる」…

16.1ポイント女子が多い（20.8%<36.9%）

「あてはまらない」………

20.4ポイント男子が多い（48.7%>28.3%）

「D. しめきりまでに、課題をすませる（責任感）」

「とてもよくあてはまる」…

13.6ポイント女子が多い（47.1%<60.7%）

「あてはまらない」………

7.9ポイント男子が多い（16.7%>8.8%）

「A. 家の人に「勉強しなさい」と言われなくても、勉強をする（自主的学習態度）」

「とてもよくあてはまる」…

7.8ポイント女子が多い（15.9%<23.7%）

「あてはまらない」………

6.2ポイント男子が多い（40.4%>34.2%）

「E. 先生から、勉強のしかたのアドバイスを受けて、やってみようと思う（従順性）」

「とてもよくあてはまる」…

5.1ポイント女子が多い（29.7%<34.8%）

「あてはまらない」………

4.8ポイント男子が多い（22.4%>17.6%）

③ 男女に差がみられない項目が2つ

「F. テストが終わったすぐあとに、答えが合っていたかどうかを、自分で調べてみる（自己評価）」

「とてもよくあてはまる」…

ほぼ同じ（22.7%≒22.3%）

「あてはまらない」…

5.0ポイント男子が多い（47.9%>42.9%）

④ 「B. 勉強して新しいことを知るのが楽しみだ（内発的意欲）」について、「あてはまる」と「あてはまらない」と答えた生徒の割合がほぼ半々で、男女の割合もほぼ同じ傾向を示す。

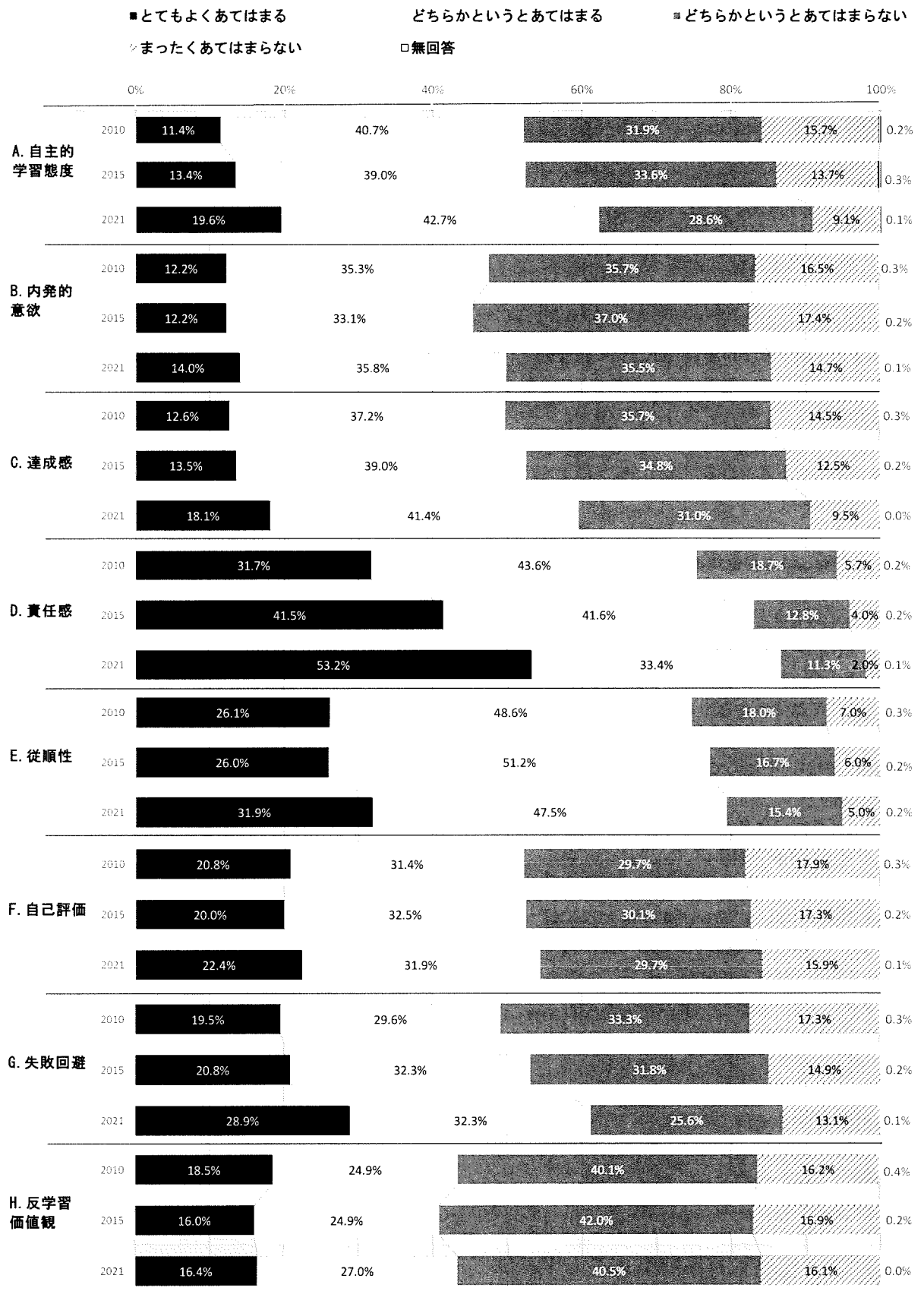
⑤ 性別について「その他」とした生徒のうち、4割（43.1%）が「H. したくない勉強は無理にしなくてもよいと思う（反学習価値観）」について「とてもよくあてはまる」と答えている。

考察：

男女でほとんど差が見られないのは、「新しいことを知るのが楽しみだ」で、ほぼ半数の生徒が「あてはまる」と答えている。また、「とてもよくあてはまる」と答えた生徒の割合が男子に多いのが、「したくない勉強は、無理にしなくてもよいと思う」である。しかし、5人にひとりが「むずかしい問題でも、いろいろなやり方を考えて、がんばる」、また15.7%の男子生徒が「勉強して新しいことを知るのが楽しみだ」と答えており、「したくない勉強はしなくてよい」と思っているから「していない」ということにはならないだろう。また女子の方が、「先生からのアドバイスを受けてやってみようと思う」と先生の意見に従順で、「課題はしめきりまでにすませ、家の人に言われなくても、勉強する」など、自分で時間管理ができる生徒の割合が多いのかもしれない。特に「間違えるのがいやなので、あまり手を挙げたことがない」と失敗を避けようとする行動が男子に比べて多い。まわりの生徒との関係なのか、まちがえること自体に抵抗感をもっているのかここでは不明だが、生徒たちが発言しやすい授業をどうつくっていくかが求められている。

性別を「その他」と答えた生徒は、ほとんどの項目で「あてはまる」が少なく、反学習価値観が「とてもあてはまる」が他の3倍になっている。どのような理由でこうした結果になっているかを検討する必要があるのかもしれない。

(3) 2010年からの時系列比較と考察



比較結果：

① 「学習意欲」の8つの側面を示す項目について、調査を開始した2010年からの変化をみるとA～Fの促進傾向を示す項目では、「あてはまる」と答えた生徒の割合が2005年よりあまり変化が見られないのは、「B. 勉強して新しいことを知るのが楽しみだ(内発的意欲)」と「F. テストが終わったすぐあとに、答えが合っていたかどうかを、自分で調べてみる(自己評価)」が5割を超え、「H. したくない勉強は、無理にしなくてもよいと思う(反学習価値観)」は4割を少し超える。それ以外の項目は増加している。

② 特に、今回、前回と比べて、「とてもよくあてはまる」と答えた生徒の割合が増加したのは、「D. しめきりまでに、課題をすませる(責任感)」が11.7ポイント増(41.5%→53.2%)、「G. 間違えるのがいやなので、あまり手を挙げたことがない(失敗回避)」が8.1ポイント増(20.8%→28.9%)、「A. 家の人に「勉強しなさい」と言われなくても、勉強する(自主的学習態度)」が6.2ポイント増(13.4%→19.6%)、「C. むずかしい問題でも、いろいろなやり方を考えて、がんばる(達成感)」が4.6ポイント増(13.5%→18.1%)、であった。

③ 「A. 家の人にいわれなくても勉強する」と答えた生徒は、2005年と2010年では、ほぼ同じ傾向だったが、今回「とてもよくあてはまる(11.4%→13.4%→19.6%)」と「どちらかというにあてはまる(40.7%→39.0%→42.7%)」で、割合が増えた。

考察：

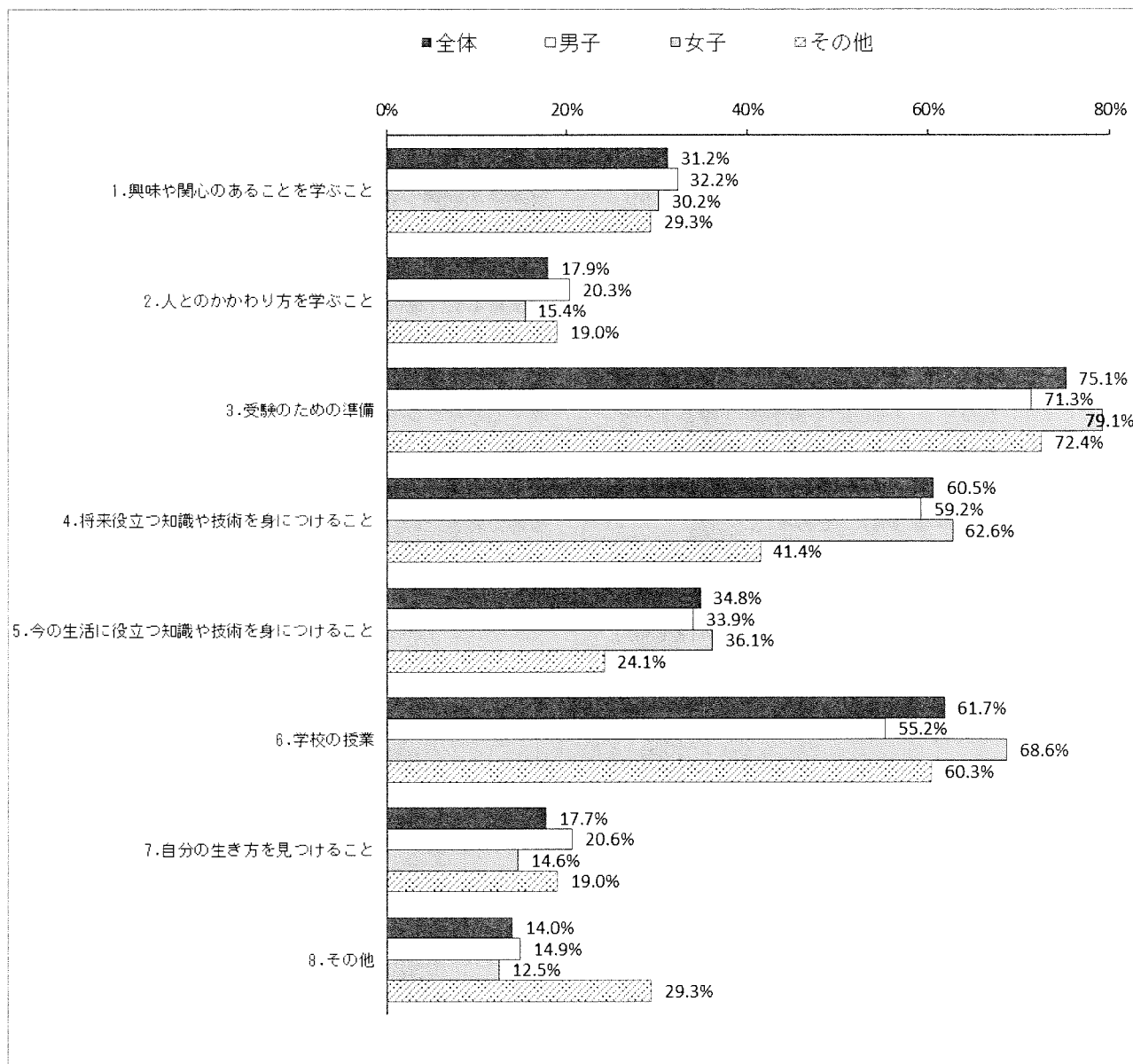
学習意欲の促進傾向を示す項目で、「まったくあてはまらない」が減少し、全体としては、「学習意欲」が高まってきているといえる。「宿題のしめきりを守り、先生のアドバイスに従いながら、自ら勉強に取り組む生徒」が増えている。一方で失敗を回避したいという気持ちも強くなってきており、新しいことを知ることにワクワクするような内発的意欲の伸びは大きくない。失敗することを回避するのではなく、失敗は成長のきっかけになるという考え方や、新しいことを知ることは楽しいといった内発的意欲を伸ばすよう教材や導入など授業の工夫や、学習を励ます評価の充実などに取り組む必要があるのではないだろうか。

前回と今回の比較をすると、「しめきりまでに、課題をすませる」、「家の人に言われなくても勉強する」で、「とてもよくあてはまる」が大きく増加した。その理由として、コロナ禍で、家庭学習の機会が増え、自身で時間管理する必要があったことも考えられる。しかし、家庭での過ごし方は、それぞれの家庭環境も異なっていることから、生徒一人ひとりの事情も含まれていることも心に留めておきたい。

13. 勉強という言葉から思い浮かべるイメージ

(1) 2021年調査結果及び考察

項目13:「勉強」という言葉からどのようなことをイメージしますか?思い浮かべたものすべてに○をつけてください。その他にイメージしたことがあったら 8.その他()のところに書いてください。



調査結果：

①「勉強という言葉から思い浮かぶイメージ」についての項目（縦軸）を選んだ生徒の割合が多かったのは、

- 1位 「3. 受験のための準備」 75.1%
- 2位 「6. 学校の授業」 61.7%
- 3位 「4. 将来役立つ知識や技術を身につけること」 60.5%
- 4位 「5. 今の生活に役立つ知識や技術を身につけること」 34.8%
- 5位 「1. 興味や関心のあることを学ぶこと」 31.2%
- 6位 「2. 人とかかわり方を学ぶこと」 17.9%
- 7位 「7. 自分の生き方を見つけること」 17.7%
- 8位 「8. その他」 14.0% の順である。

② 男女で比べると、男子を選んだ割合が、女子より大きかったのは「7. 自分の生き方を見つけること」6.0ポイント(20.6%>14.6%)、「2. 人とかかわり方を学ぶこと」4.9ポイント(20.3%>15.4%)、「8. その他」2.4ポイント(14.9%>12.5%)、「1. 興味や関心のあることを学ぶこと」2.0ポイント(32.2%>30.2%)の順である。

③ 女子の生徒を選んだ割合が、男子より大きかったのは「6. 学校の授業」13.4ポイント(55.2%<68.6%)、「3. 受験のための準備」7.8ポイント(71.3%<79.1%)、「4. 将来役立つ知識や技術を身につけること」3.4ポイント(59.2%<62.6%)、「5. 今の生活に役立つ知識や技術を身につけること」2.2ポイント(33.9%<36.1%)の順である。

④ 「勉強という言葉から思い浮かべるイメージ」の選択肢で「8. その他」を選んだ生徒の自由記述446名分(全体の14.0%)の内容の主なものとしては、学ぶ行為のこと・脳を発達させるもの・人として教養を身につけること・自分の可能性を増やすこと・社会に出て行く準備・やらなければならないもの・苦行・つまらないもの・強制されるもの・面倒くさい・嫌悪感・疲れる・競うもの・マイナスのイメージがある・「勉強」より「学習」が好き・将来、役に立たないのに無理矢理押しつけてくるものなどがあつた。

考察：

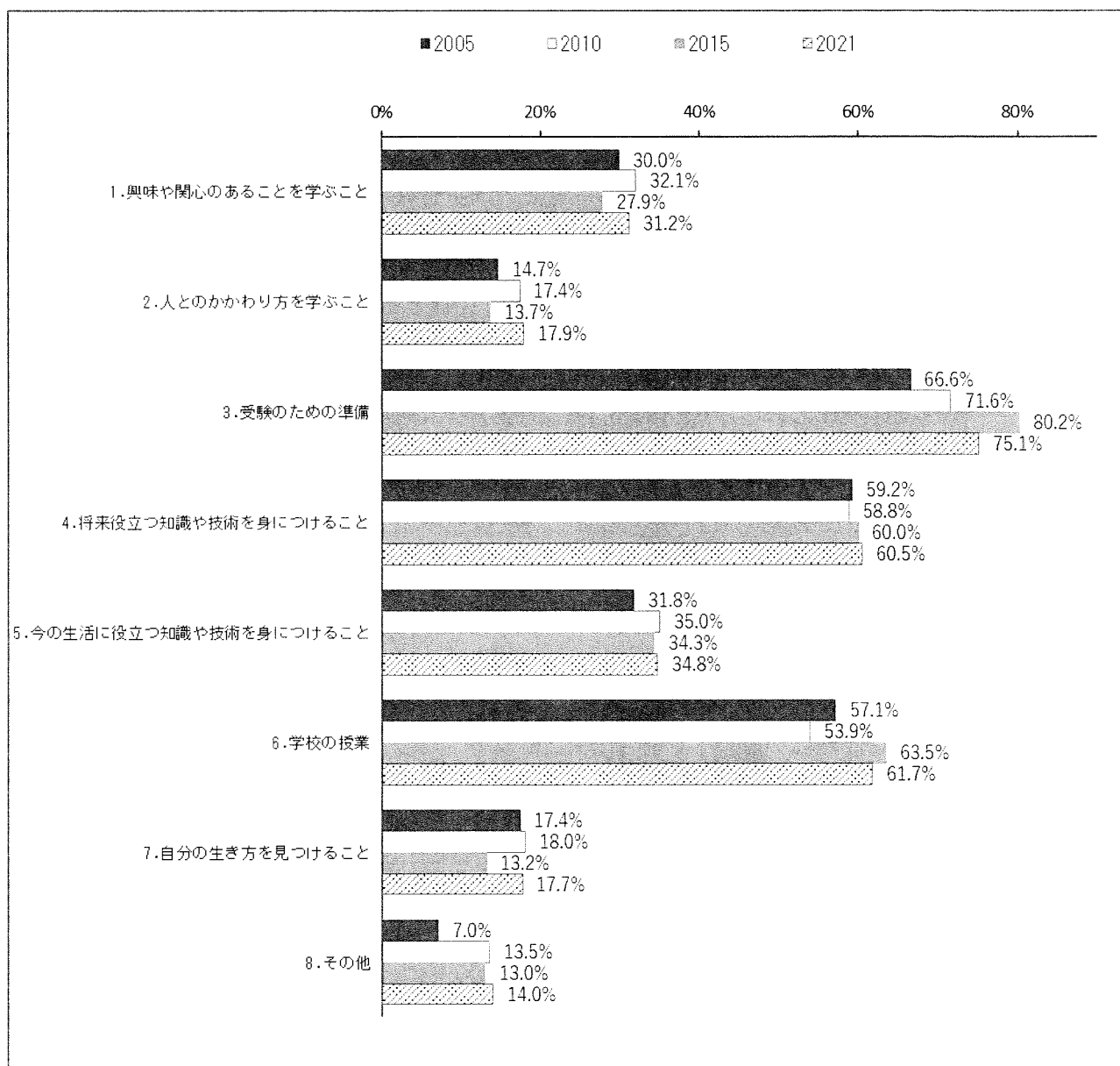
「勉強という言葉から思い浮かべるイメージ」として「受験のための準備」を4分の3(75.1%)の生徒が選び、次いで「学校の授業」「将来役立つ知識や技術を身につけること」について、6割を超える生徒が選択している。

中学3年生にとって「受験」は「勉強のイメージ」として大きな部分を占めている。特に、女子は男子に比べて、「学校の授業」では13.4ポイント、「受験のための準備」では7.8ポイント大きく、女子の方が、勉強＝学校＝受験準備ととらえる傾向が大きいことがわかる。しかし、それ以外の「将来役立つ知識や技術を身につけること」「今の生活に役立つ知識や技術を身につけること」も女子の方が多く、学校で今、そして将来「役立つ知識や技術をどう身につけるか」に関心を持つ傾向がある可能性がある。

一方、男子は、「受験のための準備」や「学校の授業」を選ぶ生徒の割合が最も高いものの、女子に比べて「自分の生き方を見つける」「人とかかわり方を学ぶ」を選ぶ割合が、少し高くなっていた。「生き方」「人とかかわり方」など社会の中で成長する自分にとって、必要なことを意識しているのかもしれない。

「その他」には、446名と多くの記入がされた。肯定的なものもあつたが、憤り、あきらめ、否定的・批判的な記述が多く見られた。これは、問いが「その他にイメージしたことがあつたら、8.その他の()のところに書いて下さい」となっていることから、書きやすかつたこと、また選択肢の中に、マイナスイメージの項目がなかったこともあり、否定的な記述が多く書かれたのではないだろうか。「『勉強』より『学習』の方が好き」という記述があつたが、「勉強」というと文字が示しているように「勉めて強いる」という側面が強調されてイメージされたのかもしれない。わたしたち大人は、「勉強」と「学習」を近い関係のことがらとして考えてきたが、もし、「学習のイメージは?」と尋ねたら、近年の授業の変化の中で、今日の「勉強」とは違う結果になるかもしれない。

(2) 2005年からの時系列比較及び考察



比較結果：

- ① 「勉強という言葉から思い浮かべるイメージ」として示された8つの選択肢(縦軸)は、今回「3. 受験のための準備」「6. 学校の授業」以外すべての項目で、数字の大小はあるものの、前回に比べて減っていない。
- ② 今回の調査でも一番多い割合を示す「3. 受験の準備」は、調査をはじめた2005年の66.6%から毎回増えてきたが、今回、はじめて、前回より5.1ポイント(80.2%→75.1%)減った。
- ③ 「6. 学校の授業」を選んだ生徒は6割を超え、2010年から2015年の5年間で約10ポイント増加(53.9%→63.5%)したが、今回、前回とほぼ同じ(63.5%→61.7%)だった。
- ④ 「4. 将来役立つ知識や技術を身につけること」は2005年から2021年まで割合に変化がない。

考察：

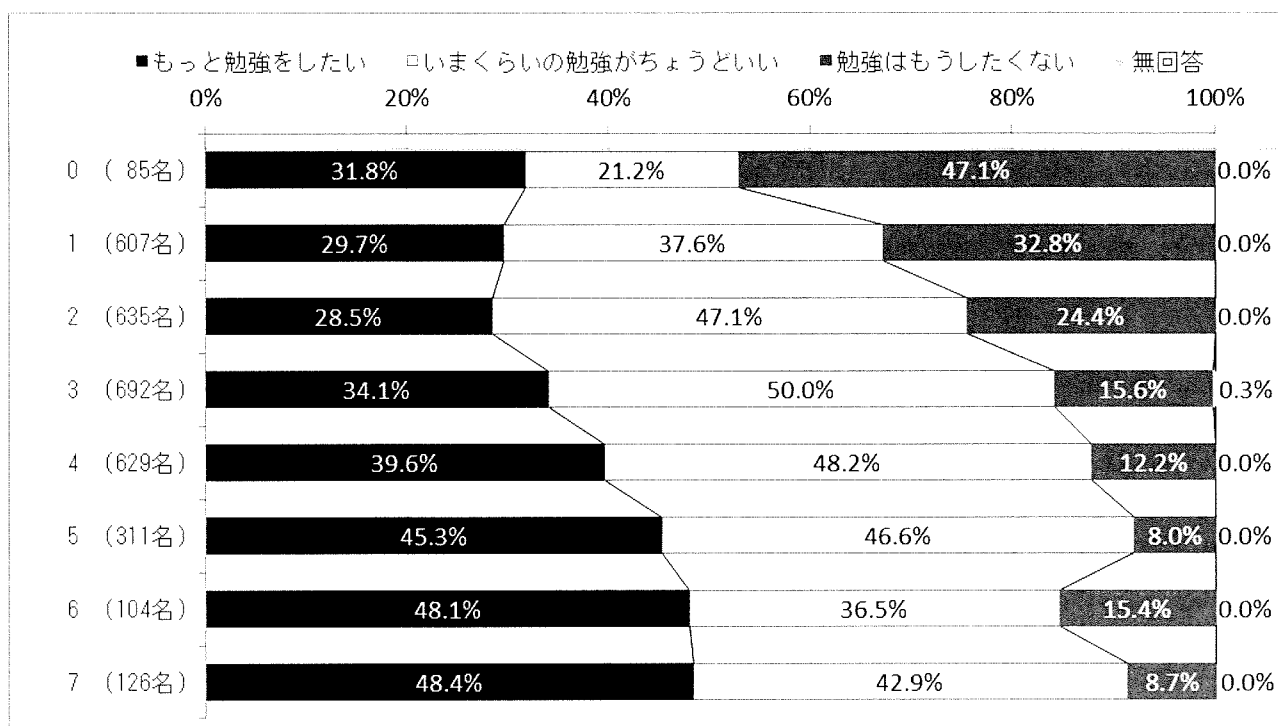
この項目を調べ始めた2005年から、「『勉強』という言葉から思い浮かべるイメージ」として、「受験のための準備」を選んだ生徒の割合が最も多く、前回は8割に達したが、今回、前回より5ポイント減った。このことは、何を示しているのだろうか。「勉強＝受験の準備」という見方が少し変わってきたのかもしれない。1980年台より、さまざまな高校進学に関係する改革が行われてきた。

特色ある高校の設置、学力検査のない選抜制度をとる高校、昼間の定時制、3部制の通信制高校など、高校の多様化がすすむ一方で、少子化の影響もあり、生徒の受験を取り巻く環境も大きく変わってきている。入試の選抜資料として、面接試験で「志望理由や高校で何がしたいのか」を問われることも、「受験のイメージ」に影響を与えている可能性もある。

また「学校の授業」が、2005年と2015年の2回、高くなっているのはなぜだろうか。2005年から2015年は、「ゆとり教育」から「脱ゆとり教育」へと変化があった時期にも重なり、この動きは、「受験の準備」と答えた生徒が増えていくのとは一致するようにもみえる。各教科の授業時間数や学習内容も増える中で、生徒は学校の授業を大切に、成績をあげることが、受験に直結すると考えていたのかもしれない。

勉強のイメージについて、「将来役立つ知識や技術を身につけること」を選んだ生徒の割合は、2005年より変化がなく、ほぼ6割を示している。またほぼ3割の生徒が選んだ「興味や関心のあることを学ぶこと」、「今の生活に役立つ知識や技術を身につけること」、そして、2割弱の生徒が選んだ「人とかかわり方を学ぶこと」、「自分の生き方を見つけること」もわずかな揺れを含みつつも、今回減っておらず、ほとんどの選択肢で増加している。生徒にとって、勉強＝学校の授業＝受験の準備といったステレオタイプの勉強イメージは、少しずつ過去のものになりつつあるのかもしれない。

(3) 「4. 勉強の意欲」と「13. 勉強のイメージの広さ」とのクロス集計



集計結果：

① 選択した勉強のイメージの個数(縦軸)と「勉強の意欲」(横軸)のクロス集計の結果である(*1)。個数が「1」から増えるにしたがって、「もっと勉強したい」と答えた生徒の割合が増加する傾向がみられる。

② 選択した個数が「5」までは、「もうしたくない」が減るが、選択した個数が「6」になると、「もうしたくない」が、8.0%から15.4%と7.4ポイント増加する。

③ 「勉強のイメージ」として用意した項目をひとつも選択しなかった「0」(85名)のうち、「8. その他」を選んだ生徒が82名おり、そのうち71名が自由記述で回答している。

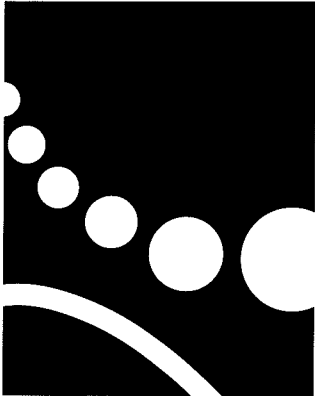
考察：

2010年の調査で、勉強に対するイメージの広さと学習意欲の関係について、「もっと勉強をしたい」生徒ほど、「勉強」という言葉に対して持つイメージの幅が広く、「勉強はしたくない」生徒ほど「勉強」という言葉に対して持つイメージの幅が狭いという傾向が見られると考察がされているが、今回も、おおむね同じような傾向がみられた。

「もっと勉強をしたい」と答えた生徒の割合は、前回に比べ、ほとんどの個数(縦軸)で増加した。「勉強のイメージ」を、より広く、そして、さまざまにとらえている生徒が増えたことを意味している。また「6つ選んだ生徒」と「7つ選んだ生徒」のほぼ半数が「もっと勉強をしたい」と答えている。一方「もうしたくない」と答えた生徒は、ひとつも選択しなかった「0」では半数近くいるが、その後、個数が増えるごとに急に減少し、「5つ」では8.0%になる。

項目をひとつも選ばなかった「0」生徒の内、「もっと勉強したい」と答えた生徒が31.8%で、「1つか2つ選んだ生徒」より多い理由として、「0」の生徒のほとんどが「その他」を選び、ほぼ9割(89.4%)を超える生徒が自由記述で回答していることから、「イメージがわからない」というより、「自分がイメージする言葉が見つからなかったから」ではないかと考えられる。

*1 集計にあたっては、○を付けたイメージの個数をカウントし、それをイメージの広さと捉えた。「8. その他」は除いた。



第4章

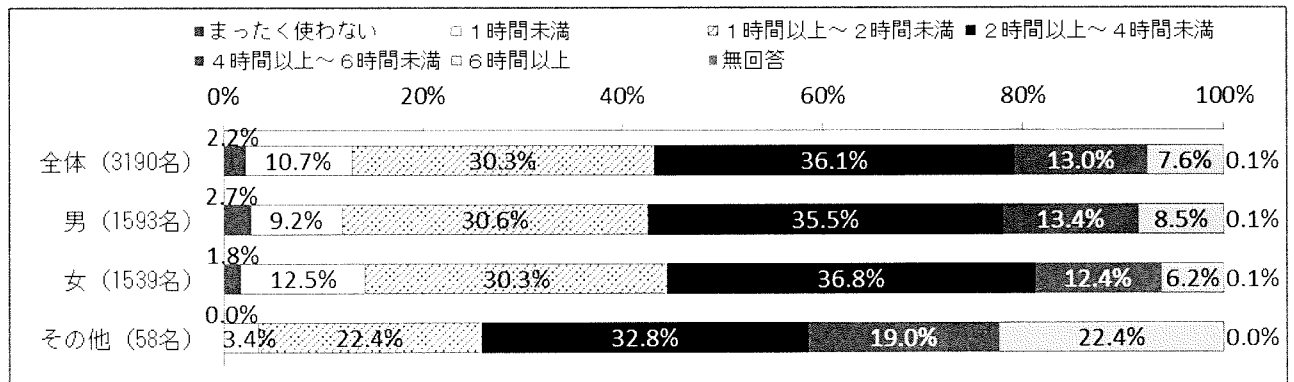
新設項目 1. SNSの利用時間と用途 2. 内省志向と謙遜

1-1. 「 SNS の利用時間 」 と 「 用途 」

(1) 2021 年の調査結果及び考察

項目 13 : スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレットなどの利用について質問します。

13A. 平日には、一日どのくらい使っていますか？ どれか一つに○をつけてください。



調査結果 :

① 「平日、一日にスマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレットを利用している時間」は、

- 1位 「2時間以上～4時間未満」 36.1%
- 2位 「1時間以上～2時間未満」 30.3%
- 3位 「4時間以上～6時間未満」 13.0%
- 4位 「1時間未満」 10.7%
- 5位 「6時間以上」 7.6%
- 6位 「まったく使わない」 2.2% の順である。

② 平日「まったく使わない」と答えた生徒は、わずか2.2%であり、ほとんどの生徒が使用している。そのうち、1日に「2時間以上」使っている生徒は、56.7% (36.1%+13.0%+7.6%) である。

③ 男女差は、「1時間未満」は女子が3.3ポイント(9.2%<12.5%)多く、「6時間以上」がわずかに男子が多い(8.5%>6.2%)が、他の時間はほぼ差がない。

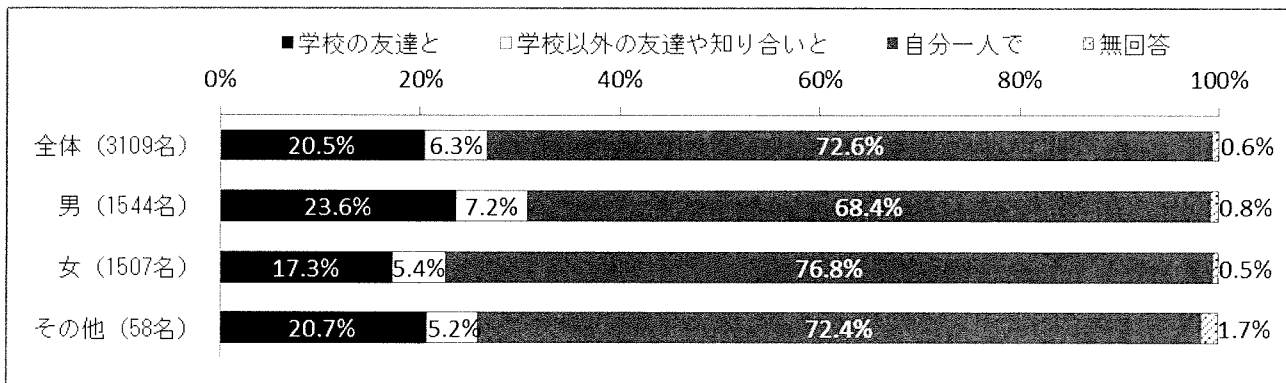
考察 :

「まったく使わない」生徒は、わずか2.2% (70名/3190名)で、ほぼ全員に近い生徒が、「平日、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレットを利用している」といえる。とくに、「1時間未満」はほぼ1割で、「2時間以上」使っている生徒は6割にせまる。「6時間以上」がわずかに男子が多いが、それほど男女差は見られない。

平日、学校以外の時間の多くを「スマートフォンや携帯電話等」に使っていることがわかる。「6時間以上」が7.6%というが、学校から帰宅したあとの時間を考えると、睡眠時間を削って使用したり、あるいは、食事や入浴しながら使用したりしていることなどが予想される。

13A. ※平日、使っている生徒について（Aの質問で、「2. 1時間未満」～「6. 6時間以上」に○をつけたみなさんへ）

① 誰と一番多く使っていますか？ どれか一つに○をつけてください。



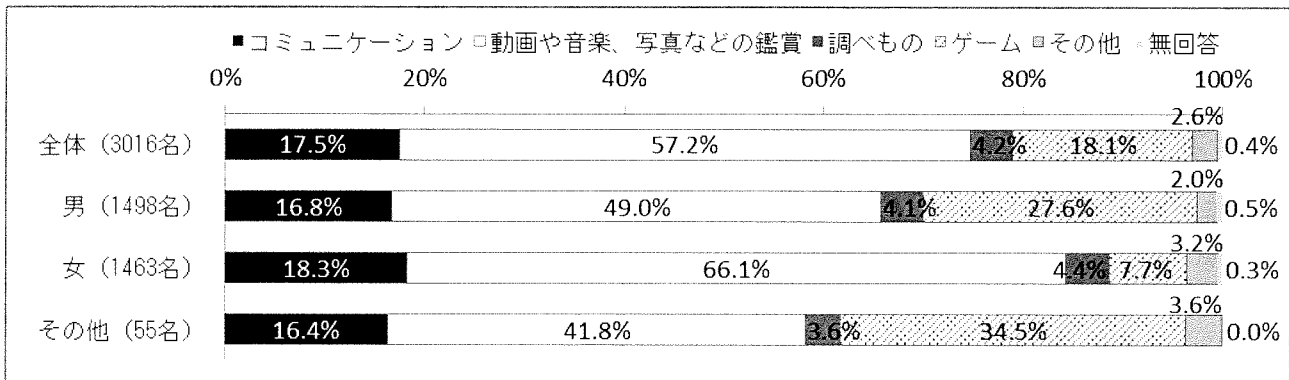
調査結果：

- ① 平日の、使用している相手についての割合は、「自分一人で」が72.6%、「学校の友達と」が20.5%、「学校以外の友達や知り合いと」が6.3%と答えている。
- ② 男子の方が「学校の友達と」が6.3ポイント(23.6% > 17.3%)と多く、その分「自分一人で」が少ない。

考察：

平日使用している相手は、「自分一人で」が7割と圧倒的に多く、「学校の友達と」の3.5倍、女子だけを比較すると4.4倍になる。スマートフォンや携帯など、コミュニケーションの機器と考えがちだが、「自分一人で」利用している生徒が多いことがわかる。

② どんなことに一番多く使っていますか？ どれか一つに○をつけてください。



調査結果：

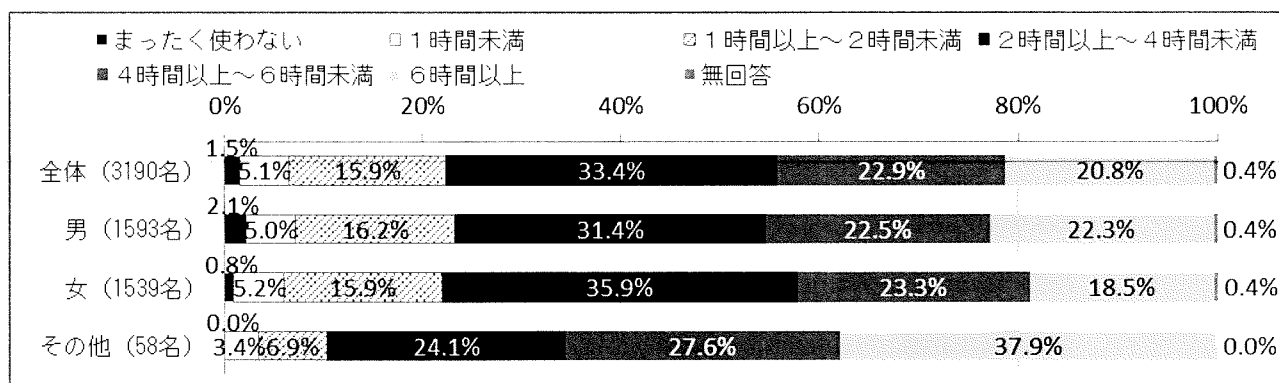
- ① 平日の用途は、「動画や音楽、写真などの鑑賞」がほぼ6割(57.2%)で、次いで「ゲーム(18.1%)」、「コミュニケーション(17.5%)」「調べもの(4.2%)」の順である。
- ② 男女差について、「コミュニケーション(16.8%≠18.3%)」「調べもの(4.1%≠4.4%)」は大きな差はないが、「動画や音楽、写真などの鑑賞」は、女子が17.1ポイント(49.0% < 66.1%)多く、「ゲーム」は男子が19.9ポイント(27.6% > 7.7%)多い。

考察：

平日の用途は、「動画や音楽、写真などの鑑賞」がほぼ6割で、次いで「ゲーム」が2割、「コミュニケーション」は2割弱で、「調べもの」は生徒にとって、身近な用途になっていない。「ゲーム」は、男子では、3割弱をしめ、男女での「ゲーム」の割合を比較すると、女子の3.6倍にあたる。

前の設問「誰と」と合わせて考えると、自分一人で、「動画や音楽、写真などの鑑賞」や「ゲーム」をする生徒が多いことが想像される。しかし、近年、様々なオンラインゲームなどが登場しており、「ゲーム」が「自分ひとり」かどうかは、この調査では明らかでない。

13B. 休日には、一日どのくらい使っていますか？ どれか一つに○をつけてください。



調査結果：

① 「休日、一日にスマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレットを利用している時間」は、

- 1位「2時間以上～4時間未満」 33.4%
- 2位「4時間以上～6時間未満」 22.9%
- 3位「6時間以上」 20.8%
- 4位「1時間以上～2時間未満」 15.9%
- 5位「1時間未満」 5.1%

6位「まったく使わない」 1.5% の順である。

② 休日「まったく使わない」と答えた生徒は、わずか1.5% (47人) で、平日同様に、「休日」もほとんどの生徒が使用している。1日に「2時間以上」使っている生徒は、77.1% (33.4%+22.9%+20.8%) と8割弱であり、特に「4時間～6時間未満」が平日に比べ9.9ポイント(平日13.0%<休日22.9%)、「6時間以上」が、平日に比べ、13.2ポイント(平日7.6%<休日20.8%) 増えている。

③ 男女差については、「6時間以上」が3.8ポイント(22.3%>18.5%) 男子が女子より多いが、他の時間はほぼ差がない。

考察：

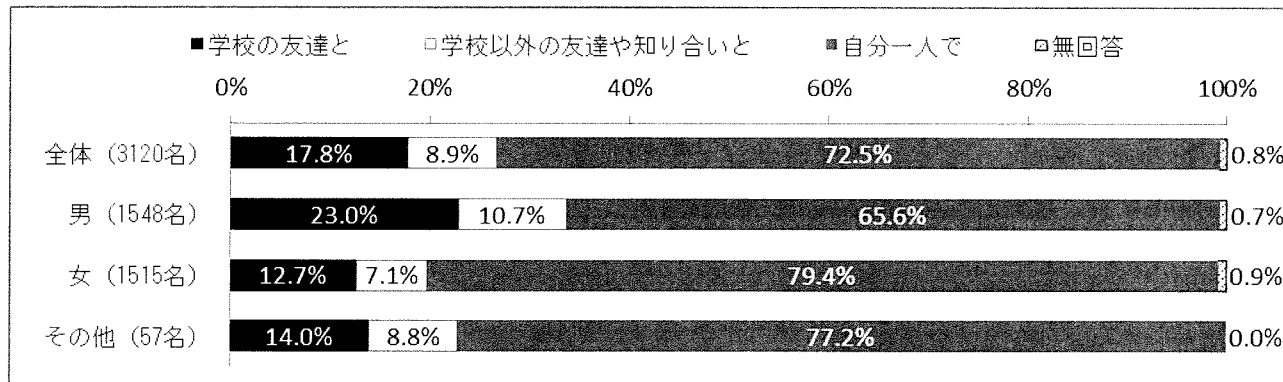
「まったく使わない」生徒は、わずか1.5%で、平日同様、ほぼ全員に近い生徒が、「スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレットを利用している」といえる。とくに、「2時間以上」使っている生徒は8割(77.1%=33.4%+22.9%+20.8%) にせまる。この割合は、平日の6割と比べても大きく伸びていることがわかる(p.64参照)。

休日は、平日に比べて、「利用時間が長い」傾向がある。また「まったく使わない」が平日70名に対し、休日は47名であることから、「機器を持っていない」ので「まったく使わない」のではなく、平日と休日で使い方を变えている生徒の存在がうかがえる。

それにしても、2割の生徒が「休日の6時間以上」利用しているが、どのような生活場面でどれくらいの時間利用しているのだろうか。今回の調査では明らかではないが、気になるところである。

13B. ※休日、使っている生徒について (Bの質問で、「2. 1時間未満」～「6. 6時間以上」に○をつけたみなさんへ)

① 誰と一番多く使っていますか？ どれか一つに○をつけてください。



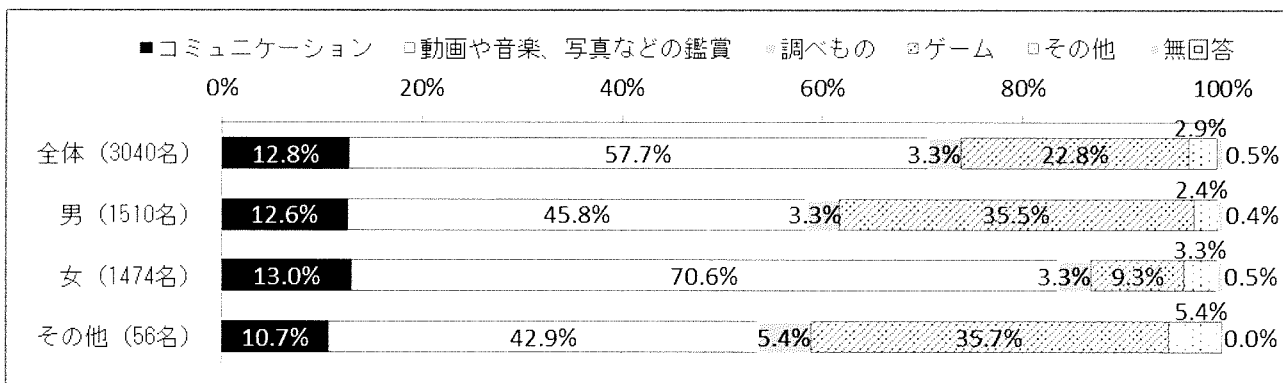
調査結果：

- ① 休日利用の相手については、「自分一人で」が7割を超え(72.5%)、「学校の友達と」が17.8%、「学校以外の友達や知り合いと」が8.9%と答えている。
- ② 男子の方が、「学校の友達と」が10.3ポイント(23.0%>12.7%)、「学校以外の友達や知り合いと」が3.6ポイント(10.7%>7.1%)と高く、3割(23.0%+10.7%)の生徒が「友達」と利用している。

考察：

「自分一人で」を選んだ生徒の割合が平日と同様ほぼ7割を超える。また「友達」と答えた男子の割合は3割で、女子より13.8ポイント(23.0%+10.7%>12.7%+7.1%)高く、また平日と比べても約2.9ポイント(平日23.6%+7.2%<休日23.0%+10.7%)高い。このことは、休日に、男子の方が「友達」と連絡をとっており、部活、習い事などの関係が「学校外」に広がっている可能性を示唆している。

② どんなことに一番多く使っていますか？ どれか一つに○をつけてください。



調査結果：

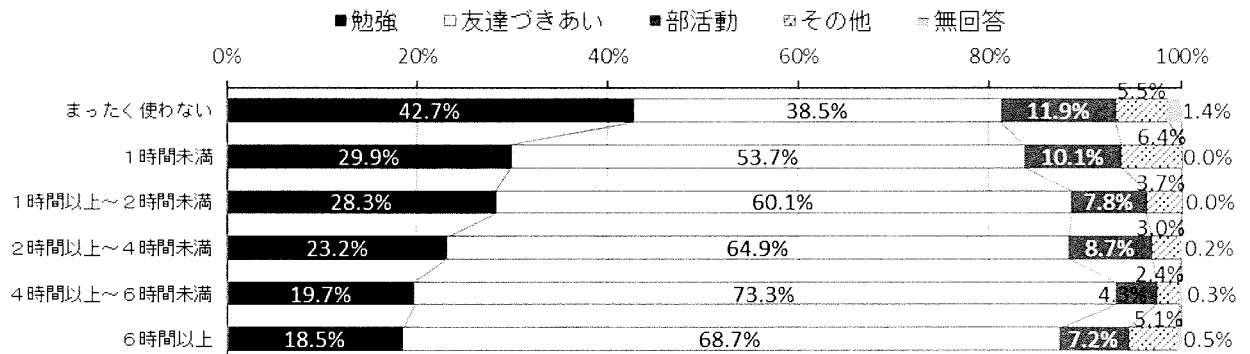
- ① 休日の用途は、「動画や音楽、写真などの鑑賞」がほぼ6割(57.7%)で、「ゲーム(22.8%)」、「コミュニケーション(12.8%)」「調べもの(3.3%)」の順である。
- ② 男女差は、「コミュニケーション(12.6%≒13.0%)」「調べもの(3.3%≒3.3%)」はほぼ同じだが、「動画や音楽、写真などの鑑賞」は、女子が24.8ポイント(45.8%<70.6%)多く、「ゲーム」は男子が26.2ポイント(35.5%>9.3%)多い。

考察：

休日の用途は、平日に比べ、「コミュニケーション」が4.7ポイント(平日17.5%>休日12.8%)減り、その分「ゲーム」が増加している。特に男子は「ゲーム」を利用する生徒の割合が7.9ポイント(平日27.6%<休日35.5%)増加し、女子は「動画や音楽、写真などの鑑賞」を利用する生徒の割合が4.5ポイント(平日66.1%<休日70.6%)増加している。平日より自由に過ごせる時間が多いためと考えられる。

1-2. SNS 利用とのクロス集計

(1) 「13A. SNS 平日利用時間」と「9. 一番大切に思うもの」のクロス集計



調査結果：

- ① 「SNS 平日利用時間」と「9. 一番大切に思うもの」のクロス集計である。「まったく使わない」と答えた生徒の「学校の中で、一番大切に思うもの」は、「勉強」が4割強(42.7%)、「友達づきあい」が4割弱(38.5%)、「部活動」1割強(11.9%)、「その他」が5.5%の順である。
- ② 利用時間が増えるにつれ、「勉強」は減少し「6時間以上」では2割弱(18.5%)、「まったく使わない」と比べると24.2ポイント減少(42.7%>18.5%)する。
- ③ 「友達づきあい」は利用時間が長くなるほど増加し「4時間～6時間未満」がピークで7割(73.3%)を示し、「まったく使わない」と比べ、34.8ポイント(38.5% < 73.3%)とほぼ2倍になっている。
- ④ 「部活動」は利用時間が長くなるほど減る傾向があり、一番減少する「4時間～6時間未満」では、4.3%である。
- ⑤ 利用時間が「4時間～6時間未満」と「6時間以上」を比べると、それまで増えてきた「友だちづきあい」が4.6ポイント(73.3%→68.7%)減少し、また減少してきた「部活動」が2.9ポイント(4.3%→7.2%)増加し、それまでの傾向と少し異なる。

考察：

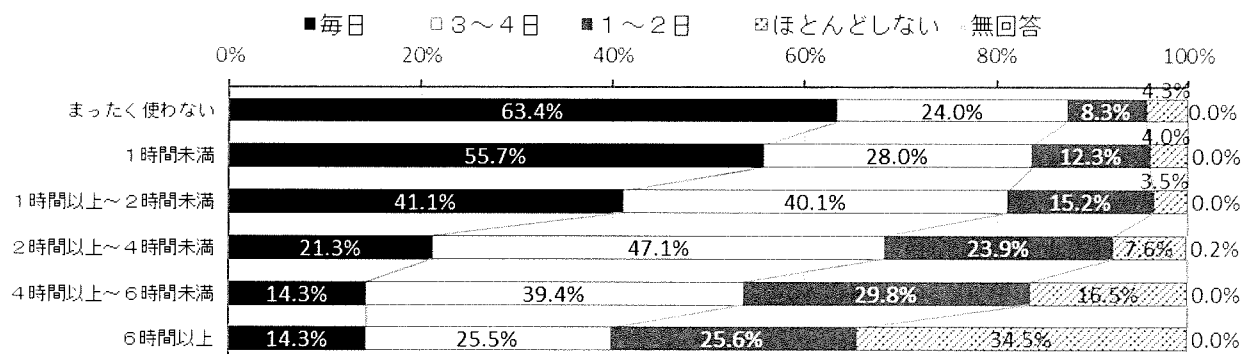
平日の利用時間が長くなるほど、「勉強」を選んだ生徒は減少する。このことは、帰宅後の時間を考えれば、「スマートフォン等」の利用時間が長くなれば、勉強に費やす時間も限られることは自明である。「勉強を大切だと考える生徒は、勉強時間も長くなる」と仮定すれば、当たり前かもしれない。利用時間が長くなるほど、「友達づきあい」の割合は増加し、「4時間以上6時間未満」では

73.3%と最大値を示す。利用時間が長くなるほど「友達づきあい」を多く選ぶ傾向がみられた。

前回の調査では、「学校の中で一番大切なもの」の「友達づきあい」が減ってきた要因として、「スマートフォン等」を使うことで、対面でなくても「学校の外で友達とつながれる」からではないかと考えていた。しかし、結果は違っていた。数字を素直にみれば、「利用時間が長いほど『友達』を大切に思う生徒が多い」ということになるのだろうが、「勉強がきらい」「部活にはいっていない」生徒が、結果的に「友達」と答えているという可能性もある。また「勉強」しながら、そばにスマートフォンを置き、ときどき入ってくるメールに返信したり、「動画などを鑑賞している」といっても、一人で画面を見つめている生徒もいれば、話題についていくために、つけておいて、ときどきチェックする、そんなつき合い程度で見ている生徒もいるかもしれない。「何かしながら」ということになれば、利用時間は当然長くなるだろう。そして、ここで使っている「ことば」についても、むずかしい面を含んでいる。たとえば「コミュニケーション」をどう解釈するか。「相手と話をする」ということか。対面でないものも含んでいるのか。ここでいう「相手」は誰なのか、顔見知りのある特定の人物なのか、そこに参加している不特定の人物を想定しているのか、また、「ゲーム」の中に「コミュニケーション型」はどの程度含まれているのか、そこでおこっていることを「コミュニケーション」といいいいのかなど、次々と疑問がわいてくる。「おとな」がイメージした「ことば」の意味と「子どもたち」では違う可能性も含んでいるかもしれない。

(2) 「13A. SNS 平日の利用時間」と「古典的な学習観に基づく項目(1. 勉強時間・2. 理解・3. 自信・4. 意欲・5. 集中)」のクロス集計

① 1. 勉強時間



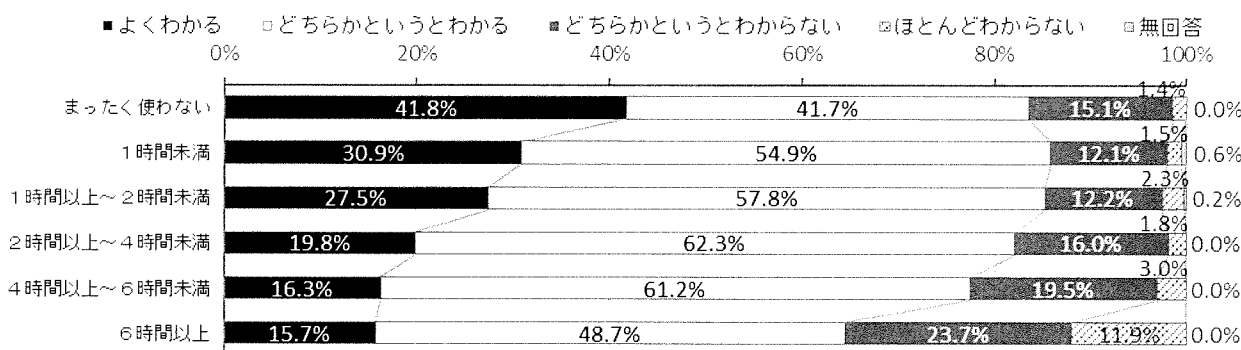
調査結果:

- ① SNS 平日利用時間(縦軸)と「平日の帰宅後勉強する日数(横軸)」のクロス集計である。平日 SNS を「まったく使わない」生徒は、「毎日勉強する」が6割強(63.4%)、「3~4日」が4人にひとり(24.0%)、「1~2日(8.3%)」、「ほとんどしない(4.3%)」の順である。
- ② 利用時間が増えるにつれ、勉強する日数は、ほぼすべての選択肢(横軸)で減少する。特に「6時間以上」では「ほとんどしない」が一番多く、「まったく使わない」の8倍(4.3%→34.5%)である。
- ③ 「ほとんど(勉強)しない」は、「6時間以上」では34.5%で、それまでと比べて、急に増加する。

考察:

平日「まったく使わない」生徒の6割強が「毎日勉強する」習慣を持っているのに対し、平日の利用時間が長くなるほど、「毎日」は急激に減少し、「平日の勉強日数」も減っていく。「6時間以上」利用する生徒の14.3%が「毎日勉強する習慣」を持っているものの、3分の1(34.5%)が「ほとんどしない」としている。「毎日」がどれくらいの時間なのかは不明だが、生徒の帰宅後の時間を考え、過ごし方を想像すれば、「利用時間が長いほど、勉強の日数が減少すること」は当然だろう。家庭での利用時間のルールがあるなど時間が制限されていることも考えられるが、この調査からは明らかでない。

② 2. 勉強の理解



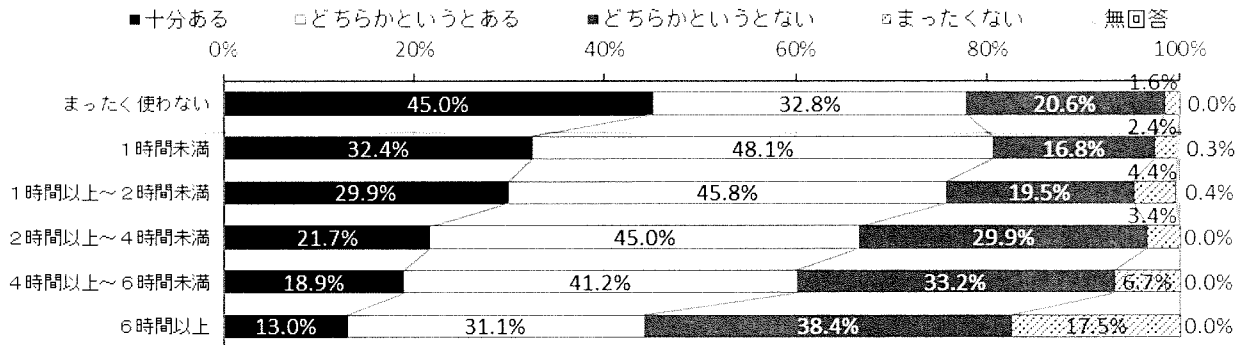
調査結果:

- ① SNS 平日利用時間と「勉強の理解」のクロス集計である。利用時間が増えるにつれ、「わかる(よくわかる+どちらかというわかる)」は減少し、特に「6時間以上」では、「わからない(どちらかというわからない(23.7%)+「ほとんどわからない(11.9%)」が、3人にひとりになる。

考察:

平日「まったく使わない」とした生徒の4割強が「よくわかる」としている一方、「6時間以上」では「よくわかる」が15.7%で、「わからない」と答えた生徒は大きく増加し、3人にひとりになる。このことは、SNSの利用時間が「勉強の理解」に大きな影響をもたらしている可能性を示唆しているのかもしれない。

③ 3. 勉強について行く自信



調査結果：

① SNS 平日利用時間と「勉強について行く自信」のクロス集計では、平日 SNS を「まったく使わない」生徒のうち、「(自信が) 十分ある」が 45.0% でほぼ半数にせまる。利用時間が増えると、「(自信が) 十分ある」は減少し、「6 時間以上」では 13.0% である。

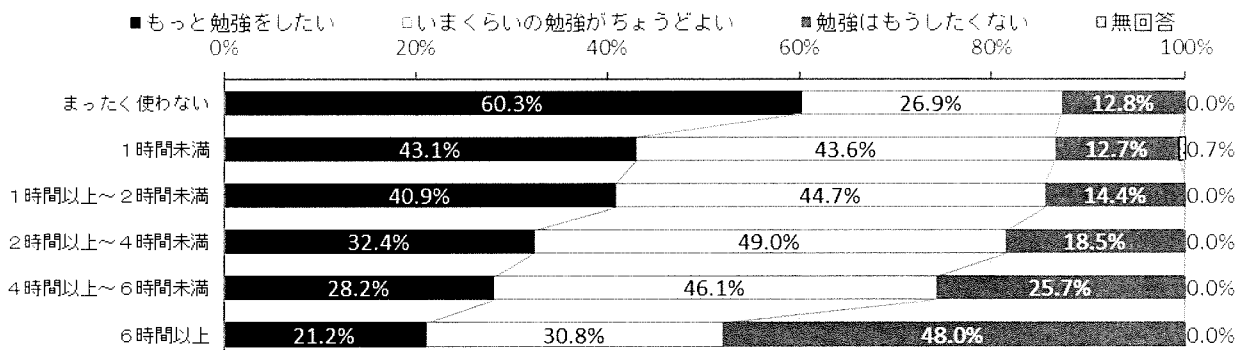
② 「1 時間以上～2 時間未満」と「2 時間以上～4 時間未満」の「(自信が) ない (どちらかというところない+まったくくない)」を比べると、9.4 ポイント増加 (19.5% + 4.4% → 29.9% + 3.4%) する。

考察：

「1 時間未満」で「自信がある(十分ある+どちらかというところ)」と答えた生徒の割合はほぼ 8 割(32.4% + 48.1%)を示すが、特に「6 時間以上」では「十分ある」が 13.0% だが、「ない(どちらかというところない+まったくくない)」が 55.9% (38.4% + 17.5%) と半分以上を占める。

「6 時間以上」利用している生徒が、どのように利用しているのか、この調査からは読み取ることができないが、その要因についてもさぐる必要がある。

④ 4. 勉強の意欲



調査結果：

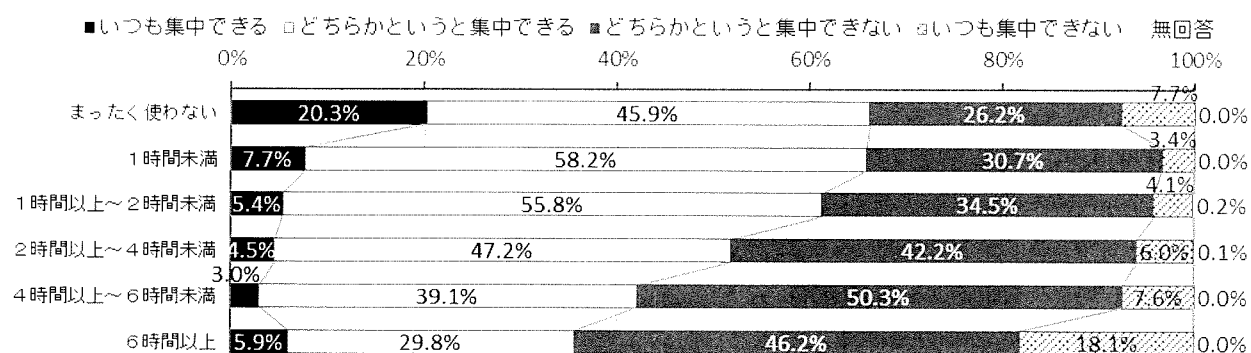
① SNS 平日利用時間と「勉強の意欲」のクロス集計である。平日「まったく使わない」生徒は、「もっと勉強したい」が 6 割を超える (60.3%) が、利用時間が長くなるにつれて減少し、「1 時間以上～2 時間未満」を超えると急激に減少 (40.9% → 21.2%) し、「もうしたくない」が増加 (14.4% → 48.0%) する。

② 「6 時間以上」ではほぼ半数 (48.0%) の生徒が「勉強はもうしたくない」と答えている。

考察：

平日「まったく使わない」とした生徒のほぼ 6 割が「もっと勉強したい」と答え、「6 時間以上」のほぼ半数が「もうしたくない」と答えている。「スマートフォンなど」を一日 6 時間使っている生徒は、なにかしたいことが別にあるのか、ただ単に勉強に関心がないのか、その要因は、この調査からは明らかではないが、6 時間以上の利用が、勉強への意欲をなくさせていることは確かである。

⑤ 5. 勉強への集中度



調査結果：

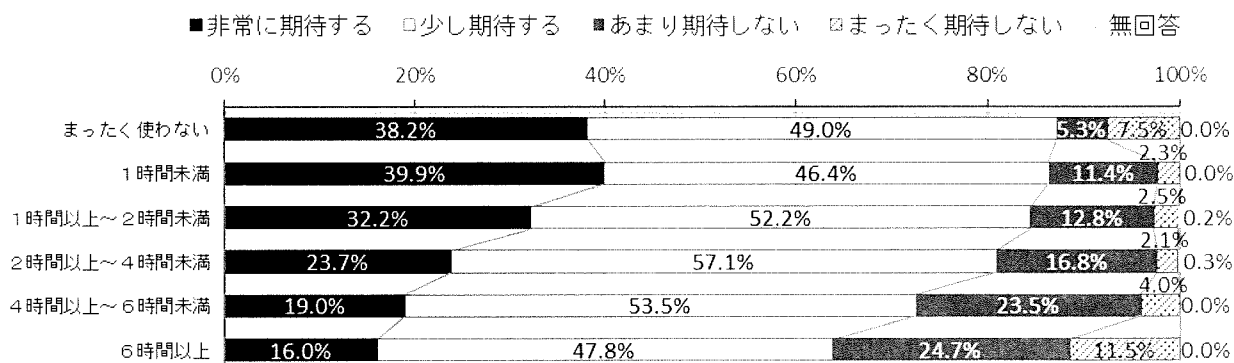
- ① SNS 平日利用時間と「5. 勉強への集中度」のクロス集計。「集中できる（いつもできる＋どちらかというとできる）」は「まったく使わない」と「1時間未満」を選んだ生徒の割合はほぼ同じ（「まったく使わない(66.2%≒65.9%)」)だが、「いつも集中できる」は、20.3%→7.7%と大きく減少する。
- ② 「2時間以上～4時間未満」で「集中できる（「いつも集中できる(4.5%)＋どちらかというとできる(47.2%)」)と答えた生徒が51.7%、「集中できない（どちらかというとできる(42.2%)＋できない(6.0%)）」が48.2%とほぼ同数になり、「4時間以上」では、「集中できない」が逆転する。
- ③ 平日「まったく使わない」生徒の2割（20.3%）が「いつも集中できる」としているが、「6時間以上」では、ほぼ2割（18.1%）が「いつも集中できない」としている。

考察：

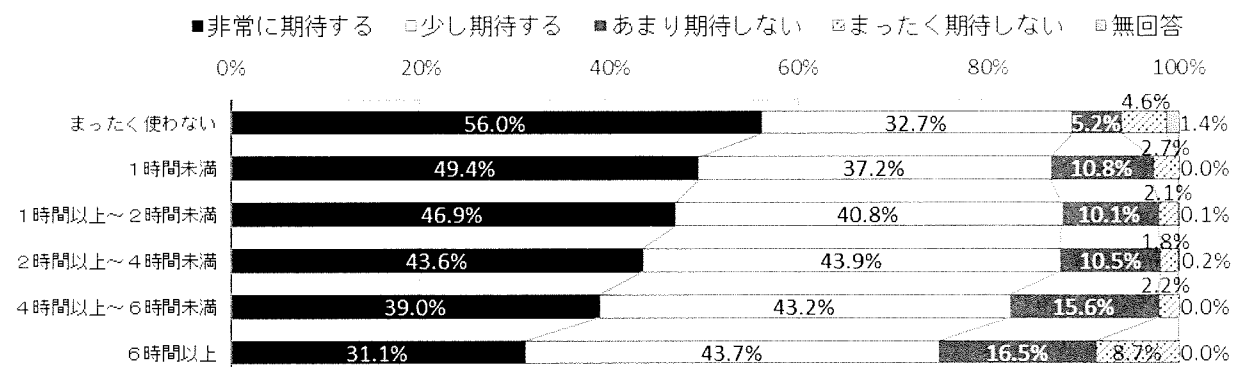
平日「4時間以上（4時間以上～6時間未満＋6時間以上）」になると、半数以上が「集中できない」と答えている。特に「6時間以上」の約2割が「いつも集中できない」としていることは、何にどう利用しているかは不明だが、長時間の利用で睡眠不足など生活のリズムが崩れ、授業中眠くなるなどの影響があるのではないかと考えられる。

(3) 「13A. SNS 平日の利用時間」と「11A. 期待する授業」のクロス集計

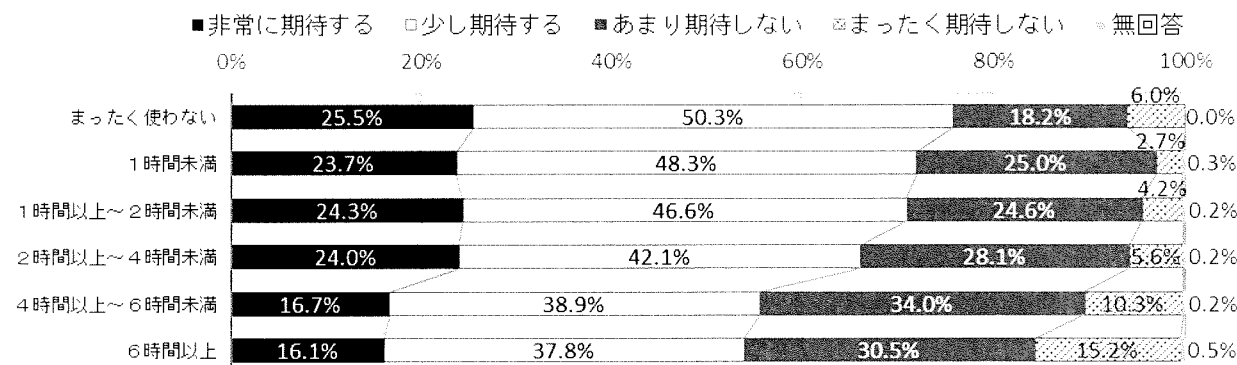
① 11A. けじめがあって、集中できる授業



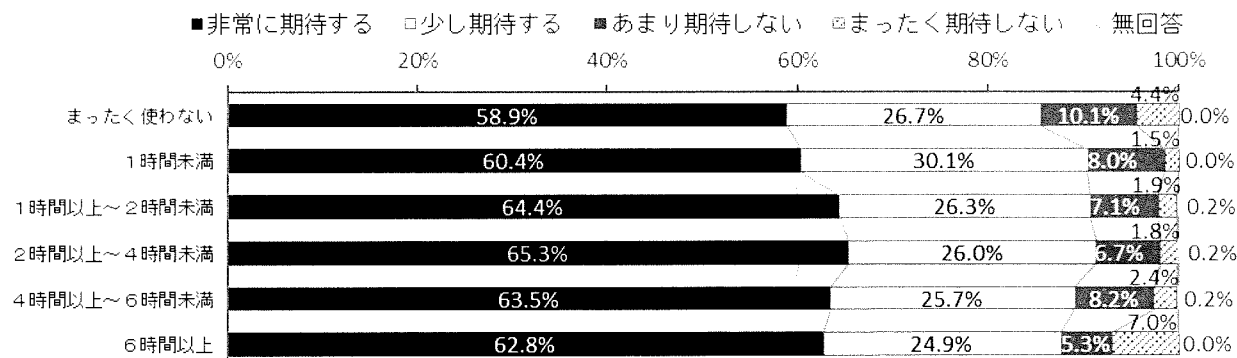
② 11B. 教科書の内容をきちんと教えてくれる授業



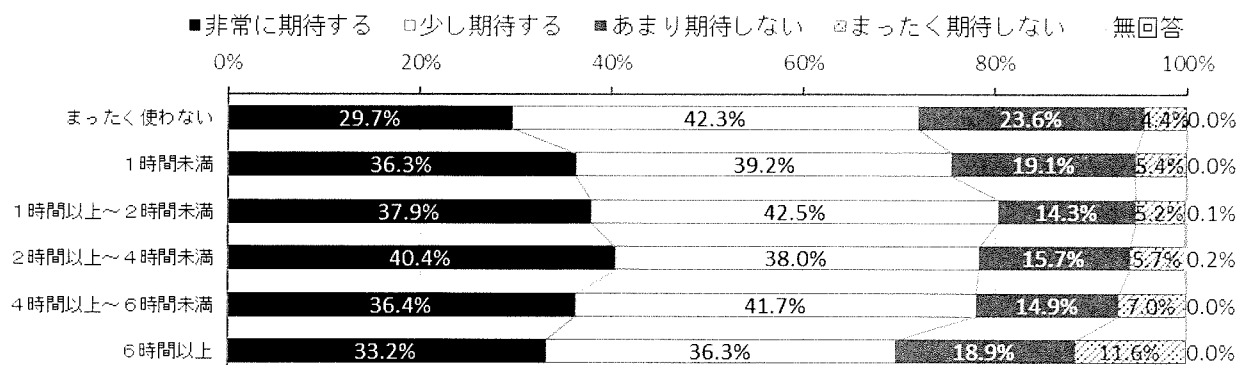
③ 11C. 自分たちで課題を見つけ、考えたり調べたりする授業



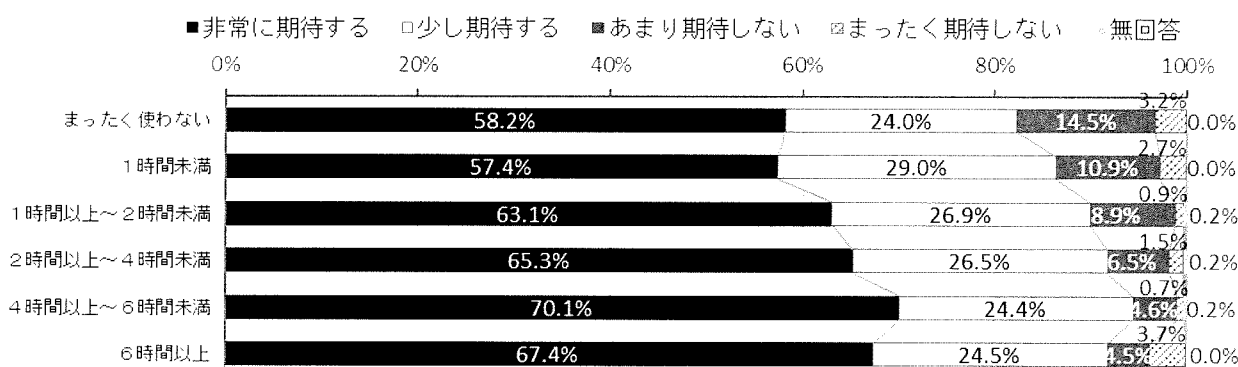
④ 11D. 自分の興味や関心のあることを学べる授業



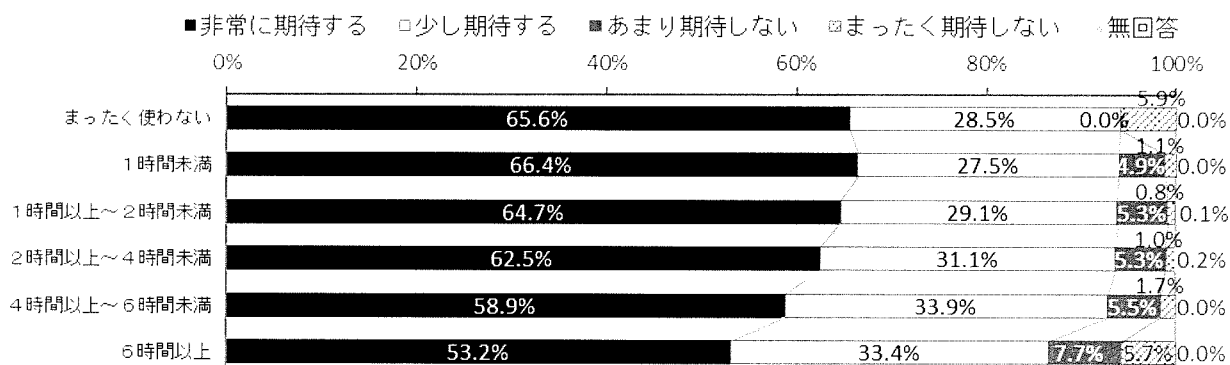
⑤ 11E. グループで考えたり話し合ったりする授業



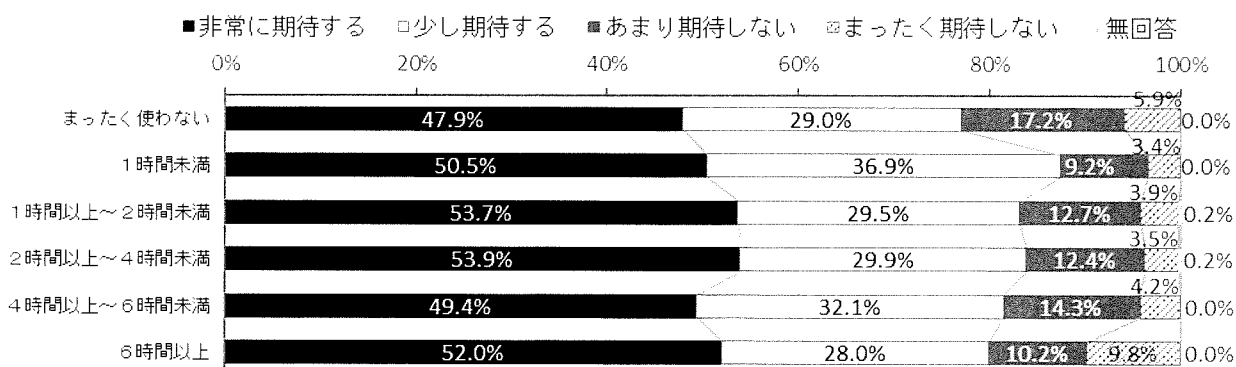
⑥ 11F. 楽しくリラックスした雰囲気の授業



⑦ 11G. 将来役立つ知識や技術を身につけられる授業



⑧ 11H. 学校の外で見学・体験できる授業



調査結果：

① スマートフォンや携帯など SNS を「平日利用している時間(縦軸)」と「授業の期待度(横軸)」のクロス集計である。

「利用時間」が長いほど、「期待する(非常に期待する+期待する)」と答えた生徒の割合の減る傾向があるのは、

「A. けじめがあって集中できる授業」

「B. 教科書の内容をきちんと教えてくれる授業」

「C. 自分たちで課題を見つけ、考えたり調べたりする授業」である。特に「B. 教科書の内容をきちんと教えてくれる授業」は減少する強い傾向がみられる。

「期待する」と答えた生徒の割合に注目すると、「B. 教科書の内容をきちんと教えてくれる授業」については、「まったく使わない」では、「非常に期待する(56.0%)」と「少し期待する(32.7%)」を合わせると9割近く、「6時間以上」でも74.8%(31.1%+43.7%)と4分の3を占め、高い割合を示す。

また「C. 自分たちで課題を見つけ、考えたり調べたりする授業」については、「まったく使わない」では「非常に期待する」は25.5%とほかの授業に比べると少ないが、「少し期待する(50.3%)」と合わせると75.8%になる。

② 「利用時間」と「期待する(非常に期待する+期待する)」の関係があまり変化しないのは、

「D. 自分の興味や関心のあることを学べる授業」

「G. 将来役立つ知識や技術を身につけられる授業」

「H. 学校の外で見学・体験できる授業」である。

③ 「G. 将来役立つ知識や技術を身につけられる授業」では、「非常に期待する」は6割を超え、「期待する(非常に期待する+少し期待する)」の平均も92.4%と高くなっている。また「D. 自分の興味や関心のあることを学べる授業」でも、「期待する(非常に期待する+少し期待する)」を選んだ生徒が8割(85.6%)を超える。

③ 「E. グループで考えたり話し合ったりする授業」は利用時間によってそれほど変化しないが、他のタイプの授業と比べると、一度増加し、そのあと減少するように見える。「非常に期待する」に注目すると、「まったく使わない」が29.7%で、「6時間以上」が33.2%と「まったく使わない」生徒が一番少ない。

④ 「F. 楽しくリラックスした雰囲気のある授業」は利用時間が長くなるほど、わずかだが「期待する」が増える。

考察：

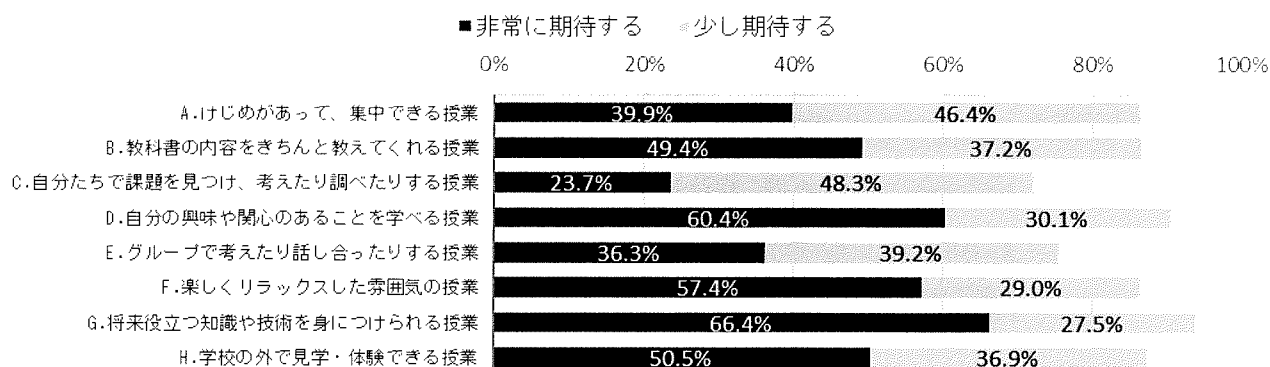
「教科書の内容をきちんと教えてくれる授業」や「けじめがあって集中できる授業」は利用時間が増えると、急激に「生徒の期待」が大きく減少していくが、「自分の興味や関心のあることを学べる授業」や「学校の外で見学・体験できる授業」は、利用時間による変化がない。しかも「将来役立つ知識や技術を身につけられる授業」「自分の興味関心のあることを学べる授業」の「期待する(非常に期待する+少し期待する)」は高い数値を示している。

利用時間が増えても「期待する」が減少しない「自分の興味や関心のあることを学べる授業」、「楽しくリラックスする授業」は、別の見方をすれば、利用時間が増えると「授業に期待する」と答える生徒の割合が減少する中で、この2つの形が「授業へのモチベーションを支えることができる授業の形」であるともいえる。

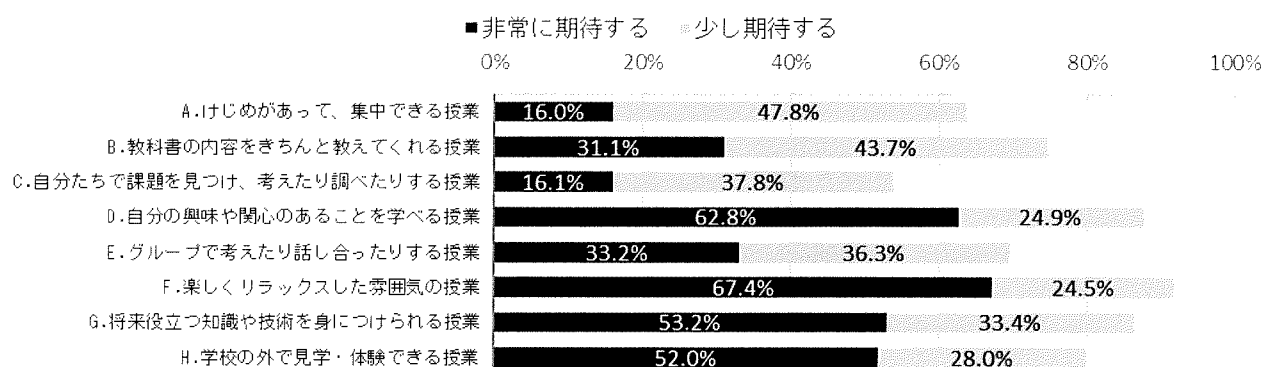
また「グループで考えたり話し合ったりする授業」の「非常に期待する」に注目すると、他の授業の形と違い「まったく使わない」生徒が、29.7%と一番少ない割合を示している。これは、SNSをまったく利用しない生徒の中に、友達と考えたり話し合ったりすることに興味を持たない生徒が含まれていることを示しているのかもしれない。

(4)13A. SNS 利用時間が「1 時間未満」と「6 時間以上」について、「期待する授業」の割合

① 13A. SNS 利用時間が「1 時間未満」



② 13A. SNS の利用時間が「6 時間以上」



調査結果：

① 「期待する(非常に期待する+どちらかという期待する)」の上位3つは、

利用時間が「1 時間未満」は、

1 位「G. 将来役立つ知識や技術を身につけられる授業 (93.9%)」、2 位「D. 自分の興味や関心のあることを学べる授業 (90.5%)」、3 位「H. 学校の外で見学・体験できる授業 (87.4%)」である。

「使用時間が 6 時間以上」では、

1 位「F. 楽しくリラックスした雰囲気の授業 (91.9%)」、2 位「D. 自分の興味や関心のあることを学べる授業 (87.7%)」、3 位「G. 将来役立つ知識や技術を身につけられる授業 (86.6%)」である。

② 「C. 課題を見つけ、考えたり調べたりする授業」は、「使用時間が 1 時間未満 (72.0%)」「6 時間以上 (53.9%)」ともに 7 位である。

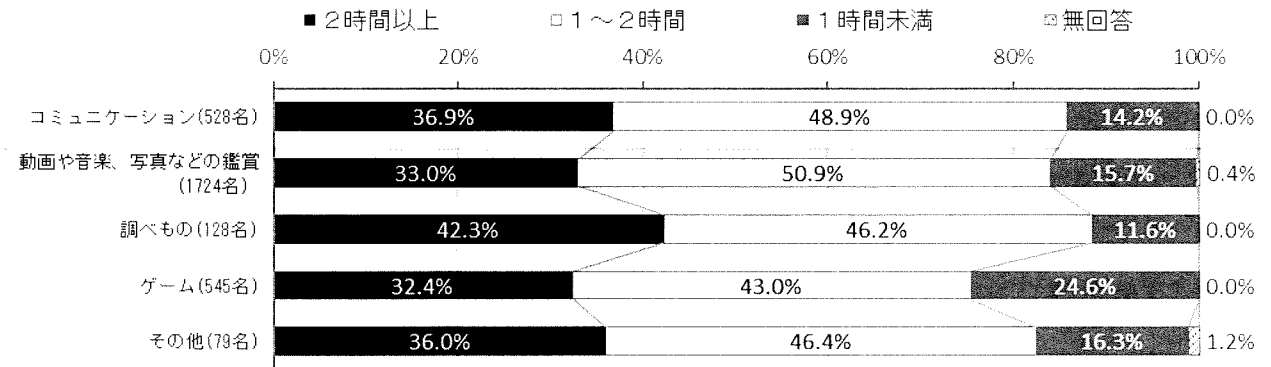
③ 平日のスマートフォンの使用時間が「1 時間未満」では、8 つすべての授業の形で「期待する」が 7 割を超え、特に「D. 自分の興味や関心のあることを学べる授業」と「G. 将来役立つ知識や技術を身につけられる授業」は 9

割を超える。一方、「6 時間以上」では、7 割以上が 5 つ、9 割を超えるのは「F. 楽しくリラックスした雰囲気の授業」のみである。

考察：

平日の「1 時間未満」利用している生徒の方が、「6 時間以上」使っている生徒より、すべての「授業の形」で「期待」が高いといえる。「1 時間未満」の生徒が、「将来役立つ知識や技術が身につけられ、自分の興味関心のあることを学び、学校外での見学や体験もできる授業」を求め、「6 時間以上」の生徒は、「楽しくリラックスした雰囲気、自分の興味関心のあること、また将来役立つ知識や技術を身につけられる授業」を期待している。利用時間の違いに注目すれば、「1 時間未満」は、「6 時間以上」の生徒と比べて、「けじめがあって集中でき、内容をきちんと教えてくれる授業」への期待が大きい。いずれにせよ、利用時間にかかわらず、多くの生徒が「授業」に期待を寄せていることがわかる。

(5) 「13A②. 平日の SNS 用途」と「1B. 平日勉強する時間」のクロス集計



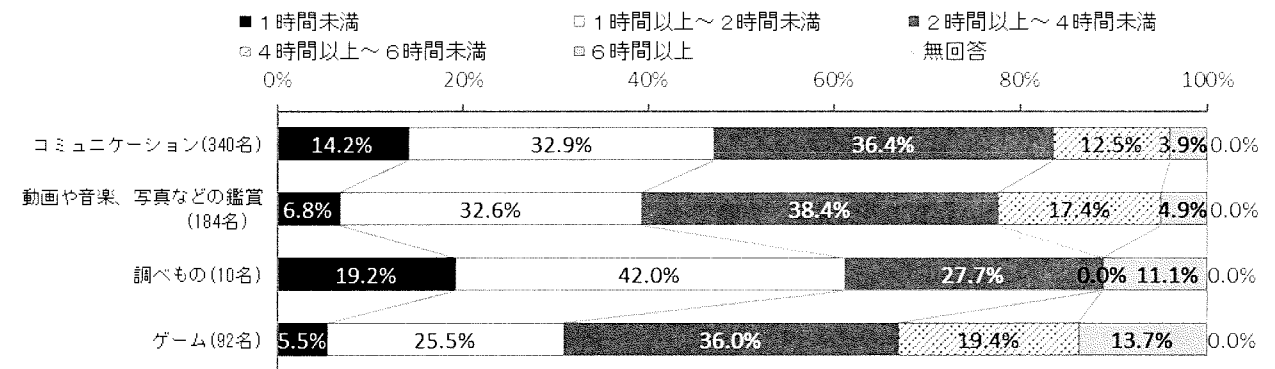
調査結果：

- ① 平日の用途と勉強時間についてのクロス集計である。「コミュニケーション」では、「1～2時間」がほぼ半数(48.9%)で、次いで「2時間以上」が36.9%、「1時間未満」が14.2%となっている。他の選択肢も、その順番は変わらない。
- ② 用途の選択肢(縦軸)すべて、「1時間以上(2時間以上+1～2時間)」が75%を超える。
- ③ 「調べもの」は「2時間以上」が4割強(42.3%)と他の選択肢より大きく、「ゲーム」は、4人にひとり(24.6%)が「1時間未満」と他の用途に比べて小さい。

考察：

平日の用途による利用時間について、大きな特徴はみられない。「ゲーム」の使用が比較的短いのは、使い方について「長くならないよう」意識しているのかもしれない。また、「調べもの」と答えた生徒の勉強時間は、他の用途を答えた生徒より長い傾向がみられ、学習目的以外にも自分の興味や関心のあること調べている可能性もあり、利用時間が長くなることも了解できる。

(6) 13A② 学校の友達について 「13A②. 平日の SNS 用途」と「13A. 平日利用時間」のクロス集計



調査結果：

- ① 学校の友達と一番よく使っている生徒について、用途(縦軸)と利用時間(横軸)をクロス集計したものである。「コミュニケーション」についてみると、「1時間以上～2時間未満(32.9%)」、「2時間以上～4時間未満(36.4%)」が多く、「6時間以上」は3.9%とわずかである。
- ② 「ゲーム」は、「4時間以上(「4時間以上6時間未満」+「6時間以上」)」が33.1%になる。

考察：

「学校の友達と」一番よく使っている生徒は、「ゲーム」が他の項目と比べて長い傾向があり、平日に3人にひとりが4時間以上している。今回の調査では、「学校の友達と一番何をつかっているのか」は尋ねていないため、学校の友達と「ゲーム」ばかりしているとは言えない点には注意が必要である。

2-1. 「内省志向」と「謙遜」

(1)内省志向と謙遜（新設項目）を設定した経緯

項目14：次のそれぞれの文について、ふだんの自分にもっとも合うもの一つに○をつけてください。

- A. 自分のしたことを振り返ってみることがよくある。
- B. 学習や運動など、自分の能力について話すときには控えめに言う。

これまでの学習意識調査の結果では、勉強時間は女子の方が多く関わらず、「2. 学校の勉強の理解度（「学校での勉強がよくわかりますか？」）」、や「3. 学校の勉強についていく自信（「学校の勉強についていく自信がありますか？」）」の項目において、男女差が繰り返しみられており、女子の方が「自信がない」と回答していた。なぜそのような男女差が見られるのかについて、部会で話し合った結果、女子の方が謙遜する傾向があるのではないか、あるいは女子の方が内省し自分を客観的にみる傾向があるのではないか、という理由が考えられた。

そのため、今回の調査では、内省志向、自分を謙遜する傾向それぞれを測るための項目を新たに設定し、性別、自信、内省志向、謙遜の関連をみることにより、女子の「自信がない」という回答傾向は内省志向によるものなのか、謙遜によるものなのか、いずれによるものでもないのか、を検討することにした。本来は複数の項目でそうした傾向を見る方が望ましいが、生徒への負担を考慮し、項目数を抑えるため、それぞれ1項目を設定した。

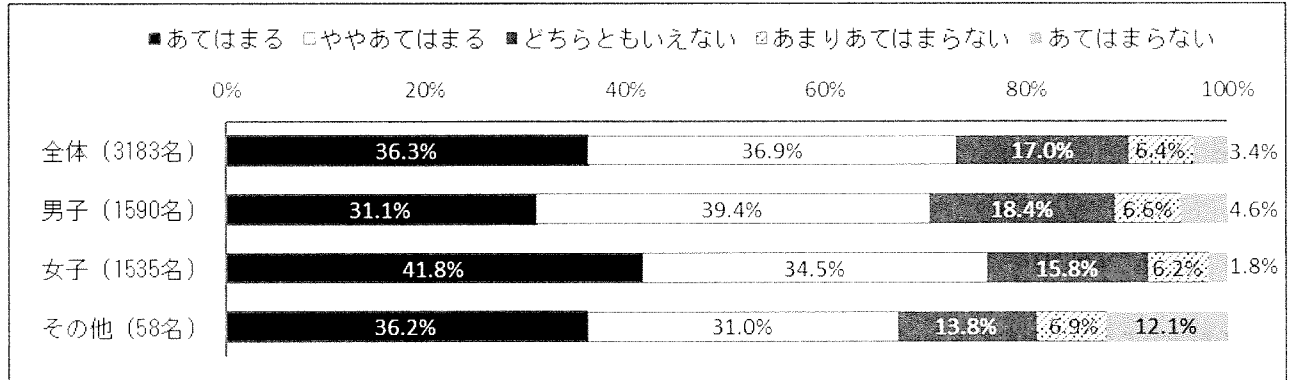
項目14A. は内省志向を測るための項目であり、佐藤・落合（1995）の論文で作成された内省尺度のうち、「自己を振り返る機会の程度」下位尺度の項目（「あとから自分のしたことを振り返ってみることはあまりない（逆転項目）」）をもとに、部会で話し合い、生徒が理解しやすい表現に修正した。

また、B. は謙遜の程度を測るための項目であり、Chen, S. X. ら（2009）の謙遜行動尺度をもとに日本人大学生用に作成された謙遜行動尺度項目（山崎，2018）のうち、「自分の能力について話すときには控えめに言う」という項目を使用することとし、部会で話し合い、生徒が理解しやすいよう表現を少し修正した。（引用文献は p. 5 に記載。）

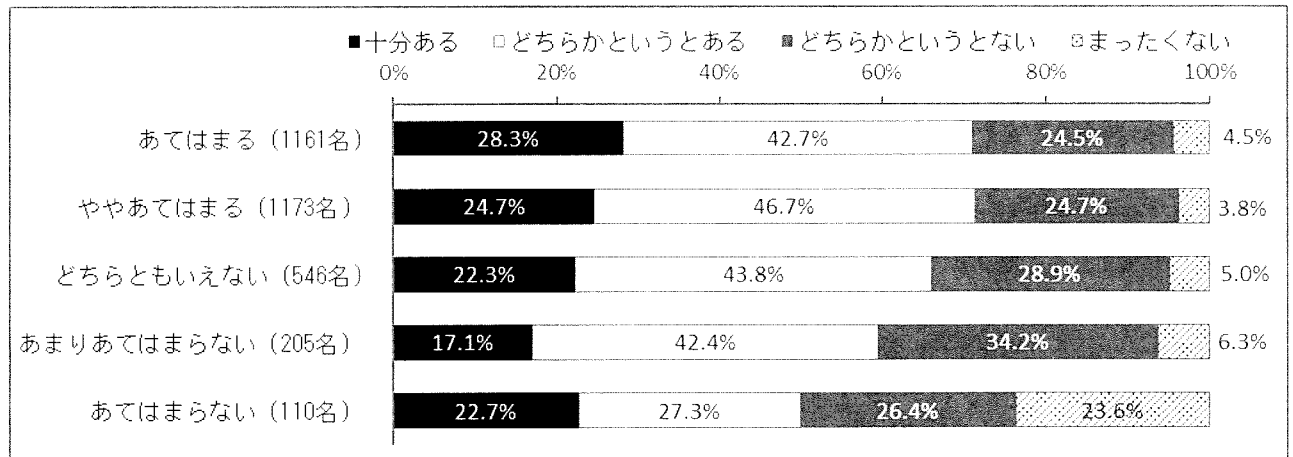
2-2. 「内省志向」「謙遜」と勉強との関連

(1)内省志向（新設項目）

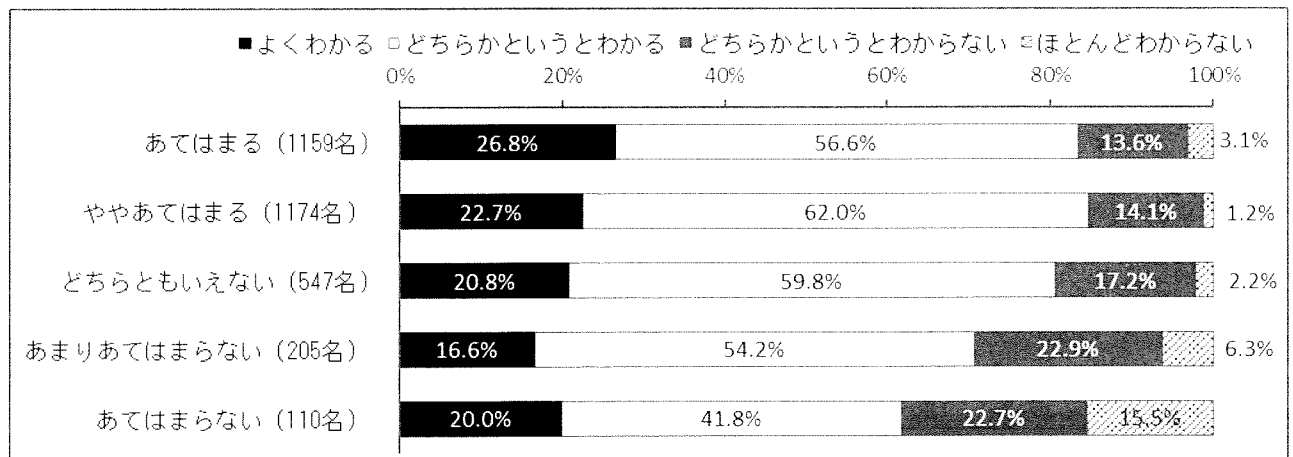
項目 14A. 自分のしたことを振り返ってみることがよくある。



「14A. 内省志向」と「3. 学校の勉強についていく自信」のクロス集計



「14A. 内省志向」と「2. 学校の勉強の理解度」のクロス集計



結果：

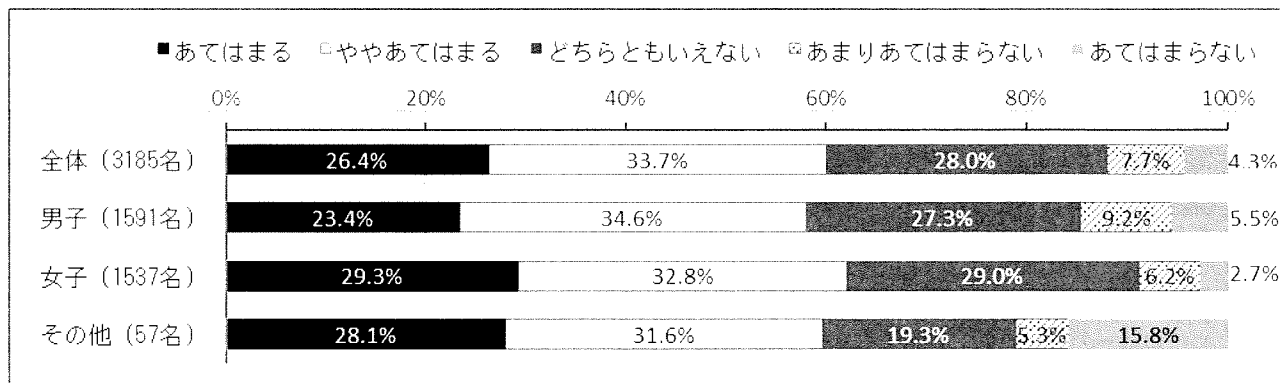
男女別の回答を見ると、「あてはまる」と回答した女子の割合は41.8%であり、男子(31.1%)を大きく上回っていることから、女子の方で内省志向の高いことが示唆された。しかしながら、「14A. 内省志向」(左下:あてはまる～あてはまらない)と「3. 学校の勉強についていく自信」(右上:十分ある～まったくない)のクロス集計結果をみると、内省志向が高い者ほど「勉強についていく自信がある」と回答する傾向となっており、内省志向が高いために勉強への自信を低く評価するという傾向はみられなかった。「14A. 内省志向」(左下:あてはまる～あてはまらない)と「2. 学校の勉強の理解度」(右上:よくわかる～ほとんどわからない)のクロス集計結果でも、内省志向の高い者の方が「学校での勉強がわかる」と回答しており、内省志向が高いために「勉強がわからない」と回答する傾向はみられなかった。男女別のクロス集計でも同様の結果となっていた。

考察：

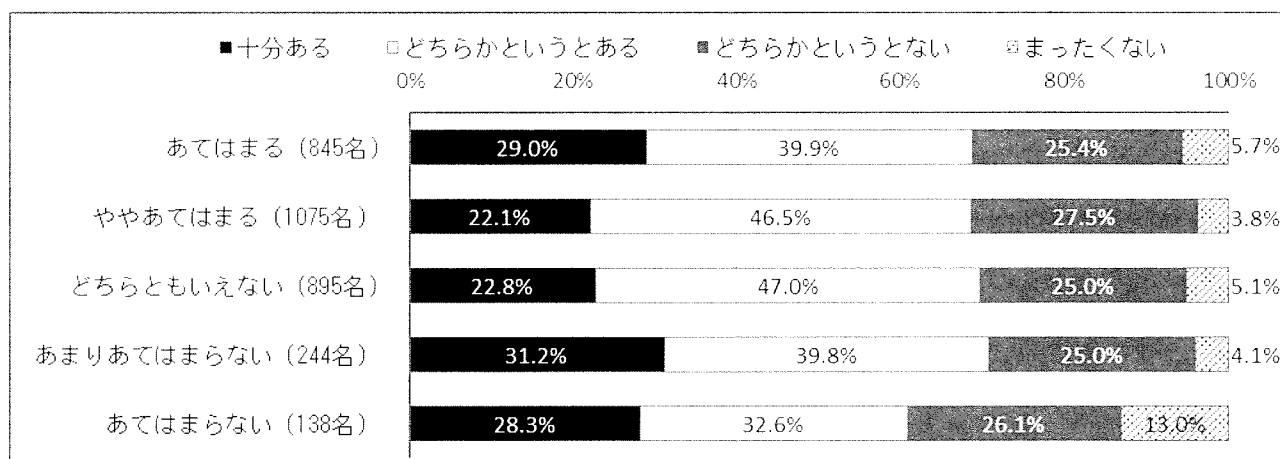
女子の方で内省志向の高いことが示唆されたものの、内省志向が高いために勉強への自信を低く評価するという傾向はみられず、むしろ、内省志向の高い者の方が「学校での勉強がわかる」と回答していたほか、勉強への自信も高く評価していたことから、女子の方が内省志向が高いために勉強への自信が低くなっているとは言えないと考えられる。

(2) 謙遜 (新設項目)

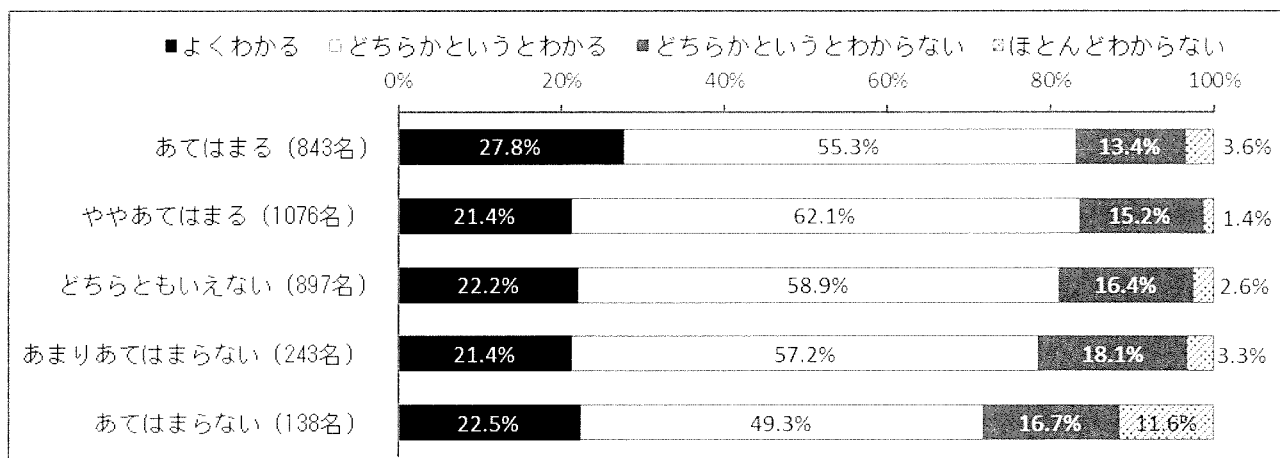
項目 14B. 学習や運動など、自分の能力について話すときには控えめに言う。



「14B. 謙遜」と「3. 学校の勉強についていく自信」のクロス集計



「14B. 謙遜」と「2. 学校の勉強の理解度」のクロス集計

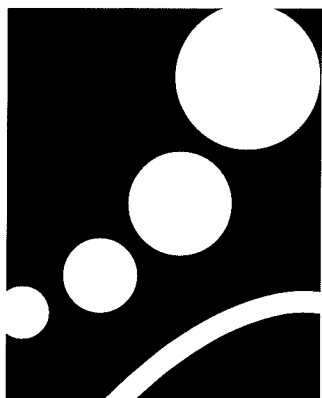


結果：

男女別の回答を見ると、「あてはまる」と回答した女子の割合は29.3%であり、男子(23.4%)を上回っており、どちらかというとな女子の方で謙遜傾向の高いことが示唆された。しかしながら、「14B. 謙遜」(左下：あてはまる～あてはまらない)と「3. 学校の勉強についていく自信」(右上：十分ある～まったくない)のクロス集計を行った結果、謙遜傾向と勉強への自信の間に特定の関係はみられなかった。「14B. 謙遜」(左下：あてはまる～あてはまらない)と「2. 学校の勉強の理解度」(右上：よくわかる～よくわからない)のクロス集計結果では、どちらかというとな謙遜傾向の低い者の方が「学校での勉強がわからない」と回答しており、謙遜傾向が高いために「勉強がわからない」と回答する傾向はみられなかった。男女別のクロス集計でも同様の結果となっていた。

考察：

女子の方で謙遜傾向のやや高いことが示唆されたものの、謙遜傾向の高い者の方が「学校での勉強がわからない」と回答したり、勉強への自信を低く評価したりする傾向はみられなかったことから、女子の方が謙遜して勉強への自信を低く評価しているというわけではないことが示唆された。



第5章

調査全体のまとめ

1. 56年間の学習意識の変化

藤沢市立中学校の3年生を対象に、1965年（昭和40年）から行ってきた本調査は、今回12回目を迎えた。本来、一昨年2020年の6月に実施予定だったが、2月下旬からの新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため全国一斉の休校措置が実施され、5月末より分散登校等さまざまな工夫をしながら学校は再開したものの、「平常の学校生活が行われていない中で調査を実施することはむずかしい」との判断から、昨年2021年（令和3年）6月に実施した。変則的な状態が続き、やっと「ふつうの様子」にもどりつつある、そんな時期の調査結果である。そのため今回の調査結果をみないと、「コロナ禍の生活の変化の影響が数字に表れているかどうか」は明らかにならないことを最初に確認しておきたい。

本調査では、「帰宅後の勉強時間」「勉強の理解度」「学校の勉強についていく自信」「勉強の意欲」「勉強への集中度」「自由への願望」「学習塾」の7項目（以降、「古典的学習観に基づく項目」と記すこととする）について、第1回から継続的に尋ねてきた。

「古典的学習観に基づく項目」の「望ましい選択肢」と「望ましくない選択肢」の変化をまとめたのが次ページの図1、図2である。「望ましい選択肢」のグラフでは、少し乱暴かもしれないが、調査開始から2000年まで減少し、2000年を境に緩やかに増加傾向を示しているようにみえる。

2000年の「学習意識調査報告書」では、2000年までを3期に分けて以下のように記述している。

第1期(1965-1975年) 日本経済が経済成長路線をあゆみ、市内中学3年生の学校学習適応度も概ね良好であった。

第2期(1975-1990年) 低成長期へと日本経済が変化し、バブル経済へと突き進んでいった時期で、この期間、市内中学3年生の学校学習適応度は急速に下降した。

第3期(1990年～2000年)は、バブルの崩壊後の時期と重なる。この間の初めは、市内中学3年生の学校学習適応度の下降傾向は、部分的に下げ止まり、改善の傾向を示したが、やがてバブル崩壊からの立ち直りの兆しとともに、再び下降傾向に転じたことで、日本経済の動きとの関係に注目した。しかし、そのことが、直接的に生徒の学習意識に関係したとは考えにくく、家庭内での保護者の言動や学校内での教師の日常業務を通じて、間接的に作用した可能性を指摘

している。

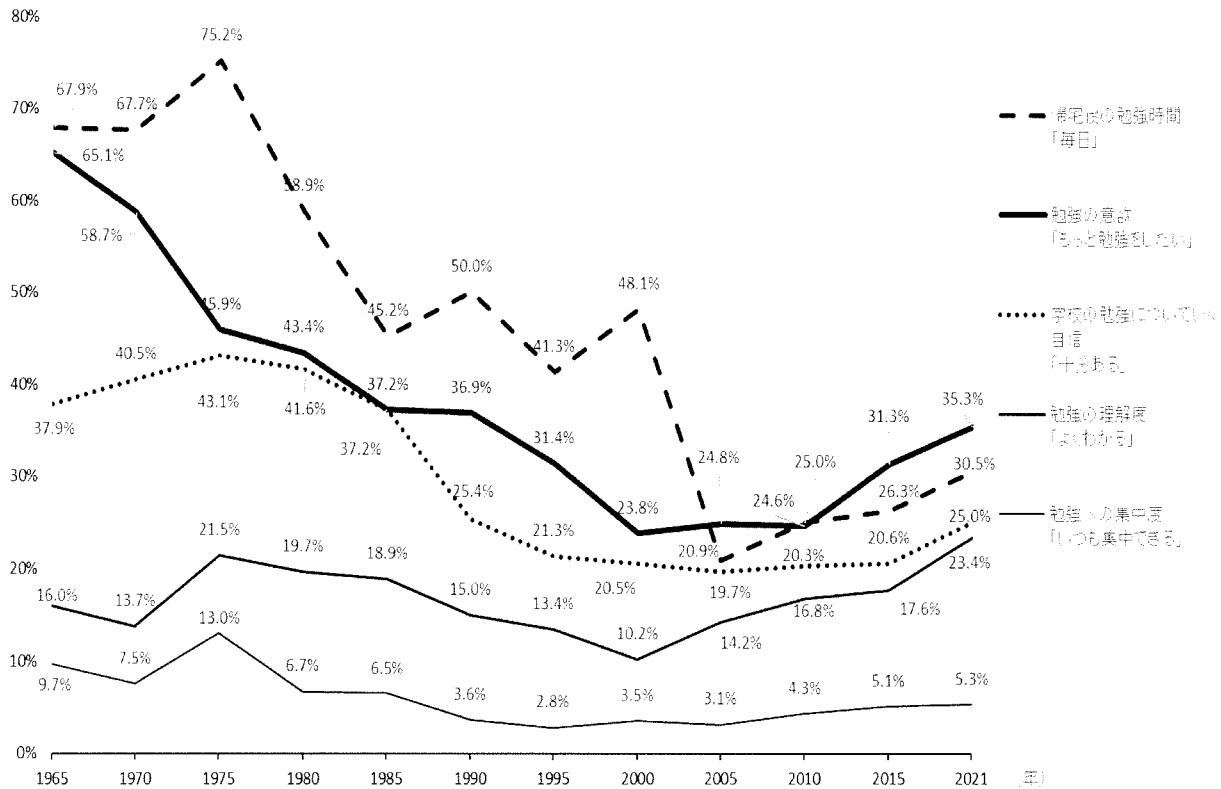
では、2000年以降、20年間の変化をどう解釈したらいいのだろうか。グローバル経済の中で、産業構造は変化し、非正規雇用の増加など保護者の経済状況も大きく変化してきた。2011年の東日本大震災では、さまざまな社会の課題が顕在化したともいわれている。その中で、少子化が進み、多様な選択肢としてさまざまなタイプの高校が設置され、それにともない選抜試験のあり様も変わってきた。未来が描きにくいといわれ、主体的な学びを大切にした「ゆとり教育」、基礎・基本の定着に注目した「脱ゆとり教育」、「GIGA スクール構想」など、さまざまな教育施策が実施されてきたが、その効果が調査結果に現れているといっているのだろうか。

今回の調査では、前回に比べて「望ましい選択肢」では「毎日(=平日)勉強する」、「もっと勉強したい」、「勉強がよくわかる」、「勉強についていく自信が十分ある」が増加し、「望ましくない選択肢」では「勉強はもうしたくない」が減少し、その他の選択肢もわずかだが減少した。特に「勉強がよくわかる」と答えた生徒の割合が5.8ポイント増加し、「勉強はもうしたくない」と答えた生徒の割合が6.5ポイント減少したことは、今までにない大きさである。

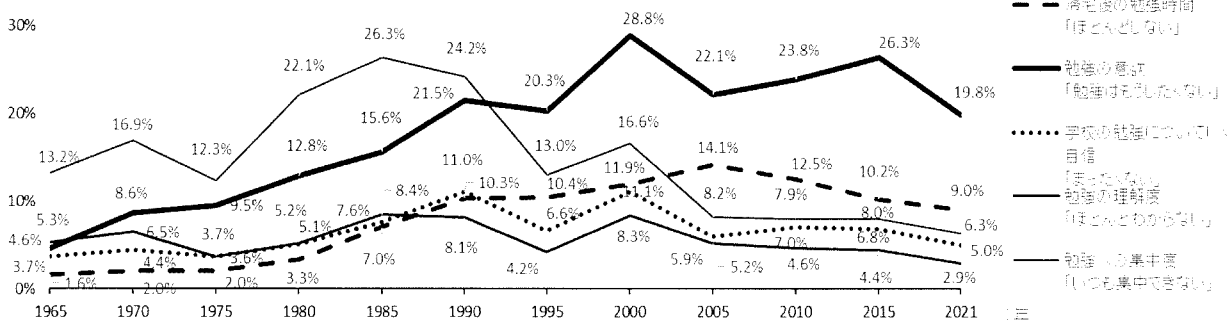
「勉強がよくわかる」と感じている生徒の割合は、2000年の10.2%から2021年の23.4%と非常に増えている。覚えている知識の量を問うだけでなく、自分の考えを表現したり、課題解決的な学習に取り組んだりする授業の中で、「わかる」と感じた生徒が増え、そのことが「もっと勉強したい」という意欲につながったと推測される。また「勉強がよくわかる」など望ましい選択肢の割合の増加は、2000年から各学校で取り組まれた授業改善やカリキュラムの工夫、新たな評価方法、また個別学習支援事業などの成果とも考えられ、今回の「望ましい結果」につながったといえる。しかし、話はそう簡単ではない。経済や社会の影響を間接的にうけていることも事実であろう。なかなか見えにくかった経済格差の問題も教育格差に連動しているという見方もある。

グラフの変化の要因については、もう少し、長い時間軸で、慎重に検討する必要があるだろう。コロナ禍の今、本当の意味でよい方向を示しているといえるのか、すでにおこっていた傾向がコロナ禍で顕在化したのか、コロナ禍で生活が変化したことによる一時的なことなのか、今回の調査結果に注目したい。

【図1. 望ましい選択肢】



【図2. 望ましくない選択肢】



2. 帰宅後の勉強時間の増加と二極化

毎日勉強する習慣をもつ生徒は、1965年には67.9%だったが、「学習塾」に通う生徒が増えるにつれて、2005年には20.9%まで減少した。その後、少しずつ増え、今回3割に達し、勉強時間も長くなる傾向がみられた。特に、「毎日勉強する生徒」は、土曜日、日曜日に「2時間以上」勉強する割合が74.9%と56.0%と高く、反対に「(勉強を)まったくしない」と答えた生徒は、土曜日、日曜日にも65.5%と69.0%となっている。このことは、平日、毎日勉強する習慣のある生徒は、土日にも長い時間勉強しているが、平

日勉強をしない生徒は、土日にもしない二極化がおこっていることを示している。

また、学習塾に通う生徒と勉強時間の関係を見ると、「土曜日2時間以上」勉強する生徒の割合では、学習塾に通う生徒は9.2%増えて57.1%に、通信教育をしている生徒は27%増えて47.1%と、前回より大幅に増加し、学習塾や通信教育など勉強に関する習い事をしている生徒の「勉強時間」が長くなっていることが明らかになった。「学習塾」「通信教育」が勉強時間を長くする要因になっているとも考えられるが、「学習塾」「家庭教師」「通信教育」のいずれも

選択しなかった生徒も、「土日2時間以上」勉強する割合が7ポイント以上増加し2割近くになったことから、「学習塾」等に通っているかどうかでなく、以前より、自身で主体的に勉強していることを示している可能性がある。

毎日勉強する生徒が増え、勉強時間も長くなったのは、コロナ禍で部活動が制限されたり、外出がしにくい状況だったこと、生徒が自由に過ごし方を考えられる「時間」がいつもより、多かったからなのかもしれない。このことは、勉強以外の自由時間が「もっとほしい」と答えた生徒の割合が、52.6%と前回より4.4ポイント減少したことからも推測される。また、コロナ禍で授業時数が減り、心配になって、いつもより長い時間、取り組んでいる可能性も考えられる。コロナ禍が収束したあと、毎日勉強する習慣は定着するだろうか、今後の調査に注目したい。

3. 相談相手として「家族」が増加

「勉強に関する悩み事」と「勉強以外の悩み事」の相談相手については1995年から尋ねているが、今回、一番の特徴として、家族の増加があげられる。「勉強に関する悩み事」の相談相手として、父が6.5ポイント、母が4.5ポイント、兄弟姉妹が3.6ポイントと「家族」を選んだ生徒の割合が増加した。また「勉強以外の悩み事」でも、父6.9ポイント、母9.7ポイント、兄弟姉妹5.0ポイントと同様の傾向がみられた。その理由として、コロナ禍で、ふだん家にいることが少なかった「保護者」がテレワークなどで家庭にいる時間が多くなり、子どもたちと話す機会が多かったことで、子どもたちにとって「相談相手」になったのではないかと考えられる。また、学校で友達と話す機会や、部活動がなく先輩と話す機会が少なかったこと、あるいは塾が休みで行けなかったことなどから、不安な気持ちを身近な家族に向けた可能性も考えられる。今回、「母」の方が「父」に比べて相談しやすい相手だが、「父」も存在感を示すこととなった。

「友達」については、「勉強の悩み事」で59.1%、「勉強以外の悩み事」で68.6%に達しており、一番の相談相手である。ただ、「勉強以外の悩み事」では、1995年の77.0%から、毎回減少する傾向がみられる。これまで、子どもたちは友人関係などにともなうさまざまな悩みを「親」に知られることを避けようとする傾向があるのではないかと考えられてきたが、その傾向は緩やかになってきている。友達との関係が、

個々の関係だけでなく、複雑になり、集団の中で「いじめ」に遭わないように気を遣う、面倒なものとして感じる生徒は、自身が傷つかないように、友達と少し距離を置いているのかもしれない。

また「勉強に関する悩み事」についてみれば、「他人に相談しないで自分で決める」が約3割、「いない」は12.1%、また「勉強以外の悩み事」では、「他人に相談しないで自分で決める」が約2割、「いない」は6.8%で、他者に相談しないで、自分ひとりで何とかする、あるいはしようとする生徒もかなりの数いることがわかる。思春期の子どもたちに相談をさける傾向があることは否めないが、よき理解者、アドバイザーが見つけられているか気がかりなところである。

4. 勉強の意欲の背景

今回、前回に比べて、「もっと勉強したい」と答えた生徒が35.3%で4ポイント増加し、「もうしたくない」と答えた生徒が19.8%で6.5ポイント減少した。2000年当時、「もっと勉強したい」が23.8%、「もうしたくない」が28.8%であったことと比較すると、よい方向といえるだろう。

そう答えた理由を尋ねたところ、「もっと勉強をしたい」と答えた生徒では、「進学や受験のため」が一番多く47.5%で、この数字は前回の56.0%より8.5ポイント減少した。また、「いまくらいの勉強がちょうどよい」と答えた生徒は、「勉強以外のこともやりたいから」が3ポイント増加し53.2%、「勉強はもうしたくない」と答えた生徒では、「勉強が嫌いだから」が2.2ポイント減少して47.9%、「体力的・精神的につらいから」が3.8ポイント増加し15.6%であった。

「進学や受験のため」という動機づけが「勉強の意欲」をささえている傾向は変わらないものの「勉強以外のこともやりたいから」「体力的・精神的につらいから」「いまくらいがちょうどよい」というように、「そんなに無理して、勉強しなくていい。勉強以外のこともやりたい」といった自分の生活スタイルを優先する生徒も増えてきていると考えられる。高校が多様化し、受験倍率も下がっている中で、進学・受験のプレッシャーは以前ほど高くなく、そのことも影響しているのかもしれない。

また「体力的・精神的につらいから」が増加したのは、コロナ禍で部活動が制限されるなど、体を動かす機会が減り、体力が低下していることが考えられる。

今回の調査では、「勉強の意欲」といくつかの項目

でクロス集計を行った。「勉強時間」、「勉強の理解度」との関係を見ると、一般的に「勉強時間が長いのは、もっと勉強したいという気持ちの表れだろう」、「わからないと、もっと勉強したいとは思わないだろう」と考えがちだが、「勉強時間が長いが、もう勉強はしたくない」、「勉強はよくわかるが、もう勉強をしたくない」と答えた生徒がそれぞれ2割、「まったく勉強してなくても、もっと勉強したい」と答えた生徒が1割いることが示された。このことは、「今は勉強していないし、よくわからないけれど、もっと勉強したい」と感じている生徒の存在を示している。「わかるようになりたい、自信を持ちたい」という生徒の願いが根底にあると考えられる。

さらに、「(勉強が)よくわかる」と答えた生徒の内、「もっと勉強したい」と答えた生徒の割合は、2000年には29.6%だったが、今回41.7%と増加し、「よくわからない」と答えた生徒の内「もうしたくない」と答えた生徒の割合は、2000年と比べると今回少し減少した(64.8%→60.3%)。この傾向は「長い時間、勉強している」生徒にもみられる。つまり、2000年と比べると、今回、「長い時間勉強し、よくわかる」と答えた生徒の内、「もっと勉強したい」を選ぶ割合が増えているのだ。授業改善が進み、指導の工夫がなされる中で、勉強がわかると感じる生徒が増え、そのことが勉強の意欲に結びついているのかもしれない。

しかし、「勉強の意欲」と関係が深い「学習の意欲」をみると、「新しいことを学ぶことは楽しみだ(内発的意欲)」は、今回も、前回とほぼ同じで、ほとんど伸びていない。「勉強がよくわかる」と答えている生徒の中に、「勉強はもうしたくない」を選び、主体的に取り組めない生徒が約1割いることとも関係していると考えられる。「勉強の意欲」の記述欄や「勉強のイメージ」の結果をみると、「しなければならないもの」「受験のため」といったものだけでなく、「新しいことを知るのが楽しいから」「わかることが楽しくて自分のレベルをあげたいから」などの記述もみられたが、新しいことを知ることがワクワクしている生徒は限られているようだ。今回の学習指導要領改訂で、「個別最適な学びと協働的な学び」が強調されているが、一人ひとりがどのような思いで勉強に取り組んでいるのかを知ることが、一人ひとりの学びを考える上で、大切になっていると考えられる。

5. 友達つきあいの「友達」とは

(1) 学校の中で一番大切に思うもの

今回も「友達つきあい」が一番多く63.1%で、次いで「勉強(25%)」「部活動(8%)」だった。今回、「勉強」と答えた生徒の割合が4人にひとりとなり、開始した1995年以降一番多くなっている。また減少し続けていた「友達つきあい」は、今回4ポイント増加した。このことは、「友達つきあい」を大切と考える生徒が増えたというより、コロナ禍で、運動部の大会が中止されたり、活動時間自体が制限され、「部活動」を選んだ生徒が減った分、「友達つきあい」が増えたようにもみえる。今まで、「部活動と答えていた生徒」が、「自分が一番大切と思うのは、『勉強』ではないから『友達つきあい』を選んだ」、いいかえれば、消極的な意味で「友達つきあい」を選んだ可能性もある。

(2) 「友達つきあい」が減少している意味

今回、学校で一番大切に思うものとして「友達つきあい」が減少し続けていることについて、新設項目を設定し、「SNSの利用」との関係を探った。当初「SNSの利用時間が長いほど、『友達つきあい』を選ぶ生徒の割合が減るだろう」と考えていたが、調査結果はその逆で「SNSの利用時間が長いほど、『友達つきあい』を選ぶ生徒の割合が増える」傾向がみられた。このことをどう考えたらいいのだろうか。その理由として、生徒にとっての「友達」が、以前と比べて変化しているのではないかと思われるふしがある。それは、SNSの相手として、自由記述に「ネットの友達」と書いた生徒がかなりの数いたことだ。生徒はSNS上の、不特定多数の顔の見えない、知らない「相手」も「友達」と考えているのかもしれない。また「勉強以外の悩み事」の場合、「友達」と答えた生徒の割合は、1995年77.0%だったが、今回68.6%と減少傾向がみられる。そして「相談相手」として、ここでも自由記述に「ネットの友達」が登場する。顔の見えない、日常生活でかわりのない「相手」の方が、相談しやすいという一面もあるようだ。「友達」というと、顔の見える、実際に会って話せる「相手」を想定するが、不特定多数の、顔の見えない、実際に会うこともできない「相手」も、何かしらの共通する理解が得られれば、「友達」と呼んでいるのかもしれない。ただ、リスクもともなうことを生徒はどれだけ意識しているかはわからないが、「友達」ということばの意味が変わってきている可能性は否定できない。

そう考えると、学校で一番大切に思うものとして

の「友達づきあい」も、日常生活を共に過ごす仲間として大切だが、その一方で、生徒はいつも一緒にいて、なんでも相談できる「友達」ではなく、ある程度の距離をもって、それなりに過ごせる「友達」を求めているのだともいえる。そのため「つきあい方」も変化し、結果として「友達づきあい」を学校で一番大切だと考える生徒が減る傾向にあるのかもしれない。また、生徒は「学校以外で SNS でつながること」と「学校で『友達づきあい』が大切と思うこと」は別の世界のことと考えているのではないだろうか。「学校での『友達づきあい』の友達は、クラスメートや、部活動の仲間など、普段一緒に過ごしているリアルな友達に限定されるのに対し、SNS の世界での「友達」は、学校の友達も含まれるだろうが、SNS 上の「顔をあわせることもない相手」を前提にしている可能性が考えられる。それぞれの友達の「いいところ」を選んで、つき合っているのかもしれない。

コロナ禍で、ソーシャルディスタンス・マスク着用・黙食・グループ活動の制限など、今までに経験したことのない学校生活を過ごす子どもたちは、これからどんな「友達関係」をつくっていくのだろうか。

6. SNS の利用状況について

今回、スマートフォンや携帯電話などを平日「まったく使わない」と答えた生徒はわずか 2.2%で、ほとんど全員が、スマートフォンや携帯電話などを利用していると答えている。しかも「2 時間以上」利用している生徒が 56.7%と 6 割弱を示した。

「相手」については、「自分一人で」が 7 割を超え、「学校の友達」は 2 割、また「用途」として、6 割近い生徒が「動画や音楽、写真などの鑑賞」を選び、2 割弱の生徒が「コミュニケーション」と答えている。土日についても尋ねたが、「ゲーム」をする男子が多く、女子はひとりで、「動画などを鑑賞する」傾向がみられるものの、平日とそれほど大きな違いはみられなかった。「長時間、ひとりで、動画や音楽鑑賞などのサイトを見ている」生徒が多いことが明らかになった。

利用時間が長い理由としては、食事をしながら、あるいは勉強しながらなど、何かをしながら、スマートフォンのスイッチを入れたまま、ときどき動画などを見ているのではないかと考えられる。もしそうだとしたら、自然と利用時間は長くなるだろう。一方「相手」については、「自分ひとりで」が多いが、「ひ

とり」といっても、投稿サイトで不特定多数の人と交流しているのかもしれない。また「用途」については、例えば「コミュニケーション」といっても、電話に代わるような使い方なのか、そうでないのか、あるいは、オンラインでの参加型のゲームは「コミュニケーション」といっていいのかなど、判断に迷うことも多かった。こうした背景には、スマートフォンの急速な技術革新によって、用途が多様化し、それに関連して、「コミュニケーション」「SNS」ということばの意味そのものが多義化してきていることがあげられる。わたしたち大人が考えている「意味」と生徒が考えている「意味」がズレている可能性もあるといえるだろう。

「平日の利用時間の長さ」と「古典的学習観に基づく項目」の関係は、「利用時間が長いほど、勉強時間が短く、よくわかると答えた生徒は減り、もっと勉強したいという意欲が下がり、自信もなくなる」傾向があることがわかった。ある程度、予想していたことだが、スマートフォンや携帯電話などの使い方について、生徒自身が、自分にとってプラスになる使い方を考え、主体的に利用することが求められている。

7. 授業への高い期待

(1) 期待する授業

8 つのタイプの授業について、「期待する」と答えた生徒の割合は平均で今回も 83.5%と高く、前回と同じように、今回もさまざまなタイプの授業に高い期待を寄せていることがわかった。また「非常に期待する」は、「自分の興味や関心のあることを学べる」が 9.3 ポイント、「将来役立つ知識・技術が学べる」授業では 11.3 ポイントと前回と比べて大きく増加し、その他の授業のタイプもすべて増加した。なかでも、今まで比較的期待が低かった「自分で課題を見つけ、考えたり調べたりする授業」でも「非常に期待する」が 7.1 ポイント増加している。このことは、生徒の興味・関心に注目した主体的な学びの授業づくりや、外部講師の招聘、野外での活動、総合的な学習の時間で展開された問題解決的な学習など、さまざまな学校での取り組みの成果といえるだろう。しかし、もしかしたら、コロナ禍のさまざまな制限により、グループでの話し合いや、自分の興味や関心に基づいた自由な活動ができていないために、そう「期待した」のかもしれない。

また、藤沢市立中学校では一人一台のタブレットが貸与され、2020 年 9 月より運用が開始されたこ

とで、授業中、インターネットを活用した調べ学習など、授業への利用が急速に進んでいる。今回の調査時期は、各学校での取り組みが始まった時期でもあり、今後、生徒や教師が使い慣れていくことで、タブレットの導入が、生徒の意識にどのような影響を与えるのか、次回の調査結果に注目したい。

(2) 新設項目「SNSの利用時間」との関係

平日の「SNSの利用時間」と、「期待する授業」との関係に注目した結果、「内容をきちんと教えてくれる授業」や「けじめがあって集中できる授業」では、利用時間が長くなるほど授業への期待度が減少したが、「自分の興味や関心のあることを学べる授業」や「楽しくリラックスできる雰囲気のある授業」では利用時間に関係なく、高い期待が示された。一方、「課題を見つけ、考えたり調べたりする授業」では、「4時間以上6時間未満」利用する生徒の34.0%が「まったく期待しない」と答えており、利用時間によって、期待度に差があるものとそうでないものがあることがわかった。SNSの利用時間の影響なのか、あるいは、そう利用している生徒の「好み」からきているのか、本調査からはわからないが、実際、どのようにSNSを利用しているのか、気になるところである。

8. 自主的に学習に取り組む生徒の増加

学習の意欲についての促進傾向を示す項目では、「まったくあてはまらない」が減少し、全体として学習意欲が高まった。特に「家の人にいわれなくても勉強する」自主的学習意欲と「締め切りまでに課題をすませる」といった責任感、また先生からのアドバイスをうけたらやってみようと思う従順性の高い生徒が今回増加し、「締め切りまでに課題をすませる」と答えた生徒の割合は前回に比べてそれぞれ約12ポイント増加して8割を超えた。「締め切りまでに課題をすませる」が大きく増加した背景としては、評価資料として、「期限を守って提出物を出すこと」が、成績を上げるわかりやすい方法として、生徒に理解され、生徒が意識して取り組んだ可能性もある。いずれにせよ、自分で判断し自主的に取り組める生徒が増えてきていることが推察される。

しかし、新しいことを学ぶのが楽しみだと思える生徒はほぼ半数と前回とかわらない。また、3割の生徒が「間違えるのがいやなので、あまり手を挙げたことがない」と答えている。間違えこそが、学習を深めるきっかけになることは自明のことである。にもかか

わらず、生徒は勉強で間違えてはいけないと考えているのだろうか。学習指導要領改訂の中で、授業が変わり、教師のありかたも変わってきている。生徒の発言の正誤だけを判断するのではなく、そこに至る一人ひとりの過程を重視し、一人ひとりの学習が深まるようなアドバイスをしたり、生徒の学習を励ます学習評価の工夫も求められている。教師が、生徒とどのようにかかわろうとするのかによって、生徒の内発的意欲を支え、そのことで「勉強への意欲」も変化していくことと考えられる。

9. 男子と女子

(1) 新設項目 内省志向と謙遜

これまで、古典的学習観に基づく「自信」「理解」の結果について、「女子は自信があっても、控えめに一応『自信がない』と知っているのではないか」と毎回の調査で話題になっていた。そこで今回「自分のしたことを振り返ってみることがよくある（内省志向）」と「学習や運動など、自分の能力について話すときは控えめに言う（謙遜）」について尋ねた。その結果、女子の方が、「内省志向」の高い傾向がみられたが、内省志向が高いために勉強への自信を低くする傾向はみられず、むしろ「内省志向の高い方が、学校の勉強がわかる」と答え、勉強への自信も高く評価していた。また「謙遜」についても女子の方がやや高い傾向がみられたが、謙遜傾向の高い者が、勉強がわからないと答えたり、勉強への自信を低く評価したりする傾向がみられないことから、女子の方が謙遜して勉強への自信を低く評価しているというわけでないことが示唆された。これらのことから、「女子の方が、内省志向が高いことや謙遜傾向がみられることが、調査結果に影響しているわけでないこと」が、明らかになった。過去の結果についても関係がなかったかどうかかわからないが、時代の中で少しずつ意識が変化してきた可能性も考えられる。

(2) 性別欄の記入

今回、性別の記入については、性的マイノリティーへの配慮から、2回の予備調査を行い、その妥当性を検討した上で「男」「女」「その他」の3つとし、実施した。「その他」については、これまでの諸章でもたびたび触れてきたように、人数は58名と小数だったが、他と同じようにグラフを示した。結果については、「勉強はもうしたくない」「いつも集中できない」など、どちらかという、望ましくない選択肢を選ぶ傾

向を示すものが多くみられた。人数が少ないので、全体の傾向を示しているのかは不明だが、今まで、「男」「女」の区分の中で埋もれ、見過ごされていた部分かもしれない。個別の丁寧な対応が求められる生徒の可能性もある。

(3)男女の傾向のちがい

今回の調査結果から、特に男女の傾向に違いがみられたものとして、「悩み事の相談相手」があげられる。「勉強に関する悩み事」について、女子は「母」や「兄弟姉妹」に、男子は「担任の先生」に、また「勉強以外の悩み事」の相談は「父」と「塾の先生」が女子に比べて割合が大きかった。

「古典的学習観に基づく項目」では、前回、男子が望ましい方向に引っぱる傾向がみられたが、今回は女子にその傾向がみられ、全体が引き上げられている。それぞれの傾向を少し強引にまとめると、女子の方が、男子に比べ、自信・理解への自身の評価が低いが、毎日勉強する生徒が多く、時間も長く、課題の期限を守っている。そして、けじめがあって集中できたり、教科書の内容をきちんと教えてくれる授業に特に期待しながら、失敗するのは嫌だから手は挙げないが、先生のアドバイスに耳を傾けながら、「もっと勉強したい」と思って取り組んでいる。また休日には、一人で SNS を利用して、音楽や動画を鑑賞する生徒が多い。一方、男子は自信・理解への自身の評価が高く、グループで話し合ったり、課題をみつけ、調べる授業への期待が高く、休日はゲームに夢中の生徒も多い。さらに、女子は勉強について「進学や受験のため」と思う生徒が多く、「今精一杯やっている」「体力的・精神的につらい」と答える生徒が多いのに対して、男子はどちらかというと、将来の夢や生活のためになるからと答える生徒が多く、また「勉強がきらいだからしない」も女子より多い傾向がみられた。

とはいえ、「一番大切に思うもの」、「楽しくリラックスした雰囲気での授業への期待」「テストが終わったらずぐ答えを確かめる」など、ほとんど差がみられなかった選択肢も多い。実際の学習面では、男女を意識的に区別することはほとんどないといってよいが、調査結果をみると、傾向の違いがあることは事実である。そのことを意識しながら、生徒とかかわっていくことが必要だろう。

10. 今後の調査についての課題

56年継続する調査であることから、質問紙の「こ

とば」について、その意味が当初想定していたものと変化していることが考えられる。

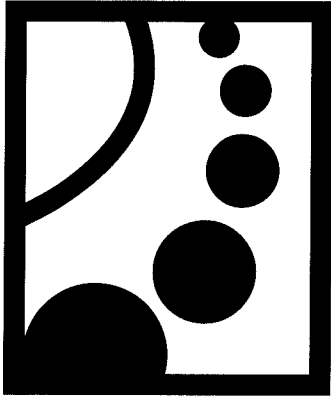
たとえば古典的学習観に基づく項目の「勉強についていく自信」ということばには、調査がはじまった当時の「暗黙の了解」があると考えられる。つまり、「勉強」は「強いて勉めること」でそれについていく、つまり、「勉強を教えてくれる先生の授業についていくこと」が求められてきたと考えられる。今回の学習指導要領改訂では、生徒が自ら、主体的に、見通しをもって取り組み、振り返ることが求められている。その中で、「勉強についていく自信」は、以前ほど強く求められていないのかもしれない。「勉強のイメージ」が変わりつつあるにもかかわらず、この調査の性格上、わたしたちは、「勉強」と「学習」ということばを近いものとして扱ってきたが、「学習は」と尋ねたら、生徒の答えは少し違っているかもしれない。

また「期待する授業」では、8つのタイプの授業を示し、それぞれの期待度を尋ねているが、生徒たちは、それぞれの「授業」について、自分がそれまでに経験した授業をイメージして答えているのだと思われる。そう考えると、たとえば、「自分たちで課題を見つけ、考えたり調べたりする授業」への期待が低いというが、実はあまり経験していない、または経験した授業が生徒にとって満足するものでなかったことの表れなのかもしれない。わたしたちは、生徒に「授業への期待」を聞いているが、実は、教師がどんな授業を経験させたのか、を聞いている可能性があるのである。

以上のような「ことば」の課題は、長く調査が続いていると、避けて通れないことともいえる。当センターの教育課題調査研究部会で、「ことば」の検討を繰り返して、少しずつ修正をしながら進めていることも、本調査を続ける条件のひとつなのかもしれない。

次回の結果を待たなくては、コロナ禍の生活の影響が「あったのか、なかったのか」を見極めることはむずかしい。しかし、もし「なかった」としたも、マスク生活を送っている幼い子どもたちが、中学3年生になった時、何を思うのか、長いスパンでみることが求められる。これまでのような学校生活が送れない中で、子どもたち一人ひとりが、あらためて「勉強の意味」「学校の意味」を実感として感じ、考えたことはまちがえないだろう。

本報告書は、調査結果から、子どもたちの意識を探ろうとしたものである。今後も、何をどう考えているのかを探っていきたい。



資 料

- 1 質問紙
- 2 2021年 学習意識調査結果一覧
- 3 56年間の主な出来事
- 4 教育課題調査研究部会の取り組み

資料 1 《質問紙》

ちゅうがく ねんせい
中学 3 年生のみなさんへ

学習意識調査のお願い

ふじさわしきょういふんか
藤沢市教育文化センター

ふじさわしきょういふんか
藤沢市教育文化センターは、1965（昭和40）年から 5年ごとに藤沢市立中学 3 年生の
いしきちようさ じっし
意識調査を実施しています。今年はこの意識調査をはじめてから 56年目になります。いま
ちようさけつか ぶじさわし きょういふん かん きちょう じようほう
での調査結果から、藤沢市の教育に関する貴重な情報をたくさん知ることができました。
みなさん、どうぞ、よろしくご協力 ください。

◎はじめに、次の注意をよく読んでください。

注意

- ・ 名前は書かないでください。
- ・ 最初に自分の性別に○を付けてください。
- ・ この調査は成績には関係ありません。
- ・ この調査の目的は、あなたが日頃感じていることや考えていることを正確に知ることです。
- ・ あなたの気持ちをありのままに答えれば、それが正しい答えなのです。
- ・ 答え方がわからないときは、手を挙げて先生に聞いてください。
- ・ 人と相談したり、人の書いたものを見たりしないで答えましょう。

せんせい あいず つぎ ひら はじ
先生の合図で、次のページを開いて始めてください。
ぜんぶ
全部で 7 ページあります。

■最初に、自分の性別に○をつけてください。

1. 男 2. 女 3. その他

(1) 家庭での学習について質問します。どれか一つに○をつけてください。

(塾・家庭教師なども含みます)

A. 学校から帰って、月曜日から金曜日の間に何日くらい勉強していますか？

1. 毎日 2. 3～4日 3. 1～2日 4. ほとんどしない

B. 学校から帰って勉強する日には、一日どのくらい勉強していますか？

1. 2時間以上 2. 1～2時間 3. 1時間未満

C. 土曜日には、どのくらい勉強していますか？

1. 2時間以上 2. 1～2時間 3. 1時間未満 4. まったくしない

D. 日曜日には、どのくらい勉強していますか？

1. 2時間以上 2. 1～2時間 3. 1時間未満 4. まったくしない

(2) 学校での勉強がよくわかりますか？ どれか一つに○をつけてください。

1. よくわかる 2. どちらかというとわかる 3. どちらかというとわからない 4. ほとんどわからない

(3) 学校の勉強についていく自信がありますか？ どれか一つに○をつけてください。

1. 十分ある 2. どちらかというところ 3. どちらかというところない 4. まったくない

(4) もっと、たくさん勉強したいと思いませんか？ どれか一つに○をつけてください。

1. もっと勉強をしたい 2. いまくらいの勉強がちょうどよい 3. 勉強はもうしたくない

※ (1. もっと勉強をしたい と答えたいみなさんへ)

A. どうしてこのように答えましたか、もっともあてはまる理由一つに○をつけてください。

1. 進学や受験のためになるから
2. 今の勉強では足りないから
3. 自分の将来の夢や生活のためになるから
4. 勉強することが好きだから
5. みんなについていきたいから
6. その他 ()

※ (2. いまくらいの勉強がちょうどよい と答えたいみなさんへ)

B. どうしてこのように答えましたか、もっともあてはまる理由一つに○をつけてください。

1. 今の状態が自分に合っているから
2. 勉強以外のこともやりたいから
3. 勉強はやらなければならないものだから
4. 今、精一杯やっているから
5. あまりやりたくないから
6. その他 ()

※ (3. 勉強はもうしたくない と答えたいみなさんへ)

C. どうしてこのように答えましたか、もっともあてはまる理由一つに○をつけてください。

1. 勉強がきらいだから
2. 体力的・精神的につらいから
3. 将来の役に立ちそうにないから
4. 勉強以外のこともやりたいから
5. 勉強がわからないから
6. その他 ()

(5) 勉強になかなか集中できないことがありますか？ どれか一つに○をつけてください。

1. いつも 2. どちらかというと 3. どちらかというと 4. いつも
集中できる 集中できる 集中できない 集中できない

(6) 勉強以外の自由時間がほしいと思いますか？ どれか一つに○をつけてください。

1. もっとほしい 2. 少しほしい 3. あまりほしくない

(7) 勉強に関する悩み事を相談する相手に○をつけてください。○はいくつつけてもかまいません。

1. 父 2. 母 3. 担任の先生 4. 担任以外の先生 5. 保健室の先生
6. 塾の先生・家庭教師 7. 友達 8. 先輩 9. 兄弟姉妹
10. スクールカウンセラー 11. いない 12. 他人に相談しないで自分で考える
13. その他 ()

(8) 勉強以外の悩み事を相談する相手に○をつけてください。○はいくつつけてもかまいません。

1. 父 2. 母 3. 担任の先生 4. 担任以外の先生 5. 保健室の先生
6. 塾の先生・家庭教師 7. 友達 8. 先輩 9. 兄弟姉妹
10. スクールカウンセラー 11. いない 12. 他人に相談しないで自分で考える
13. その他 ()

(9) 学校の中で、一番大切に思うものは次のうちのどれですか？ どれか一つに○をつけてください。

1. 勉強 2. 友達づきあい 3. 部活動 4. その他 ()

(10) 学校以外で、習っているものに、○をつけてください。○はいくつつけてもかまいません。

1. 学習塾 2. 家庭教師 3. 通信教育 4. スポーツ関係 5. おけいごと、趣味
6. 英会話 7. その他 () 8. なにも習っていない

(11) 学校で、次のような授業をどのくらい期待しますか？ それぞれの文について、どれか一つに○をつけてください。

A. けじめがあって、集中できる授業

1. 非常に期待する 2. 少し期待する 3. あまり期待しない 4. まったく期待しない

B. 教科書の内容をきちんと教えてくれる授業

1. 非常に期待する 2. 少し期待する 3. あまり期待しない 4. まったく期待しない

C. 自分たちで課題を見つけ、考えたり調べたりする授業

1. 非常に期待する 2. 少し期待する 3. あまり期待しない 4. まったく期待しない

D. 自分の興味や関心のあることを学べる授業

1. 非常に期待する 2. 少し期待する 3. あまり期待しない 4. まったく期待しない

E. グループで考えたり話し合ったりする授業

1. 非常に期待する 2. 少し期待する 3. あまり期待しない 4. まったく期待しない

F. 楽しくリラックスした雰囲気のある授業

1. 非常に期待する 2. 少し期待する 3. あまり期待しない 4. まったく期待しない

G. 将来役立つ知識や技術を身につけられる授業

1. 非常に期待する 2. 少し期待する 3. あまり期待しない 4. まったく期待しない

H. 学校の外で見学・体験できる授業

1. 非常に期待する 2. 少し期待する 3. あまり期待しない 4. まったく期待しない

(12) 次のそれぞれの文について、ふだんの自分にもっとも合うもの一つに○をつけてください。

A. 家の人に、「勉強しなさい」と、言われなくても、勉強をする。

- | | | | |
|-------------------|----------------------|------------------------|--------------------|
| 1. とてもよく
あてはまる | 2. どちらかという
とあてはまる | 3. どちらかという
とあてはまらない | 4. まったく
あてはまらない |
|-------------------|----------------------|------------------------|--------------------|

B. 勉強して新しいことを知るのが楽しみだ。

- | | | | |
|-------------------|----------------------|------------------------|--------------------|
| 1. とてもよく
あてはまる | 2. どちらかという
とあてはまる | 3. どちらかという
とあてはまらない | 4. まったく
あてはまらない |
|-------------------|----------------------|------------------------|--------------------|

C. むずかしい問題でも、いろいろなやり方を考えて、がんばる。

- | | | | |
|-------------------|----------------------|------------------------|--------------------|
| 1. とてもよく
あてはまる | 2. どちらかという
とあてはまる | 3. どちらかという
とあてはまらない | 4. まったく
あてはまらない |
|-------------------|----------------------|------------------------|--------------------|

D. しめきりまでに、課題をすませる。

- | | | | |
|-------------------|----------------------|------------------------|--------------------|
| 1. とてもよく
あてはまる | 2. どちらかという
とあてはまる | 3. どちらかという
とあてはまらない | 4. まったく
あてはまらない |
|-------------------|----------------------|------------------------|--------------------|

E. 先生から、勉強のしかたのアドバイスを受けると、やってみようと思う。

- | | | | |
|-------------------|----------------------|------------------------|--------------------|
| 1. とてもよく
あてはまる | 2. どちらかという
とあてはまる | 3. どちらかという
とあてはまらない | 4. まったく
あてはまらない |
|-------------------|----------------------|------------------------|--------------------|

F. テストが終わったすぐあとに、答えが合っていたかどうかを、自分で調べてみる。

- | | | | |
|-------------------|----------------------|------------------------|--------------------|
| 1. とてもよく
あてはまる | 2. どちらかという
とあてはまる | 3. どちらかという
とあてはまらない | 4. まったく
あてはまらない |
|-------------------|----------------------|------------------------|--------------------|

G. 間違えるのがいやなので、あまり手を挙げたことがない。

- | | | | |
|-------------------|----------------------|------------------------|--------------------|
| 1. とてもよく
あてはまる | 2. どちらかという
とあてはまる | 3. どちらかという
とあてはまらない | 4. まったく
あてはまらない |
|-------------------|----------------------|------------------------|--------------------|

H. したくない勉強は、無理にしなくてもよいと思う。

- | | | | |
|-------------------|----------------------|------------------------|--------------------|
| 1. とてもよく
あてはまる | 2. どちらかという
とあてはまる | 3. どちらかという
とあてはまらない | 4. まったく
あてはまらない |
|-------------------|----------------------|------------------------|--------------------|

(13) スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレットなどの利用について質問します。

A. 平日には、一日どのくらい使っていますか？ どれか一つに○をつけてください。

1. まったく使わない
2. 1時間未満
3. 1時間以上～2時間未満
4. 2時間以上～4時間未満
5. 4時間以上～6時間未満
6. 6時間以上

※(Aの質問で、2.～6. に○をつけたみなさんへ)

① 誰と一番多く使っていますか？ どれか一つに○をつけてください。

1. 学校の友達と…
2. 学校以外の友達や知り合いと…
3. 自分一人で…

② どんなことに一番多く使っていますか？ どれか一つに○をつけてください。

1. コミュニケーション
2. 動画や音楽、写真などの鑑賞
3. 調べもの
4. ゲーム
5. その他 ()

B. 休日には、一日どのくらい使っていますか？ どれか一つに○をつけてください。

1. まったく使わない
2. 1時間未満
3. 1時間以上～2時間未満
4. 2時間以上～4時間未満
5. 4時間以上～6時間未満
6. 6時間以上

※(Bの質問で、2.～6. に○をつけたみなさんへ)

① 誰と一番多く使っていますか？ どれか一つに○をつけてください。

1. 学校の友達と…
2. 学校以外の友達や知り合いと…
3. 自分一人で…

② どんなことに一番多く使っていますか？ どれか一つに○をつけてください。

1. コミュニケーション
2. 動画や音楽、写真などの鑑賞
3. 調べもの
4. ゲーム
5. その他 ()

裏にあと1ページあります

(14) 次のそれぞれの文について、自分の自分にもっとも合うもの一つに○をつけてください。

A. 自分のしたことを振り返ってみることがよくある。

- 1.あてはまる 2.ややあてはまる 3.どちらともいえない 4.あまりあてはまらない 5.あてはまらない

B. 学習や運動など、自分の能力について話すときには控えめに言う。

- 1.あてはまる 2.ややあてはまる 3.どちらともいえない 4.あまりあてはまらない 5.あてはまらない

(15) 「勉強」という言葉からどのようなことをイメージしますか？ 思い浮かべたものすべてに○をつけてください。その他にイメージしたことがあったら 8. その他()のところに書いてください。

1. 興味や関心のあることを学ぶこと
2. 人とかかわり方を学ぶこと
3. 受験のための準備
4. 将来役立つ知識や技術を身につけること
5. 今の生活に役立つ知識や技術を身につけること
6. 学校の授業
7. 自分の生き方を見つけること
8. その他

以上で質問は終わります。ご協力ありがとうございました。

資料2 《2021年学習意識調査結果一覧》

集計に用いたのは、調査の結果得られた3,208名分のデータのうち、性別無回答の17名分のデータを除いた

3,191名分のデータ（男子：1,594名、女子：1,539名、その他：58名）

(1) 家庭での学習について質問します。どれか一つに○をつけてください。

(塾・家庭教師なども含みます)

A：学校から帰って、月曜日から金曜日の間に何日くらい勉強していますか？ 人数(%)

	毎日	3～4日	1～2日	ほとんどしない	無回答
全体(3191名)	975 (30.6)	1269 (39.8)	657 (20.6)	288 (9.0)	2 (0.1)
男子(1594名)	455 (28.5)	644 (40.4)	337 (21.1)	157 (9.8)	1 (0.1)
女子(1539名)	508 (33.0)	606 (39.4)	305 (19.8)	119 (7.7)	1 (0.1)
その他(58名)	12 (20.7)	19 (32.8)	15 (25.9)	12 (20.7)	0 (0.0)

B：学校から帰って勉強する日には、一日どのくらい勉強していますか？ 人数(%)

	2時間以上	1～2時間	1時間未満	無回答
全体(3189名)	1096 (34.4)	1548 (48.5)	538 (16.9)	7 (0.2)
男子(1593名)	541 (34.0)	766 (48.1)	285 (17.9)	1 (0.1)
女子(1538名)	540 (35.1)	758 (49.3)	235 (15.3)	5 (0.3)
その他(58名)	15 (25.9)	24 (41.4)	18 (31.0)	1 (1.7)

C：土曜日には、どのくらい勉強していますか？ 人数(%)

	2時間以上	1～2時間	1時間未満	まったくしない	無回答
全体(3190名)	1526 (47.8)	803 (25.2)	453 (14.2)	406 (12.7)	2 (0.1)
男子(1594名)	722 (45.3)	406 (25.5)	252 (15.8)	213 (13.4)	1 (0.1)
女子(1538名)	781 (50.8)	383 (24.9)	195 (12.7)	178 (11.6)	1 (0.1)
その他(58名)	23 (39.7)	14 (24.1)	6 (10.3)	15 (25.9)	0 (0.0)

D：日曜日には、どのくらい勉強していますか？ 人数(%)

	2時間以上	1～2時間	1時間未満	まったくしない	無回答
全体(3190名)	820 (25.7)	923 (28.9)	755 (23.7)	692 (21.7)	0 (0.0)
男子(1594名)	358 (22.5)	452 (28.4)	393 (24.7)	391 (24.5)	0 (0.0)
女子(1538名)	452 (29.4)	460 (29.9)	346 (22.5)	280 (18.2)	0 (0.0)
その他(58名)	10 (17.2)	11 (19.0)	16 (27.6)	21 (36.2)	0 (0.0)

(2) 学校での勉強がよくわかりますか? どれか一つに○をつけてください。 人数 (%)

	よくわかる	どちらかというわかる	どちらかというわからない	ほとんどわからない	無回答
全体 (3190名)	745 (23.4)	1862 (58.4)	488 (15.3)	91 (2.9)	4 (0.1)
男子 (1594名)	449 (28.2)	894 (56.1)	201 (12.6)	48 (3.0)	2 (0.1)
女子 (1539名)	283 (18.4)	949 (61.7)	269 (17.5)	37 (2.4)	1 (0.1)
その他 (57名)	13 (22.8)	19 (33.3)	18 (31.6)	6 (10.5)	1 (1.8)

(3) 学校の勉強についていく自信がありますか? どれか一つに○をつけてください。 人数 (%)

	十分ある	どちらかというある	どちらかというない	まったくない	無回答
全体 (3191名)	799 (25.0)	1393 (43.7)	833 (26.1)	161 (5.0)	5 (0.2)
男子 (1594名)	493 (30.9)	683 (42.8)	344 (21.6)	71 (4.5)	3 (0.2)
女子 (1539名)	294 (19.1)	693 (45.0)	471 (30.6)	80 (5.2)	1 (0.1)
その他 (58名)	12 (20.7)	17 (29.3)	18 (31.0)	10 (17.2)	1 (1.7)

(4) もっと、たくさん勉強したいと思いませんか? どれか一つに○をつけてください。 人数 (%)

	もっと勉強をしたい	いまくらいの勉強がちょうどよい	勉強はもうしたくない	無回答
全体 (3190名)	1125 (35.3)	1431 (44.9)	632 (19.8)	2 (0.1)
男子 (1593名)	540 (33.9)	735 (46.1)	317 (19.9)	1 (0.1)
女子 (1539名)	573 (37.2)	672 (43.7)	294 (19.1)	0 (0.0)
その他 (58名)	12 (20.7)	24 (41.4)	21 (36.2)	1 (1.7)

※ (1. もっと勉強をしたい と答えたみなさんへ)

A. どうしてこのように答えましたか、もっともあてはまる理由一つに○をつけてください。 人数 (%)

	進学や受験のためになるから	今の勉強では足りないから	自分の将来の夢や生活のためになるから	勉強することが好きだから	みんなについていきたいから	その他
全体 (1093名)	519 (47.5)	250 (22.9)	187 (17.1)	49 (4.5)	46 (4.2)	42 (3.8)
男子 (528名)	241 (45.6)	124 (23.5)	100 (18.9)	24 (4.5)	17 (3.2)	22 (4.2)
女子 (564名)	275 (49.6)	124 (22.4)	85 (15.3)	24 (4.3)	28 (5.1)	18 (3.2)
その他 (11名)	3 (27.3)	2 (18.2)	2 (18.2)	1 (9.1)	1 (9.1)	2 (18.2)

※ (2. いまくらいの勉強がちょうどよい と答えたみなさんへ)

B. どうしてこのように答えましたか、もっともあてはまる理由一つに○をつけてください。 人数 (%)

	今の状態が自分に合っているから	勉強以外のこともやりたいから	勉強はやらなければならないものだから	今、精一杯やっているから	あまりやりたくないから	その他
全体 (1418名)	246 (17.3)	754 (53.2)	162 (11.4)	155 (10.9)	87 (6.1)	14 (1.0)
男子 (723名)	142 (19.6)	387 (53.5)	78 (10.8)	58 (8.0)	46 (6.4)	12 (1.7)
女子 (671名)	100 (14.9)	351 (52.3)	83 (12.4)	96 (14.3)	39 (5.8)	2 (0.3)
その他 (24名)	4 (16.7)	16 (66.7)	1 (4.2)	1 (4.2)	2 (8.3)	0 (0.0)

※（3. 勉強はもうしたくない と答えたみなさんへ）

C. どうしてこのように答えましたか、もっともあてはまる理由一つに○をつけてください。

人数（%）

	勉強が きらいだから	体力的・精神的につ らいから	将来の役に立ちそう にないから	勉強以外のこともや りたいから	勉強がわからないか ら	その他
全体（616名）	295（47.9）	96（15.6）	34（5.5）	99（16.1）	53（8.6）	39（6.3）
男子（311名）	170（54.7）	37（11.9）	16（5.1）	49（15.8）	16（5.1）	23（7.4）
女子（285名）	117（41.1）	56（19.6）	16（5.6）	50（17.5）	34（11.9）	12（4.2）
その他（20名）	8（40.0）	3（15.0）	2（10.0）	0（0.0）	3（15.0）	4（20.0）

（5）勉強になかなか集中できないことがありますか？ どれか一つに○をつけてください。

人数（%）

	いつも集中できる	どちらかという と集中できる	どちらかという と集中できない	いつも集中できない	無回答
全体（3191名）	169（5.3）	1548（48.5）	1269（39.8）	202（6.3）	3（0.1）
男子（1594名）	104（6.5）	804（50.4）	582（36.5）	102（6.4）	2（0.1）
女子（1539名）	62（4.0）	730（47.4）	658（42.8）	88（5.7）	1（0.1）
その他（58名）	3（5.2）	14（24.1）	29（50.0）	12（20.7）	0（0.0）

（6）勉強以外の自由時間がほしいと思いますか？ どれか一つに○をつけてください。

人数（%）

	もっとほしい	少しほしい	あまりほしくない	無回答
全体（3191名）	1679（52.6）	1416（44.4）	91（2.9）	5（0.2）
男子（1594名）	862（54.1）	674（42.3）	56（3.5）	2（0.1）
女子（1539名）	778（50.6）	726（47.2）	33（2.1）	2（0.1）
その他（58名）	39（67.2）	16（27.6）	2（3.4）	1（1.7）

（7）勉強に関する悩み事を相談する相手に○をつけてください。○はいくつつけてもかまいません。

人数（%）

	父	母	担任の先生	担任以外の先生	保健室の先生	塾の先生・ 家庭教師
全体	939（29.4）	1661（52.1）	622（19.5）	396（12.4）	29（0.9）	1500（47.0）
男子	498（31.3）	722（45.3）	393（24.7）	217（13.6）	8（0.5）	748（47.0）
女子	436（28.3）	919（59.7）	225（14.6）	174（11.3）	21（1.4）	737（47.9）
その他	5（8.6）	20（34.5）	4（6.9）	5（8.6）	0（0.0）	15（25.9）

人数（%）

	友達	先輩	兄弟姉妹	スクール カウンセラー	いない	他人に相談しないで 自分で考える	その他
全体	1885（59.1）	250（7.8）	641（20.1）	15（0.5）	175（5.5）	539（16.9）	57（1.8）
男子	907（56.9）	122（7.7）	260（16.3）	7（0.4）	98（6.2）	285（17.9）	28（1.8）
女子	948（61.6）	124（8.1）	371（24.1）	8（0.5）	67（4.4）	240（15.6）	25（1.6）
その他	30（51.7）	4（6.9）	10（17.2）	0（0.0）	10（17.2）	14（24.1）	4（6.9）

(8) 勉強以外の悩み事を相談する相手に○をつけてください。○はいくつつけてもかまいません。

人数 (%)

	父	母	担任の先生	担任以外の先生	保健室の先生	塾の先生・ 家庭教師
全体	820 (25.7)	1723 (54.0)	338 (10.6)	213 (6.7)	71 (2.2)	199 (6.2)
男子	526 (33.0)	767 (48.1)	209 (13.1)	109 (6.8)	21 (1.3)	98 (6.2)
女子	286 (18.6)	933 (60.6)	122 (7.9)	99 (6.4)	49 (3.2)	99 (6.4)
その他	8 (13.8)	23 (39.7)	7 (12.1)	5 (8.6)	1 (1.7)	2 (3.4)

人数 (%)

	友達	先輩	兄弟姉妹	スクール カウンセラー	いない	他人に相談しないで 自分で考える	その他
全体	2188 (68.6)	296 (9.3)	552 (17.3)	37 (1.2)	218 (6.8)	609 (19.1)	71 (2.2)
男子	1029 (64.6)	158 (9.9)	189 (11.9)	13 (0.8)	127 (8.0)	309 (19.4)	31 (1.9)
女子	1123 (73.0)	132 (8.6)	354 (23.0)	24 (1.6)	84 (5.5)	284 (18.5)	36 (2.3)
その他	36 (62.1)	6 (10.3)	9 (15.5)	0 (0.0)	7 (12.1)	16 (27.6)	4 (6.9)

(9) 学校の中で、一番大切に思うものは次のうちのどれですか？ どれか一つに○をつけてください。

人数 (%)

	勉強	友達づきあい	部活動	その他	無回答
全体 (3182名)	798 (25.1)	2007 (63.1)	253 (8.0)	119 (3.7)	5 (0.2)
男子 (1590名)	393 (24.7)	999 (62.8)	138 (8.7)	58 (3.6)	2 (0.1)
女子 (1535名)	392 (25.5)	975 (63.5)	112 (7.3)	53 (3.5)	3 (0.2)
その他 (57名)	13 (22.8)	33 (57.9)	3 (5.3)	8 (14.0)	0 (0.0)

(10) 学校以外で、習っているものに、○をつけてください。○はいくつつけてもかまいません

人数 (%)

	学習塾	家庭教師	通信教育	スポーツ関係	おけいごと、 趣味	英会話
全体	2340 (73.4)	43 (1.3)	176 (5.5)	591 (18.5)	492 (15.4)	188 (5.9)
男子	1188 (74.6)	23 (1.4)	73 (4.6)	368 (23.1)	127 (8.0)	77 (4.8)
女子	1112 (72.3)	17 (1.1)	99 (6.4)	217 (14.1)	352 (22.9)	108 (7.0)
その他	40 (69.0)	3 (5.2)	4 (6.9)	6 (10.3)	13 (22.4)	3 (5.2)

人数 (%)

	その他	なにも 習っていない
全体	69 (2.2)	400 (12.5)
男子	36 (2.3)	188 (11.8)
女子	30 (1.9)	203 (13.2)
その他	3 (5.2)	9 (15.5)

(11) 学校で、次のような授業をどのくらい期待しますか？それぞれの文について、どれか一つに○をつけてください。

A. けじめがあって、集中できる授業

人数 (%)

	非常に期待する	少し期待する	あまり期待しない	まったく期待しない	無回答
全体 (3190名)	868 (27.2)	1695 (53.1)	515 (16.1)	107 (3.4)	5 (0.2)
男子 (1593名)	403 (25.3)	847 (53.2)	272 (17.1)	67 (4.2)	4 (0.3)
女子 (1539名)	453 (29.4)	822 (53.4)	232 (15.1)	31 (2.0)	1 (0.1)
その他 (58名)	12 (20.7)	26 (44.8)	11 (19.0)	9 (15.5)	0 (0.0)

B. 教科書の内容をきちんと教えてくれる授業

人数 (%)

	非常に期待する	少し期待する	あまり期待しない	まったく期待しない	無回答
全体 (3191名)	1405 (44.0)	1338 (41.9)	362 (11.3)	82 (2.6)	4 (0.1)
男子 (1594名)	680 (42.7)	644 (40.4)	211 (13.2)	57 (3.6)	2 (0.1)
女子 (1539名)	705 (45.8)	673 (43.7)	141 (9.2)	18 (1.2)	2 (0.1)
その他 (58名)	20 (34.5)	21 (36.2)	10 (17.2)	7 (12.1)	0 (0.0)

C. 自分たちで課題を見つけ、考えたり調べたりする授業

人数 (%)

	非常に期待する	少し期待する	あまり期待しない	まったく期待しない	無回答
全体 (3191名)	720 (22.6)	1384 (43.4)	881 (27.6)	199 (6.2)	7 (0.2)
男子 (1594名)	433 (27.2)	657 (41.2)	401 (25.2)	97 (6.1)	6 (0.4)
女子 (1539名)	277 (18.0)	709 (46.1)	459 (29.8)	93 (6.0)	1 (0.1)
その他 (58名)	10 (17.2)	18 (31.0)	21 (36.2)	9 (15.5)	0 (0.0)

D. 自分の興味や関心のあることを学べる授業

人数 (%)

	非常に期待する	少し期待する	あまり期待しない	まったく期待しない	無回答
全体 (3191名)	2048 (64.2)	838 (26.3)	225 (7.1)	75 (2.4)	5 (0.2)
男子 (1594名)	1081 (67.8)	371 (23.3)	97 (6.1)	42 (2.6)	3 (0.2)
女子 (1539名)	934 (60.7)	451 (29.3)	125 (8.1)	27 (1.8)	2 (0.1)
その他 (58名)	33 (56.9)	16 (27.6)	3 (5.2)	6 (10.3)	0 (0.0)

E. グループで考えたり話し合ったりする授業

人数 (%)

	非常に期待する	少し期待する	あまり期待しない	まったく期待しない	無回答
全体 (3191名)	1211 (38.0)	1272 (39.9)	510 (16.0)	195 (6.1)	3 (0.1)
男子 (1594名)	705 (44.2)	592 (37.1)	199 (12.5)	96 (6.0)	2 (0.1)
女子 (1539名)	491 (31.9)	658 (42.8)	302 (19.6)	87 (5.7)	1 (0.1)
その他 (58名)	15 (25.9)	22 (37.9)	9 (15.5)	12 (20.7)	0 (0.0)

F. 楽しくリラックスした雰囲気の授業

人数 (%)

	非常に期待する	少し期待する	あまり期待しない	まったく期待しない	無回答
全体 (3190名)	2062 (64.6)	838 (26.3)	235 (7.4)	49 (1.5)	6 (0.2)
男子 (1594名)	1026 (64.4)	414 (26.0)	115 (7.2)	35 (2.2)	4 (0.3)
女子 (1538名)	1002 (65.1)	407 (26.5)	115 (7.5)	12 (0.8)	2 (0.1)
その他 (58名)	34 (58.6)	17 (29.3)	5 (8.6)	2 (3.4)	0 (0.0)

G. 将来役立つ知識や技術を身につけられる授業

人数 (%)

	非常に期待する	少し期待する	あまり期待しない	まったく期待しない	無回答
全体 (3191名)	1997 (62.6)	975 (30.6)	168 (5.3)	48 (1.5)	3 (0.1)
男子 (1594名)	1045 (65.6)	449 (28.2)	72 (4.5)	26 (1.6)	2 (0.1)
女子 (1539名)	921 (59.8)	507 (32.9)	92 (6.0)	18 (1.2)	1 (0.1)
その他 (58名)	31 (53.4)	19 (32.8)	4 (6.9)	4 (6.9)	0 (0.0)

H. 学校の外で見学・体験できる授業

人数 (%)

	非常に期待する	少し期待する	あまり期待しない	まったく期待しない	無回答
全体 (3191名)	1687 (52.9)	972 (30.5)	393 (12.3)	135 (4.2)	4 (0.1)
男子 (1594名)	860 (54.0)	459 (28.8)	189 (11.9)	83 (5.2)	3 (0.2)
女子 (1539名)	803 (52.2)	495 (32.2)	196 (12.7)	44 (2.9)	1 (0.1)
その他 (58名)	24 (41.4)	18 (31.0)	8 (13.8)	8 (13.8)	0 (0.0)

(12) 次のそれぞれの文について、ふだんの自分にもっとも合うもの一つに○をつけてください

A. 家の人に「勉強しなさい」と、言われなくても、勉強をする。

人数 (%)

	とてもよくあてはまる	どちらかという とあてはまる	どちらかという とあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
全体 (3191名)	624 (19.6)	1364 (42.7)	912 (28.6)	289 (9.1)	2 (0.1)
男子 (1594名)	253 (15.9)	695 (43.6)	489 (30.7)	155 (9.7)	2 (0.1)
女子 (1539名)	364 (23.7)	649 (42.2)	409 (26.6)	117 (7.6)	0 (0.0)
その他 (58名)	7 (12.1)	20 (34.5)	14 (24.1)	17 (29.3)	0 (0.0)

B. 勉強して新しいことを知るのが楽しみだ。

人数 (%)

	とてもよくあてはまる	どちらかという とあてはまる	どちらかという とあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
全体 (3191名)	447 (14.0)	1141 (35.8)	1133 (35.5)	468 (14.7)	2 (0.1)
男子 (1594名)	251 (15.7)	550 (34.5)	541 (33.9)	250 (15.7)	2 (0.1)
女子 (1539名)	190 (12.3)	576 (37.4)	575 (37.4)	198 (12.9)	0 (0.0)
その他 (58名)	6 (10.3)	15 (25.9)	17 (29.3)	20 (34.5)	0 (0.0)

C. むずかしい問題でも、いろいろなやり方を考えて、がんばる。

人数 (%)

	とてもよくあてはまる	どちらかという とあてはまる	どちらかという とあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
全体 (3190名)	577 (18.1)	1321 (41.4)	989 (31.0)	302 (9.5)	1 (0.0)
男子 (1593名)	363 (22.8)	653 (41.0)	444 (27.9)	132 (8.3)	1 (0.1)
女子 (1539名)	210 (13.6)	649 (42.2)	524 (34.0)	156 (10.1)	0 (0.0)
その他 (58名)	4 (6.9)	19 (32.8)	21 (36.2)	14 (24.1)	0 (0.0)

D. しめきりまでに、課題をすませる。

人数 (%)

	とてもよくあてはまる	どちらかという とあてはまる	どちらかという とあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
全体 (3191名)	1699 (53.2)	1066 (33.4)	359 (11.3)	65 (2.0)	2 (0.1)
男子 (1594名)	750 (47.1)	575 (36.1)	222 (13.9)	45 (2.8)	2 (0.1)
女子 (1539名)	934 (60.7)	470 (30.5)	123 (8.0)	12 (0.8)	0 (0.0)
その他 (58名)	15 (25.9)	21 (36.2)	14 (24.1)	8 (13.8)	0 (0.0)

E. 先生から、勉強のしかたのアドバイスを受けると、やってみようと思う。

人数 (%)

	とてもよくあてはまる	どちらかという とあてはまる	どちらかという とあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
全体 (3191名)	1018 (31.9)	1516 (47.5)	491 (15.4)	160 (5.0)	6 (0.2)
男子 (1594名)	473 (29.7)	759 (47.6)	259 (16.2)	99 (6.2)	4 (0.3)
女子 (1539名)	535 (34.8)	731 (47.5)	219 (14.2)	52 (3.4)	2 (0.1)
その他 (58名)	10 (17.2)	26 (44.8)	13 (22.4)	9 (15.5)	0 (0.0)

F. テストが終わったすぐあとに、答えが合っていたかどうかを、自分で調べてみる。

人数 (%)

	とてもよくあてはまる	どちらかという とあてはまる	どちらかという とあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
全体 (3191名)	714 (22.4)	1019 (31.9)	949 (29.7)	507 (15.9)	2 (0.1)
男子 (1594名)	362 (22.7)	466 (29.2)	474 (29.7)	290 (18.2)	2 (0.1)
女子 (1539名)	343 (22.3)	536 (34.8)	462 (30.0)	198 (12.9)	0 (0.0)
その他 (58名)	9 (15.5)	17 (29.3)	13 (22.4)	19 (32.8)	0 (0.0)

G. 間違えるのがいやなので、あまり手を挙げたことがない。

人数 (%)

	とてもよくあてはまる	どちらかという とあてはまる	どちらかという とあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
全体 (3191名)	921 (28.9)	1032 (32.3)	817 (25.6)	418 (13.1)	3 (0.1)
男子 (1594名)	332 (20.8)	484 (30.4)	472 (29.6)	304 (19.1)	2 (0.1)
女子 (1539名)	568 (36.9)	535 (34.8)	334 (21.7)	101 (6.6)	1 (0.1)
その他 (58名)	21 (36.2)	13 (22.4)	11 (19.0)	13 (22.4)	0 (0.0)

H. したくない勉強は、無理にしないでよいと思う。

人数 (%)

	とてもよくあてはまる	どちらかという とあてはまる	どちらかという とあてはまらない	まったく あてはまらない	無回答
全体 (3191名)	522 (16.4)	861 (27.0)	1293 (40.5)	514 (16.1)	1 (0.0)
男子 (1594名)	284 (17.8)	439 (27.5)	586 (36.8)	284 (17.8)	1 (0.1)
女子 (1539名)	213 (13.8)	407 (26.4)	697 (45.3)	222 (14.4)	0 (0.0)
その他 (58名)	25 (43.1)	15 (25.9)	10 (17.2)	8 (13.8)	0 (0.0)

(13) スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレットなどの利用について質問します。

A. 平日には、一日どのくらい使っていますか？ どれか一つに○をつけてください。

人数 (%)

	まったく 使わない	1時間未満	1時間以上～ 2時間未満	2時間以上～ 4時間未満	4時間以上～ 6時間未満	6時間以上	無回答
全体 (3190名)	70 (2.2)	341 (10.7)	967 (30.3)	1150 (36.1)	416 (13.0)	244 (7.6)	2 (0.1)
男子 (1593名)	43 (2.7)	147 (9.2)	488 (30.6)	565 (35.5)	214 (13.4)	135 (8.5)	1 (0.1)
女子 (1539名)	27 (1.8)	192 (12.5)	466 (30.3)	566 (36.8)	191 (12.4)	96 (6.2)	1 (0.1)
その他 (58名)	0 (0.0)	2 (3.4)	13 (22.4)	19 (32.8)	11 (19.0)	13 (22.4)	0 (0.0)

※ (Aの質問で、2.～6. に○をつけたみなさんへ)

①誰と一番多く使っていますか？ どれか一つに○をつけてください。

人数 (%)

	学校の友達と	学校以外の友達や 知り合いと	自分一人で	無回答
全体 (3109名)	637 (20.5)	196 (6.3)	2256 (72.6)	20 (0.6)
男子 (1544名)	365 (23.6)	111 (7.2)	1056 (68.4)	12 (0.8)
女子 (1507名)	260 (17.3)	82 (5.4)	1158 (76.8)	7 (0.5)
その他 (58名)	12 (20.7)	3 (5.2)	42 (72.4)	1 (1.7)

※ (Aの質問で、2.～6. に○をつけたみなさんへ)

②どんなことに一番多く使っていますか？ どれか一つに○をつけてください。

人数 (%)

	コミュニケー ション	動画や音楽、 写真などの鑑賞	調べもの	ゲーム	その他	無回答
全体 (3016名)	528 (17.5)	1724 (57.2)	128 (4.2)	545 (18.1)	79 (2.6)	12 (0.4)
男子 (1498名)	252 (16.8)	734 (49.0)	62 (4.1)	413 (27.6)	30 (2.0)	7 (0.5)
女子 (1463名)	267 (18.3)	967 (66.1)	64 (4.4)	113 (7.7)	47 (3.2)	5 (0.3)
その他 (55名)	9 (16.4)	23 (41.8)	2 (3.6)	19 (34.5)	2 (3.6)	0 (0.0)

B. 休日には、一日どのくらい使っていますか？ どれか一つに○をつけてください。

人数 (%)

	まったく使わない	1時間未満	1時間以上～2時間未満	2時間以上～4時間未満	4時間以上～6時間未満	6時間以上	無回答
全体 (3190名)	47 (1.5)	162 (5.1)	507 (15.9)	1067 (33.4)	732 (22.9)	662 (20.8)	13 (0.4)
男子 (1593名)	34 (2.1)	80 (5.0)	258 (16.2)	500 (31.4)	358 (22.5)	356 (22.3)	7 (0.4)
女子 (1539名)	13 (0.8)	80 (5.2)	245 (15.9)	553 (35.9)	358 (23.3)	284 (18.5)	6 (0.4)
その他 (58名)	0 (0.0)	2 (3.4)	4 (6.9)	14 (24.1)	16 (27.6)	22 (37.9)	0 (0.0)

※ (Bの質問で、2.～6. に○をつけたみなさんへ)

①誰と一番多く使っていますか？ どれか一つに○をつけてください。 人数 (%)

	学校の友達と	学校以外の友達や知り合いと	自分一人で	無回答
全体 (3120名)	556 (17.8)	277 (8.9)	2263 (72.5)	24 (0.8)
男子 (1548名)	356 (23.0)	165 (10.7)	1016 (65.6)	11 (0.7)
女子 (1515名)	192 (12.7)	107 (7.1)	1203 (79.4)	13 (0.9)
その他 (57名)	8 (14.0)	5 (8.8)	44 (77.2)	0 (0.0)

※ (Bの質問で、2.～6. に○をつけたみなさんへ)

②どんなことに一番多く使っていますか？ どれか一つに○をつけてください。 人数 (%)

	コミュニケーション	動画や音楽、写真などの鑑賞	調べもの	ゲーム	その他	無回答
全体 (3040名)	389 (12.8)	1755 (57.7)	101 (3.3)	693 (22.8)	88 (2.9)	14 (0.5)
男子 (1510名)	191 (12.6)	691 (45.8)	50 (3.3)	536 (35.5)	36 (2.4)	6 (0.4)
女子 (1474名)	192 (13.0)	1040 (70.6)	48 (3.3)	137 (9.3)	49 (3.3)	8 (0.5)
その他 (56名)	6 (10.7)	24 (42.9)	3 (5.4)	20 (35.7)	3 (5.4)	0 (0.0)

(14) 次のそれぞれの文について、ふだんの自分にもっとも合うもの一つに○をつけてください。

A. 自分のしたことを振り返ってみることがよくある。 人数 (%)

	あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
全体 (3183名)	1156 (36.3)	1173 (36.9)	542 (17.0)	204 (6.4)	108 (3.4)
男子 (1590名)	494 (31.1)	626 (39.4)	292 (18.4)	105 (6.6)	73 (4.6)
女子 (1535名)	641 (41.8)	529 (34.5)	242 (15.8)	95 (6.2)	28 (1.8)
その他 (58名)	21 (36.2)	18 (31.0)	8 (13.8)	4 (6.9)	7 (12.1)

B. 学習や運動など、自分の能力について話すときには控えめに言う。

人数 (%)

	あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
全体 (3185名)	840 (26.4)	1072 (33.7)	892 (28.0)	244 (7.7)	137 (4.3)
男子 (1591名)	373 (23.4)	550 (34.6)	435 (27.3)	146 (9.2)	87 (5.5)
女子 (1537名)	451 (29.3)	504 (32.8)	446 (29.0)	95 (6.2)	41 (2.7)
その他 (57名)	16 (28.1)	18 (31.6)	11 (19.3)	3 (5.3)	9 (15.8)

(15) 「勉強」という言葉からどのようなことをイメージしますか? 思い浮かべたものすべてに○をつけてください。

その他にイメージしたことがあったら 8. その他 () のところに書いてください。

人数 (%)

	興味や関心のあることを学ぶこと	人とのかわり方を学ぶこと	受験のための準備	将来役立つ知識や技術を身につけること	今の生活に役立つ知識や技術を身につけること	学校の授業
全体	996 (31.2)	572 (17.9)	2397 (75.1)	1932 (60.5)	1110 (34.8)	1970 (61.7)
男子	514 (32.2)	324 (20.3)	1137 (71.3)	944 (59.2)	541 (33.9)	880 (55.2)
女子	465 (30.2)	237 (15.4)	1218 (79.1)	964 (62.6)	555 (36.1)	1055 (68.6)
その他	17 (29.3)	11 (19.0)	42 (72.4)	24 (41.4)	14 (24.1)	35 (60.3)

人数 (%)

	自分の生き方を見つけること	その他
全体	564 (17.7)	446 (14.0)
男子	328 (20.6)	237 (14.9)
女子	225 (14.6)	192 (12.5)
その他	11 (19.0)	17 (29.3)

資料3 《56年間の主な出来事》 1965年(昭和40年)～2021年(令和3年)

年度	藤沢市立中学校研究推進校の研究テーマ等	神奈川県動き(数字)高校等進学率%*	国の動き	社会のようすなど
1965 S40 第1回調査	自顧をめざす道徳教育(明治中)	県外で教員採用試験、教育センター開所(県内定時制高校在籍者2万人で最高)	中教審「期待される人間像」中間草案発表 小・中・学力調査	ベトナム戦争激化(米軍介入)
1966 S41	各教科学習指導の問題点(第一中)	小中学校7人編成 校長会・中教組(中)補習授業廃止	教課審「愛国心中心の教育課程の基本方針」 全国一斉学力調査実施	国民祝日法改正(敬老、体育、建国記念の日新設)
1967 S42	個を見つめ個を生かす指導はどのように進めたらよいか(片瀬中)	小学校教員確保のため研修制度を作る	教課審「小中学校の教育課程改善(について)」答申	藤沢市の人口20万人を突破
1968 S43	積極的な学習指導をおし進めて効果的な学習指導をするにはどうしたらよいか(藤ヶ岡中)	県立体育センター開所、神奈川方式(全学年の成績・ア・テスト・入試を選抜資料に)	大学紛争、安山講演事件、文化庁発足 教課審「中学校教育課程改善(について)」答申 小中学校「体系的知識の量の増加」	藤沢市民会館完成 小笠原選定協定調印
1969 S44	中学校における学級経営についての研究(鷗沼中)	神奈川県自然保護連盟結成 中学第3学年10段階評定	中学校学習指導要領全面改訂教科書無償配布、高校紛争、中学校「体系的知識の量の増加」	アポロ11号月着陸
1970 S45	数学科の新しい指導法(湘洋中)	公立中学校長 県教育研修会を結成	教育白書「おが国の教育水準」発表(生涯教育の視点から制度改善を強調)	万国博覧会(大阪)
1971 S46	活気ある生徒を育てるための特別活動の組織と実践(御所見中)	中学校職員給与に関する条例の一部改正	中教審答申「第三の教育改革」、小・中・中学校指導要領一部改訂(公教育方針明確化)	県初、光化学スモッグ被害 神縄選定協定調印 児童手当法公布
1972 S47	特別活動における生徒指導のあり方(明治中)	公立高校入試改善(中1ア・テスト除く)	生涯教育の提唱(第3回世界成人教育会議) 知育偏重是正の通達	テレビ神奈川開局 冬季オリンピックビック札幌大会
1973 S48	学習指導の改善一協方指導組織とその運営(第一中) * 高浜中開校	公立高校入試で偏差値を使用 百校計画(55年度までに60校)開始	学校教育の水準の維持向上のための人材確保法国会に提出	狂乱物語 江崎玲於奈氏ノーベル物理学賞
1974 S49	道徳を中心とした3領域指導の充実をどうはかるか(藤ヶ岡中)	小学校に訪問指導学級(児童に学籍)	人材確保法、教師職法制化	佐藤栄作氏ノーベル平和賞
1975 S50	学習指導の改善(六会中)	県教委高校入試学力試験の結果を公表	主任制度の次官通達	市「太陽の家」開設 ベトナム戦争終わる
1976 S51	意欲を引き出す教育計画と実践(片瀬中) * 秋葉台中・善行中開校	来年度から中1ア・テスト中止を発表 専修学校制度発足	教課審「教育課程の基礎の改善(について)」(答申) ゆとりある教育 時間削減	
1977 S52	いきいきと教育活動に取り組みさせるために(長夜中)	来年度県立高定員 12学級定員10校 県教組「教育白書」小中学生の半数が通塾	小中指導要領全面改訂告示(徳育・体育の重視、ゆとりの時間創設)知識偏重から「人間性教育」へ教育内容大幅削減	国研 調査結果から思考力低下を指摘、日本人の平均寿命世界一に
1978 S53	協力的な生活態度の育成(鷗沼中)	学区改編、選抜方針の改善を基本に 学校主任制を実施	国立大学共通一次入試実施 中教審「教員の資質能力の向上(について)」答申	警察庁少年非行戦後第三のピークと発表、日中平和友好条約調印
1979 S54	生徒理解に立った学習指導、生活指導(湘洋中) * 大庭中開校	県立高校入試で職業科に推薦入学・特記事項の欄	職員定数改善計画発表(40人学級)、養護学校義務制 指導要領改訂(観点別学習状況の欄)	国際児童年
1980 S55	新教育課程の研究一ゆとりの時間の活用一(明治中) * 村岡中開校	県知事「県民の間で騒然たる教育議論を」と発表(明(94.4))	文部省「中野区教育委員会候補者選定に関する区民投票条例(について)」通知	藤沢市の人口30万人

年度	藤沢市立中学校研究推進校の研究テーマ等	神奈川県動き (数字) 高校等進学率%*	国の動き	社会のようすなど
1981 S56	教材の分析系統化による到達点の明確化 (高浜中) *湘南台中開校	「神奈川県教育を考える連絡協議会」発足、学区改編から16学区に	中学校教育課程全面実施	校内暴力・いじめ・登校拒否が社会問題化、国際被害者年
1982 S57	学習活動を活発にし、基礎学力の向上を図る (御所見中) *高倉中・滝の沢中開校	「かながわ女性プラン」発表 第二教育センター開所	文部省校内暴力への具体的な手引き書配布 文部省新「学力調査」(小5,6年・第1回)	福井謙一氏ノーベル化学賞 藤沢市核兵器廃絶平和都市宣言 藤沢市教育文化センター発足
1983 S58	視聴覚教材の効果的な利用法 (普行中)	ふれあい教育推進、弥栄西・東高校開校個性ある高校づくり、県情報公開制度実施	新「学力調査」を中3年実施、中教審教育内容等小委員会審議経過報告(中学校の多様化)	市役所新庁舎完成藤沢市科学少年年討発足
1984 S59	人権教育の指導とその展開をいかに進めるか (秋葉台中)	県高校教育問題協議会「高校入試制度改善案」を答申	臨教審発足(個性重視、生涯学習体系へ移行他)公立高校中退者S53以降過去最高となる	
1985 S60 第5回調査	心豊かな人間の育成をめざして(大庭中)	教育庁内に「いじめ対策」検討会議設置・かながわ生涯教育推進会議の設置(94.1)	臨教審答申(個性重視、徳育重視、学歴社会の重視)S5-87臨教審答申(個性重視、個性重視、個性重視、個性重視、個性重視、個性重視、個性重視、個性重視)	君が代、目の丸徹底通知、男女雇用機会均等法、ファミコンブーム
1986 S61	*羽鳥中開校	県教育問題懇話会「新しい段階をむかえた『ふれあいい教育』運動」報告	臨教審答申(生涯学習体系への移行)	チェルノブイリ原発事故、校内暴力沈静化、登校拒否・いじめ増
1987 S62	わかる授業をめざして一学習意欲を高める(村岡中)	県義務教育研究協議会「進路指導のあり方について」、百校計画完成	臨教審答申(教育力ある地域づくりの推進) 臨教審答申(教育課程基準の改善について) 教育課程協議会答申(5日制の提言)	国教分割民営化 INF(中絶離核戦力)全廃条約調印 利根川連氏ノーベル生理医学賞
1988 S63	すべての生徒が生き生きと学ぶ授業づくりをめざして(湘南台中)	県内中学校卒業生12,2万人でピーク	教員免許法改正、初任者研修の制度化 社会教育局を生涯学習局に	消費税法成立 青函トンネル・瀬戸大橋開通
1989 H1	生き生きとした授業・進んで学ぶ生徒をめざして(高倉中)	県教育懇話会「翔べ！ 神奈川県の子どもたち」を報告	小・中・高学習指導要領改訂(小ノ生活科導入、中ノ習熟度別学習領域編成導入) 新しい学力観；知識重視から関心・意欲・態度・判断・思考・技能・表現・知識・理解等の総合力を学力と呼ぶ内面的要因の重視へ	ペルリンの壁崩壊、国連総会「子どもの権利条約」採択
1990 H2 第6回調査	豊かな人間性を育てる生徒指導(滝の沢中)	県の個人情報保護条例施行(95.2)	日の丸・君が代の義務化中教審「生涯学習の基盤整備について」答申	東西ドイツ統一市制50周年
1991 H3	心豊かな生徒を育てる(大清水中)		中教審答申、指導要領改訂(絶対評価中心へ) 公立高校の中退者12万人台を超える	湾岸戦争 南ア人種差別法廃止
1992 H4	開かれた学校をめざして(羽鳥中)		学校五日制の導入(95年より2回) 小学校で「生活科」新設	PKO協力法成立、カンボジアへ派遣、地球サミット
1993 H5	一人ひとりを生かした学習指導について(第一中)	県高等学校教育課題協議会「高校への進学機会のある方について」報告	学校基本調査(登校拒否(年間30H以上欠席)児童生徒72,000人)	START II (戦時兵器削減条約)調印 EU発足
1994 H6	意欲を育て全員参加の授業をめざして(明治中)	「県公立高等学校入学選抜制度改正大綱」制定 入りたい高校へ志願できるように	児童の権利に関する条約公布・発効	新党ブーム、国際家族年 大江健三郎氏ノーベル文学賞
1995 H7 第7回調査	豊かな心を育むボランティア教育の実践(鶴沼中)	単位制の神奈川県総合高校設置、県立高校普通科専門コースでも種島入試** (95.6)	文部大臣中教審に「21世紀を展望した我が国の教育のあり方について」を諮問	阪神淡路大震災 オウム真理教地下鉄サリン事件

年度	藤沢市立中学校研究推進校の研究テーマ等	神奈川県立高校の動き（数字）高校等進学率％*	国の動き	社会のようすなど
1996 H8	自ら学ぶ意欲のある生徒の育成（六会中）	神奈川県立高校入試模範志願制導入 ア・テスト結果を选拔資料としない	中教審答申（「生きる力」の育成と「ゆとり」の確保）	01571による食中毒全国で発生
1997 H9	生徒の主体的活動の拡大・充実をめざして（片瀬中）	県立高校将来構想検討協議会設置	文部省「飛び級制度」の省令改正	地球温暖化防止京都会議 香港がイギリスより返還
1998 H10	目の輝きを大切にする授業をめざして（御所見中）	県立高校将来構想検討協議会「これからの県立高校のあり方について」答申	中教審「心の教育」、新学習指導要領告示（教育内容の厳選、総合的な学習の創設など）	かながわ・ゆめ国体
1999 H11	かがやくまなざし・自己教育力向上への支援をめざして（湘洋中）	県教育庁「県立高校改革推進計画案・活力と魅力ある県立高校をめざして」	中教審答「初等中等教育と高等教育の接続の改善」	省庁改革法成立 男女共同参画社会基本法公布
2000 H12 第8回調査	自己をひらき（開き、拓き）、他との響き合いを求めて（長後中）	高校再編前期計画スタート 県立入試学区外枠8%→25%に	中教審「少子化と教育について」	日の丸・君が代法制化
2001 H13	「共に生きる」ことのできる生徒の育成」～総合的な学習の時間の研究～（藤ヶ岡中）	学区検討委「入学者選抜制の改善と今後の学区のありかたについて」	文部省と科学技術庁を文部科学省に改編	白川英樹氏ノーベル化学賞受賞
2002 H14	時代の変化に対応し、やわらかな思考を持つて学び続ける（高浜中）	教育センター第二教育センターを改編・統合し県立総合教育センター設置	中教審「今後の教員免許制度の在り方について」	大阪教育大学附属池田小学校事件 野依良治氏ノーベル化学賞受賞
2003 H15	かわわり、表現し、ふりかえる 学びの創造 教科・総合的な学習の時間を通して（善行中）	森のさんたろうキャンプ、スタート 県立学校初の民間人校長（横浜清陵総合高）	小中学習指導要領全面実施・完全学校五日制実施・「心のノート」を全国小中学生の配付 学びのすずめ一確かな学力向上のための具体的方策	小柴昌俊氏ノーベル物理学賞・田中耕一氏ノーベル化学賞受賞・拉致被害者帰国
2004 H16	「自己を拓く」－自分さがし・生き方がしー（秋葉台中）	入学者選抜、前期・後期、二段階選抜の実施 県立高校改革推進計画 後期実施計画策定	高等学校指導要領実施、「学校安全緊急アヒールー子ども」の安全を守るためにー」	自衛隊イラク派遣 おれおれ詐欺横行
2005 H17 第9回調査	思考力・判断力に着目した学習指導の工夫-「考え、かかわりあい、深める」活動を通して-(大庭中) *市内中、特別支援学校にて、2期制を導入	県教委、教育庁を教育局に組織改正 全県高等学校学区撤廃 (97.9)	「児童生徒の問題行動対策重点プログラム（最終まとめ）策定	「PISA2003」の結果公表、読解力話題に国立大学法入化
2006 H18	「子どもの可能性を広げるはたらきかけの在り方を探る」（白浜養護）	教育再生会議設置「いじめ問題への緊急提言」 改正教育基本法成立	「栄養教諭」制度創設、「教育改革のための重点行動計画」一どの子にも豊かな教育をー」	愛・地球博（愛知万博）開催
2007 H19	教師にとつての授業、生徒にとつての授業～リフレクションによる授業研究～（村岡中）	「学力向上推進及び特色ある県立高校づくり推進事業」・かながわ教育ビジョン策定	教育再生会議設置「いじめ問題への緊急提言」 改正教育基本法成立	郵政民営化関連法案成立
2008 H20	「自ら学ぶ力を育てる」～問題解決的な学習過程を取り入れた授業づくり～（湘南台中）	「学力向上推進及び特色ある県立高校づくり推進事業」・かながわ教育ビジョン策定	全国学力・学習状況調査実施 小学校・中学校新しい指導要領公示 教育振興基本計画策定 大分県教員人事汚職 全国体力・運動能力・運動習慣等調査実施	藤沢市の人口40万人 年金偽装、食品表示偽装問題 偽 下村脩氏ノーベル化学賞・小林誠氏、益川敏英氏ノーベル物理学賞受賞 リーマンショック 変
2009 H21	学びに向かう子どもたちの育成（高倉中）	県立中等教育学校2校開校 スクールライフサポートター派遣事業開始	「教員免許更新制の今後のあり方について」	民主党による政権交代 事業仕分け 新型インフレーション大流行
2010 H22 第10回調査	「子ども一人ひとりが、自己肯定感をもつことのできる授業」をめざして（滝の沢中） *市内中学校にて、放課後学習支援事業導入	「県立高校教育方向上推進事業」開始 (98.3)	高等学校授業料無償化	鈴木章氏、根岸英一氏ノーベル化学賞受賞・夏の猛暑・宮崎県人口減少

年度	藤沢市立中学校研究推進校の研究テーマ等	神奈川県立高等学校の動き (数字) 高校等進進学率%*	国の動き	社会のようすなど
2011 H23	「授業で充実感を持ち、意欲的に学ぶ生徒の育成をめざした。授業力向上のとらえ～事例の集積と共有化～」(大清水中学校)	「神奈川県立高等学校入学者選抜制度改善方針」策定	小学校学習指導要領実施 外国語活動導入	東日本大震災 東電福島第一原発事故 テラスモール湘南オープン
2012 H24	「言語活動をとおして表現しようとする力をつける」～未来に活きる力の育成～(羽鳥中)	神奈川県「教育の推進」基本構想策定	中学校学習指導要領実施 大学改革実行プラン	山中伸弥氏ノーベル生理学・医学賞 東京スカイツリー開業 金曜日食
2013 H25	「人とのかかわりの中で、一人ひとりがいきいき学習活動」～思考力・判断力・表現力を育む～(第一中)	入学選抜制度改善方針に基づき、「共通選抜」、「学力検査・面接」、一部の学校では「特色検査」を実施	教育再生実行会議設置	特定秘密保護法 富士山世界遺産登録 2020年東京五輪招致
2014 H26	「豊かな心を育む言語活動」～生きる力の育成を目指す～(明治中)	小中一貫教育校モデル校導入	中教審「小中一貫教育の制度化及び総合的な推進方策」	御嶽山噴火、富田製糸場世界遺産登録 赤崎勇氏・天野浩氏ノーベル物理学賞、消費税税率8%
2015 H27 第11回調査	思いやりや心を育む教育活動の推進～観る力・聴く力・気づく力、感じる力；思いやる力の育成～(鶴沼中)	小中一貫教育校モデル校導入	中教審「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員養成コミュニティの構築について」	安全保険関連法可決、大森智氏ノーベル生理学・医学賞、税田隆章氏ノーベル物理学賞、マインハンバーン通知開始
2016 H28	豊かな学力を育てる学習指導～「活用課題のナビゲートマップ」を用いて(六会中)	かながわ教育ビジョンで掲げた理念の実現に向け、かながわの教育を一層推進するため「かながわ教育月間」を定める	中教審「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」	伊勢志摩サミット、大隅良典氏にノーベル医学賞、熊本地震、国宝熊本城大守閣閉鎖
2017 H29	私、もつと学びたい！～ユニバーサルデザイン(LUD)の視点を取り入れた授業実践を通して～(片瀬中)	県立高校教育改革実施計画(1期) (～2019) (99.0)	平成29・30年改訂学習指導要領のくわしい内容について発表	電通に有罪(働き方改革への機運)・陸上桐生選手9秒9台、将棋藤井四段29連勝 日欧EPAで貿易自由化
2018 H30	働き続ける生徒の育成を目指して～「気づく」「みがく」「継続する」～(御所見中)	神奈川県教育委員会は、2018年度高校入試において「追検査」を新設	学校におけるICT環境の整備について(教育のICT化に向けた環境整備5か年計画)・小学校「特別の教科道徳」	平昌五輪で最多メダル獲得、「18歳成人」改正 民法成立、西日本豪雨、北海道地震など自然災害 善多、ノーベル生理学・医学賞に木匠佑氏
2019 R元	学びへの意欲を玉み出す授業の工夫～自ら考え、自ら判断する力の育成を目指して～(湘洋中)	新たな「かながわ教育大綱」を策定 「いのち」を大切にすることを育む教育の推進・生きる力を育みも学び高め合う学校教育の推進・豊かな学びを支える教育環境づくりなど6つの項目を柱に	教育の質向上～GIGAスクール構想の実現に向けて、文科省「児童生徒の学習評価の在り方について」報告書 を公表、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、全国すべての小中学校、高校、特別支援学校を3月2日から春休みまで臨時休業とするよう要請(政府)。文部科学省も2月28日、臨時休業を行うよう学校設置者などに通知	探査機はぶさび2、小惑星リュウグウに着地成功、世界初のプラックホール撮影成功、「令和」に改元、G20サミット(大阪)開催、「百舌鳥もず、吉市ふるまいるいち古墳群」(大阪府)を世界文化遺産登録、消費税10%スタート、ノーベル化学賞に吉野彰氏
2020 R2	未来を切り拓く生徒の育成～学びあう授業の実践～(長後中) 紙面発表	公立学校の教育活動の再開等に関するガイドラインを取りまとめる 県立高校改革実施計画(II期) (～2023)	小学校学習指導要領実施 「外国語活動(3・4年)・外国語(5・6年)」	東京五輪、パラリンピック延期、新型コロナウイルス感染症、緊急事態宣言発令、スバコン計算速度で「富岳」が世界一、レジ袋有料化スタート
2021 R3 第12回調査	イキイキと自分たちで学びあう子どもの育成～(藤ヶ岡中) 紙面発表		中学校学習指導要領実施	新型コロナウイルス 東京五輪、パラリンピックが観客を制限して開催、眞鍋淑郎氏ノーベル物理学賞

* 高校等進進学率 県の統計資料から(専修学校進学者は1976(S51)より、公共職業能力開発施設等は1977(S52)より調査対象となり数字に含まれる)
**神奈川県立の動きのうち、入試関連の事項は実際に行われた年度に記載した。

【参考資料】○『神奈川県立30周年記念誌』県教育委員会 1979 ○『神奈川県史』30巻「教育」 1982 ○『藤沢一丸がまのあゆみ』見玉幸多編 藤沢市文書館 1983 ○『日本教育史年表』伊ヶ崎隆生・松島榮一編著 三省堂 1990 ○『神奈川県教育文化研究所 10年史』神奈川県教育文化研究所 1991 ○『藤沢市教育委員会表紙便覧』藤沢市教育委員会 2021ほか、○文部科学省HP・厚生労働省HP・神奈川県教育委員会HP・日本漢字能力検定委員会HPほか(閲覧日2021.6.)
○藤沢市教育史 史料編 別巻(教育統計・教育)

資料4 《教育課題調査研究部会の取り組み》

「学習意識調査」は、1965年「学習適応調査」として、高度経済成長のまっただ中で、「5年ごと、市内の中学3年生全員（当初2424名）」を対象に始まった。その目的は「現在、子どもの学力は、過去のそれより向上しているのだろうか。もし、変動があるとしたら、その要因は何であるのか、それを明らかにしたい」（『所報 第4号』1972 藤沢市教育文化研究所より）と書かれている。教育行政を進めていく上で、科学的な調査資料が必要であるとの考えから、「学力の実態調査」と、その結果の要因を分析するために「学習適応調査」がセットで継続されてきた。その後、「学力の実態調査」はなくなり、「学習適応調査」だけが1990年「学習意識調査」と名前を代えて、今日「教育課題調査研究部会」に引き継がれている。

この部会のスタートは、「藤沢市教育文化研究所での『藤沢における教育の諸問題』の研究討議の中で、学校・家庭・地域それぞれの領域の再点検の必要性が指摘された。現代の子どもをめぐる問題は、とりもなおさず大人の問題であり、即ち、生涯教育という視野の中で検討されなければならないこと、教育の原点を見直しそれとの関連で、地域とのかかわりを問わなければならないことが課題として出された（1981年度事業報告）」を受け、研究領域を学校教育、家庭教育へと広げていったなかで1982年に設置された。特にセンター長が出席し、センターでも中心的な役割を担った部会である。6名の研究員

で構成され（次第に増員されて86年には11名、現在は小学校教諭3名・中学校教諭2名・幼稚園関係1名・保護者2名の計8名）、「学校像をめぐる三つの現実—学校観意識調査—」（1985-88年）、また今日の教育課題を明らかにし、それを超える新しい枠組みの創造と転換を求めた5冊続くことになる「パラダイムシフトシリーズ」を発行し、広く意見を問うてきた。

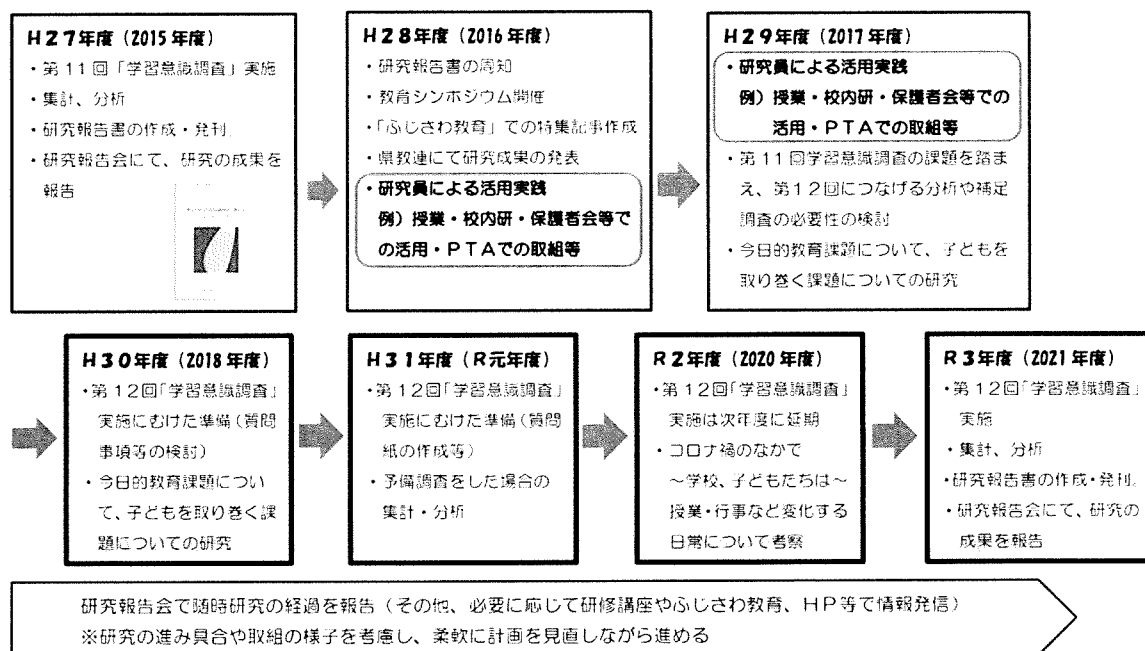
このような経過の中で、「教育課題調査研究部会」では『学習意識調査』を実施し、結果をまとめるだけでなく、ふじさわの子どもたちの実態、またふじさわの教育の課題について話し合いを重ねてきた。調査の実施から次の実施に向けて、調査結果についての分析、検討の中からみえてきたことがらについての補足調査の実施、さらに深めるための新設項目の検討、そのための予備調査とその結果分析、また「調査方法」や「質問項目のことは」の検討もその時々に行ってきた（図1、図2）。

56年間という長期にわたって、同じ地域で、このように長期間継続的に行われている調査は全国的にも例がなく、多くの注目を集めてきた。

参考資料）

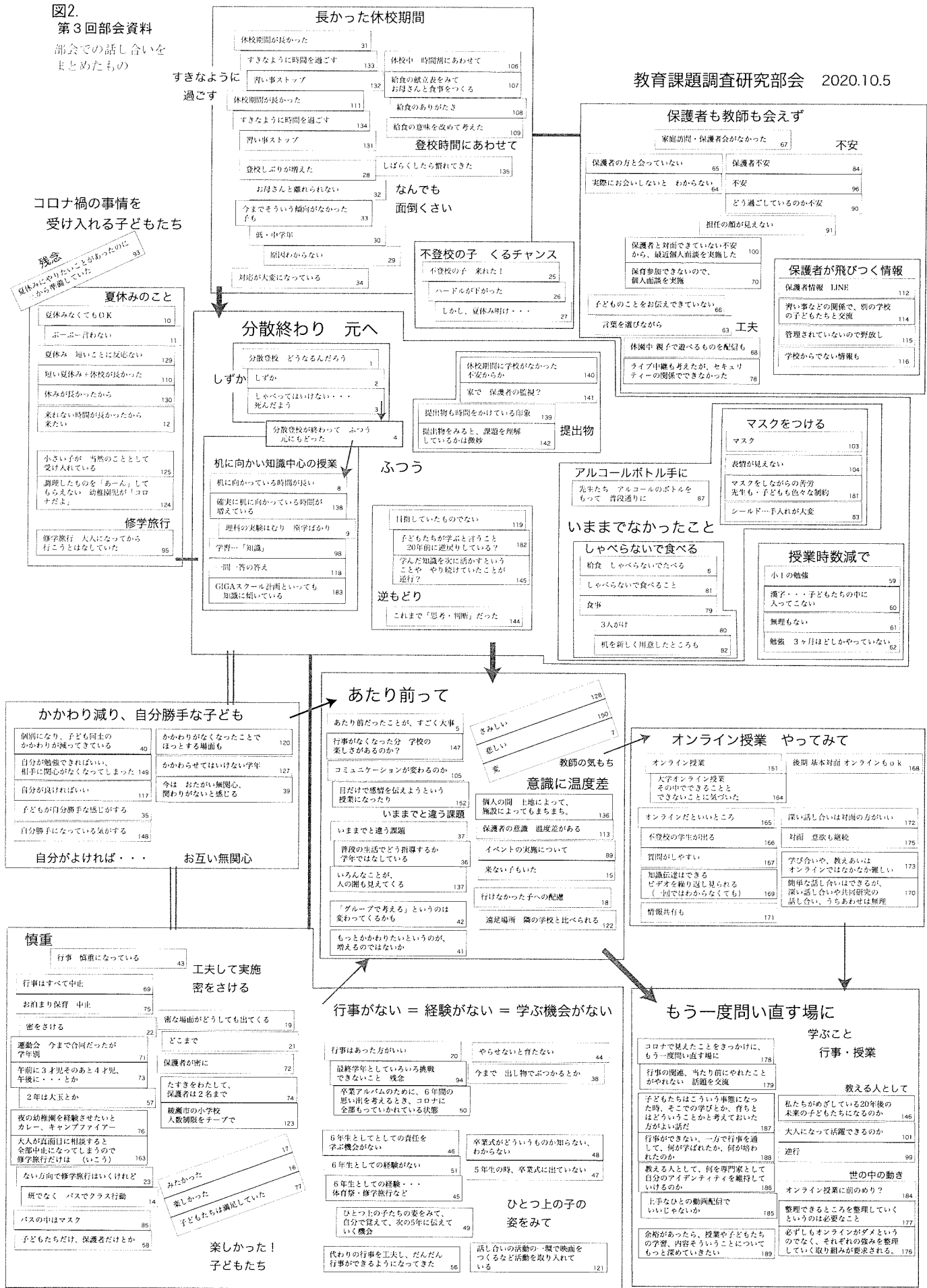
『礎（いしづえ） 藤沢市教育文化センター50周年記念誌』
2003年 藤沢市教育文化センター

図1. 教育課題調査研究部会 研究の流れ（2015～2021年度）



教育課題調査研究部会 2020.10.5

図2. 第3回部会資料
部会での話し合いをまとめたもの



おわりに

今回 12 回目を迎えた「学習意識調査」が始まった 1965 年（昭和 40 年）は、東海道新幹線が大阪まで開業し、東京オリンピックが開催された年でした。第 1 回の調査に参加した生徒のみなさんは、今年 71 歳になられます。12 回分の調査結果の内、継続して尋ねてきた古典的学習観に基づく 8 つの項目の結果を並べ、56 年間の変化（図 p. 85）をみると、1 回の結果からだけではよくわからないことが、みえてきます。わたしたちは、結果的に、時代の影響を受けながら生き、「時代の枠組み」で調査の結果をみているのかもしれない。改めて継続することの「大切さ」を感じます。半世紀をこえて、調査を継続していくことができたことは、さまざまな課題（p. 90）について、1 回ごとの、改善に向けた関係者の一つひとつの努力の成果ともいえるのではないのでしょうか。

また、本報告書は、当センターの「教育課題調査研究部会」での話し合いで出された意見を多く取り入れようと努力しまとめたものです。本報告書 p. 115 の図 2 は、2020 年 10 月の部会で話し合った「コロナ禍の学校の今」について示したものです。そこで話題になったのは、子どもたちが不満も言わず、不便な生活を過ごしていること、教師たちが今まで当たり前と思っていたことが突然できなくなり、その中で工夫して、子どもたちに経験させたいと考え努力していることでした。そして、コロナ禍で制限が多い中、今まで考えもしなかった「みんなで集まって勉強する意味」「学校の存在する意義」など、改めて問い直す場になっていました。このような話し合いを土台に、本調査の集計結果についての話し合いがもたれ、この報告書になったのです。ともすると学校関係者だけの枠組みで理解しがちですが、保護者の方からの意見で視野が広がり、多面的な理解ができたと思います。

コロナ禍で、学校の授業も大きく変わりました。たとえば、授業についていえば、1 人 1 台のタブレットの導入が急速に進み、利用が始まりました。子どもたちは、自身の興味や関心のあることについて、直接情報を手にすることができる、つまり、生徒一人ひとりの学ぶ世界が、教室の外へと大きく広がったことを示しています。「教えてもらわなくても自分で学ぶこともできる」のです。では、先生と生徒との関係はどう変わるのでしょうか。子どもたちの学びが深まるようにアドバイスしたり、励ましたりという側面が強調されるように思います。このことの答えは今後の調査結果にあらわれてくると考えます。

現在、コロナ禍も 3 年目に入り、コロナ後の世界のことが話題になっています。子どもたちの意識にコロナ禍の影響はあったのかどうか、次回の調査結果が待たれます。今回の調査結果について、お一人おひとりがお自身の視点から、子どもたちの意識について、またその背景について思いをめぐらし、これからを考える機会にさせていただければと願っています。 （東）

●教育課題調査研究部会

研究員

石井 彩 (藤沢市立石川小学校教諭)
工藤 琢人 (藤沢市立天神小学校教諭)
田澤 新一 (藤沢市立駒寄小学校教諭)
市丸 祐介 (藤沢市立湘南台中学校教諭)
石川 翔也 (藤沢市立藤ヶ岡中学校教諭)
渡邊 信秀 (藤沢市私立幼稚園協会・相模幼稚園)
高橋 朝香 (保護者)
田中 和恵 (保護者)

元研究員

高野 俊明 (藤沢市立高谷小学校教諭) (2015-2017年度)
林 雅樹 (藤沢市立本町小学校教諭) (2015-2017年度)
三木 匡仁 (藤沢市立大越小学校教諭) (2015-2017年度)
小原 元樹 (藤沢市立御所見中学校教諭) (2015-2017年度)
下重 理敬 (藤沢市立高倉中学校総括教諭) (2015-2017年度)
和田 盛孝 (藤沢市立藤ヶ岡中学校教諭) (2017-2020年度)
廣田 信明 (藤沢市私立幼稚園協会・広田幼稚園) (2016-2020年度)
飯田 聰子 (保護者) (2016-2018年度)
新貝 珠巳 (保護者) (2016-2018年度)

講師

山崎 瑞紀 (東京都市大学メディア情報学部准教授)
目黒 悟 (元藤沢市教育文化センター主任研究員)

担当所員

作道 実 (センター長)
宮本 一也 (指導主事)
東 桂子 (主任研究員)
平川 佳子 (研究研修支援員)

データ入力

谷川美津江 (元教育課題調査研究業務員)

元担当

上條 茂 (元センター長 鶴沼中学校校長) (2014-2016年度)
中村 浩 (元センター長 鶴洋小学校校長) (2017年4月-8月)
窪島 義浩 (元センター長・教育指導課主幹兼務 滝の沢小学校校長) (2017年9月-2018年3月)
川邊 尚子 (元センター長 浜見小学校校長) (2018-2019年度)
神戸 由紀 (元センター長 辻堂小学校校長) (2020年4月-2020年8月)
坪谷 麻貴 (前センター長・教育指導課長兼務 教育指導課長) (2020年9月-2021年3月)
丸谷 英之 (元指導主事 石川小学校教頭) (2015-2016年度)
西田 将之 (指導主事) (2017-2018、2020年度)
織田 宗之 (指導主事) (2019年度)
松本あんな (元研究研修業務員) (2016年度)
柘瀨 広子 (研究研修支援員) (2017-2019年度)

2021年(令和3年)実施 第12回「学習意識調査」報告書
—藤沢市立中学校3年生・56年間の比較研究—

2022年3月編集発行

藤沢市教育文化センター

神奈川県藤沢市大鋸1407-1

TEL 0466-50-8300

FAX 0466-82-4764

URL: <http://www1.fujisawa-kng.ed.jp/kyobun-c/>

印刷所 / (有) カワムラ印刷

